

コーパスに基づく日本語受動文の実態

コーパスに基づく言語学教育研究資料5

グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
東京外国語大学大学院総合国際学研究院
2012



早津恵美子（監修）
志波彩子（著）

＜本報告の位置づけ＞

本報告「コーパスに基づく日本語受動文の実態」は、東京外国語大学大学院 グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」（代表：峰岸真琴）における「コーパス言語学班」の研究成果の一部を、「コーパスに基づく言語学教育研究資料 5」としてまとめたものである。そして同資料の 6 としてまとめた「コーパスに基づく日本語使役文・他動詞文の実態」と、ヴォイス現象の実態の報告という点でいわば対になるものとして企画された。「ヴォイス voice」という文法カテゴリーは、日本語を含む諸言語の言語事実として広く認められているといえるが、その内実（本質と射程）は必ずしも諸言語において同質のものとはいえないようである。また、日本語については、「ヴォイス」というカテゴリーを認めることへの疑義もある。ただその一方で、日本語において、受身や使役、さらには他動詞・自動詞を、広くヴォイスの現象としてとらえる立場も少なくない。本報告の著者たちは、ヴォイスの本質と射程について論じる力をもっていないが、受身と使役とが一定の共通点と対立点を持ちつつヴォイスの中核をなし、そして受身と自動詞、使役と他動詞とにそれぞれ連続性や近接性があるという、比較的ひろく認められている立場に近いとらえかたをしている。そこで、まずは日本語の受身（文）と使役（文）の使用の実態を明らかにすることで、ヴォイスという文法カテゴリーの理解にいくらかでも近づけるのではないかと考え、日本語の受動文と使役文の実態を、それぞれ調査分析することにした。

本報告は、受動文のほうの実態を調査分析し報告するものである。著者である志波は、2009 年に本学大学院地域文化研究科に博士論文「現代日本語の受身文の体系—意味・構造的なタイプの記述から—」を提出し、その後も受動文の研究を続けている。本報告は志波のこれまでの研究のうち、実態を徹底的に記述し、受身文の意味・構造的なタイプを取り出すという側面をとくに詳しく報告するものである。志波の研究の他の側面については、志波（2009, 2011）を参照されたい。本報告の方法論的な特徴の一つは、受身文の意味・構造的なタイプには三つのレベルが存在するという点を積極的に意識して分析している点である。第 1 のレベルは、ガ格を除く名詞と動詞との従属的なむすびつきにおいて認められる意味・構造的なタイプ（連語論的なタイプ）、第 2 のレベルは、ガ格名詞も含めた名詞とラレル動詞との組み合わせにおいて認められる意味・構造的なタイプ、第 3 のレベルは、テンス・アスペクトや主題性をも要素として含む意味・構造的なタイプである。

このような方法論をとることによって、本報告は受身文の実態を、意味・構造的なタイプの面からかなりの程度明らかにするものとなっている。それに対してもう一方の「コーパスに基づく日本語使役文・他動詞文の実態」は、他動詞との関係も視野に入れたこともあり、第一のレベルの分析であって「文」の実態の解明にはまだ至っていない。その点で二つは対になっているとはいえないのだが、両者には、文・連語の性質は単語の「カテゴリーカルな意味」(語彙的な意味のうち文法的な性質に関わる側面)が土台になってできあがっているという捉え方が大きく共通している。このような二つを、「コーパスに基づく言語学教育研究資料」の「5」と「6」として両者をまとめて報告しておくことは、上に述べたヴォイス研究の観点からも一定の意義のあるものではないかと考える。

2012 年 3 月

編者 早津恵美子

目次

第1章 序	1
1 本報告の目的と方法	1
2 対象とするテキストデータ	2
2.1 小説の会話文テキスト	3
2.2 小説の地の文テキスト	3
2.3 新聞（報道文）テキスト	3
2.4 評論文テキスト	4
第2章 受身文の構造と要素	5
1 「意味・構造的なタイプ」とは	5
1.1 本報告の具体的な方法論—タイプ（構造の型）を取り出す	6
1.2 受身節の内部構造	8
1.2.1 主語	8
1.2.2 行為者	9
1.2.3 動詞の語彙的な意味	9
1.2.4 文中成分の語彙的な意味と関係的な意味	9
1.2.5 能動文との対立の仕方	10
1.2.6 行為者の標示形式	10
1.2.7 テンス・アスペクト	11
1.2.8 主題性	11
1.3 受身文の外部構造	11
1.4 意味・構造的なタイプのレベル	12
1.5 構造の提示の仕方について	14
1.6 意味・構造的なタイプをどこまで取り出すか	15
2 受身文の分類	16
2.1 受身文の4大分類 —主語と行為者の有情・非情の別による—	17
2.2 受身文の17中分類	17
第3章 有情主語有情行為者受身文	20
1 AA 直接対象型（AA 直接）	20
1.1 AA 変化型（AA 変化）	21
1.1.1 AA 位置変化型「私は救急車で病院に運ばれた」	22
1.1.2 AA 随伴型「私は友だちにその店に連れて行かれた」	24
1.1.3 AA 生理的变化型「和夫は兄に殺された」	26
1.1.4 AA 社会的変化型「和夫は逮捕された」	27
1.2 AA 動作型（AA 無変化）	31
1.2.1 AA 接触型「私は父親にたたかれた」	31
1.2.2 AA 催促型「私は友達にそそのかされてそれを買った」	34

1.2.3	AA 強制使役型「私は上司に遅くまで働かされた」	36
1.3	AA 認識型 (AA 認識)	37
1.3.1	AA 知覚型「良子は駅前で和夫に見られた」	37
1.3.2	AA 知的認識型「私は親に将来のことを心配された」	39
1.4	AA 態度型 (AA 態度)	41
1.4.1	AA 感情=評価型「私は和夫に嫌われた」	43
1.4.2	AA 知的態度型「私は山田さんに独身と思われた」	44
1.4.3	AA 表現的態度型「私は母親に叱られた」	46
1.4.4	AA 呼称型「私は良子にお母さんと呼ばれた」	48
1.4.5	AA 評価動作的態度型「私は兄にいじめられた」	49
1.4.6	AA 接近的態度型「私はチンピラに追いかけられた」	54
2	AA 相手型 (AA 相手)	57
2.1	AA 譲渡型「私は彼に手紙を手渡された」	57
2.2	AA 相手への動作型「私は隣のおばさんに水をかけられた」	59
2.3	AA 相手への発話型「私は親に東京に行くと言われた」	60
2.4	AA 相手への提示型「私は彼に報告書を見せられた」	64
2.5	AA 相手への要求的態度型「私は母親に庭の掃除を頼まれた」	66
2.6	AA 相手への態度型「私は両親に干渉された」	69
3	AA 持ち主型 (AA 持ち主)	70
3.1	AA 奪取型「私は母親に本を取り上げられた」	71
3.2	AA 所有物の変化型「私は彼に机を壊された」	72
4	AA はた迷惑型 (AA 迷惑)「私はあなたに泣かれても困ります」	73
5	その他の有情有情受身文	76
5.1	やられる	77
5.2	慣用的な表現	78
第4章	有情主語非情行為者受身文	79
1	AI 状態型 (AI 状態)	79
1.1	AI 心理・生理的狀態型	80
1.1.1	AI 生理的狀態型「良子は病におかされている」	80
1.1.2	AI 心理的狀態型「私は育児に悩まされている」	81
1.2	AI 陥る型「私は悲惨な状況に置かれた」	86
1.3	AI 不可避型「企業はコスト削減を迫られている」	87
2	その他の有情主語非情行為者受身文	89
第5章	非情主語一項受身文	91
1	I 事態実現型	91
1.1	I 変化型 (I 変化)	92
1.1.1	I 状態変化型「机が折り畳まれた」「国民の権利が平等化される」	92
1.1.2	I 位置変化型「庭に木が植えられた」「指令が送られる」	96
1.1.3	I 所有変化型「手紙が良子に渡された」「女性に選挙権が与えられる」	100
1.1.4	I 結果型「駅前にビルが建てられた」「文化が形成される」	102

1.1.5	I 表示型「画面に絵が表示された」「金額が提示された」	105
1.1.6	I 実行型「明日学校で保護者会が開かれる」	110
1.2	I 無変化型 (I 無変化)「ドアが叩かれた」	115
1.3	I 認識型 (I 認識)	117
1.3.1	I 知覚型「細胞分裂が観察された」	118
1.3.2	I 知的認識型「実験を通して仮説が検証された」	120
1.3.3	I 発見型「山中で死体が発見された」	124
1.3.4	I 言語活動型「事件のいきさつが述べられた」	125
1.4	I 態度型 (I 態度)	127
1.4.1	I 判断型「彼の行動は生まれつきとみなされた」	128
1.4.2	I 意義づけ型「ガウディの模型はみんなの手本にされた」	130
1.4.3	I 要求型「学校に対し、父兄から対策が求められた」	133
1.4.4	I 表現型「水の電気分解は次の式で表わされる」	135
2	I 存在型 (I 存在)	138
2.1	I 存在様態受身型「窓際に花が活けられていた」	140
2.2	I 抽象的存在型「動詞の分類に比重が置かれている」	143
2.3	I 抽象的所有型「彼女には多くのチャンスが与えられている」	145
2.4	I 存在確認型「彼の性格に攻撃性が発見された」	146
2.4.1	具体的存在「雲の間に黒い物体が発見された」	147
2.4.2	抽象的存在「多くの国に共通の現象が見られる」	148
3	I 習慣的社会的活動型 (I 社会)	151
3.1	I 社会的思考型「肥満は現代病と考えられている」	155
3.2	I 社会的言語活動型「視力は遺伝すると言われる」	160
3.3	I 社会的呼称型「このビルはランドマークと呼ばれている」	164
3.4	I 社会的評価型「素材が重視される」	165
3.5	I 社会的関心型「本部の対応が注目される」「国政の真価が問われる」	168
3.6	I 社会的約束型「人身売買は禁止されている」「国民の権利は守られている」	176
3.7	I 社会的意義づけ型「その顔はよく漫画の材料にされる」	178
3.8	その他の社会的活動	181
4	I 超時的事態型 (I 超時)	182
4.1	I 特徴規定型「この箱は中が仕切られている」「洗練された人」	183
4.2	I 論理的操作型「水に溶ける物質は大きく2つに分けられる」	185
4.3	I 限定型	186
4.3.1	条件限定型「入国できるのは白人に限られていた」	187
4.3.2	縮小化型「時間が限られている」	187
4.3.3	I 限定型の周辺と他のタイプ	188
5	その他の非情主語一項受身文	188
第6章 非情主語非情行為者受身文		190
1	II 現象受身型 (II 現象)「水面が陽に照らされてきらきらしている」	191
2	II 関係型 (II 関係)	194
2.1	II 位置関係型「この国は山に挟まれている」	194

2.2	II 論理的関係型.....	197
2.2.1	II 内在的關係型「イチゴにはビタミン C が豊富に含まれる」.....	197
2.2.2	II 構成関係型「委員会 は 5 人の議員から構成されている」.....	199
2.2.3	II 象徴的關係型「西欧先進国はイギリスに象徴される」.....	200
2.2.4	II 継承関係型「昔ながの風景が白川郷に受け継がれている」.....	201
2.3	II 影響関係型「人間の性格は環境に左右される」.....	204
3	その他の非情主語非情行為者受身文.....	205
	用例抽出資料.....	207
	参考文献.....	209

第1章 序

1 本報告の目的と方法

本報告は、2009年に東京外国語大学に提出し、学位を授与された博士論文「現代日本語の受身文の体系—意味・構造的なタイプの記述から—」の一部に加筆し、修正を加えたものである。

本報告は、小説の会話文、小説の地の文、新聞の報道文、評論文という4つのテキストコーパスを用い、受身文の用例を抽出した。抽出した用例は、その意味と構造的な特徴を分析・考察し、そこからいくつもの意味・構造的なタイプを取り出した。取り出された受身文タイプについては、まず主語と動作主の有情・非情の別で大きく4つに分類したうえで、17の中分類にまとめ上げた。

意味・構造的なタイプとは、内容=意味を持った構造の型=パターンのことである。文は、くり返し発話されることによってその構造が抽象化・一般化され、ある1つの「型=パターン（シェーマ）」として、語彙項目と並んでレキシコンに登録される。この有限の型=パターンは、1つの言語形式であり、内容=意味を持っている。受身文にも様々な意味・構造的なタイプがあり、それぞれのタイプは、形式としての構造パターンと内容=意味を持っている。

意味を持った構造の型は、さまざまなレベルで存在するだろう。たとえば、受身文にとっては、主語が有情者か非情物であるかということがもっとも大きな構造のパターンの対立として捉えられると考える。一方で、現代日本語における受身文の実態をより正確に、細かく把握するためには、動詞の語彙的な意味（カテゴリーカルな意味）を基盤にした構造の型を取り出すことが、現時点では有効な方法と考えた。こうして、本稿の目次に見られるような、多数のサブタイプが取り出されることとなった。

このように、動詞の語彙的な意味に基づいて受身文のタイプを取り出し、その特徴を記述するという研究は、従来の研究には見られない、いわば**語彙・構文論的**な研究であると言えるだろう。つまり、受身文という構文論的な問題を、動詞の細かい語彙的な意味グループにまで踏み込んで考察するという方法論は、語彙論と構文論が統合された形での新しい文法理論である。

この意味で、本報告で用いた方法論は未だ発展途上の段階にあり、改善すべき点も残されている。特に、受身文タイプの立て方、取り出し方についても、検討の余地が残されているところもある。また、タイプとしての生産性（タイプ頻度）もしくは用例の頻度（トークン頻度）が低く、うまく一般化できていないものもある。よって、読者が本報告の分析の妥当性を検証できるように、より多くの、様々なパターンの用例を挙げるように配慮した。本稿に挙げた用例を検討することで、新たな問題点が見つかり、議論が発展していくことで、この研究自体がより完成度の高いものへ改善されていけばと考えている。

一方で、このような語彙・構文論的とも言える研究は、今後、様々な言語調査をより正確に、厳密に進めるための理論的支えとなる可能性を秘めている。例えば、テキストジャンル別の文

タイプの分布の調査や、通時的な体系の比較、さらには、他言語の体系との対照においても、言語の実態をきわめて正確に提示できる道具立てとなるだろう。

なお、本報告の記述の方法論や、受身文の学史との関係については、志波（2009）でより理論的な考察を行っている。また、本報告に挙げた全サブタイプの各テキストにおける分布（割合）については、志波（2009, 2011）を参照されたい¹。

2 対象とするテキストデータ

本節では、本報告で分析の対象としたデータについて紹介する。今回扱ったデータは、小説の会話文、小説の地の文、評論文（ノンフィクション）、新聞のテキストである。データについては、できる限り典型的な「話しことば」の特徴と「書きことば」の特徴を持つものを扱いたかった。よって、「話しことば」としては、生の自然会話コーパスを用いることができれば最良であったが、今回はその余裕がなかった。今後の課題としたい。今回扱ったのは小説の会話文テキストで、これにはエッセイとシナリオ作品も含まれるが、これを「話しことば」に近いテキストと見なすことにする²。評論文と新聞テキストについては、「書きことば」の特徴を持つテキストと見なす。また、小説の地の文テキストは、登場人物の視点から当該人物の内面描写や直接的な感情表現をしたり、客観的に場面を描写したりと、様々な文脈構造が表れる特殊なテキストと見ている。

扱った作品は、手作業で収集したものも含め、すべてテキストファイル化し、コーパス検索ツール（「CLTOOLS（ことえもん）」³）によって用例を抽出した。検索の際に用いた正規表現は次の通りである。

(1) [かきたなはまやらわがば]れ

このようにして抽出したデータは、エクセルファイル上に表示して分類している。

なお、本来であれば、4つのテキストの分量（文字数、バイト数など）をそろえるべきであったが、今回のデータはそのような配慮がなされていない。4つのテキストの分量がおおよそそろっていれば、どれだけのラレル文ないし受身文が得られたかということも、比較の対象にできたが、こうした作業は今後の課題として残った。

以下、どのような作品からどのくらいの受身文をデータとして抽出したかについて述べていく。

¹ ただし、志波（2009, 2011）で提示した分布は、本報告の分類とは若干異なっている。

² そもそも、どのようなテキストを「話しことば」と定義すればよいかという問題は、それほど明らかではない。音声メディアを媒介にしても、①話し手1人 vs. 聞き手1人の対話であるのか、1人が大勢に向かって話しているのか、②個人的な具体的経験を語るものであるのか、一般的な抽象論を語るものであるのか、③話し手が私的な立場で個人的感情をこめて語っているのか、公の立場で客観的に中立的に語っているのか、といった様々な要因が「話しことばらしさ」を決定している。しかし、今回の調査では、こうした点までを考慮する余裕がなかった。今後、より厳密にテキストの種類別にデータを考察していく上での課題としたい。

³ 中野洋「日本語処理プログラム集 MCL」に基づいて作成された、佐野洋「日本語処理プログラム集 CLTOOLS（第1.2版）」。

2.1 小説の会話文テキスト

「小説の会話文テキスト」としてものは、昭和戦後に出版された小説、エッセイのカギ括弧部分とシナリオ作品のト書きを除いた科白部分である。扱った作品は、『CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊』から 23 作家の 39 作品、シナリオ作品から 3 作家の 3 作品、また、手作業による収集によって小説から 5 作家の 8 作品を選び、合計で 31 作家の全 50 作品からデータを収集した。その結果、1382 例の受身文⁴が得られ、これを志波（2009）では統計の対象とした。

なお、今回抽出したのは、小説のカギ括弧でくくられた会話文のみである。地の文の中に、会話文相当の文脈が混じっている作品もあるが（『草の花』など）、こうした会話文は対象にしていない。また、カギ括弧内の書かれた文章（新聞、書物、書簡など）の朗読部分、および、TV やラジオのニュースの朗読部分については、話し言葉ではなく書き言葉であると見なして、データから削除した。

また、今回扱った会話文テキストの中には、いわゆる標準語ではない、方言による用例も少なくなかった。こうした用例については、特に別扱いせず、標準語の用例と同列に扱っている。しかし、特にラレル文の可能用法などを分析する際には、こうした方言差には注意を払わねばならないだろう。今後、受身用法についても違いが認められるようであれば、厳密に区別していかなければならない。

2.2 小説の地の文テキスト

「小説の地の文テキスト」は、『CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊』から、9 作品の小説を任意に選び、その地の文からラレル文を抽出した。なお、会話文と区別するために、地の文テキストについては、作品名（の略称）の横に「.地」という記号を付した。

各作品について、最高 100 例のラレル文を抽出した結果、全 896 例が得られた⁵。この 896 例中、受身用法が 790 例（88.2%）、可能用法が 47 例（5.2%）、自発用法が 56 例（6.3%）、尊敬用法が 3 例（0.3%）であった。この、受身用法 790 例を主な考察の対象とした。

なお、用例数の少なかった受身文タイプについては、上の作品における 100 例以上の例や他の作品の地の文からも用例を抽出している。追加作品については、本稿末の「用例抽出資料」を参照されたい。

2.3 新聞（報道文）テキスト

「新聞テキスト」としては、『CD—毎日新聞 2000 データ集』を資料とした。当初、この 1 月 1 日の朝夕刊（東京・大阪本社）のデータからラレル文を抽出し、分析を進めたが、1 月 1 日の記事は新聞記事として特殊である⁶ことが分かり、再度、通常の日付の新聞記事からデータを収集した。曜日が偏らないように、任意に選んだ日付は次の 4 日である。この 4 日分の東京

⁴ 他のテキストについては、ラレル文すべてを抽出し、受身、可能、自発、尊敬と分類したが、会話文テキストについては、分類当初から、受身用法以外の用法を削除してしまった。再度 19 作品のみの会話文から 542 例のラレル文を抽出した結果、受身用法が 394 例（72.7%）、可能用法が 77 例（14.2%）、自発用法が 5 例（0.9%）、尊敬用法が 66 例（12.2%）であった。参考までに記しておく。

⁵ 『ブンとフン』のみ、作品の最後までで 96 例のラレル文しか得られなかった。その他の作品は 100 例を抽出できたところで検索を打ち切っている。

⁶ 1 月 1 日の記事は、他の日付の記事に比べ、新聞テキストにもっとも特徴的な事実報告が少ないということが考えられる。

本社の朝刊を主な考察の対象とした。

2000年2月20日（日）、3月14日（火）、4月5日（水）、5月25日（木）

この4日間の記事から、ラレル文のデータを収集し、得られたデータのうち、コラム（囲み記事）、社説、スポーツ欄、情報欄、新聞小説、各種紹介、見出しなどの記事を削除し、報道記事のみを残した。また、報道記事の中でもカギ括弧のついた発言部分は除いている。報道記事とは、実際に起きた（起きる）出来事を事実として伝える文体である。

4日分の報道記事からは、479例のラレル文が得られ、このうち受身用法が467例（97.5%）、可能用法が11例（2.3%）、自発用法が0例（0%）、尊敬用法が1例（0.2%）であった。この、受身用法467例を統計の対象とした。

なお、引用された用例において、「（毎日）」とのみ表記されている例は、「1月1日」の記事であることを表わしている。それ以外の日付のものは、すべて日付を明記している。

2.4 評論文テキスト

「評論文テキスト」とは、社会や歴史、文化、科学に関する事情や解説、評論といったノンフィクションのテキストを指す。本報告で扱ったデータは、「日本語教育支援システム研究会（CASTEL/J）」が作成した電子化資料で、講談社の新書である6作品を任意を選んでラレル文を抽出した。

各作品について、114例⁷のラレル文を抽出した結果、全684例が得られ、ここから章や節の見出し（タイトル）とカギ括弧部分（会話部分）を除いた。その結果、全673例のラレル文が得られた。このうち、受身用法が618例（91.8%）、可能用法が38例（5.6%）、自発用法が13例（1.9%）、尊敬用法が4例（0.6%）であった。この、受身用法618例を主な考察の対象とした。

なお、評論文テキストでも、用例の少なかった受身文タイプについて再度用例を収集するために、他の作品を扱った。

⁷ 114という数は非常に半端な数である。これは、受身用法を各作品につき100例以上得ようとした結果、このような数字になってしまった。

第2章 受身文の構造と要素

本章では、第1章1で簡単に説明した「意味・構造的なタイプ」について、より詳しい理論的説明を行う。特に、体系、構造、要素という概念について具体的に説明することで、本報告の理論的立場を示す。ここでの構造、要素、体系といった概念に対する理解は、多くを奥田靖雄の言語学に依っている。さらに、本報告では、奥田靖雄の連語論を軸に受身文の意味・構造的なタイプを立てている。そこで、受身文の構造について具体的な記述を進める前に、奥田靖雄の言語学及び連語論について簡単に紹介したい。

1 「意味・構造的なタイプ」とは

言語の意味は、多くの場合、必ず何らかの言語形式によって支えられている。よく、多義語や多義の形式の意味について論じられる際に、「いずれの意味であるかは文脈によって判断される」などという言い方がされる⁸。しかし、私たちは決して、個別の、偶然的な「文脈」によって、ある言語作品の意味を解釈しているわけではない。そこに何らかの一般化された言語形式の支えがなければ、意味を読み取ることはできない。

ソシュールは、言語記号は所記（シニフィエ）と能記（シニフィアン）の結合であるとした。ソシュールにとって、この定義は言語のもっとも基本的な単位である「語」についてのものであった。しかしながら、発話の基本単位である文も、またその文が連なった文脈も、所記と能記の結合した広義言語記号と考えられるのである。文ないし文脈にとっての能記が、構造＝広義言語形式である。そして、この構造は、所記すなわち意味＝内容を持っているのである。

本報告は、シンタグマティックな体系⁹としての文が、くり返し発話されることにより、構造的なタイプとして、いわば「型＝パターン（シェーマ）」として抽象化・一般化され、そうした構造（の型）が意味を持つという理論的立場で記述を進める。文の表わす意味は、これを構成する要素の意味の単なる総和ではない。全体としての構造もまた意味を持ち、構造の意味と要素の意味とが相互に影響しあっている。そして、構造の意味と要素の意味との弁証法的な相互作用の結果、全体＝統合的体系の意味が生まれるのである。この、意味を持った有限の構造の型のことを「意味・構造的なタイプ」と呼んでいる。

また、こうした意味・構造的なタイプは、異なる意味・機能及び構造的特徴でもって相互に対立し、同時に共通の意味・機能及び構造的特徴でまとまりながら、パラディグマティックな

⁸ しかも、ここにおける「文脈」という語は、必ずしも連文のテキストを指すわけでもなく用いられる。

⁹ 奥田靖雄の用語。要素＝部分と構造＝結びつきのパターンが合わさって1つの統合的体系＝全体が成り立っている。

体系（ネットワーク）を成している。この体系内では、対立しているタイプ同士はある構造的な条件のもとで相互に近づき、移行し合うというダイナミックな関係にある。しかしながら、本稿では、このタイプ間の相互関係については、それほど詳細には触れていない。本稿は、それぞれの意味・構造的なタイプの特徴を捉え、用例を挙げることに重点を置いている。

本報告は、主語の別、動作主の別、動詞の語彙的な意味、項の数、テンス・アスペクトといったさまざまな要素が統合された構造的なタイプを取り出していくことで、記述を進めていく。以下では、本報告がとる方法論について、用例を用いて具体的に述べていく。

1.1 本報告の具体的な方法論—タイプ（構造の型）を取り出す

従来の研究で文の構造を構成する要素として考えられてきたきたものは、主に名詞句、動詞句といった文中成分の「品詞の別」と「格体制」、及びそれらの成分の述語との関係を示す「意味」（動作主、対象など）と「機能」（主語、述語など）であろう。すなわち、日本語の他動詞文の構造であれば次のようなものである。

- (1) NP-ガ NP-ヲ V-スル
動作主[主語] 対象[補語] 働きかけ[述語]

これに加え、「語順」もまた、暗黙的にであれ、文の構造にとって重要な要素と見なされることが多いだろう。

非常に上位のレベルで文のタイプを捉えるのであれば、こうした特徴だけで十分である。しかしながら、テキストに現れる受身文の実態をより詳細に、正確に把握するためには、より下位のレベルの、詳細な文タイプの一般化が必要になってくる。こうした細かい文タイプの記述にとっては、さらに多くのさまざまな特徴を構造の要素として考えなければならなくなる。以下では、意味・構造的なタイプを取り出す際に、文のどのような文法的特徴を要素と見なすかについて、具体的に述べていく。

ここでは、まず、次のような受身文を例にとって、タイプの取り出し方を説明する。

- (2) 和夫は〔自分の性癖に／リュウマチに／人員の不足に〕悩まされている。
(3) 「夏用の離宮ですの。うんざりするような観光地。でも、その広さには、やっぱりびっくりさせられますわ」（ドナウ）
(4) 「(徳川) 家康が江戸に幕府を開いたのは富士の美しい眺望に魅せられたから。さらに、富士見は不死身に通じた」（毎日）
(5) 昨日と同じに、三原は彼の態度に気圧されるのを感じた。（点と線・地）

これらの受身文は、「花子が太郎にたたかれる」のような通常の受身文と比べると、二格で現れる行為者が非情物＝原因であるという特徴を持っているのが分かる。この二格の非情物＝原因は明示されるのが普通で、前後文脈から明らかな場合以外は、省略することができない補語と考えられる。次のように、原因が明示されなければ、文の意味が完結しない。「何に？」と聞き手は聞き返したくなるだろう。

- (6) ?和夫は悩まされている。

また、こうした受身文のほとんどが、「苦しめられる、悩まされる、困らされる、さいなまれる、焦らされる、いらいらさせられる、圧倒される、満たされる、魅了される」などの「心理・生理的状态」を表わす動詞で構成される。

さらには、このタイプの受身文では、対応する能動文が不自然な表現になるか、成立しない

場合が多い。

以上の特徴は、すべてこのタイプの受身文を構成する要素の1つ1つである。構造を図式的にまとめると次のようになる。このタイプは「AI 心理・生理的状態型」と名づけた。

(7) AI 心理・生理的状態型

対象=受影者	原	因	心理的状態
A・N・ガ	SUB	現象／抽象 IN・ニ	COM 心理的状态 V・ラレル

「われわれは人員の不足に悩まされている」 ●能動文が不自然

もう1つ、別の受身文タイプを例にとって説明を続ける。次のような受身文である。

- (8) ユーカリ林に囲まれた近郊の国立公園では、カンガルーやコアラを野生の姿で観察できる。(毎日)
- (9) 丁度干潮時で、澄みきった洋上に直径六〇キロの広さを持つ大環礁が、白々と碎ける波にふちどられて浮き出し、その中に、みずみずしい緑におおわれた大小さまざまな島々が散在しているのが見えた。(戦艦武蔵. 地)
- (10) 鉄とセメントの建物に挟まれた街路を通り抜けて、橋を一つ渡ると町の光景がにわかに変る。(樹々は緑か. 地)
- (11) 川中に竹藪に包まれた大きな洲があった。(金閣寺. 地)
- (12) 一つの丘があった。両側を細い支流に区切られて独立し、芒が馬の鬣のように、頂上まで葡い上っていた。(野火. 地)

これらの受身文は、二格で現れた非情物の実体を主語にして能動文で述べる事が可能である。ただし、多少なりとも不自然な文になることもある。

(13) ユーカリ林が近郊の国立公園を囲んでいる。

(14) ?細い支流が一つの丘の両側を区切っている。

この種の受身文は、非情物が主語に立ち、かつ非情物が行為者である受身文であると見なせる。受身文全体の意味は、主語に立つ非情物と行為者である非情物との位置関係を表わしている。2つの実体の間の位置関係を表わしているのも、行為者である非情物は構造上必須の成分であると考えられる。動詞は、主に包囲を表わす動詞が要素となる。

また、能動文では文末をすべてラレテイル形にしたように、テンス・アスペクト的には先行する変化の局面をもたない、「特性」¹⁰を表わす文である。

さらに、手元の用例を見る限りでは、多くの例が「V・ラレタ+名詞」という連体節構造で現れており(約100例中およそ6割)、連用中止に現れた例を除くと、文末終止の位置に現れた例は少ない。

以上述べた特徴を、構造として図式的にまとめると次のようになる。このタイプは、「II 位置関係型」と名づけた。

¹⁰ 「特性」とは奥田靖雄のアスペクト論の用語で、先行する変化が含意されない、実体が恒常的に持つ性質を表わすアスペクトである。この「特性」のアスペクトの意味は、工藤 1995で「単なる状態」と命名されたため、一般には「単なる状態」という用語が認識されている。しかし、奥田にとって「(ただの)状態」とは、「ふるえる、しびれる、いたむ、うずく」のような人間の生理的な現象をとらえる動詞、または「いらだつ、あきれる、おどろく、こまる」といった心理的な現象をとらえる動詞が表わすような時間的カテゴリーである(奥田 1994:38)。これらを「状態動詞」とも呼んでいる。こうした動詞が表わすアスペクトが「ただの状態」であり、実体に恒常的にそなわった性質とは区別される。

(15) 位置関係型

対 象	行 為 者	位 置 関 係 に あ る
具体 IN1・ガ SUB	具体 IN2・ニ/デ/ニヨッテ COM	包囲 V・ラレテイル

「この国は山に挟まれている」

●ラレタ+名詞で現れることが多い

以上、意味・構造的なタイプを取り出す際に、受身文のどのような特徴を構造の要素と見なすかという点について具体的に述べた。

1.2 受身節の内部構造

ここでは、上の 1.1 で述べた方法論をふまえて、受身文の意味・構造的なタイプの内部構造を構成する要素にどのようなものがあるかをまとめる。

ここで内部構造と呼ぶのは、主語と述語を備えた 1 つの節単位に含まれる構造である。節単位を超えた構造的特徴については、外部構造として次のエラー! 参照元が見つかりません。で述べる。

なお、受身文の研究では、事態に関与するもっとも重要な参加者の 2 つを、主語と行為者（動作主）という呼称で呼んでいる。主語とは、ある名詞句の文内における成分としての機能であり、行為者とは、名詞句の動詞に対する関係的な意味のことで、観点の異なる呼称である。しかしながら、受身文の場合、主語は意味的に「対象」とであるとは限らず、いわゆる相手の受身や持ち主の受身、はた迷惑の受身では、対象以外の名詞句が主語に立っている。よって、こうしたさまざまな関係の意味を有する参加者を統一的に指示するには「主語」と呼ぶのが便宜的に都合がよい。一方、行為者（動作主）の方は、文内では補語であったり修飾語であったりするため、これは「行為者（動作主）」という呼称の方が統一的な呼び方になる。このような理由で、本稿でも受身文の表わす事態に関与する第一参加者を主語、第二参加者を行為者（動作主）と呼ぶことにする。

また、本報告では、Foley & Van Valin (1984) で提唱された macrorole としての Actor の訳語として「行為者」を用いる。すなわち、意志の有無や有情か否かに関わらず、広く因果連鎖 (causal chain) の始点と考えられるものを「行為者」と呼ぶ。特に必要な場合は、有情行為者を動作主 (Agent)、非情行為者を原因 (Cause) と呼ぶ。

1.2.1 主語

本報告は、受身文のもっとも上位レベルの意味・機能的対立を支える構造的特徴は、主語が有情者であるか非情物であるかという別であると考え（山田 1908, 松下 1930, 益岡 1982, 志波 2005）。この、人名詞かモノないしコト名詞かという違いは、名詞の語彙的な意味（カテゴリーカルな意味）である。

(16) わたしは、和夫にたたかれた。《人名詞＝有情者》

(17) 新しい駅ビルが建てられ、チラシが配られた。《モノ名詞＝非情物》

ただし、有情者と非情物という対立は截然と分けられるものではなく、意志と感情を持った人格者としての人名詞から人格性が無視された人名詞まで様々である。こうした主語の「有情者らしさ」も、構造全体の意味・機能に影響する。

また、主語に立つ名詞のラレル動詞との関係的な意味（いわゆる意味役割）も構造の特徴として重要である。非情物が主語に立つ場合は、ほとんどの受身文でこれは単に「対象」を表わ

すと言えるだろう。これに対し、有情者が主語に立つ受身文では、主語に立つ有情者は、元の動詞との関係では対象（被動者）であり、ラレル動詞との関係では受影者であることになる。つまり、(16)のような受身文の主語は「対象=受影者」であると考えられる。

1.2.2 行為者

受身文の表わす事態には、主語に立つ名詞句以外に、必ず行為者が含意される。この行為者が人名詞かモノないしコト名詞かという違いも、受身文のタイプにとって重要な特徴である。行為者は、人間の動作主であることが多いが、1.1の方法論でも見たように、抽象名詞や現象名詞がニ格（ニヨッテ、デ格）に立つ場合もある。

- (18) わたしは、彼女の態度に悩まされている。
(19) 桜の花が雨に打たれ、風に吹かれて舞っている。

ただし、行為者の場合も、有情者であっても非常に動作主性が高い場合と低い場合がある。特定の個人の有情者で、意志と感情といった人格性を持ち合わせた有情者がもっとも動作主性が高いと考える。これに対し、動作主が特定の個人ではなく、組織や団体であったり、不特定多数の一般の人々である場合は、動作主性は低くなる。すなわち、行為者の「有情者らしさ」も、構造の特徴づけに関与していると考えられる。

また、こうした行為者が、文の構造にとって必須の成分か否かということも、重要である。対象が非情物で行為者が有情者の場合、行為者の存在は不問に付されていることの方が圧倒的に多い。これに対し、有情者が主語に立つ場合は、動作主も明示されるか文脈から明らかであることが多い（志波 2006）。よって、このような行為者の必須性も構造の特徴になっていると考えられる。

1.2.3 動詞の語彙的な意味

1.1の方法論では、〈心理・生理的狀態型〉と〈位置関係型〉の構造的特徴を考察した。このとき、受身文タイプの表わす意味にとって重要な要因となるのが、動詞の語彙的な意味（カテゴリーカルな意味）である。すなわち、〈心理・生理的狀態型〉は心理・生理的狀態動詞で構成され、〈位置関係型〉は包囲動詞で構成されるということが、このタイプの表わす意味を決定付けている。

1.2.4 文中成分の語彙的な意味と関係的な意味

受身文中には、主語と行為者以外にも、その構造を特徴づけている様々な成分がある。こうした様々な成分の語彙的な意味と関係的な意味（いわゆる意味役割）も、文の構造にとって重要な要素である。例えば、「発話動詞」による次のような受身文は、ヲ格、ト格、ニツイテなどで表わされる抽象名詞句、ないし・トで導かれる引用節が「発言内容」を表わし、これが構造にとって義務的な要素である。

- (20) わたしは、妻に{子供のことを／子供が欲しいと}言われた。

しかし、動作の様態を表わす副詞句を伴うと、発言内容がなくとも意味的に完結することがある。

(21) わたしは、母親にガミガミ言われてばかりだ。

このように、ある場合には副詞句も、構造的特徴的な要素となる。

1.2.5 能動文との対立の仕方

受身文がどのように能動文と対立するのか、ということも、構造にとって重要な要素である。1.1の方法論でも見たが、〈心理・生理的状态型〉は、「生活に追われる」、「彼女の態度に気圧される」など、対応する能動文を持たない受身文も少なくない。これは、このタイプの構造にとって重要な特徴である。また、鈴木（1972）が提唱した〈相手の受身〉、〈持ち主の受身〉、〈第三者の受身〉などの分類は、当該事態に関わるいずれの参加者が主語に立つのか、という分類であるが、対応する能動文との関係で見れば、〈相手の受身〉は能動文の相手ニ格が主語に立ち、〈持ち主の受身〉では対象の所有者が主語に立ち、〈第三者の受身〉は対応する能動文を持たないのいずれの成分が主語に立つのか、という分類になっている。このように、受身文が能動文とどのように対立するか、という観点も要素として取り入れなければならない。

1.2.6 行為者の標示形式

受身文研究では、行為者の標示形式と受身文の意味・機能との関係が議論されることがある。特に、Kuroda（1979）は、受影の意味が表れる受身文をニ受身文、受影の意味のない受身文をニヨッテ受身文として、行為者の標示形式を意味の違いの重要な特徴と見なしている¹¹。

(22) 町が日本軍に破壊された。

(23) 町が日本軍によって破壊された。

しかし、受影の意味の表れを動作主の標示形式に第一義的に求めるのは難しいだろう。(16)と(17)の対立に比べて、(22)と(23)の対立で意味の違いを読み取るのは困難である。有情有情受身文の行為者標示が基本的にはニ格であり、非情一項受身文で行為者を表示する場合はニヨッテが用いられやすいことは確かだろうが、この標示形式の違いは、両タイプの意味の違いを決定づけるものではない。さらに言えば、受影の意味を帯びるか否かは、構造を構成する様々な要素の相互作用による。よって、行為者の標示形式のみが例外的でも、他の要素が有情主語有情行為者受身文の特徴を持っているのであれば、その受身文は受影の意味をそれほど失っていないはずである。

動作主の標示形式には、この他、カラ格、「現象 IN・デ」、「AN・ノ 身体部位・デ」などがある。

(24) わたしは、事件のことを母親から知らされた。

(25) 庭の木が雪で覆われている。

(26) その仏像は、彼の手で境内に運ばれた。

また、動作性名詞が主語に立つ場合は、その動作性名詞の規定語としてノ格ないしニヨルで表わされることもある。

(27) 日本軍による破壊が続けられた。

こうした行為者の標示形式は、受身文のタイプによって使い分けられているのであるが、本

¹¹ これは、井上 1976 の動作主の標示形式と意味の表れに関する議論に影響されたものであるが、議論の内容は、松下 1930 の発想に非常に似ている。

報告ではその点に踏み込んだ分析を徹底させることができなかった。受身文タイプと行為者標示形式のより詳しい議論は、今後の課題としたい。

1.2.7 テンス・アスペクト

すべての受身文タイプにとって、テンス・アスペクトの特徴が重要なわけではないが、ある種の受身文タイプでは、テンス・アスペクト的に特徴的なものがある。例えば、先の 1.1 の方法論で見た〈II 位置関係型〉は、先行する変化が存在せず、時間軸上に起きた出来事としては位置づけられない、超時的な事態を表わしている。

(28) この国は海に囲まれている。〈II 位置関係型〉

このように、文のテンス・アスペクトもまた、受身文タイプを特徴づける要素になることがある。

1.2.8 主題性

受身文の主語は、それに焦点を当てたいという積極的な理由で主語に立っている場合と、動作主を背景化するために主語から降ろした結果、「一般に、ガ格を含まない表現が許されない(例えば「*事故の原因を発表された」)ので、付随的にガ格以外の名詞句のガ格への昇格が起こる」(益岡 1987:183) 場合がある。

(29) このビルは、ランドマークと呼ばれている。

(30) その日は、広場で式典が行われ、平和の鐘が鳴らされた。

(29)のような受身文タイプは、通常、主語が「ハ」で主題化されて表れる。一方、(30)のような受身文の主語は主題化されないのが普通(デフォルト)である。

また、受身文ではほとんどの場合、対象(被動者、受影者)が主題化されるのだが、ある種の受身文タイプでは、行為者であるニ格名詞句が主題化されることがある。

(31) イチゴには、ビタミン Cが豊富に含まれる。

(32) 自由・平等といった標語には、近代国家のイデオロギーが凝縮されている。

こうした受身文に現れるニ格名詞句は基本的に非情物で、意志的な行為者とは大きく異なる。ニ格名詞句が主題化されるという構造的特徴は、この種の受身文が存在文に近いタイプであることを表わしているのだろう。このように、名詞句の主題性も、受身文の構造にとって要素となる。

1.3 受身文の外部構造

ここで外部構造と呼ぶものは、1つの節単位を超えたところにある構造的特徴である。外部構造には、当然様々なレベルがあり、一文内におさまるレベルから、前後2文の連文構造、さらには、いくつもの文が連なった文脈¹²もまた、外部構造である。だが、ここでは、まずは

¹² 受身文を取り巻く文脈にも一定のパターンがあり、これが外部構造となって、要素としての受身文に対し、その構造にふさわしい要素(意味・機能)たるべく働きかける。つまり、ある受身文のタイプとその外部構造は相互に影響し合い、受身文のタイプと外部構造の間には一定の関係が成立するものとする(村上 1983:30)。

文内におさまるような構造的特徴を受身節の外部構造として考えていく。

例えば、有情主語有情行為者受身文は、話し手の視点の置かれた有情者（実際には多くの場合話し手自身）の主観的な感情を表わす外部構造に、要素としてなじみやすい。主観的な感情を表わす外部構造とは、例えば次のようなものである¹³。

- (33) 「V・ても困る」：そんなこと言われても困る
- (34) 「V・たくない」：年下に見られたくない
- (35) 「V・のは嫌だ」：たたかれるのは嫌だ
- (36) 「V・たら大変だ」：あの仕事を頼まれたら大変だ

これに対し、非情主語の受身文がこうした外部構造の要素となることはまれである。

また、「要求的態度動詞」が要素となる次のような受身文は、「V・ラレテ 意志 V・スル」という外部構造で用いられることが多い。

- (37) わたしは、先生に頼まれて、コピーをとった。

また、先に見た〈II 位置関係型〉や、「恵まれた環境」のような形容詞相当の受身、「ト 呼ばれる」のような受身文は、主語相当の名詞句が被修飾語になった連体節の外部構造で用いられることが多い。

- (38) 限られた時間で何ができるか考えよう。
- (39) 駅前に、ランドマークと呼ばれるビルがあります。

以上、外部構造としてここで見てきた構造的特徴は、当該の受身文タイプを直接的に構成する要素ではないが、その全体構造を特徴付ける間接的な要素と見なすことができると考える。

1.4 意味・構造的なタイプのレベル

意味・構造的なタイプには、いくつかのレベルが存在する。例えば、奥田（1968・72）に代表される一連の連語論では、従属的な関係を持つ「単語＋単語」の組み合わせにおける意味・構造的なタイプが扱われている。従属的な関係とは、「主語＋述語」という陳述的な関係と「りんごとみかん」のような並列的な関係を除いた、2 単語（以上）の組み合わせのことである。連語論が扱う、従属的な関係を持つ単語の組み合わせにおける意味・構造的なタイプを「**第 1 レベルの意味・構造的なタイプ**」と呼ぶことにする。

これに対し、本報告は受身文の研究なので、「主語＋述語」という組み合わせを扱わないわけにはいかない。すなわち、本報告は「主語＋述語」という陳述的な関係を持つ単語の組み合わせにおける意味・構造的なタイプを扱うことになる。この「主語＋述語」という陳述的な関係とは、本来、モダリティ及びテンス・アスペクトと切り離されたところには存在しない関係である（奥田 1983:6）。しかし、本報告では「ガ格名詞句＋ラレル動詞句」という組み合わせを、いったんはテンス・アスペクト及びムードと切り離して、意味・構造的なタイプを考えようと思う。これは、「ガ格名詞句＋動詞句」という組み合わせが、連語論が扱う従属的な関係同様、単語の結合価によって指定されるものと考えからである。

例えば、「あげる」という動詞は、（これだけではないだろうが）次のような結合価を持っていると考えられる。この図式は、「あげる」という動詞が「付着行為」を表わす場合は〈人名詞・ガ モノ名詞₁・ニ モノ名詞₂・ヲ アゲル>という3つの名詞句と組み合わせたり、「授与行為」を

¹³ このうち、(33)と(34)は、受身文の主語が視点のある有情者でなければならない。

表わす場合は<人名詞₁-ガ 人名詞₂-ニ モノ名詞-ヲ アゲル>という3つの名詞句と組み合わせることを意味している。ここには、それぞれの名詞句がどのような名詞グループで、動詞とどういった意味的關係を持っているか（動作主、対象など）という情報も含まれる。

(40) 「あげる」の結合価

① 付着行為<^{動作主}人名詞₁-ガ ^{付着対象}モノ名詞₁-ニ ^{対象}モノ名詞₂-ヲ ^{付着行為}アゲル>

② 授与行為<^{動作主}人名詞₁-ガ ^{相手=対象}人名詞₂-ニ ^{対象}モノ名詞-ヲ ^{授与行為}アゲル>

このように、単語の結合価は、他のいかなる単語と組み合わせるかということすべて指定しているものの、動詞のテンス・アスペクトやムードまでは指定しないものとする¹⁴。この、結合価によって指定される要素のみを含む意味・構造的なタイプを「**第2レベルの意味・構造的なタイプ**」と呼ぶことにする。「第2レベルの意味・構造的なタイプ」は、ガ格を要素として含むものの、テンス・アスペクトなど、単語の結合価に含まれない要素は含まない。先に1.1で見た〈心理・生理的状態型〉は、この「第2レベルの意味・構造的なタイプ」であると考えられる。

一方で、受身文の中には、テンス・アスペクトにも特徴があり、これが要素として構造を特徴づけているものがある。1.1で見た〈II位置関係型〉は、アスペクトが「特性」を表わすという特徴を持っていた。また、次のような非人称受身（主語のない受身文）は、動作主が不特定一般の人々であることと連動して、アスペクトが反復を表わすという特徴を持っている。

(41) 糖尿病は、生活習慣病の一つと {される／言われる／考えられている}。

テンス・アスペクトを要素に含むレベルは、より「文」の構造レベルに近いものである。1.2.8で見た「主題性」もまた、このレベルの要素である。このように、テンス・アスペクトや主題性を要素として含む意味・構造的なタイプを「**第3レベルの意味・構造的なタイプ**」と呼ぶ¹⁵。

「第2レベルの意味・構造的なタイプ」と「第3レベルの意味・構造的なタイプ」の大きな違いは、その意味・構造的なタイプの表わす意味にも見られる。「第2レベルの意味・構造的なタイプ」では、その構造が持つ意味は、要素となっている動詞の語彙的な意味が多くを負っている。有情主語有情行為者受身文と非情主語一項受身文からそれぞれ2例ずつ挙げてみよう。

(42) AA 評価動作的態度型：和夫は良子にだまされた。

(43) AA 知的認識型：私は両親に将来のことを心配された。

(44) I 位置変化型：封筒に切手が貼られた。

(45) I 知的認識型：早急な対策が考えられた。

(42)の「AA 評価動作的態度型」は、有情者に対する評価的な態度を動作で表すことを示す動詞で構成され、(43)の「AA 知的認識型」は、知的認識を表わす思考動詞で構成されている。そして、いずれのタイプも、「有情者が動作主から動詞が表わす動作を被る」ことを表わしている。つまり、構文は「有情者が動作主から動作を被る」という意味を持っており、当該の動作を具体的に表わしているのが、動詞の語彙的な意味であることになる。また、(44)の「I 位置変化型」は、位置変化動詞で構成されており、(45)の「I 知的認識型」は思考動詞で構成されているが、いずれも動詞の表わす事態をおこうな動作主が背景化されている。ここでは、構文は「動作主背景化」という機能を果たしている。

¹⁴ 奥田氏は、単語の結合価にはガ格名詞は含まれないと考えていたのかもしれない。

¹⁵ なお、本稿で「第1レベルの意味・構造的なタイプ」としたものは、南（1993）のA類の要素を含み、「第2レベルの意味・構造的なタイプ」としたものはB類、「第3レベルの意味・構造的なタイプ」としたものはC類の要素を含んでいると、大まかには言えそうである。

これに対し、「第3レベルの意味・構造的なタイプ」では、動詞の語彙的な意味に加え、構文自体が特別な意味を持っている。「第3レベルの意味・構造的なタイプ」の例として非情主語の受身文の例を2例挙げる。

- (46) I 社会的言語活動型：近年、日本では格差が拡大したと {言われる／される}。
- (47) I 存在確認型：多くの国に共通の現象が見られる。

非情主語の受身文として挙げた(46)の「I 社会的言語活動型」と(47)の「存在確認型」は、動作主に具体性がなく、個人の動作主を想定することができない。動詞も、「I 社会的言語活動型」では、すべての発話動詞が要素となるわけではなく、「言われる、される」にほぼ限られており、慣用的である。「存在確認型」の要素となるのもほとんど「見られる」で、このほかには「確認される、認められる、識別される」などわずかな動詞が見つかるのみである。こうした動詞が表わす動作は、言語活動や知覚認識といった具体的意味をほとんど失っている。また、テンス・アスペクト的には、「I 社会的言語活動型」はある社会的範囲における不特定多数の人々の反復・習慣的な事態を表わしており、ラレル vs.ラレテイルの対立が中和している。「存在確認型」では、テンス対立は持つものの「見られる」という現在形で述べられるのが通常で、二格に存在場所が現れることから、存在文のテンス・アスペクトに近いと考えられる。

このように、「第3レベルの意味・構造的なタイプ」は、動作主やテンス・アスペクトの特徴、要素となる動詞の生産性の低さゆえの慣用性など、「第2レベルの意味・構造的なタイプ」とは異なる構造的特徴を多く持っている。さらに、意味的には、構造全体の表わす意味が抽象化されて強固になっており、要素となっている動詞の語彙的な意味はほとんど具体性を失って、漂白化している場合もある。

以上、本報告で対象とする受身文の意味・構造的なタイプには2つのレベル（第2レベルと第3レベル）があることを述べた。このレベルの違いを確認しながら、記述を進めたいと思う。

1.5 構造の提示の仕方について

本報告の記述では、以上述べてきた意味・構造的なタイプの構造を以下のように図式的に表示する。ここでは、「AA 相手への要求的態度型」という意味・構造的なタイプを例にとって説明する。

(48) AA 相手への要求的態度型

相手動作主=受影者		動作主	相手動作主=受影者の動作内容		動作実行の要求を受ける
A	N・ガ	SUB	AN=ニ/カラ	COM	動作性 N/V スルコト=ヲ COM 要求的態度 V=ラレル

「わたしは母親に庭の掃除をたのまれた」 【個別有情行為者】

要求的態度動詞：頼まれる、任される、求められる、請われる、要求される、要請される、言いつけられる、許される、許可される、禁じられる、止められる、禁止される、命じられる、命令される、強制される、勧められる、指示される、期待される、望まれる、断られる、迫られる、せがまれる、委託される、勧告される、etc.

構造の表示は上のようなものである。以下、各行ごとに、説明する。

- 1 行目
 - ・ 意味・構造的なタイプの名称を表記する。
- 2 行目
 - ・ 当該のタイプにとってもっとも基本的と考えられる構造を a として提示する。以下、b, c というように下位構造を提示する。

- ・ ANは有情名詞 (Animate Noun), INは非情名詞 (Inanimate Noun), Vは動詞, Adjは形容詞／形容動詞を表わす。「具体 IN」とは, 具体名詞でかつ非情名詞であることを表わす。
- ・ 動詞にラレル vs. ラレテイルの対立がある場合には V-ラレルで代表させ, ラレテイル形でのみ用いられる場合は V-ラレテイルと表記する。ラレル vs. ラレテイルの対立がない, もしくは中和する場合は, V-ラレル/ラレテイルと表記する。「／, /」は「ないし, もしくは」を意味する。
- ・ 動詞以外の成分の動詞に対する関係的な意味と受身動詞の表わす意味を, 各成分の上部 (ルビ) に表示する。
- ・ 各成分の文内での機能を, それぞれの後部に下付けで, SUB=主語, COM=補語, MOD=修飾語として添える。

3行目

- ・ 典型的例文を1例挙げる。
- ・ 必要があれば, 【】に行為者の特徴を示す。
- ・ 必要があれば, 能動文との対立の特徴や外部構造の特徴を●で示す。

4行目

- ・ 構造の要素となる動詞の例を挙げる。

なお, 実例の例文には, ラレル述語に直線下線, 主語に枠囲い, 動作主に網掛け, 当該タイプで注意すべき補語・補部ないし成分に波下線を施す。例文内の／は段落が変わっていることを表わす。例文末尾に出典のないものは志波の作例である。また, 例文・引用文内の[]は, 志波の注であることを示す。さらに, 用例が少ないため, 他のテキストから補充した例についてはをつけているが, これらの用例は統計の対象にはしていない。実例の例文は, 特に断りがない限り, 要素となる動詞を挙げた順に例を挙げている。

1.6 意味・構造的なタイプをどこまで取り出すか

さて, 以上述べてきたような方法で意味・構造的なタイプを取り出していくのだが, こうした意味・構造的なタイプをどこまで取り出すか, という問題を議論しておかなければならない。ここには, それほど明快な答えが用意されているわけではない。Goldberg (1995) では, 1つの構文の存在は次のように定義されている。

- (49) Cが形式と意味のペア<F_i, S_i>であるときに, F_iのある側面あるいはS_iのある側面が, Cの構成部分から, または既存の確立した構文から厳密には予測できない場合, かつその場合に限り, Cは一つの「構文」である。
(河上他 2001: 5)

この定義は非常にもっともな定義であるが, 「厳密には予測できない」ということが具体的にどの程度の予測不可能性なのか, 明らかではない。

本報告では, 受身文の「文」としての内部構造をできる限り記述できるように, また, いろいろな文タイプを体系に位置づけられるように, 様々な構造的特徴を受身文構造の要素と見なした。このうち, 受身文の内部構造の要素と見なすべきかで問題になるのが, 文のアスペクトである。文のアスペクトは, 動作主の性質にかなりの程度連動している。すなわち, 動作主が不特定多数の一般の人々になれば, 文のアスペクトも個別具体性を失い, 非アクチュアルなアスペクトになる。こうして, 本報告で立てた受身文タイプである〈習慣的社会活動型〉は, 動作主が不特定一般の人々であり, かつ反復・習慣の非アクチュアルなアスペクトであることを

特徴として取り出されている。

しかしながら、〈習慣的社会活動型〉はすべての動詞についてタイプが存在するわけではなく、心理動詞を中心とした一部の動詞に限られている。これは、そうした心理動詞においては、個人の動作主の個別具体的な事態としてよりも、不特定一般の人々の反復的な事態として述べられることの方が多いという事実による。これに対し、動作動詞の場合は、たとえ反復のアスペクトで述べられたとしても、それは当該の受身文タイプの単なるアスペクト的な対立と見なされ、受身文のタイプとしては取り出されていないのである。

また、本報告では、「存在様態」のアスペクト¹⁶で述べられた受身文をタイプとして取り出している。一方で、単に「結果状態」を表わす受身文については、受身文のタイプとしては取り出していない。これは、両者の頻度の違いによる。

本報告で、受身文タイプを1つの意味・構造的なタイプとして取り出す際の基準にしたのは、当該の受身文タイプとしての**用例の頻度(トークン頻度)**と、当該の受身文タイプの**生産性¹⁷(タイプ頻度)**、及び、**能動文との対立の不自然さ**である。用例の頻度が高いということは、その受身文が意味・構造的なタイプとして定着していることを表わしている。また、構造の要素となる動詞の種類が多く、タイプの生産性が高ければ、これも構造として一般化され、定着していることを表わしている。一方、能動文との対立の仕方については、能動文で述べると不自然である、ないし能動文で述べることができないような受身文は、受身文として、非常に特徴的な意味・構造的タイプであることを表わしているだろう。すなわち、能動文としては当該動詞による文は構造的なタイプとして存在しないのに対し、受身文としてはタイプとして存在しているということである。例えば、本報告で取り出した〈AI 不可避型〉などは、すべてのテキストにおいて、それほど頻度の高いタイプではなく、また動詞の生産性も高くはない。〈AI 不可避型〉とは、次のような受身文である。

(50) 彼は、対応を迫られている。

このタイプに用いられる受身動詞は、「余儀なくされる、求められる、強いられる」などがあるが、動作主が想定不可能な受身文であり、能動文で述べることができない。こうしたタイプは、受身文として特徴的であるので、頻度と生産性が低くても、タイプとして取り出す意味があると考えた。

しかしながら、本報告で立てたすべての受身文タイプが、受身文の意味・構造的なタイプとして存在するものかどうかは、未だ見当の余地があるだろう。また、受身文タイプとして取り出されるべきタイプが取り出されていない可能性もある。今後、能動文の体系との関連も含めて、より緻密に調査していかなければならない課題である。

2 受身文の分類

本節では、本報告の受身文の分類について、その方法と中身について簡単に述べていく。

本報告では、まず主語と行為者の有情・非情の別によって、受身文を大きく4つのタイプに

¹⁶ 「存在様態」のアスペクトとは、「場所ニ N・ガ V・テイル(机の上にりんごが転がっている)」という存在の構造を持つテイル文のアスペクトの意味である。一方、結果状態とは、「あ、ネクタイが汚れている」のように、変化の後の結果状態として述べられるアスペクトである。

¹⁷ 本報告では、「生産性」という用語を、当該の意味・構造的なタイプに用いられる動詞の種類が多いほど、当該タイプの「生産性が高い」という使い方で用いている。

分類した。これを4大分類と呼ぶ。そして、この4大分類を軸に、動詞のカテゴリカルな意味とその構造的特徴によって、いくつものサブタイプを立てた。このサブタイプを、動詞の大分類とテンス・アスペクトの違いによって、17タイプの中分類にまとめ上げた。以下では、主に、4大分類と17中分類について、その中身を紹介していく。

2.1 受身文の4大分類 —主語と行為者の有情・非情の別による—

本報告では、受身文を、その主語と行為者の有情・非情の別によって、大きく4つのタイプに分類した。これは、本報告では主語及び行為者の有情・非情の別を、受身文の意味・機能を左右するもっとも重要な構造的特徴と見なすからである。これらを、**4大分類**と呼ぶことにする。

有情主語有情行為者受身文	AN-ガ AN-ニ V-ラレル	(AA)
有情主語非情行為者受身文	AN-ガ IN-ニ V-ラレル	(AI)
非情主語一項受身文	IN-ガ V-ラレル	(I)
非情主語非情行為者受身文	IN-ガ IN-ニ V-ラレル	(II)

受身文の主語と行為者を有情・非情の別で十字分類した表にあてはめると、次のようになる。

表 1：受身文の主語と行為者による分類（4大分類）

主語 \ 行為者	有情者	非情物
	有情主語有情行為者	有情主語非情行為者
有情者		
非情物	非情主語一項	非情主語非情行為者

非情主語一項受身文は、非情主語有情行為者の受身文に相当しているのだが、有情行為者が文中に現れることがきわめて少ないので、これを非情主語一項受身文とした。

以下、これらの受身文を便宜的に、有情有情受身文（AA）、有情非情受身文（AI）、非情一項受身文（I）、非情非情受身文（II）と呼ぶことがある。カッコ内は略式記号を表わす。

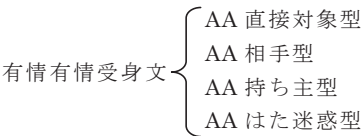
さて、これらの4つの大きな受身文タイプのうち、非情行為者の受身文は、動詞グループがかなり限定されている。つまり、生産性が低く、そのため、有情行為者の受身文に比べると、頻度も非常に低い。まず、**有情主語非情行為者受身文**に現れる動詞グループは、主に状態を表わす動詞で、「私たちは人員の不足に悩まされている」などが代表的な例である（AI 状態型）。一方、**非情主語非情行為者受身文**には、主に自然現象の動きを表わすタイプ（「樹々が風に吹かれている」）と論理的な関係を表わすタイプ（「イチゴにはビタミンCが含まれる」）がある。前者を〈II 現象受身型（II 現象）〉、後者を〈II 関係型（II 関係）〉と呼ぶ。

これに対し、有情行為者の受身文である**有情主語有情行為者受身文**と**非情主語一項受身文**は、さまざまな意味を表わすサブタイプが存在する。両者は生産性も高く、頻度も高い。よって、有情有情受身文は、有情主語受身文の代表的なタイプと考えられ、また、非情一項受身文は、非情主語受身文の代表的なタイプと見なすことができるだろう。

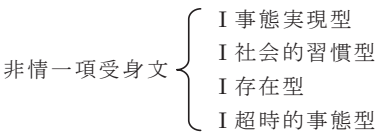
2.2 受身文の17中分類

以下、有情有情受身文と非情一項受身文の下位分類について説明する。まず、有情有情受身文であるが、本報告ではこれを鈴木（1972）の分類に基づいて、①AA 直接対象型、②AA 相

手型，③持ち主型，④はた迷惑型¹⁸（第三者の受身）に分類した。それぞれ，①動作の直接対象が主語に立つ受身，②動作の相手（対応する能動文のニ格名詞句）が主語に立つ受身，③動作対象の持ち主が主語に立つ受身，④当該の動作とは直接関係のない第三者が主語に立つ受身を表わす。



非情一項受身文については，すべて直接対象が主語に立つ受身であるので，動作主及びそれに連動したテンス・アスペクト的な特徴によって分類した。個別の有情行為者が動作主で，個別具体的なアスペクトで述べられるのを基本とする受身文を「I 事態実現型」とした。動作主が不特定多数の一般の人々で，反復・習慣のアスペクトで述べられる受身文を「I 社会的習慣型」とした。また，存在文の構造を持ち，同じく動作主が一般の人々であるか，もしくは動作主を想定することができない受身文で，反復・習慣ないし存在様態（結果状態）のアスペクトで述べられる受身文を「I 存在型」とした。さらに，動作主を想定することができず，時間を越えた特性を表わすアスペクトで述べられる受身文を「I 超時的事態型」とした。



さらに，AA 直接対象の受身と I 事態実現型については，動詞の意味グループによって下位分類を立てた。本報告では，他動詞を大きく物理的動作と心理的作用を表わす動詞に分ける。そして，物理的動作はさらに①変化動作か②無変化動作かで分かれ，心理的作用は③認識活動か，④態度的活動かで分かれる。この4つの動詞グループと受身文タイプの対応を表に表わすと，次のようになる。

表 2：他動詞の意味グループと対応する受身文タイプ

他動詞グループ \ 受身文タイプ		AA 直接対象型	I 事態実現型
物理的動作	変化動作	AA 変化型	I 変化型
	無変化動作	AA 動作型	I 無変化型
心理的作用	認識活動	AA 認識型	I 認識型
	態度的活動	AA 態度型	I 態度型

以上，有情有情受身文と非情一項受身文のサブタイプを図にまとめると，次のようになる。これら 14 タイプと，先の有情非情受身文と非情主語非情行為者受身文の2つのサブタイプをあわせて 17 中分類と呼ぶことにする。

¹⁸本報告では，鈴木 1972 の「第三者の受身」の代わりに，三上 1953 の「はた迷惑の受身」という用語を用いる。

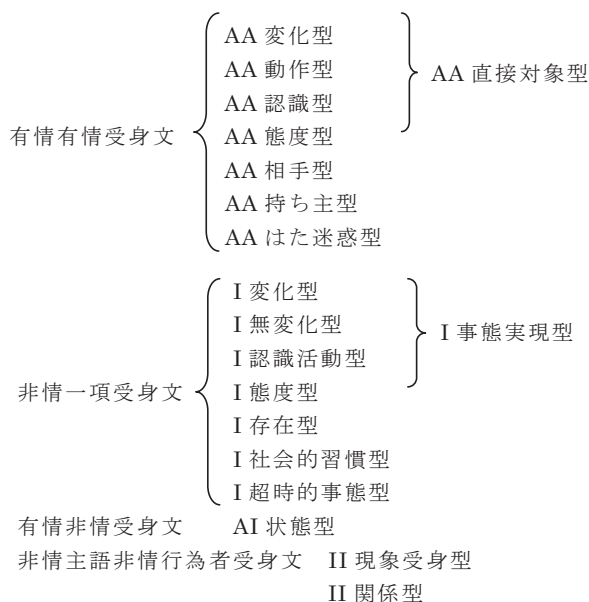


図 1: 受身文の 17 中分類

以上のように、有情有情受身文と非情非情受身文では、その下位分類が異なる観点でなされた。しかしながら、この下位分類の非対称性は、日本語における受身文の特徴の表れであると考えられる。

有情主語の受身文は、直接対象に限らず、当該事態に関わるあらゆる有情者を主語に立てる受身文を発達させている。これに対し、非情一項受身文は、すべてのタイプが対応する能動文の直接対象が主語に立つ受身文である。非情一項受身文では、主語ではなく、その動作主とこれに連動したテンス・アスペクトが特徴的である。動作主を背景化するという機能により、様々な形で動作主を背景化させる受身文を発達させてきたのだと考えられる。

なお、意味・構造的なタイプのレベル別に見ると、有情有情受身文のタイプはすべて「第 2 レベルの意味・構造的なタイプ」であると考えられる。一方、非情一項受身文では、〈事態実現型〉のみが「第 2 レベルの意味・構造的なタイプ」であり、これ以外の〈I 存在型〉、〈I 習慣的社会活動型〉、〈I 超時的事態型〉はすべて「第 3 レベルの意味・構造的なタイプ」である。

このように、有情有情受身文と非情非情受身文では、その下位分類が異なる観点でなされたことになった。しかしながら、この下位分類の非対称性は、日本語における受身文の特徴の表れであると考えられる。すなわち、有情主語の受身文では直接対象に限らず、当該事態に関わるあらゆる有情者を主語に立てる受身文を発達させているのに対し、非情主語の受身文は、動作主を背景化するという機能により、様々な形で動作主を背景化させる受身文を発達させているのである。

次章からは、受身文の細かいサブタイプについて、その意味と構造的な特徴を示し、実際の用例を考察していく。

第3章 有情主語有情行為者受身文

本章では、受身文の主語も行為者も有情者である受身文を見ていく。本報告では、これを有情主語有情行為者受身文(有情有情受身文)と呼んでいる。この有情主語有情行為者受身文は、古代日本語から日本語の受身文体系の中に存在していたと考えられ、このタイプの受身文こそが、日本語の本来の受身文であるとする研究者も少なくない(山田 1908, 松下 1930, 金水 (1991), 1993, 尾上 1998-9 など)。

有情有情受身文については、志波(2005)ではこれを機能的な名づけから、〈被動者主役化受身文〉と呼んだ。有情有情受身文は、「主語に立つ有情者が与影者である動作主から何らかの動作ないし影響を身に受ける」という意味を表わす。この意味を「受影」と呼んでいる。また、有情有情受身文は、話し手が動作主ではなく被動者(対象)に共感し、被動者の立場に立って、被動者の視点から事態を述べるために用いられる受身文である。この「受影」の意味と被動者に共感を置くという機能は、密接に関連している。

有情有情受身文では、動作主の有情者は背景化されず、むしろ主語に立つ有情者に動作を及ぼした責任者として積極的に追及される存在であると考えられる。(Tsuboi 2000)。こうした有情有情受身文にとって、動作主は構造上義務的な要素になることが多い。動作主は、特に二格で標示される場合、主語に立つ有情者と対峙する「与影者」である。有情有情受身文は、主語に立つ有情者(対象)の「変化」よりも、この《被動者=受影者 vs. 動作主=与影者》という「関係」が捉えられている¹⁹と考えられる。ただし、有情有情受身文の中にも、「関係」よりも「変化」が積極的に捉えられていると考えられるタイプがあり、こうしたタイプでは、動作主が構造上必須の要素ではなくなる。

以下、この有情有情受身文について、そのサブタイプの構造的特徴及び他のタイプとの相互関係を詳細に記述していく。

1 AA 直接対象型 (AA 直接)

〈AA 直接対象型〉とは、主語に立つ有情者が、動作の直接対象として与影者である動作主から働きかけを受けることを表わす。AA 直接対象型には、大きく4つのタイプがある。変化動詞が要素となる AA 変化型と、無変化動詞が要素となる AA 動作型、認識動詞が要素となる AA 認識型、態度動詞が要素となる AA 態度型である。

なお、AA 変化型の要素である位置変化動詞と AA 動作型の要素である接触動詞は、本来、

¹⁹ この「関係」が捉えられているという着想は、村上(1986, 1997)から学んだ。

意志や感情といった人格を持った人に対する働きかけではなく、モノに対する物理的な働きかけを表わす動詞である。よって、主語に立つ有情者の身体部位が、この物理的な働きかけを受けるヲ格名詞句として受身文の中に現れることがある（「顔を水に入れられる」「肩をたたかれる」など）。しかし、身体部位がヲ格名詞句で表れるか否かで、大きな意味的な差異が認められないため、これらは同一のタイプのサブタイプとして位置づけた。

以下、それぞれのタイプについて、そのサブタイプを見ていく。

1.1 AA 変化型（AA 変化）

有情有情受身文の〈AA 変化型〉には、その構成要素となる動詞のカテゴリカルな意味によって、次の 5 つのサブタイプが存在する。

AA 位置変化型	「私は救急車で病院に運ばれた」
AA 随伴型	「私は父に学校へ連れて行かれた」
AA 生理的变化型	「和夫は実の兄に殺された」
AA 社会的変化型	「和夫は逮捕された」

先に述べたように、有情有情受身文は、主語に立つ有情者=被動者=受影者の「変化」よりも、《被動者=受影者 vs. 動作主=与影者》という関係が捉えられる受身文である。一方で、AA 変化型は、有情有情受身文であるにも関わらず、「関係」よりも、むしろ主語に立つ有情者（被動者）の「変化」が捉えられているタイプである。

まず、AA 位置変化型の要素となる位置変化動詞は、ほとんどが、本来非情物を対象にとる動詞で、AA 位置変化型では、被動者である有情者がモノ的に扱われることが多い。つまり、AA 位置変化型は、非情一項受身文の I 位置変化型に近いと考えられる。このことに関連してか、AA 位置変化型では、他のタイプに比べ、動作主が問題にならない（背景化されている）例もしばしば見られる。

次に、AA 社会的変化型は、有情者を社会的に変化させることを表わす動詞が要素となるため、動作主は、特定の個人ではなく社会的な組織であるのが普通である。このため、当該行為を行うのは当該の社会的組織であることが明らかであることが多く（「逮捕される」ならば「警察」が動作主であるなど）、この場合は、動作主が構造上必須の要素ではなくなる。このとき、《被動者=受影者 vs. 動作主=与影者》という個人と個人の関係よりも、主語に立つ有情者の変化が捉えられていると考えられるのである。

また、AA 生理的变化型でも、特に殺傷行為を表わす動詞による受身文（「殺される」や「傷つけられる」）では、当該の動作を行った動作主が不明である場合が少なくない。このとき、動作主である有情者は、不明であっても主語に立つ有情者に対峙する個人として想定されていると考えることもできる。しかしながら、無変化動詞である接触動詞による受身文と比べると、変化の側面が捉えられるためか、動作主の意味的な必要性が低くなるように思われる（例えば、「和夫がたたかれたよ」と聞くと「誰に？」と問いたくなるのに対し、「和夫が殺されたよ」と聞くと、むしろ「いつ、どこで」と聞き返したくなる）。姿勢の変化を表わす動詞（「立たされる」「座らされる」等）も、関係よりも変化が捉えられていると考えられる。

一方、意味的には AA 位置変化型に似ている AA 随伴型では、主語に立つ有情者の位置の変化が捉えられると同時に、当該の位置変化に付き添う動作主=与影者は構造上必須の要素で、両者の関係も捉えられていると考えられる。AA 変化型の中でも AA 随伴型は、少し異質なタイプである。

以下、AA 変化型の各サブタイプについて詳しく述べていく。

1.1.1 AA 位置変化型「私は救急車で病院に運ばれた」

〈AA 位置変化型〉は、有情者の主語が他者からの働きかけられによって何らかの位置的な変化を被ることを表わす。構造の特徴として、ニ格/へ格/マデの着点を表わす場所名詞句、もしくはカラ格の起点を表わす場所名詞句、もしくはこれら両方を補語としてとる。しかしながら、用例では着点の場所名詞補語をとる場合がほとんどであった。動詞は、多くが非情主語の受身文と両用の位置変化動詞が要素となる。

(1) AA 位置変化型

対象=受影者	起 点	着 点	／ 方 向	位 置 変 化 を 受 け る
AN・ガ _{SUB}	(場所 N・カラ _{MOD})	場所 N・ニ/へ/マデ _{COM}		位置変化 V・ラレル

「わたしは救急車で病院に運ばれた」

位置変化動詞：移される、入れられる、送られる、運ばれる、乗せられる、降ろされる、おさめられる、埋められる、泊められる、残される；閉じ込められる、押し込められる、投げ込まれる、助け出される、追い出される、追い立てられる、引っ張り出される、放り投げられる、放り出される、掘り出される、つり出される、担ぎ込まれる、連れ込まれる、取り残される、収容される、監禁される、留置される、撃墜される、etc.

上に述べたように、有情主語の受身文のみに現れる位置変化動詞はまれである。「出される、込められる」を後部要素とする複合動詞が多いが、この中で、「助ける、追う、連れる」など、有情者への働きかけを表わす動詞が前部要素となるものは、有情主語受身文のみの要素となるだろう。

以下、まず、単純動詞の用例から見ていく（波下線は場所名詞）。(5)の「おろされる」は、より動作性が強調されて場所がデ格で現れているが、これも AA 位置変化型と見なす。

- (2) 「[前略] ちよいと友軍の情況を偵察にきたので、営倉に入れられにまいったのではないんです。ハハハ」(ビルマの堅琴)
- (3) 「二人はさ、シベリアへ送られる途中で、仲間と列車から飛びおりて脱走してきたんだ。山こえて中国へ出て、そうして仲間のうちの何人かが死んでさ、それでやっと思逃げ還ってきたんだよ」(新橋烏森口)
- (4) 一般の弔問客は家に上ることを許されず、棺も見えない庭先に用意してある焼香台の前で合掌することになっていた。華岡直道は故人が最辰にした医者だということで奥へ通されていたが、その妻まで招じ上げる者は誰もいなかったし、それはこの場合当然のことである。(華岡青洲、地)
- (5) その日の夕方、アトリエで待っていると、迎えの自動車がやってきた。運転手にいわれるまゝのると、ホテルのまえでおろされた。(裸の王様、地)

次は、複合動詞の例である。ここでも、やはり動作主が問題にされていない例が多い。特に、「残される」「取り残される」という動詞は、動作主の意図性を含まず、具体的な有情者が意図的に当該行為を引き起こしたというよりも、主語に立つ有情者を取り巻く状況から当該自体が起こるという意味を表すことが多い。

- (6) 改めて見廻すと部屋はすっかり様相を変え、周りが家具でうずまっていた。この堅固な城の中で自分は殻をかぶったように一生閉じ込められて過すのであろうか、見詰めながらぎんは自分もはや抜き差しならない状態に追い込まれているのを知った。(花埋み、地)
- (7) 「戦争の終りに、脱走しようとして衛兵に撃たれたという話だった。解剖する筈だったのに、

終戦で取りやめになってね。俺はこの男が連れこまれた時のことを、よく覚えているよ」(死者の奢り)

- (8) ぼくのような人間の出生、生いたち、育ち、係累、家庭、といったものをのぞきこんでみると、こいつは、スサノオノミコトが投げこまれたという蛇だらけの穴みたいなもんだ。(聖少女)
- (9) 三和土の上に取残された加恵は、俄かに自分ひとりが除けものにされた思いに、しばらく茫然として佇んでいた。信じられなかった。これが待っていた夫の帰った日の出来事なのである。加恵は雲平の妻である筈だったのに、雲平は母と弟妹に取巻かれて妻の前は素通りして父親のところへ行ってしまった。(華岡青洲.地) ²⁰

なお、「出される」「追われる(追放される)」など起点の場所名詞を補語とする動詞が受身形になることで、新たに起点のヲ格と結びつく場合がある。

- (10) 「うちを出されると、もうその日から生活に困ってしまうだろう、昔の女は。だからそのままの足で、次の婚家先に行く女もあったって聞いているよ」(胡桃の家)
- (11) 「まったく覚えのねえぬれぎぬをきせられて、十年も勤めた店を追い出され、ひと言のいい訳もきいてもらえなかったのかとなった、[後略]」(さぶ)

AA 位置変化型の周辺と他のタイプ

〈AA 位置変化型〉を構成する動詞は、非情主語受身文と両用の動詞が多いということもあり、他の有情主語受身文に比べ、主語に立つ有情者の扱いがモノ的であると言える。有情者の意志や感情といった人格性よりも、物理的なモノとしての位置変化を問題にしていることが少なくない。奥田(1960)も、人の移動を表わすこの種の連語は、「物にたいするはたらきかけのカテゴリーをつかって、人にたいするはたらきかけを表現しているといった方がいいかもしれない」(p.188)と述べている。次の例は、**主語が特定の個人でない**ということもあり、特にモノ扱的だと言える。つまり、人が主語に立っていても、AA 位置変化型はモノが主語に立つI位置変化型に体系上隣接しているのだろう。

- (12) [自分は] 此所らで誰にも知られず死んで行って、墓も何もなく土の中に埋められて、それでもやっぱり生きがいのある生命を生きたような気がした。(草の花)
- (13) 「この神殿に胸像としておさめられた人」はみな神になる。つまり、ルードヴィッヒが神にしてくれるわけです。[後略]」(ドナウ)
- (14) いつどんな怪我人や悪患者が担ぎこまれてくるか分からないが、血を見ても膿を見ても驚くようでは医者妻は勤まらない。(華岡青洲.地)
- (15) [アトラクションの説明] タイムマシンのデロリアンに乗り込んだ客は、氷河、雪崩、噴火口などに次々と送り込まれる。(毎日)

一方で、AA 位置変化型はI位置変化型と異なり、移動の目的を示す動作性の二格名詞と共起することができる(奥田 1968-72:49)。

- (1) 次の日は雨で、工事は休みになり、もっこ部屋の人足たちの半数が、矢来の修理に出された。(さぶ.地) ²¹

また、奥田(1968-72:56)も指摘するように、AA 位置変化型は、場所名詞が単なる空間ではなく社会的組織を表わす名詞になると容易にAA 社会的変化型へ移行する。

²⁰ 「取り残される」という動詞は、「取り残す」という他動詞の形ではほとんど用いられない動詞である。

²¹ 次の例における「相手に」は動作性の名詞ではないが、移動の目的を表すものと言える。

・「そうですね。大阪で韓国のなんとかという人とやる時に、スパーリングの相手に狩り出されたんです」(一瞬の夏)

- (2) 三年前、行動は修一郎を刺して少年院に送られた、ということになっておりますが、真実は別のところにあると思います。(冬の旅)
- (3) 三年も収容所に入れられていたから、帰ってくるのが遅くてね。私もひょっとしたら死んでいるかと思ってた。(玉呑み人形)
- (4) この年で、妻子をかかえ、あの天国のような刑務所からほうりだされたのでは、もう一家心中か強盗でもするほかはありません。(ブンとフン)

このような違いがあるとしても、AA 位置変化型は I 位置変化型にかなり近いと思われる。他の有情主語受身文に比べ、動作主の明示が義務的でないことも両者の意味的な近さの現れであると考えられる。着点場所の二格補語をとるということもあり、動作主が二格で現れた例は次の 2 例のみであった。

- (5) 「君、こんな小さな奴にこう下からとびこまれるとね、へなへなとなるんだ、腰がねえ。この前は痩せこけた真砂石なんぞに吊り出された。[後略]」(楡家.地)
- (6) 「五分ぐらいで、秘書に追い立てられたわ。もう、お金も気取りもどっさり使って……」(女友だち) 22

AA 位置変化型は、動作主が人格を持った有情者とともに移動することを表わす AA 随伴型とも近い。「連れられていく／連れられてくる」という動詞は、主語に有情者のみが立つので、これは明確に〈AA 随伴型〉であると言える。しかし、「背負われてくる」になると、随伴ではあるもののかなりモノ扱い的になり、「担がれてくる」ではほとんどモノ扱いである。

- (7) ぼくが原島久三に連れられて初めてこの印刷会社にきたときも、横内兄はところどころで何か意味不明の悪態をつきながら、[後略] (新橋烏森口.地)
- (8) 「いったいどうしたっていうの、十五日の日に酔っぱらって、また来ると云って出てったつきり、からっ風に飛ばされた枯葉みたいに音沙汰なし、そのあげくさぶちゃんに背負われて来るなんて、あんまりだらしがないじゃないの、しっかりしてよ」(さぶ)
- (9) 裸足の女や、子供をおぶった男たちが多く、なかには目を閉じてかつがれてくるものもあった。(風に吹かれて.地)

特に「置かれる、追い込まれる、立たされる」などの動詞において、場所名詞ではなく、「立場、状態、状況、境遇」などの状況名詞が立つと、有情非情受身文の〈AI 陥る型〉へ移行する。

- (10) 「銀行に立てこもった犯人と人質の女性が親密な気持ちを抱くようになる……狭い空間で、非日常的な状況に置かれてると、それを愛だと勘違いしてしまうの」(砂の上の恋人たち)
- (11) この堅固な城の中で自分は殻をかぶったように一生閉じ込められて過すのであろうか、見詰めながら自分は自分がもはや抜き差しならない状態に追い込まれているのを知った。(花埋み.地)

1.1.2 AA 随伴型「私は友だちにその店に連れて行かれた」

〈AA 随伴型〉は、主語に立つ有情者が与影者である動作主の同伴する空間的な位置変化を受けることを表わす。随伴を表わす代表的な動詞は「連れる」だが、この動詞は単独で用いられることはなく、必ず「連れて 移動 V」という複合動詞で用いられる、この「連れて 移動 V」は、「運ぶ」という動詞が対象を非情物に特化した位置変化を表わすのに対し、人格を持った有情者を対象として位置変化させることを表わしている。よって、AA 随伴型では AA 位置変化型と異なり、主語に立つ有情者がまぎれもなく有情者として扱われており、ここには主語と動

22 この例は、〈被接近型〉にも近いかもしれない。

作主の《有情者 vs. 有情者》という関係が述べられている²³。

(12) AA 随伴型

対象=受影者	動作主	着点	方向	伴われて移動する
AN・ガ _{SUB}	AN・ニ _{COM}	場所	N・ニ/へ/マデ _{COM}	随伴 V・ラレル

「わたしは友だちにその店に連れて行かれた」

随伴動詞：連れられる、連れて行かれる、連れて来られる、連れ戻される、連れ込まれる、連行される、導かれる、引率される、率いられる、さらわれる、引いていかれる、送られる、引き回される、拉致される、伴われる、案内される；付き添われる²⁴, etc.

特に「連れられる」「付き添われる」は単独で用いられることはなく、必ず移動動詞を後続させる「[AN₁・ガ AN₂・ニ 随伴 V・ラレテ 場所 N・ニ/へ/マデ 移動 V]」という外部構造をとる。これ以外の動詞でも、AA 随伴型はこの外部構造で用いられることが多い。

(13) 刑事さんも、もう、知っていられっやうでしょうが、僕は、九歳のとき、再婚する母につれられて、いまの宇野家にきました。(冬の旅)

(14) 「あなたったら、方向オンチなんだから。どこへつれていかれるか、わかりやしないわ。」(團楽)

(15) 「じゃあ、私が駅で見た長瀬さんは、若い連中にタクシーに連れ込まれて、どこへ行ってしまったんでしょうな。[後略]」(ドナウ)

(16) 「おら、あのことは一生忘れねえが、連れ戻される途中ずっと一つことを考えてた、おら、このままだときっと、栄ちゃんの厄介者になるだろうって、いつも栄ちゃんに面倒をかけて困らせるこったろうってな」(さぶ)

(17) 京子と会う日を定め、京子に送られて酒場の扉を押した。(植物群.地)

(18) ということで、山本に導かれて一行が、逸見の波止場の門を通ると、其処から先は、全く海軍一色の世界で、空気が少し変って来る。(山本五十六.地)

(19) ぎんがかよに付き添われ東京下谷の順天堂医院へ入院したのはその年、明治三年の暮もおし迫った十二月の半ばであった。(花埋み.地)

AA 随伴型の周辺と他のタイプ

連れて行かれる場所が単なる場所ではなく、社会的な意味を持つ場所(組織)である場合は、AA 社会的変化型へ移行する。この場合、動作主が何らかの組織や専門家集団であることが読み取れるので、動作主の明示は義務的ではなくなる。

(20) 栄二は駕籠にのせられて、北町奉行所へ連れてゆかれ、仮牢へ入れられた。(さぶ.地)

「案内する」は「[AN₂・ガ AN₁・ヲ 場所 N ニ/へ 案内スル]」のほか、「[AN₂・ガ AN₁・ニ 具体 N・ヲ 案内スル]」という構造もとる。前者の能動文に対応する受身文は AA 随伴型であるが、後者は「見せる」のような意味であり、これに対応する能動文は AA 相手への提示型(AA 認識)である。

(21) 教えられていた番号の部屋のドア・ホンを鳴らすと、若い女が出てきた。このマンションの一

²³ 村上 1997 でもこの同伴的な移動について、接触動作と同様、「客体の変化は問題とせずに、具体的な動作をめぐっての主体と客体との人間関係が客体のたちばからのべられる」(p118)としている。そして、「人間と人間との位置関係や接触の関係が表現されるため、動作主体である人間の明示は原則として義務的になる」とも述べている。

²⁴ 「付き添われる」のみ他の動詞と異なり、「AN₂・ガ AN₁・ニ ツキシウ」という、受身文の主語が二格で現れる能動文と対立している。

部にメイド・ルームというのがあり、そこに住まわせてもらっている香川家の女中である、ということが、奥の部屋まで案内されている間に彼女の心から読み取ることができた。(エディプス.地)〈AA 随伴型〉

- (22) a. わたしは、彼の弟に京都を案内された。〈AA 相への手提示型〉
 b. わたしは、彼の弟に化粧品を案内された。〈AA 相手への提示型〉

また、「案内される」は「通される」に似て、誰に随伴されるのが問題にならない場合がある。このように動作主が問題にならない受身文は、「関係」というより「変化」が前面に押し出されていると考えられ、AA 位置変化型に移行していると見なす²⁵。

- (23) エレベーターで昇ると、全面がガラス張りの休憩所に案内された。眼下には東京の風景がいっぱいに広がっている。そこでディレクターを待っているあいだ、内藤はガラスに額をつけ、幼児のような熱心さでその風景を眺めていた。(一瞬の夏.地)

1.1.3 AA 生理的变化型「和夫は兄に殺された」

〈AA 生理的变化型〉は、主語に立つ有情者が、与影者である動作主に身体の生理的な変化を引き起こされることを表わす。AA 生理的变化型は、後で述べる有情非情受身文の〈AI 心理・生理的状态型〉に比べて働きかけられがより外的であり、物理的である。ここには、殺傷行為を受けるものと姿勢の変化を引き起こされるものがある。また、AA 生理的变化型の表わす事態は、基本的には有情者の動作主によって引き起こされるもので、個別具体的な変化を表わす出来事である点でも AI 心理・生理的状态型とは異なっている。

(24) AA 生理的变化型

対象=受影者 AN・ガ SUB	動作主 AN・二 COM	生理的／心理的変化 V／姿勢変化 V・ラレル
--------------------	-----------------	------------------------

「和夫は兄に殺された」「和夫は先生に立たされた」

a. 殺傷動詞

殺される、虐殺される、暗殺される、しめあげられる、傷つけられる、食べられる、食われる、解剖される、強姦される、怪我をさせられる、(身を)切られる、etc.

b. 姿勢変化動詞

起こされる、抱き起こされる、突き倒される、ひっくり返される；裸にされる；(足を)開かされる、(足を)すくわれる、(手を)縛られる；ゆられる、etc.

用例を見ていこう。動作主は基本的に有情者であると述べたが、殺傷行為を受けるタイプでは、動作主が誰であるのか不明である場合も少なくない。

- (25) 育ての親に仕込まれて幼くしてホモになったんだけど、彼が 17 の時その親はレズの人に殺されてしまう。(1000 マイル)
 (26) 茶店の女がちゃんと覚えていたんだ。殺された女の人は学生さんと二人連れでしたと、はっきり言っているんだ。女が殺されたのはそれから三十分乃至四十分。(青春の蹉跌)
 (27) 「ぼくは君よりももっと蚤に喰われ易いんだ」(楡家)
 (28) 余吾「先日甲田豊太郎と戦って、あいつはしたたか叩きのめされ、大きな瘤を作ったそうだ

²⁵ 「案内される」において動作主が問題になるかならないかということが、どのような構造的特徴(形式)によっているのかは未だよく分からない。

- が、その『たそがれ清兵衛』とはお主のことか」（たそがれ清兵衛）
- (29) 「いやあ、どうにもなりやあしねえさ。しょっちゅう負けて、しょっちゅう引っ繰り返されて……自分で自分が厭になるね、まったく」（一瞬の夏）
- (30) 「禪寺では鮎太は朝は六時に起された。（あすなろ、地）

「状態名詞・二 される」という形式も、AA 生理的変化型を表わす。

- (31) 「前略」そこでぼくはLにとびかかると、兵隊が蛮地の女を強姦するような手口でLを襲った。するとLは妙なしかたでふざけ半分の抵抗をしながら裸にされていったけれど、これがぼくの儀式に荷担する意志をあらわすものだとすることはぼくにもすぐわかった。（聖少女）
- (32) 「女だから病気をうつされても、子供を産めない体にされても我慢せよというのですか。熱があっても起きてお姑さんに仕え、夫の機嫌をとれというのですか」（花埋み）
- (33) 「前略」それを聞いて頼央さんはよけいがかつとする。村の若い連中を相手に喧嘩して袋叩きにされたことも二、三度あったようだね」（エディプス）

AA 生理的変化型と他のタイプ

「育てられる、しつけられる、飼われる」など、生き物に対する働きかけを表わす動詞は、AA 生理的変化型の周辺に位置づけた。

- (34) 「きちんとした家のお生れで、厳しくしつけられた方だから、私達にも厳しいのです。でも本当の心根はやさしい方です。[後略]」（花埋み）²⁶
- (35) 「この娘さんはねえ、百合子さんって言って、前のうちで育てられたんだけど、そりゃ、頭のいい人でね。帝大付属病院の看護婦になったんだよ。[後略]」（胡桃の家）

次の例は、意味的に生理的な変化を引き起こされることが表わされているが、構造としてはAA 所有変化型である。しかし、ヲ格名詞句に「病気・疾患」を表わす名詞が立つこのような例は、AA 生理的変化型に移行しているものと見なした。

- (36) 「私は夫に膿淋をうつされて離縁した女よ。その病気を治したくて医者になろうと思ったのよ」（花埋み）

〈AA 生理的変化型〉でも、行為者が非情物の場合があるが、有情非情受身文のAI 心理・生理的状态型に比べ、主語に立つ有情者に対して外的であり動的である。

- (37) 「え、もう帰るの。飯食うぐらいいいじゃない、俺この騒動で起こされて、朝からコーヒー一杯だけだぜ」（帰れぬ人々）

1.1.4 AA 社会的変化型「和夫は逮捕された」

〈AA 社会的変化型〉は、主語に立つ有情者が、動作主の社会的権力の行使により、その社会的な立場（職業、社会的レベル、人間関係等）に変化を被ることを表わす。このAA 社会的変化型には、次の4つのタイプを立てた。基本構造としてAA 社会的状態変化型、そのほか、AA 社会的地位変化型、AA 社会的位置変化型、AA 勝敗決着型である。

まず、基本構造であるAA 社会的状態変化型には〈社会的な状態変化〉を表わす連語が要素となる。次の、下位構造bのAA 社会的地位変化型は、社会的地位を表わすニ格やト格の補語を伴った選択・指定を表わす動詞で構成される。下位構造cのAA 社会的位置変化型は、位置変化動詞を要素とし、社会性を帯びた場所へ移動させられることを表わす。最後の下位構造d

²⁶ ただし、この例は〈I 特徴規定型〉にも近いだろう。

であるが、これは他の3タイプと少し性格を異にしている、「勝敗」に関わる人間関係に決着がつくことが表わされる。それぞれの構造は次のようになる。

(38) AA 社会的変化型

AA 社会的状態変化型

対象=受影者	社会的状態変化を被る
AN-ガ	SUB 社会的状態変化 V-ラレル

 【組織/専門家行為者】

「和夫は退学させられた」

社会的状態変化動詞²⁷：雇われる、雇用される、解任される、入社させられる、(職を)辞めさせられる、(任を)解かれる、免職させられる、退学させられる、逮捕される、釈放される、解放される、追放される、勘当される、離縁される、落籍される；兵隊にとられる、etc.

b : AA 社会的地位変化型

対象=受影者	社会的地位
AN-ガ	地位N-ニ/ト/シテ 選択・指定 V-ラレル

「山田氏が委員長に選ばれた」

選択・指定動詞：選ばれる、抜擢される、採用される、選出される、再選される、直される、指名される、登用される、再任される、認められる、承認される、追加される、etc.

c : AA 社会的場所変化型

対象=受影者	社会的場所
AN-ガ	場所N-ニ 位置変化 V-ラレル

「和夫は刑務所に入れられた」

d : AA 勝敗決着型

対象=受影者	動作主
AN-ガ	AN-ニ 勝敗 V-ラレル

 【個別有情行為者】

「和夫は良子に負かされた」

勝敗動詞：勝たされる、負かされる、言い負かされる、打ち負かされる、抜かれる、追い抜かれる、出し抜かれる、一本とられる；減点される etc.

社会的状態変化動詞の動作主は、原則的に社会的な組織や団体、もしくは専門家集団である。一部、「勘当される」や「離縁される」などは、個人の有情者が動作主であるが、これも親子や夫婦関係という最小の社会的単位における社会的権力の行使である。

以下で用例を確認していく。

1.1.4.1 AA 社会的状態変化型

AA 社会的状態変化型には以下のような例がある。

- (39) しかし、対英非協力運動はしだいに暴力化してきた。都市でも農村でも暴力行為が相つぎ、非暴力を説くガンディー自身が逮捕されて、六年の懲役に処せられた。服役後二年、彼は病気のゆえに釈放され、数年間政治から離れていたが、実はこのときまでに、インド民族主義運動は後退していたのである。(二十世紀)
- (40) [エリツィン氏は] モスクワ政界に進出後、ゴルバチョフ批判を展開し87年11月、党要職から解任された。(毎日)
- (41) 娘の京子も、同じ土地で芸者に出ていたが、四年ほど前に落籍されて、小金井の方に囲われたという。(植物群)
- (42) 「そんなこと言ってる場合じゃなからう。え。退学させられるかもしれないんだよ」(エディブス)

次のように、慣用的な補語との組み合わせ全体がAA社会的状態変化を表わすこともある。

²⁷ 奥田(1968-72)は、「あわせる、あらそわせる、したがわせる、とつがせる」などの、自動詞の使役形を「社会的な状態変化」を表わす動詞に挙げているが、本報告ではこれらの受身形は〈AA強制使役型〉に分類した。

- (43) 「そやかて、いづれ兵隊にとられて、戦死せんならんかもわからへん」(金閣寺)²⁸
- (44) 「[前略] このまえだったかな、おまえさんが押籠めを解かれた祝いにみんなで酒盛りをしたとき、一生この島でくらすと云った者が幾人かあった、覚えてるでしょう」(さぶ)
- (45) 「[姉]は好きな人と心中したんです。好きな人があるのに身を売られようとして」(さぶ)

1.1.4.2 AA 社会的地位変化型

AA 社会的地位変化型は、「意義」を表わす二格やト格の補語が、特に「社会的地位」を表わす名詞である場合に、AA 社会的地位変化型へ移行したものと考えられる。このタイプは、「社会的地位・ト／ニ なる」とも言い表せる(波下線は社会的地位)。

- (46) 大統領代行に指名されたブーチン首相については、「エリツィン路線を引き継ぐと言っており、対日政策が大きく変わることはない」(幹部)という見方が多い。(毎日)
- (47) そのあいだに三月となり、才次の代りに久七という、中年者が小頭に直された。(さぶ.地)
- (48) 「吹き替えといっても、ピカリングを招いて大々的なオーディションをやるぞ。そしてその役に選ばれればなんと『日本一の脚線美』の称号が与えられる! [後略]」(1000 マイル)
- (49) 「おばあちゃんは一生可哀そうだったのよ。お婆さんにさせられ、可哀そうだったと思わない? [後略]」(あすなろ)
- (50) AP 通信によると、世界最高齢者としてギネスブックに認定されたサラ・クナウスさんが30日、老衰のため、米ペンシルベニア州アレントウンの老人ホームで死去した。(毎日)

次の例は位置変化動詞が要素になっているが、二格補語に社会的地位が想定できるので「社会的地位変化」と言えるだろう。

- (51) 一般種目は4～5月に国内各地で開かれる春季サーキットの結果などから6月にほとんどの代表が決まり、7月に数人が代表に追加される。(毎日)

1.1.4.3 AA 社会的地位変化型

AA 社会的地位変化型は、位置変化動詞で構成されることからわかるように、AA 位置変化型から派生したタイプである。「場所」を表わす二格やカラ格の補語が社会性を帯びた場所(組織)である場合に、AA 社会的地位変化型に移行したのである(波下線は社会的な場所)。

- (52) 「しかし、牢屋にいられる事だけが罪じゃないんだ。[後略]」(人間失格)
- (53) 近い将来、所長をクビになって強盗をし、つかまって刑務所に叩きこまれたときの用意のためにね。(ブンとフン)
- (54) むしろ加恵は今日からその家系に織込まれた自分の立場に、戦っていた。(華岡青洲.地)
- (55) 俺達はどうせ中隊からおっぼり出されたんだから、無理に戦争するこたあねえわけだ。(野火)

次のように、社会的状況や立場を表わす抽象名詞が二格に現れる場合でも、AA 社会的地位変化型と考えられる。

- (56) 彼は突然新しい環境に投げ入れられ、新しい出発をした気持ちになっていた。昂奮し、昂揚した気分であつたため、花田光太郎の誘いをこたわらずに受けたのだ。(植物群.地)

AA 社会的地位変化型は、ほとんどが位置変化動詞で構成されるが、「動員される」「派遣される」など、もっぱら「社会的地位変化」を表わす動詞も要素となる。

- (57) 「君らはどこの工場へ動員されているのかね?」(楡家)

²⁸ この例は、構造的には〈I 意義づけ型〉に近いだろう。

1.1.4.4 AA 勝敗決着型

AA 勝敗決着型は、どこに位置づけるべきか未だ検討の余地があるが、「勝敗」に関わる人間関係に決着がつくことが表わされるので、暫定的に AA 社会的変化型のサブタイプとしておく。

- (58) ある日、口論で私に負かされた鍛冶屋の子が多勢の前であきらかにした。(恥の譜.地)
(59) 「[前略]あのラウンドにあんなことをしなければ、減点されなくなくて勝ったんだけど、何しろ、見たかこの野郎、だもんな」(一瞬の夏)
(60) 「負けましたよ、課長。みごとに一本とられました……」(パニック)

次の「KO される」は、姿勢の変化を表すと見れば、AA 生理的变化型であるが、勝敗に決着がつくという意味を重視して、AA 勝敗決着型に位置づけた。

- (61) 「佐々木、駄目ね。一回にとってもいいチャンスあったの。そこでバンバンと行けばよかったよ。行きなさい。でも、待ったね。待ったらKO されたよ」(一瞬の夏)

次の例は、AA 接近的態度型(AA 態度)を表わす動詞が用いられているが、実際に「抜かれる」という物理的動作があるわけではないので、AA 勝敗決着型に移行していると見なした。

- (62) 実際、その月、鮎太は法隆寺の壁画保存問題の記事で、大きく左山町介に抜かれた。(あすなろ.地)
(63) 「[前略]目的のない行為、進歩のない努力、どこにも辿りつかない歩行、素晴らしいとは思わんかね。誰も傷つかないし、誰も傷つけない。誰も追い越さないし、誰にも追い抜かれない。勝利もなく、敗北もない」(エディプス)

AA 社会的変化型の周辺と他のタイプ

先にも述べたように、AA 社会的地位変化型は、「意義」を表わす二格やト格の補語が社会性を帯びたタイプである。よって、「意義」を表わす二格やト格を伴う AA 評価動作的態度型(AA 態度)と常に移行し合う関係になる。

- (64) 和夫はみんなの{目標／手本／目の敵}にされた。〈AA 評価動作的態度型〉
(65) 和夫は山田氏の養子にされた。〈AA 社会的地位変化型〉

また、位置変化動詞が要素となる AA 社会的位置変化型でも、やはり「場所」を表わす二格やカラ格の補語が社会性を帯びるか否かで AA 位置変化型(AA 変化)と常に移行し合う。構造的な特徴を見ても、AA 位置変化型と AA 社会的位置変化型には共通点が多い。次のように、AA 社会的位置変化型でも、社会的な移動の目的を示す動作性の二格名詞と共起することがある(波下線は社会的な移動の目的)。

- (66) うちは小さいとき奉公にだされたんや。(雁の寺)
(67) といっても雲平の次弟は松本家の縁故で商家へ見習に出していたし、その下の弟は仏門に入ったばかりで、婚礼の席に連なっていたのは加恵と同年の於勝と小陸以下妹二人と、当年三歳になる幼い良平の五人である。(華岡青洲.地)

さらに、AA 位置変化型でも、「出される、追われる」などが受身形になることで新たに場所を表わすヲ格名詞と結びついた例を見たが、AA 社会的変化型でも社会的場所や職務を表わすヲ格名詞と共起している例が見られる。

- (68) [父]は「なんだかよくは知りませんが、若いころ、紺屋の長男のくせになまじ学問を齧ったりして、それがもともと栃木の家を勘当されたんですって」。(忍ぶ川)
(69) 「[前略]ところが今朝になって急に、もうおめえはいかなくともいい、って親方から仕事を外されちまいました」(さぶ)

1.2 AA 動作型（AA 無変化）

〈AA 動作型〉とは、接触動詞に代表される無変化動詞を要素とする受身文で、主語に立つ有情者が、与影者である動作主から何らかの物理的な動作を受けることを表わすタイプである。AA 動作型には、次の 2 つのサブタイプがある。

- AA 接触型 「私は和夫に（頭を）たたかれた」
- AA 催促型 「私は和夫にそそのかされて、その本を買った」
- AA 強制使役型 「私は和夫に遅くまで働かされた」

通常は、動作主が意志を持って対象に働きかける場合、対象に何らかの変化を引き起こす。つまり、対象への働きかけは、普通、その対象を変化させることを前提としている。しかしながら、ある種他動詞では、対象の変化をその語彙的な意味に含んでいない。こうした無変化動詞の代表が接触動詞である。接触動詞は、他動詞でありながら、対象を変化させる過程のうちの、接触の段階だけを表わすという特殊な動詞である。よって、物であれ人であれ、対象に対する働きかけを表わす他動詞のなかで、無変化動詞の他動詞文の生産性は、変化動詞に比べ非常に乏しいと言え、それゆえ、頻度も低いと考えられる。

一方、接触の動作を受ける対象が主語に立った受身文の場合はどうであろうか。受身文の場合、有情者が主語に立つか、非情物が主語に立つかで、異なった特徴を見せる。本報告では、非情物の対象が主語に立ち、接触動詞が要素となった受身文は〈I 無変化型〉としたが、この I 無変化型の頻度は非常に低かった。これは、おそらく能動文と平行した現象であろう。一方で、有情者が主語に立つ接触動詞の受身文である AA 接触型（AA 無変化）の頻度は、特に会話文テキストにおいて、かなり高くなっている。すなわち、接触動詞の受身文は、主語の有情・非情の別によって、異なる特徴を見せている。

さて、次の AA 催促型であるが、これは、奥田（1968・72）で〈よびかけのむすびつき〉とされた連語を構成要素とする。〈よびかけのむすびつき〉は、〈ふれあいのむすびつき〉が〈物にたいするはたらきかけ〉における無変化のはたらきかけであるのに対し、〈人にたいするはたらきかけ〉における無変化のはたらきかけのタイプとして立てられている。

以下、AA 動作型のサブタイプである AA 接触型と AA 催促型について、用例を見ながらその構造と意味及び相互移行関係を考察していく。

1.2.1 AA 接触型「私は父親にたたかれた」

〈AA 接触型〉は、主語に立つ有情者が与影者である動作主から接触の働きかけを受けることを表わす。AA 接触型を構成する接触動詞は無変化動詞である。つまり、対象に物理的に働きかけるものの、その対象の変化には無関心な動詞である。しかし、対象に働きかけて、それに何の変化も引き起こさないのであれば、働きかける意味がない。このため、「有情者-ヲ 接触 V-スル」という連語は、何らかの変化を引き起こすための手段としての動作となるか、動作主の対象に対する感情=評価的な態度（愛情、憎悪など）を示す手段（様態）となることがほとんどである。

(70) AA 接触型

対象=受影者	動作主		接触動作を受ける
AN・ガ SUB	AN・ニ COM	（身体部位 N・ヲ）	接触 V・ラレル

「わたしは父親に（頭を）たたかれた」

接触動詞：抱かれる，なでられる，さすられる，いじられる，たたかれる，殴られる，ぶたれ

る、押される、押さえられる、突かれる、小突かれる、突き飛ばされる、つかまれる、握られる、支えられる、跳ねられる、蹴られる、噛まれる、吸われる、つつつかれる、ひっぱられる、押さえつけられる、踏みつけられる、からみつかれる、絞められる、刺される；触られる、追突される、もぐりこまれる、手をあげられる、etc.

上にあげた接触動詞のうち、「触れられる、追突される」などは、対応する能動文で主語に立つ有情者が二格名詞句として現れるものである。しかし、働きかけられは直接的であり、同じAA接触型に含めていいものとする。接触動詞は、単なる接触よりも、動作主＝与影者の攻撃性を含んだものが多い。用例を見ると、動作の攻撃性とも関わって、主語に立つ有情者の痛みや不快感を表わす外部構造で用いられることが多い。

- (71) するとね、父親に抱かれて頬ずりされたとき、頬っぺたがチクチク痛かったようなことがあったようだ、ということ思い出したんだ。(樹々は緑か)
- (72) 「おめえに殴られると痛いからな。俺は宇野の兄貴という野郎に同情するよ」(冬の旅)
- (73) 「[前略]うちのおかあさんにも連絡したから、私、おかあさんにすごくぶたれちゃったわ。私、自分の娘も信じられないのかって、ワンワン泣いちゃった」(女友だち)
- (74) 「[前略]それがきょうはどうしたことかしら、鳥のくちばしでつつかれてるみたいに痛くて、めまいや嘔きけまでして……でもおかげさまで、もうすっきりいいわ」(聖少女)
- (75) 「アメリカでは、プロレスの悪役のことを、ヒールというんだそうだ」／【中略】「[悪役は]いつでも、正義の味方に蹴っとばされて、踏んづけられているからじゃないの」(一瞬の夏)
- (76) 「ひとみは、辻谷黎子の運転するバギーに跳ねられて死んだんだ」(砂の上の恋人たち)

AA接触型では、主語に立つ有情者＝受影者の所有物、特に身体部位がヲ格または二格の直接対象として現れることがある。こうしたヲ格や二格の直接対象は、全体である受影者の接触している部分を限定している。ここには、「接触を受ける」ということに関して意味的に大きな違いがないので、AA接触型(AA直接対象型)の下位構造として扱う。

- (77) 「ひとかどの武将たる者が、茶坊主に頭を叩かれたのだ」と伯翁は威嚇するように、眼を睨いて座の左右を睨みまわした、[後略](さぶ)
- (78) 絡船が出るまでには四十分の間があったが、船までの長いホームを旅客がいい席を取るため、気持ちがよいように競走していた。三原は背中を何度もこづかれた。(点と線)
- (79) そのとき、利兵衛は刑事に右手首をつかまれ、この野郎なぐってやろうか、と思ったとき、手錠がかかった。しまった！と思ったときはすでにおそかった。(冬の旅)
- (80) 胸を射たれて、道端まで匍い出して、虫の息の若い兵隊を見つけた。(野火)
- (81) 下役の岡村が手拭を湯に浸して、栄二の顔や手足を拭き、裂けた唇や傷のできているところには、膏薬を塗ってくれた。傷にさわられるときだけ、栄二の顔は痛そうにしかめられたが、[後略](さぶ、地)

AA接触型の周辺と他のタイプ

主に「押される」や「打たれる」といった動詞が、人やモノの属性・性質を表わす抽象名詞や主語の内面の心理状態を表わす抽象名詞を二格にとった場合、(AI心理・生理的状态型(AI状態))へ移行する。

- (82) 私は崔の勢いに押され、仕方がないと返事をしそうになったが、危ういところで踏みとどまった。(一瞬の夏、地)
- (83) さらに大田夫人の良妻賢母ぶりにうたれたのは、ぼくが太郎の過去を発掘したいきさつを打明けたときであった。(裸の王様、地)
- (84) 僕はそういう話を聞きながら、ぼんやりとした悲しみに打たれていた。(草の花、地)

AA 接触型は、二格に有情者ではなく現象名詞が立つと、〈II 現象受身型〉へ移行する。

(85) 加藤は雨の中で野宿したときのことや、みぞれに打たれながら一晩中、歩きつづけたことなど思い出していた。(孤高の人.地)

(86) 曲目が終り、アンコールも終った。僕がホールの中から人波に押されて出て来ると、明るい廊下に、菅とし子が少し顔色を蒼ざめさせて、僕を待って立っていた。(草の花.地)

この〈II 現象受身型〉は、主語が有情者でも非情物でもあまり意味の変わらない受身文タイプであるため、次のような非情主語の受身文も同様の〈II 現象受身型〉である。こうした受身文にも、二格の相手=動作主から接触のはたらきかけを受けるという意味が残っている。よって、非情主語の接触動詞による II 現象受身型は、非情主語一項受身文である I 無変化型ではなく、この AA 接触型から派生したのではないかと考えられる。

(87) 昔どおりの小舎だ。わずかな砂洲の端に建てられたそれは、床几が一つ置いてあるきりで、雨に叩かれて木目が出ていた。(越前竹人形.地)

(88) 丘の頂上の草は、水の流れに押されて、靡いていた。そして火は頂上を取り巻く低く黒い林に向って、追われるように、逃げて行った。(野火.地)

なお、この種の接触動詞による II 現象受身型 (II 現象) は、対応する能動文で述べることはできないが、可能であっても不自然な表現になる。つまり、AA 接触型から II 現象受身型への移行関係は、受身文の体系に特有のものと考えられる。

また、「打つ」や「押す」などの動詞は、着点の二格と共起することで位置変化動詞に移行することがある。そうした位置変化動詞としての接触動詞を要素とした次の受身文は、「AN₁-ガ AN₂-ニ 具体 N-ヲ 位置変化 V-ラレル」という構造の〈AA 相手への動作型 (AA 相手)〉である。

(89) いまに、ここから出ても、自分はやっぱり狂人、いや、癡人という刻印を額に打たれる事でしょう。(人間失格.地)

(90) 個室を出る時に、既に一回目の麻酔を打たれていたから、少しうつらうつらしているようだった。(草の花.地)

その他、個別的な動詞の移行であるが、「押される」という動詞は、「推薦される」という、抽象的な態度の意味を持つ。このときは、社会的地位を表わす二格名詞句(「区議会議員に」など)と共起する。これは〈AA 評価動作的態度型 (AA 態度)〉へ移行している。

(91) 彼は、上司におされて、区議会議員選挙に立候補した。

また、「たたかれる」という動詞も、「批判される」という抽象的な態度の意味を持つ。「批判される」という動詞は表現的態度動詞なので、これは〈AA 表現的態度型 (AA 態度)〉へ移行している。他の表現的態度動詞と同様に、被動者の抽象的な属性がヲ格名詞句に現れることもある(「過去の失敗を叩かれる」)。「悪口を／陰口をたたかれる」のように、言語活動の内容規定的なヲ格名詞句と共起することもある。また、「本部／新聞にたたかれる」といったように、組織・団体などの個別具体性の低い有情者が動作主になることができる。次の例では、動作主がカラ格で標示されている。通常の接触動詞としての「叩かれる」では、動作主がカラ格で標示されることは少ないが、これは表現的態度動詞に移行していることの表れだろう

(92) 出馬表明から1カ月足らず。他陣営からは「中央官僚出身」であることをたたかれ、「落下傘候補」などの批判を受けた。(毎日 02, 07)

「触れる」という動詞も多義語だが、受身文の使用としては、接触を表わす動作以外に、「言

い及ぶ」という意味での使用も認められる。これは、AA 相手への発話型 (AA 相手) である。このとき、被動者の抽象的な属性が二格の対象に表れる。

(93) ぼくは、自分の過去には触れられたくない。

次の例は、まだ臨時的な比喩的使用であるが、やはり態度的な動作の表現として接触動詞が用いられている。これは、AA 評価動作的態度型 (AA 態度) に分類した。

(94) 「前の課長も君の企画を会議に出すことは出したいがね、山持ちの県会議員に一蹴されたいよ。これは局長も文句をいえやしない。[後略]」(パニック)

1.2.2 AA 催促型「私は友達にそそのかされてそれを買った」

〈AA 催促型〉とは、主語に立つ有情者が与影者である動作主から何らかの動作へと刺激する活動を受けることを表す。AA 催促型は、奥田 (1968・72) で〈よびかけのむすびつき〉²⁹とされている連語から構成される受身文である。

(95) AA 催促型

対象=受影者	動作主	動作を促される
AN・ガ SUB	AN・ニ/カラ COM	催促 V・ラレレ

「わたしは友達にそそのかされてそれを買った」

催促動詞：あおられる、誘われる、うながされる、催促される、口説かれる、けしかけられる、そそのかされる、おだてられる、せきたてられる、呼ばれる、もとめられる、招かれる、招待される、指名される、etc.

以下、用例を見ていくが、AA 催促型は「催促 V₁・ラレテ 意志 V₂・スル」という外部構造で用いられることが極めて多い³⁰。このとき、後続の「意志 V₂・スル」は主語に立つ有情者が動作主に促された動作を表している (波下線は促された動作)。

(96) かよに促されてぎんは床に入り、掛布を目深にかぶった。(花埋み.地)

(97) キャルにそそのかされてぼくは事をはじめたのだったが、そのうちにこの話は思いがけぬ方向に発展しだした。(裸の王様.地)

(98) 「いや、僕は来るつもりはなかったんだが、この友達にそそのかされちまって」(樹々は緑か)

(99) 三月五日の夜の講話に、栄二は役所詰元締役の岡安喜兵衛から、特に指名されて出た。(さぶ.地)

(100) 私はそれ以上待つことはできなくなり、がっかりしながら、またせきたてられるように、この町を出ました。(ビルマの堅琴.地)

(101) 鯨やんがいきなり会社を辞めることになった。純喫茶ムラサキに入ったとたん**に**ぼくを見つけて、そのことを大ニュースのようにして知らせてくれたのは種一だった。

「なんでもさあ、オートレースの新聞をやるんだって。友達に前から呼ばれていたらしいんだな」(新橋烏森口)

(102) 「小舟町の親方がゆうべ呼ばれて、これだけの話を聞いた、そして、よそへは決してもらさ

²⁹ 〈よびかけのむすびつき〉をつくる動詞について奥田 (1968・72) は、「言葉あるいはべつ的手段による人間へのはたらきかけをしめ」すとし、「その語彙的な意味に、はたらきかけの結果おこる人間への変化がきりすてられていて、他人を動作へとしげきする活動を、その形態、様態あるいは目標の側面から特徴づけながら、さししめしている」(p58) と述べている。本報告ではこうした動詞を催促動詞と呼ぶことにする。

³⁰ ただし、「おだてられる」など、動詞によってはこの外部構造に現れにくいものもある。

- ないが、出入りは止めると云われた」(さぶ)
- (103)人間の発病に時間の斟酌はないから、夜半といわず未明といわず医者は需められれば直ちに
応じなければならないが、妻は脈をとる心得はなくても夫と気脈を通じて、疲れて戻るまで必
ず起きて待つべきである。(華岡青洲.地)
- (104)「[前略]もうこうなったらなんでもするわ。もし誘われたら、理事の連中と寝たっていいと
思ってるほどですもの」(女友だち)

AA 催促型と他のタイプ

奥田(1968-72)も述べているように(p.59),「呼ばれる,招かれる,誘われる」では,対象=受影者の結果としての空間移動にまったく無関心なわけではない。次のように,移動先を表わす場所名詞句を含む構造をとることもあり,この場合は **AA 位置変化型(AA 変化)** へ近づいていく。さらに,(107)の「呼びつける」や,「呼び出す」「誘い出す」「招き入れる」など,空間移動の複合動詞化されると,AA 位置変化型へ移行するだろう。

- (105)鮎太はある夕方、冴子に、庭の隅の竹藪の前へ呼ばれた。(あすなる.地)
- (106)発展途上国で高級官僚や学者の家に招かれると、「なぜ日本はこういう国を援助しなければならないのか」と思う——という話は、いまでは言い古された感じがする。(ゆとり)
- (107)「……このあいだ、船橋の会長に家まで呼びつけられて、言われたんだよね。切符、何枚持っていく、って」(一瞬の夏)

また,AA 催促型は,動作性名詞のヲ格と組み合わせることで容易に **AA 相手への要求的態度型(AA 態度)** へ移行する。

- (108)すべての責任を自分ひとりで背負いこむ単独行こそ、彼の本領であったが、宮村健に同行を
誘われ、彼の父からもそのことをたのまれているのに、敢えてその願いをしりぞけてまでひと
りで山へでかけるのは気がひけた。(孤高の人.地)
- (109)しかし、友達から共同湯に入浴に行くことを誘われると、いつもそれを断わるのにある努力を
払った。(あすなる.地)
- (110)彼は上司に出席をうながされた。

さらに, **AA 相手への要求的態度型(AA 態度)** の下位構造 b のように,「命令・禁止形節-ト」や「要求内容-スルヨウ」という引用句を伴うこともある。これも AA 相手への要求的態度型へ移行している。

- (111)だんだん聞いてみると、そいつは分隊長から一緒に投降しようと誘われたんだね。(野火)
- (112)「映画を見に行かないかって誘われただけ。ちょうどもらった切符が二枚あるからって。[後略]」(女友だち)
- (113)「[前略]いまどこにいるのかって言うから、河港の電話ボックスだって答えたら、目の前のホテルの扉があいて、ここだ、ここだ、って手招きされたそうだよ」(ドナウ)
- (114)早く来いと催促された。

AA 催促型(AA 無変化)と AA 相手への要求的態度型(AA 態度)の構造上の大きな違いは,AA 催促型は対応する能動文のヲ格に立つ有情者が主語になる受身文であるのに対し,AA 相手への要求的態度型は対応する能動文のニ格に立つ有情者が主語である,いわゆる相手の受身であるという点である。奥田(1968-72)では〈よびかけのむすびつき〉を作る動詞に「たのむ」や「せがむ」があがっている。確かに,次のような「頼まれる」の受身文は,上の AA 催促型に特徴的な外部構造で現れやすい。しかし,「AN・ヲ 頼む/せがむ」という能動文はすでにか

なり古い言い回しに聞こえる。次のような受身文は、「AN・ニ 動作 N・ヲ 頼む／せがむ」という能動文のヲ格名詞が省略された AA 相手への要求的態度型 (AA 態度) と考えるのが妥当かと思う。

- (115)「記憶だけであなたに声をかけたんじゃないわ。じつはあたし、未紀さんにたのまれて一時間ほどまえからあなたをお待ちしてたの」(聖少女)
- (116)[前略]酔っぱらった貞三が、スポンサーからもらったといって、大きなクッキーの缶を伸子に与え、せがまれるままにふたを開けると、あまりの量の多さに、伸子はクッキーを食べるよりも玩具にし、ボキボキと折っては、片はしから屑籠に捨てる、[後略](死児を育てる。地)

1.2.3 AA 強制使役型「私は上司に遅くまで働かされた」

〈AA 強制使役型〉は、主語に立つ有情者が使役の対象となって、使役主の指定した動作を強制的に実行させられることを表わす。述語は「意志 V・サセラレル」という使役受身の形をとる。この、使役受身の形については、さらなる下位分類が可能かと思われるが、今回はすべて AA 強制使役型として位置づけた。

(117) AA 強制使役型

使役対象=受影者=動作主	使役主=与影者	強制的使役を被る
A N ・ ガ SUB	A N ・ ニ COM	意志 V・サセラレル

「わたしは上司に銀行に行かされた」

AA 強制使役型の要素になるのは、他動詞であれ自動詞であれ、意志的な動作を表わす動詞である。

- (118)「それでよオ、忙しくなるとおれなんかも引っぱり出されて活字拾わされたりするときがあるのよ。だけどシーナ君はよ、やつに頼まれても絶対そういうことしちゃ駄目だぜ」(新橋鳥森口)
- (119)「[前略]課長は去年山林課においでになったばかりなので、ナメられたんですよ。いま資材課の伝票で見ましたが、市価の三倍で買わされていらっしやいますね。むかしからあいつの図々しさは有名なものなんです」(パニック)
- (120)「[前略]作ったんじゃない。やくざの詐欺にひっかかって、作らされたんだ。だけど、それが合法的なものでなくても、借金は借金なんだぞ」(ドナウ)
- (121)「唇にキスしてあげるからね。いやかい？ はずかしくて返事ができないんだな」
「鰐みたいに口をあけっぱなしにさせられて、ものがいえないんです！」(聖少女)
- (122)「学生の時出来た子だ。おやじに見つかって、別れさせられた。つまりは俺が意気地がなかったわけだが、口をきいた兄貴が、感心にその子を里子へ出して育ててくれたんだ。[後略]」(野火)
- (123)そやけど妹には何もようせえへんのですよし、そやから血縁の女きょうだいは男には役立たずで他家へ嫁に行かせられるのですやろ。(華岡青洲)

AA 強制使役型の周辺と他のタイプ

心理的な状態を表わす自動詞の使役受身形は、AI 心理・生理的状态型 (AI 状態) である。このとき、原因を表わす非情物のニ格名詞を補語としてとることができる。

- (124)「夏用の離宮ですの。うんざりするような観光地。でも、その広さには、やっぱりびっくりさせられますわ」(ドナウ)
- (125)「[前略]私、仙台に越してからとても焦ってしまうの。なんだか無理やりにいろんなことをあ

きrameさせられているような気分」(女友だち)

次のような、無意志的な生理的变化を表す動詞句の使役受身形は AA 生理的变化型 (AA 変化) である。

(126) 自分の息子が怪我をしたので腹を立てて、智広さんに怪我をさせられた、などと言いふらしただけなのかなあ。(エディプス)

有情者の社会的状態変化は、生理・心理的状态に比べれば意志的でありうるが、自己制御性のない(もしくは低い)行為なので、これも無意志的行為と考える。よって、「入学する、退職する」などの動詞の使役受身形は AA 社会的状態変化 (AA 変化) とする。

(127) 「そんなこと言ってる場合じゃなかろう。え。退学させられるかもしれないんだよ」(エディプス)

(128) 「しょうがないよ。仕事を休めばやめさせられるんだ」(一瞬の夏)

これに対し、奥田(1968・72)で〈人にたいするはたらきかけ〉の下位分類の〈生理的な状態変化〉として挙げられている自動詞の使役形のうち、「あるかされる、あそばされる、はたらかされる」などの意志動詞の受身文は、AA 生理的变化型 (AA 変化) ではなく、AA 強制使役型に位置づけた。

(129) 「また追い使われているんだな」と栄二は呟いた、「ゆっくり養生ができるなんていうが、畑や田圃で働かされ、夜は物置で寝かされてるって、いつまでもしまらねえやつだ」(さぶ)

1.3 AA 認識型 (AA 認識)

〈AA 認識型〉は、主語に立つ有情者が与影者である動作主(経験者)の認識活動を身を受けることを表す。AA 認識型には、〈AA 知覚型〉と〈AA 知的認識型〉という2つの下位タイプを含めた。

AA 知覚型 「良子は、駅前で和夫に(後ろ姿を)見られた」

AA 知的認識型 「良子は和夫に出生の秘密を知られた」

AA 知覚型と AA 知的認識型は、それぞれ、奥田(1968・72)の〈感性的なむすびつき〉と〈知的なむすびつき〉に対応している。奥田(同)は、両者を区別する構造上の特徴として、ヲ格名詞の性質を指摘している。すなわち、〈感性的なむすびつき〉ではヲ格名詞に具体名詞(ないし現象名詞)が立つのに対し、〈知的なむすびつき〉では抽象名詞(ないし現象名詞)が立つという違いである。以下、この構造上の違いに留意しながら、各受身文タイプの実例を考察していく。

1.3.1 AA 知覚型「良子は駅前で和夫に見られた」

〈AA 知覚型〉とは、主語に立つ有情者=受影者が与影者である動作主に自分の姿や所作・動作を知覚されることを表す。受影者の姿や動作は広い意味での所有物であるが、これは構文上現れないことも多い。現れる場合にはヲ格で示されるのだが、このヲ格名詞は、基本的に具体名詞もしくは知覚の感覚器官で捉えられる具体的現象名詞であり、抽象名詞が現れることはない。

(130) AA 知覚型

対象=受影者 AN・ガ SUB	動作主 AN・ニ COM	(対 象 = 所 有 物) (具 体 N / 現 象 N / V・スルトコロ・ヲ)	知覚認識を受ける 知覚 V・ラレル
--------------------	-----------------	--	----------------------

「良子は駅前で和夫に（後ろ姿を）見られた」

知覚動詞：見られる，見入られる，にらまれる，のぞかれる，聞かれる，みつけられる，認められる，観察される，目撃される，気づかれる，感づかれる，etc.

まず，基本構造の用例から見ていこう。主語に立つのは知覚の対象になる有情者=受影者である。動詞は知覚動詞であるが，(135)のような慣用表現も，全体が知覚動詞相当と言えるだろう。

(131)「みられなかったろうな。誰にも、みられなかったろうな。」(驢馬)

(132)先夜、駅前広場でぼくにみられていることに、彼女はまったく気がついていないのだ。(裸の王様.地)

(133)「いつもいつも，そんな目で観察されるのはかないませんね。あなたにしてみれば，観察してみたくもなるでしょうが，私は不愉快だ。[後略]」(ドナウ)

(134)「あの子に上目遣いで睨まれたことしか覚えちゃいない。その目が嫌で、あの子の父親に押しつけたんだ」(砂の上の恋人たち)

(135)三人の目にさらされているとは知らずに、お時さんは、連れらしい男といっしょに歩いてしたが、やがて一つの車両の前に立ちどまって、列車の車両番号を見ていたが、[後略] (点と線.地)

次に，主語が知覚の対象の広義所有者で，主語に立つ有情者の所有物である知覚の対象がヲ格で文中に明示された例を見ていく。知覚の対象であるヲ格名詞は，感覚器官で捉えられる具体名詞，現象名詞，もしくはその場の状況をあらわす名詞³¹や句・節である（波下線は知覚の対象）。対象の具体性の高い順に例をあげる。

(136)「おれはもうだめな人間になっちまった」と栄二は乱暴な口ぶりで云った、「おすえちゃんに顔を見られるのも恥ずかしいんだ、頼むからこのまま帰ってくれ」(さぶ)

(137)そして、私の胸も急に高鳴り始める……。その音を誰にも聞かletくなくて、少しでも窓の外の潮騒に紛らせようとしてドアに張りつくように立っていた。(1000マイル)

(138)だが気がつくとう入口のところで本物のLがじっとぼくをみつめていた——ぼくはみられていたんですよ、あのはずかしい儀式をね。(聖少女)

(139)その人とわたしが口喧嘩しているところを、別の人に見られているわ。(エディプス)

(140)だが、於継の眼は優しく加恵を見詰めて、大丈夫やしてよし、あなたなら大丈夫ですよし、待っていたのやしてよし、さあおあがりと囁いているようであった。加恵は涙ぐみ、それを気取られまいとして急いで盃を口に当てた。(華岡青洲.地)

(141)格子戸の中から多市が覗いていた。栄二は悪いことでもみつけれれたように、どぎまぎしながらそっちへいった。(さぶ.地) ³²

AA 知覚型の周辺と他のタイプ

奥田（1968・72）は，具体名詞とも抽象名詞とも自由にくみあわさる一般的な認識動詞として「認識する」「みとめる」を挙げているが，特に口語的表現では，「みとめる」のかわりに「気

³¹ 現場名詞とでも言えるだろうか。

³² ここでは、「悪いことでも」というように抽象名詞がヲ格に立っているが，これも「悪いことをしているところを」というような，知覚で捉えられるその場の状況を指すものだろう。

づく」という動詞がよく用いられる³³。ここで、「気づく」という動詞は、本来、対象をニ格で標示するのだが、受身文の中では動作主のニ格名詞との混乱をさけるためか、対象がヲ格で現れる場合がある³⁴。このとき、対象の具体性が高ければ〈AA 知覚型〉の受身文になるし、抽象性が高ければ〈AA 知的認識型〉を実現する³⁵。

- (142)「だってさぶは用心した筈だ、人に気づかれない用心ぐらいした筈じゃないか」
「五日ごとにどこかへでかければ、どんなに用心したって、人の眼につかずにはいないでしょ」(さぶ)
- (143)和助は自分が一滴も飲まないばかりでなく、酒そのものを病的に嫌っている。いまは暮の十五日、もうひるに近いころだが、酒の匂いに気づかれたら、相談どころか叱りとばされるのがおちだろう、そう気づいたので、栄二は赤くなった。(さぶ・地)
- (144)与平が撞木杖を持ってゆき、自分の戸納の中へしまい込むのを眺めながら、栄二は息を静かに長く吸い、それを用心ぶかく吐きだした。その呼吸を与平に気づかれるのを恐れるように、[後略](さぶ・地)
- (145)私たちは自分から危険な冒険をすることもなく、次々と新しい信徒の群れを見つけることができたし、警吏たちに今日までその存在を気づかれたことはない。(沈黙・地)
- (146)太郎は、ハレモノにさわる思いだったが、それを気づかれると、又からまれそうなのでできるだけ、さりげなくしていた。(太郎物語・地)

なお、知覚動詞の受身文は、一般に可能用法との境界が曖昧であることが指摘されるが、AA 知覚型の受身文が可能用法と曖昧になることはない。これは、主語(ガ格)が有情者であることによる。可能用法との境界が曖昧になる受身文タイプについては、第5章 1.3 の〈I 認識型(I 認識)〉(p. 117)で詳しく議論する。

1.3.2 AA 知的認識型「私は親に将来のことを心配された」

〈AA 知的認識型〉は、主語に立つ有情者=受影者が動作主である相手に、自分の状態や所有する情報、性質を知的な領域で認識されることを表わす。先に述べたように、AA 知的認識型は奥田(1968-72)の〈知的なむすびつき〉の連語を構成要素とするのだが、この〈知的なむすびつき〉は、を格の名詞が抽象名詞であるという構造的な特徴を持っている³⁶。よって、AA 知的認識型では、有情者が主語に立ち、ヲ格には有情主語の所有する情報や性質、動作を表す抽象名詞が立つ構造を基本構造と考えたい³⁷。そして、下位構造 **b** として、有情者が知的な認識活動の対象として主語に立った構造を位置づけておく。

³³ 奥田(1968-72)では、「みとめる」の用例として次のような例が挙げられているが、いずれも口語であれば「気づく」で表現するところだろう(奥田 1968-72:104)。

- ・ わたしはそのけむりのなかにすわっている女ふたりをみとめました。(心・253)
- ・ 笹子の変化をめざとくみとめた母親は……(昔・9)
- ・ 夫の才能をみとめている父ですら……(春・52)

³⁴ 対象を示す名詞の抽象度が高いほどヲ格で現れやすいように思われる。

- ・ 懐に忍ばせた刀に／＊を気づかれないように……
- ・ これまでの苦勞を／に気づかれないように……

³⁵ 「気づかれる」という動詞の受身文は、その外部構造が特徴的で、否定ないし条件的な表現で用いられることが多く、完了表現の中で用いられることが極めて少ない。

³⁶ 次の「顔を知られている」の例は、一見ヲ格に具体名詞が立っているようであるが、同じ身体部位の具体名詞でも「目／足を知っている」などとは言えないことから、これが通常の具体名詞との組み合わせとは異なることがうかがえる。「顔を知っている」は慣用的に「動作主は顔の所有者の有情者に会ったことがあり、誰であるか判別できる」という意味を表わしている。

- ・ 五番町へ行くにつけても、私が衛生上の注意を怠らなかったのは云うまでもない。前日から、顔を知られていない遠い薬屋まで行って、私はゴム製品を買っていた。(金閣寺・地)

³⁷ ただし、「思い知らされる」では、ヲ格には相手=動作主の所有する情報や性質を表わす抽象名詞が立つ。また、「思い知らされる」は「思い知らす」という能動文よりも、受身文での使用のほうが多いのも特徴である。

(147) AA 知的認識型

a :

所有者=受影者 A N・ガ SUB	動作主 AN・ニ COM	対象=自分の情報 抽象 N／節・ヲ COM	知的認識を受ける 思考 V・ラレル
----------------------	-----------------	--------------------------	----------------------

「わたしは親に将来のことを心配された」

b :

AN ₁ ・ガ	AN ₂ ・ニ	思考 V・ラレル
--------------------	--------------------	----------

対象=受影者[主語] 動作主=与影者[補語] 思考活動を受ける 【個別有情行為者】

「わたしは指導教官に心配された」

知られる, 思い知らされる, 心配される, 分析される; 理解される, 誤解される, さとられる, みぬかれる, みやぶられる, みすかされる, 気づかれる; 調べられる, 取り調べられる, 探される, 探られる, 調査される, 診察される, 診られる, 検査される, 研究される, テストされる etc.

下位構造 b のように, 具体名詞である有情者が対象である場合, 能動文では「人-のことを 心配する／考える」のように, 抽象化の手続きをふまなければならない(奥田 1968-72:98-99)。この法則は, モノが主語に立つ場合は, 基本的に, 受身文になっても破られるものではないと考えるが, 人が主語に立つ〈AA 知的認識型〉では, 有情者がそのままの形で主語に立つ。ただし, すべての思考動詞による受身文の主語に有情者が立つわけではない。

(148) 私は彼に心配された／誤解された／理解されている／みすかされた／テストされた。

(149)?*私は彼に考えられた／振り返られた。

用例を見ていこう。まず, 基本構造 a の例から挙げる(波下線は知的認識の対象のヲ格名詞)。

(150) 娘の頃は兄達の後ろで坐って聴いた。今度も聴いてみようか、ぎんは奥の間へ行ってみたかったが、万年には女として死ぬほど羞ずかしいことを知られていた。(花埋み.地)

(151) 良子「あなたにそのこと知られるの何だかシャクだから、あの人にもまだ続いていることにしてって頼んだんだけどさ、何だかそんなのイヤになってきた……ハハッ」(1000 マイル)

(152) 何もなかったと主張し続けることに、山脇幸子は心をかためたようだった。その決心を見破られまいとしてか、彼女は七瀬に問い返してきた。(エディプス.地)

(153) 妹背佐次兵衛夫婦はあらためて於継の賢さを思い知らされた形だった。(華岡青洲.地)

次の動詞は, 奥田 (1968-72) が「思考活動の結果である理解」を表わす動詞としてあげているものであるが (p.98), これも AA 知的認識型である。

(154) 「いまわれわれが気がついたということを、相手にさとられてはならぬ。われわれはのんきに歌いつづけていなくてはならぬ。[後略]」(ビルマの堅琴)

(155) 「ちょっと攻めが単調だったな。読まれちまったよ」(自転車の夏)

次に, 有情者が対象として直接, 主語に立った下位構造 b の例を挙げる。(156)は, 「思考活動の結果である理解」を表わす動詞, (157)・(159)は, 探求・調査活動を表わす動詞で, 通常の思考動詞よりも動作的である³⁸。

(156) 絵里花 「出来レースの示談交渉でひとみの死を侮辱したあなたと、金丸建設に手を回して高野を辞めさせようとしたあなたと、仲良く食事が出来ると思うんですか」

圭 一 「(苦笑して) ずいぶんと誤解されてるなあ」

³⁸ この種の動詞は, 奥田 (1960) で〈動作的な態度のむすびつき〉の中で扱われていた一連の動詞 (p267) であるが, 奥田 (1968-72) ではこのタイプは削除されている。

絵里花 「どこが誤解なんですか？」(砂の上の恋人たち)

(157)たとえあの連中のように死体が発見されなくても、その人が学校へ出てこなくなればわたしは警察に調べられるわ。(エディプス) ³⁹

(158)しかし新聞の観測的な記事によると、佐山課長補佐が参考人として取りしらべられることは必至であり、同人は上層部に事件が波及することをおそれて、愛人と情死を遂げたのではあるまいか、と書かれてあった。(点と線,地)

(159)「せめて女のお医者様ならねえ」／ 「女の……」／ ぎんは顔をあげた。／ 「女の先生に診られるんならいいってことさ」／ 「女のお医者さん……」／ ぎんはぼんやりと呟いた。(花埋み)

AA 知的認識型の周辺と他のタイプ

「認められる」という動詞は、「才能／価値を認められる」という表現はもちろん、「有情者・ガ 認められる」という形でも、すでに「認識される」という意味ではなく「評価される」という意味にずれていることが多い。この場合は、〈AA 感情=評価型 (AA 態度)〉へ移行している。

(160)木原などの話によると、外国から来ている有名な声楽家にその才能を認められて、英子は本格的な勉強をするために渡欧するのだということであった。(あすなろ,地)

思考動詞が判断内容を表わす句や節と結びつき、「AN-ガ AN-ニ 句/節-ト 思考 V-ラレル」という構造になると、〈AA 知的態度型 (AA 態度)〉になる。ただし、AA 知的認識型と AA 知的態度型に用いられる動詞は少し異なっており、AA 知的態度型には「思われる、考えられる」のような思考動詞⁴⁰も用いられる。

(161)「佐久間君、君はぼくと違ってたくましい男だが、人間というものはねえ、寿命がわかってみると……あと何年も生きられない、それも普通の症状ではなく、……まあそんなことは話したくないが、天寿というか、その残された何年かを……それを非国民というふうに思われるとばくは非常に辛いんだ」(楡家)

(162)「なんと精のつく食べ物をお届けしようかと思うていたのやけれども、この不自由なときに当てつけがましと思われてはいかんと思うて控えていたのやして。[後略]」(華岡青洲)

(163)「相手が喧嘩を売ってきたのとちがうから、おい、黒、おめえ、まずいことをしたなあ。宇野が少年院のなかから指図をしたように考えられたら、佐倉の言ったように、宇野が困るよ」(冬の旅)

1.4 AA 態度型 (AA 態度)

〈AA 認識型〉における「認識活動」が、単に動作主が対象を認識領域に取り入れることを表わすだけであるのに対し、「態度」とは、より積極的に対象へ向かう動作主の心理的な作用のことである⁴¹。AA 態度型には次の6つのサブタイプがある。これらのサブタイプには、対象に対する感情、評価、判断、とらえ方をなどの「認識的態度」を表わすものと、対象への物理的

³⁹ この例も、有情者がそのまま主語に立っている。これが、非情物の場合、例えば「カブト虫のことを／について調べた」という能動文に対し、受身文は「カブト虫のことが／について調べられた」となるだろう。

⁴⁰ 「私は彼に思われている」という受身文は、「好かれている、愛されている」という意味なので、〈被感情=評価的態度型〉である。

⁴¹ 奥田は〈態度のむすびつき〉について、〈心理的なかわり〉を表わす連語の中で、〈認識のむすびつき〉では、「対象が認識の視野のなかにとりいれられて、つくりだされる認識論的な関係のみがたんじゅんに表現されている」のに対し、〈態度のむすびつき〉では、「対象にたいする感情、評価、判断、とらえ方など、ひとくちにいえば、対象への態度が表現されている」(奥田 1968・72:112)と述べている。

はたらきかけにおいて、意図をもって対象へちかづいていく過程（心理的作用）である「動作の態度」を表すタイプがある（奥田 1968-72:112, 1960:263 参照）⁴²。

認識的態度

AA 感情=評価型	「わたしは彼に嫌われた／笑われた／疑われた」
AA 知的態度型	「わたしは彼に学生と思われた」
AA 表現的態度型	「わたしは母親に叱られた／からかわれた」
AA 呼称	「わたしは彼に母さんと呼ばれた」

動作的態度

AA 評価動作的態度型	「わたしは彼にいじめられた／大事にされた」
AA 接近的態度型	「わたしは彼においかけられた」

さて、AA 態度型は有情主語有情行為者受身文のサブタイプなのだが、ある種の非情主語受身文を、数は多くないが、この AA 態度型に含めた。これは、この種の受身文では、非情物が主語に立っていても有情主語の受身文と意味・機能的に大差がないと判断したためである。つまり、非情主語なのだが、背後に益岡（1991a）の言う潜在的受影者が存在し、影響を受けるという意味を持つ受身文なのである。

また、AA 態度型において、非情主語でありながら受影の意味が表れる受身文が特徴的に存在することは、態度動詞の特性（結合価）とも無関係ではない。奥田（1968-72）は、〈態度のむすびつき〉があらゆる名詞（具体名詞から抽象名詞、非情物、有情者）をヲ格にとりうることを、この連語の構造的特徴として挙げている⁴³。

手元のデータを観察する限りにおいて、非情主語であっても有情主語の受身文と意味の変わないタイプは、AA 感情=評価型、AA 表現的態度型、AA 呼称型、AA 評価動作的態度型、AA 接近的態度型である。これらのタイプには、非情主語の受身文が、少数ではあるが、含まれている。一方、AA 知的態度型のみ、非情主語の受身文の表わす意味が有情主語受身文のそれとかなり異なるため、非情一項受身文の〈I 判断型（I 態度）〉に位置づけた⁴⁴。

以下、AA 態度型のサブタイプを考察するが、まず、認識的態度を表すタイプから見ていく。〈態度のむすびつき〉は、その構造上の特徴として、動作主の対象に対する態度を含んだ動詞⁴⁵を要素とするのだが、思考動詞や知覚動詞、発話動詞といった広義認識動詞も〈態度のむすび

⁴² 〈AA 態度型〉は、奥田（1968-72）の〈態度のむすびつき〉および奥田（1960）の〈動作的な態度のむすびつき〉を構成要素とする。奥田（1960）では、〈動作的な態度のむすびつき〉として、いくつかの位置づけの難しい動詞グループが取り上げられていたのだが、奥田（1968-72）ではこのカテゴリーは削除され、そこで扱われていた動詞は、いくつかは別のカテゴリーに分類されているが、ほとんどが削除されてしまっている。その代わりに、奥田（1968-72）では、〈モーダルな態度のむすびつき〉という新たなカテゴリーが立てられている。そのため、本稿の〈AA 態度型〉と奥田（1960）及び（1968-72）の「態度」の連語との関係は少し複雑になっている。

⁴³ 「態度の対象になるのは、物であり、その物の現象であり、側面であり、またそれらのあいだの関係でもあるから、対象としてかざりの位置につくことのできるのは、具体名詞でもあり、抽象名詞でもあって、認識のむすびつきをあらわす連語のばあいのように、一方を選択するという法則性ははたらかない」（奥田 1968-72:113）。「感情的な態度をしめす動詞のうち、たとえば恋する、したうのような動詞は人をしめす名詞を支配しようとするし、たのしむ、かなしむのような動詞は動作や状態をしめす名詞を支配しようとする傾向があるが、それはそれぞれの語彙的な意味の特殊性に依存しているのであって、この種の動詞グループがあらゆる種類の名詞とくみあわさるという一般的な法則をやぶってはいない」（奥田 1968-72:114）。

⁴⁴ I 判断型（I 態度）の受身文と、AA 態度型に位置づけた非情主語受身文との違いは、AA 態度型のうち、AA 感情=評価型、AA 表現的態度型、AA 評価動作的態度型の受身文は、動作主の対象への評価性を含んでおり、このために非情物が主語に立っても「影響を身に受ける」という受影の意味を帯びやすい、もしくは有情者の広義所有物が主語に立ちやすいということが考えられる。AA 接近的態度型にしても、「狙われる」という動詞は、やはり動作主の対象への評価を含むように思う。動作主は対象へのプラス評価の態度を持って、これに接近するのである。一方で、AA 呼称型には評価性は通常含まれない。また、物理的な作用も含まない動作である。このことが関係しているかどうかは未だ分らないが、AA 呼称型は、有情主語受身文であっても受影の意味を帯びにくいタイプである。つまり、AA 呼称型の場合は、有情主語であっても、非情主語受身文のように中立的な意味になりやすく、そのため、両主語の違いによる意味の差が出にくいようである。

⁴⁵ 好む、嫌う、愛する、憎む、疑う、尊敬する、などの感情=評価的態度動詞と叱る、責める、からかう、ひやかす、褒めるなどの表現的態度動詞。

つき)を頻繁に構成する。ただし、認識動詞が要素となる場合には、対象への判断や評価といった態度を含んだ内容節や形容詞句を伴っていただなければならない⁴⁶ (奥田 (1968-72) :113)。

- (164)a. 和夫は良子を見た。〈認識のむすびつき (感性的なむすびつき)〉
b. 和夫は良子をスパイと見た。〈態度のむすびつき (知的な態度のむすびつき)〉
(165)a. 和夫は子供達のことを思った。〈認識のむすびつき (知的なむすびつき)〉
b. 和夫は子供達をかわいく思った。〈態度のむすびつき (感情的な態度のむすびつき)〉

さて、認識的態度を表す AA 態度型には、AA 感情=評価型、AA 知的態度型、AA 表現的態度型、AA 呼称型の 4 つのタイプを含めた。それぞれ、次のような受身文である。

- AA 感情=評価型 「わたしは彼に嫌われた」
AA 知的態度型 「わたしは先生に日本人だと思われた」
AA 表現的態度型 「わたしは先生に し かれた」
AA 呼称型 「わたしは良子に母さんと呼ばれた」

以下、それぞれの構造と実例を見ていく。

1.4.1 AA 感情=評価型「私は和夫に嫌われた」

〈AA 感情=評価型〉とは、主語に立つ有情者ないし非情物が与影者である動作主から何らかの感情や評価のこもった心理的作用を受けることを表わす。このタイプは、奥田 (1968-72) の〈感情的な態度のむすびつき〉に対応する。AA 感情=評価型は、主に感情評価的態度動詞で構成されるが、感情=評価内容を伴った認識動詞もこれを構成する。

- (166) AA 感情=評価型
- | | | |
|----------|-------------|---------------|
| 対象=受影者 | 動作主 | 感情=評価的態度を受ける |
| AN・ガ SUB | AN・ニ/カラ COM | 感情評価的態度 V・ラレル |
- 「わたしは和夫に嫌われた」 【個別有情行為者】
- | | | | |
|----------|----------|---------------|-------|
| 対象=受影者 | 動作主 | 感情=評価内容 | 認識 |
| AN・ガ SUB | AN・ニ COM | 感情=評価 N/Adj・ト | V・ラレル |
- 「わたしは和夫にバカだと思われた」 【個別有情行為者】

感情評価的態度動詞：愛される、憎まれる、嫌われる、好かれる、恐れられる、慕われる、惜しまれる、見込まれる、気に入られる、目をかけられる、見そめられる、喜ばれる、見捨てられる、望まれる、疎まれる、恨まれる、尊敬される、軽蔑される、重んじられる、重視される；疑われる、怪しまれる、諦められる、否定される；ほれられる、etc.

まず、a の基本構造の用例を挙げる。手元のデータの AA 感情=評価型は、ほとんどがこの基本構造の受身文だった。

- (167) 「いやよ、わたし 変わるもん。順正 に愛されるためなら、なんだってできるもん」 (冷静)
(168) 「そんなのならいいが……トシ子、おまえ、自分の両親 から嫌われたことがあるか？」 (冬の旅)
(169) 「この娘さん はねえ、百合子さんっていって、前のうちで育てられたんだけど、そりゃ、頭のいい人でね。帝大付属病院の看護婦になったんだよ。器量もいいからさ、患者 で来た帝大生に見染められてね、婚約したのさ。それがこの写真に写ってる学生さん」 (胡桃の家)

⁴⁶ 奥田はこれを「態度の構造」と呼んでいる。

- (170)「こんなに遅くまでおひきとめて、Mさんのお母さまに恨まれますよ」(聖少女)
- (171)あなたはお父様もお母様もお許しになったと思っていなさる。いいえ、お許しになったのではありません！諦められたんです、見捨てられたのです！(楡家)
- (172)あの於継がいつどうして自分に興味を持っていたのかと加恵は驚愕し、あの美しいひとに見込まれたのかと思うと激しい喜びに息も止りそうであった。(華岡青洲・地)
- (173)「しかし、一度、上の方から目をかけられると、そんな人たちは感激するね。今まで諦めていた世界に希望の光明がさすのだ。[後略]」(点と線)
- (174)「お前は、きっと、女に惚れられるよ」(人間失格)
- (175)「[前略]マサコのお母さんに伝言を書いてくれ。俺がいきなり部屋をノックして、ミチオ・ナガセに英語で説明しても、怪しまれるだけだからね。マサコの日本語で書いたメモを持っていくのが一番いいよ」(ドナウ)

次のように、主語に立つ有情者の広義所有物がヲ格で現れることもある。

- (176)ここでも尚中は、ボンベにその才を高く評価され、佐倉へ戻る時、ボンベは特に彼にだけ、ストロマイエルの医書を餞として贈ったと言われている。(花埋み・地)

認識動詞が感情=評価内容を表わす句や節と共起した b の構造の受身文では、動作主が個人の個人ではなく、不特定多数の人々である場合が多かった(波下線は感情=評価内容)。

- (177)俺はあんなことをしてきたんだし、みんなからいやな目で見られても仕方ないんだ。(冬の旅)
- (178)「安田が札幌に行くといって出発したのは、二十日の午後二時ごろですからね。その日に打つならわかるが、翌二十一日の九時ごろに打ってくれと注文したら、変に思われますよ。安田という男の性格として、些細なことまで注意深いですからね。[後略]」(点と線)
- (179)「だが、小塚原などに縁もゆかりもない我々が行っては不審に思われないかな」(花埋み)

「愛される、恨まれる」などの感情評価の態度動詞は、通常、-トで導かれる引用節と共起することはない。しかし、「疑われる、信じられる」などの動詞では、引用節と共起した例が見られる。これは、これらの動詞が知的活動を表わす動詞にも近いことを表しているのだろう(波下線は引用節)。

- (180)「よく聞くがいい、役目で不審な者をしらべるには、来客をもてなすようなわけにはいかない、多少の違いはあっても、いずれは手荒な手段をとらなければならないだろう、おまえが強情を張れば張るほど余罪ありと疑われ、やがては牢問いにもかけられなければならない、そこをよく思案したうえ、仔細を残らず話したらどうだ」(さぶ)

1.4.2 AA 知的態度型「私は山田さんに独身と思われた」

〈AA 知的態度型〉とは、主語に立つ実体が与影者である動作主から何らかの価値付けや判断といった心理的作用を受けることを表わす。AA 知的態度型は、奥田(1968-72)の〈態度のむすびつき〉の下位分類である〈知的な態度のむすびつき〉に対応している。

(181) AA 知的態度型

対象=受影者	動作主	判断内容	判断を受ける
AN・ガ SUB	AN・ニ COM	IN／節・ト/ニ COM	思考 V ラレル

「わたしは山田さんに独身と思われている」【個別有情行為者】

構造は(181)が基本であるが、思考判断内容を表わす形式のバリエーションとして、「AN・ガ

AN-ニ N-デ/ノ ヨウニ/トシテ 思考V-ラレル」(「わたしは叔母さんに子供のように思われている」)という形もある。

動詞は、次のような思考動詞が要素となる。奥田(1968-72)が述べるように、〈知的な態度のむすびつき〉を構成する専用の動詞は少なく、ほとんどが思考動詞で構成されるのだが、有情主語の受身文の場合、〈AA 知的認識型〉と〈AA 知的態度型〉を構成する動詞はやや異なっている。というのも、「思われる」や「考えられる」を述語とした AA 知的認識型の有情主語受身文⁴⁷がほとんど存在しないからである。

(182)みなされる、思われる、考えられる、知られる、認められる、etc.

以下、用例を見ていくが、〈AA 知的態度型〉の受身文はあまり多くない。これは、対象に対する判断が中立的な場合が少ないためである。有情主語の場合、対象に対する判断内容が感情=評価性を帯びることが多く、その場合は〈AA 感情=評価型〉となる。実際、以下に挙げる用例でも、特に思考判断内容が名詞句や形容詞句であると、評価性に完全に中立な例を見つけるのは難しい(波下線は思考判断内容)。

(183)「盗む気持がないのに盗んでしまうというのは、それは、どういうことかな。こんど場合は、月に三千円しか生活費がないので切羽詰って盗んだのは判るが、しかし、二度三度とかさなっちゃ、常習犯と見做されても仕方ないな。……しかし、僕は、きみが好きになれそうだよ。[後略]」(冬の旅)

(184)「佐久間君、君はぼくと違ってたくましい男だが、人間というものはねえ、寿命がわかってみると……あと何年も生きられない、それも普通の症状ではなく、……まあそんなことは話したくないが、天寿というか、その残された何年かを……それを非国民というふうに思われるとぼくは非常に辛いんだ」(楡家)

(185)「なんど精のつく食べ物を届けようかと思うていたのやけれども、この不自由なときに当てつけがましと思われてはいかんと思うて控えていたのやして。[後略]」(華岡青洲)

(186)「相手が喧嘩を売ってきたのとちがうから、おい、黒、おめえ、まずいことをしたなあ。宇野が少年院のなかから指図をしたように考えられたら、佐倉の言ったように、宇野が困るよ」(冬の旅)

(187)——これは寄場が牢と違うところの一例で、行状がよいと認められれば、常着になって外出もできるし、面会人があれば会うこともできた。(さぶ。地)

知覚動詞も広義認識動詞として、〈AA 知的態度型〉を構成する。

(188)「ここから出ていっても、島ぬけとみられてどんなめにあうかわからねえぞ」(さぶ)

(189)「[前略]九人もの少年が通ってみろ。奴等に、学習院の脱走生にちがいない、とすぐ気づかれてしまうぜ」(冬の旅)

AA 知的態度型の周辺と他のタイプ

次の例は、「華岡直道(於継の夫)」に視点があたっていて、彼が主語であれば AA 知的態度型であるが、ここでは「疑う」の動作主である「加恵」に視点があたっているのが、**自発用法**である。

(190)加恵はしかし待ちに待った華岡直道を見たときは、これが於継の夫かといたく失望した。[中略]そして言動に到ってはもう加恵がどういう期待をかけようもないほど粗野であった。大きな桐の紋付を彼は常用していたが、夜はそのまま寝てしまうのではないかと疑われるほど、それ

⁴⁷ 「わたしは太郎に思われた」、「*わたしは母親に考えられた」のような受身文。なお、前者は AA 感情=評価型である。

はよれよれで古びて穢なく、もう幾年も水を通したとは見えず、つまり紋服の態をなしていなかった。

1.4.3 AA 表現的態度型「私は母親に叱られた」

〈AA 表現的態度型〉とは、主語に立つ有情者が動作主である有情者から主に言語活動による感情=評価的な態度を受けることを表す。このタイプは、奥田（1968-72）の〈表現的な態度のむすびつき〉を表わす連語を構成要素とする。

(191) AA 表現的態度型

対象=受影者	動作主	所有物=対象	発言内容	表現的態度を受ける
a: AN・ガ SUB	AN・ニ COM	(IN・ヲ COM)	(節・ト MOD)	表現的態度 V・ラレル

「わたしは母親に（夜遊びを）（やめなさいと）叱られた」

b: 所有者=受影者	所有物=対象	動作主	表現的態度 V・ラレル
(AN・ノ MOD)	IN・ガ SUB	AN・ニ COM	

「彼の研究は先生に褒められた」

表現的態度動詞：ほめられる、叱られる、怒られる、怒鳴られる、からかわれる、励まされる、責められる、そしられる、訴えられる、拒まれる、非難される、批判される、口説かれる、注意される、侮辱される、説教される、説得される、etc.

以下、実際の用例を見ていこう。まず、基本構造である有情者が主語に立つ例から見ていく。

- (192) 「ひとさまにごちそうになったりすると、ママにすごく叱られるわ。とくにいっしょにお食事するのは、よくよく心を許したかたでなければだめですって」（聖少女）
- (193) 「さらし者にされてるようなものだよ。いまのナガセの心境はね。お説教なんかされたくないだろうし、励まされるのもまっぴらだよ。失敗したよ」（ドナウ）
- (194) 「ねえ、私、聞いたんだけど、アッコの噂」
「あら、私の噂ってなによ」
「ゴルフ部の伊坂さんに口説かれたって」（女友だち）
- (195) 「わたしはあおいさんがなくなった後の空洞を埋めるために順正を愛してきたんじゃない。順正が過去を引きずっている限り、私はもうやり直すことはできない。侮辱されることがどんなにわたしにとって苦しいことか」（冷静と情熱）
- (196) 「修一郎だってかわいそうな男なんだ。実の父親から拒まれたら、ああなるよ。[後略]」（冬の旅）

奥田（1968-72:126）も指摘するように、表現的態度動詞による能動文のヲ格に現れるのは主に有情者であるが、必ずしも有情者に限らず、有情者の身体部位や生産物、様子、行為、性格など、広義の所有物=非情物がヲ格に現れることもある。次の例は、こうした有情者の所有物=非情物が受身文の中にヲ格のまま現れた例である（波下線は有情者の所有物）。

- (197) 「前にも髪をほめられたことはある？」（世界の終わり）
- (198) 「こないだは種一のやつが服装のこと注意されてたよ。ネクタイしてこいつてさ」（新橋鳥森口）
- (199) しつけのきびしさを非難されることを口にはするが、彼女は果たしてどれだけそれを自覚していることだろうか。（裸の王様.地）
- (200) 「買ってはいけない」で製品を批判されたある食品メーカー幹部も「内容には事実でない点も多いが、消費者の健康や環境に対する関心の高まりがこの種の本のヒットの背景にあるのは

間違いない」と認める。(毎日)

(201)もちろん彼女はそのみやびやかならざる言動を、学習院出の貴族的な姉たちから叱られれば
そのときはしゅんとなった。(榆家.地)

表現的態度動詞の中には、動作主が不特定一般の人々である受身文によく用いられる動詞がいくつかある。「からかわれる、批判される」といった動詞である。これに対し、「叱られる、注意される、説教される」などの動詞が不特定一般の人々が動作主である受身文に用いられることは少ないだろう。

(202) (手紙の文面)「ジュンちゃんやみんなに会えないのがとっても淋しい。私たちって、やっぱりみんなにからかわれるようにメダカちゃんなのかしら」(女友だち)

(203)さらに、民間企業とくらべて官業のひどさがきびしく批判されるが、それはややきびしすぎる。日本の国鉄や郵便局は、批判はされても、まずほめられることはない。(ゆとり)

次の例は、有情者の所有物である非情物が主語に立った、下位構造 b の例である。(207)の動詞「ほじくり返される」は本来位置変化動詞であるが、ここでは「再び責められる」というような意味の表現的態度動詞相当で用いられている。統計を取ったデータの中で、非情主語の<AA 表現的態度型>(下位構造 b)は、(204)と(207)の2例のみだった。

(204)「[前略] 出しとあげやす。きつとオ、あんたの人形さんはみんなに賞められますわ」(越前竹人形)

(205)口をついて出た言葉も小陸に非難されているようで加恵には後ろめたかった。(華岡青洲.地)

(206)一夜明くれば裸のまま大人でさえ渡りかねる浮世に投げ出され、生きるための盗みかっぱらいが運わるくとがめられただけで、わが身の上に櫛の歯ひく如くおそいかかる、突拍子もない出来ごと、[後略]。(プレイボーイ.地)

(207)「[過去の盗みについて]あのときのあれが」と彼は吃り、唇を舐めて云った、「いまになって、ほじくり返されるんですか」(さぶ)

AA 表現的態度型の周辺と他のタイプ

奥田(1968-72:127)も述べるように、「表現的な態度」は「感情=評価的態度」を表わす動詞と意味的にきわめて近い(「からかわれる」と「あなどられる」など)。両者の構造的な違いは、AA 表現的態度型では、次のように発言の内容を表わす引用句と共起することがある点である⁴⁸(波下線は引用句)。

(208)「俺は、宇野はこないだろうと言ったんだ。そしたら安に馬鹿野郎とどなりつけられてよ」(冬の旅)

(209)「十六です」とおすえは多市に答えた、「軀が小さいから十二、三にしきやみえないって、よくみんなにからかわれるんですよ、恥ずかしい」(さぶ)

(210) [前略]それに家への仕送りのこともありますし、いちどお断りしたんですけど、課長さんもかあさんも、良縁だからぜひぜひって、毎日のようにせめられて、そのうちに、あたしが承諾してくれたら、栃木の両親のことも、弟妹たちのことも、課長さんと本村さんの共同責任で一切面倒見るという条件が出て、[後略](忍ぶ川)

(211)「…… ウン。でもね…… また野村先生に余計な知識入れて、って怒られちゃうけど……」(砂の上の恋人たち)

⁴⁸ (192)でも、後続する文に引用節が現れている。

特に、「名詞句/形容詞句-ト 言われる」という構造で、発言内容を表わす引用句に評価的な名詞/形容詞が現れると、〈AA 相手への発話型 (AA 相手)〉が意味的にも構造的にも〈AA 表現的態度型〉に移行する。構造的には、相手の受身ではなくなり、主語に立つ有情者は、対応する能動文のヲ格名詞句 (直接対象対象) と見なせる。

- (212) 「[前略] おめえはみんなからぐずと云われ、ぬけてるなどとも云われながら、辛抱よく、黙って、石についた苔みてえに、しっかりと自分の仕事にとりついてきた、[後略]」(さぶ)
- (213) ……ところがねえ、あたしはお尻がまくれないのよ、あたしは顔立ちはまあまあだったけど、女学生仲間で練馬足だなんて言われて、つまり少し足が太かったわけね。(楡家)
- (214) 「行助は、自分の母を、[修一郎]に女中だと言われて、あんなことを仕出かしたのでした」(冬の旅)

次の例は、構造上 AA 相手への動作型 (AA 相手) から派生したものであろうが、ヲ格名詞の性格から、全体が慣用的に「表現的態度」を表している。

- (215) [前略] さぶはあるきだしながら、小舟町のへ奉公に来てから三年間の、休む暇もなくあびせられた小言と嘲笑と平手打ちのことを語った。(さぶ.地)
- (216) 「おれは人に干渉なんかされたくないんだ。* * さん (と私の姓を呼んで) に口を出される覚えはないよ。」(草の花)

次の「罪に問われる」も、「責められる、非難される」という行為の社会的なものとして、AA 表現的態度型の周辺のタイプと考えられるだろうか。

- (217) その慾望を満たすためにかねを払った人間は、法律がちゃんと保護しますが、かねを持たなかったら忽ち無銭飲食という罪に問われますよ。(青春の蹉跌)

1.4.4 AA 呼称型「私は良子にお母さんと呼ばれた」

〈AA 呼称型〉とは、主語に立つ実体=対象が動作主から何らかの呼称を付与されることを表わす。「呼称」には、「花子／山田さん」などの個人名を表わすものや、「お母さん／部長／先生／お嬢さん」などの社会的役割を表わすもの、「あなた／彼女」など人称に関わるものがあるが、動作主は、主語に立つ対象を認識し、それと関わる際に、当該の呼称をいわば足がかりにしているのである。主語に立つ対象は、動作主から何らかの呼称を付与され、行為実行後はその呼称を持ったものとして扱われる。この点で、「意義」を付与される (I 意義づけ型) にも通ずるところがある。

(218) AA 呼称型

対象=受影者	動作主	名 称	呼 称	呼ぶ行為を受ける
N - ガ SUB	AN - ニ COM	N - ト	N - トイウ名デ COM	呼称 V - ラレル

「わたしは初めて良子にお母さんと呼ばれた」
呼ばれる、称される、名づけられる、言われる、etc.

上の構造提示からもわかるように、AA 呼称型の要素となる動詞は非常に少ない。また、動作主が特定の個人である AA 呼称型の用例はほとんどなく、頻度も非常に低いと言える。次の例は、わずかな実例の一部である。

- (219) 「日本の方には、私の名前は舌を噛みそうなくらいに言いにくいって、マサコに教えられました。みんなは、私をシギイと呼びます。しかし、私はまだあなたに、シギイと呼ばれたくあり

- ませんねエ」(ドナウ)
- (220)「嫂と呼ばれながら、あなたには何もしてあげられなんだと思うてのし。すまんことでござりましたよし」(華岡青洲)⁴⁹

次の例は、「N・トイウ 言い方を される」という受身文だが、これも意味的には AA 呼称型である。ただし、主語はもとの能動文の相手ニ格である。

- (221)「武田君なんて言い方されると照れるな、いつもの呼び方でいいのに」(冷静と情熱)

AA 呼称型の周辺と他のタイプ

AA 呼称型は動詞の生産性のみならず、個別具体的な動作主の場合、頻度もかなり低い。また、「N・ヲ 呼ぶ」という連語は、奥田(1968・72)でも、〈表現的な態度のむすびつき〉の中で簡単に扱われているのみである(同:p.128)。にもかかわらず、あえてこの構造を1つのタイプとして立てるのは、動作主が不特定多数の一般の人々になると、格段に頻度が高くなるからである。特に、非情主語の場合、動作主が不特定多数の一般の人々である呼称の受身文タイプの頻度は非常に高く、これは〈I 社会的呼称型〉として I 習慣的社会活動型の1タイプとして立てた。

- (222)鮎太は誰からも、シンドウ、シンドウと呼ばれていた。梶とも、鮎太とも呼ばれなかった。「神童」という言葉がそのまま鮎太の綽名になったのである。(あすなろ.地)〈AA 呼称型〉
- (223)つまり、きわめて単純な形のインパルスとよばれる信号が網の中を走りまわっているのです。(記憶)〈II 社会的呼称型〉

次のような、「名前を 呼ばれる」という表現は、対象に呼称を付与し、その呼称で扱うという態度ではなく、より物理的動作が表わされている。その証拠に、「*彼女は名前と呼ばれた」という文は存在しない。こうした例は、物理的接触はないものの、対象を変化させない動作である点で、「彼女は肩を叩かれた」のような AA 接触型 (AA 無変化) にむしろ近い。本報告では、AA 接触型の周辺例に位置づけた。

- (224)「[前略]今から旗手と補助を指名するので名前を呼ばれた者は前に出る」(自転車 of 夏)
- (225)栄二がなにか云おうとしたとき、廊下から名を呼ばれ振り返るとおすえがいた。(さぶ.地)

1.4.5 AA 評価動作的態度型「私は兄にいじめられた」

〈AA 評価動作的態度型〉とは、主語が与影者である動作主から何らかの評価を伴った扱いを受けることが表わされる。主語に立つのは原則として有情者だが、有情者の広義所有物が主語に立つ場合もある。

- (226) AA 評価動作的態度型

a:

対象=受影者	動作主	所有物	評価的処遇を受ける
AN・ガ SUB	AN・ニ/カラ COM	(IN・ヲ)	評価的処遇 V・ラレル

「和夫は兄にいじめられた」「和夫は、提出した企画書を部長に笑われた」

b:

評価的処遇の仕方			
N・ガ	AN・ニ/カラ	N・ニ/ト/トシデ/Adj 連用	処遇/選択/例示 V・ラレル

「和夫は祖父母に大事にされて育った」

【個別有情行為者】

評価的処遇動詞：いじめられる、いたぶられる、いびられる、笑われる、なめられる、かわい

⁴⁹ これも動作主は特定の個人だが、個別一回の事態というより、習慣的な事態である。

がられる、甘やかされる、チヤホヤされる、ふられる、放っておかれる、見放される、捨てられる、見捨てられる、出し抜かれる、からまれる、胡散臭がられる、こき使われる、追い使われる、利用される、操られる、翻弄される、差別される、邪魔される、敬遠される、敬礼される、歓迎される、世話される、表彰される、スカウトされる、世話される、かまわれる、助けられる、救われる；だまされる、あざむかれる、裏切られる、はめられる、慰められる、脅される、誤魔化される、心配させられる、悲しまされる、惑わされる、ばかされる、くどきおとされる、ときふせられる、言いくるめられる、やりこめられる etc.

処遇/選択/例示動詞：される、扱われる、操られる；選ばれる、推される、採用される、決められる、登録される、承認される、指名される；例えられる、なぞらえられる、見立てられる、あてはめられる、数えられる、間違えられる、etc.

AA 評価動作的態度型の要素となる評価的処遇動詞は、対象へのプラスかマイナスの評価的態度が、認識にとどまらず動作となって現れることを表わしている。また、下位構造 b のように、「大事にされる」など、評価的態度を含んだ形容詞や形容動詞、名詞の二格ないしト格・トシテを伴った処遇ないし選択、例示動詞（0 も、AA 評価動作的態度型を構成する。

以下、実際の用例を見ていく。まず、有情主語の例を挙げる。最初に挙げるのは、基本構造 a の評価的処遇動詞が要素になった例である。

- (227)「あんたのパンチ、ひとつも入ってないよ。もっと強い人とやったら、笑われるよ。やめて、みっともないから」（一瞬の夏）
- (228)「金の切れめが縁の切れめ、つてのはね、あれはね、解釈が逆なんだ。金が無くなると女にふられるって意味、じゃあ無いんだ。〔後略〕」（人間失格）
- (229)「しかし女が医者のような殺伐な仕事をしたいなどと言えば、親兄弟から見放されるであろう」（花埋み）
- (230)そしたら姓が違うから こんなホテルだと、うさん臭がられて断られるかもしれないよ。（ドナウ）
- (231)「手に職をつけてもらうのは慥かだが、遊んでるわけじゃあねえ、小せえじぶんから手足にひびあかぎれをきらし、汗だくになって追い使われてきたんだ、〔後略〕」（さぶ）
- (232)俺はもうこんなことやってるのが、いやになったんだ。あのじいじに操られて、うっかり始めたが、もう沢山だ——〔後略〕（野火）
- (233)たぶん、女遊びもしたことのない弟は、男には海千山千のその種類の女に翻弄されて、心中をせがまれたに違いありません。（点と線）
- (234)たとえば、日本では嫁姑の問題は「家」の中のみで解決されなければならない、いびられた嫁は自分の親兄弟、親類、近隣の人々から援助を受けることなく、孤軍奮闘しなければならない。（タテ社会）
- (235)「（首を^{すく}竦め）ドタキャンされちゃった。仕事だからって……」（砂の上の恋人たち）
- (236)「婿に出したのだと思えば、あれこれと若いあなたたちに過分な期待をしなくてすむから、裏切られることもありませんしね」（結婚式）
- (237)あなたは男に惑わされているのです、その男はあなたを弄んでいるのです」（花埋み）
- (238)「俺は、ある日突然、人からだまされるようになった。ある日突然にだ。自分でもあきれるくらい、見事にだまされ始めた。不思議だな。何かの悪霊に取りつかれたとしか思えないよ。俺より百倍も頭の悪い連中に、まんまとはめられた。うぬぼれてたんだな。きっと俺は、うぬぼれてたんだ」（ドナウ）

動作動詞が慣用的に〈AA 評価動作的態度型〉を表わすこともある。

- (239)「まったく覚えのねえぬれぎぬをきせられて、十年も勤めた店を追い出され、ひと言のいい訳

- もきいてもらえなかったのかとなった、[後略]」（さぶ）
- (240) 彼は 相手が なに者だか知らなかったが、唾を吐きかけられた 目明し は怒り、十手でさんざんに打ちすえたのち、子分の者に榮二を縛らせ、足蹴にしたり、手桶の水をぶっかけたりして突き転がした。（さぶ、地）
- (241) 「あなたに手を合わされても、ひとみは喜ばない」（砂の上の恋人たち）
- (242) ……まして突き倒されるなんてことは……。 あたしは、こういう目に会わされて、黙って忍従できる女ではありません。（楡家）
- (243) 「亭主が死んで、とたんにむくむく肥り出したわけだねえ。まるで家の中いっぱいになるくらい膨れ上ったんだが、とすると、亭主にさんざん抑え付けられていたんだなあ」（植物群）
- (244) 「そう、やめます。僕にもプライドがあります。プライド壊されたよ」
「内藤にですか？ どういうことなんです、エディさん」（一瞬の夏）
- (245) 「えらい剣幕で出てったのに、帰ってきたら、ひどくしおれてる。麻沙子さんに、相当とっちめられたんだなあ」（ドナウ）

次に、評価的態度を含んだ処遇の仕方を表わす形容詞や名詞を伴った処遇動詞（下位構造 b）の例を見ていこう。ここでも、「笑ひ者／のけ者／ダシにされる」、「相手にされない」など、かなり慣用的なものもある（波下線は処遇の仕方）。まず、名詞が二格やト格に現れた例を挙げる⁵⁰。

- (246) 「そのほかに道はねえ、ぬすつとにされたまんまで生きちゃあいかねえ、生きていかれるもんか、おらあきつと儲かめてみせるぞ」（さぶ）
- (247) 上級生と下級生と一緒にされてたまるもんじゃない。（楡家）
- (248) そうしたおりょう婆さんに関する風評は、何となく、子供の鮎太の耳にも入っていたが、どうして村人が祖母のことを悪く言うのか、その理由はよくは納得行かなかった。
「すっかり坊は人質に取られて、喰い物にされとる！」（あすなろ）
- (249) ラウマーを使つてのじか談判とは別に交渉の仲立ちにされたのはベルリンの日本大使館で、武者小路はその後ドイツ側と度々折衝の末、山本一行出発の前日、ロンドンの日本大使館へ電話をかけて来た。（山本、地）
- (250) 「文太郎さん。なんぼなんでも、赤ちゃんが生れるっていうのに自分の女房にさんをつけて呼ぶのはおかしいからやめたらどうでしょう。花子だって、さんをつけられるより、呼び捨てにされたほうが気楽でいいにきまっています」（孤高の人）
- (251) 鮎太は、勉強はしていなかったが、黙って大学生の方へ傾いてみせた。急に自分が大人扱いにされているような変な気がした。（あすなろ、地）⁵¹
- (252) 喫茶店で映画会社重役の目にとまりニューフェイスに推されたという高倉健は、そのままスター街道をのぼりはじめた。（毎日）
- (253) 彼らは院長夫妻と明瞭に血のつながりを持っている人たちなのだ。しかし、彼らはまだ書生の部類に数えられ、書生と似たような生活を送ってきたのだ。（楡家、地）
- (254) 「井村はね、この前、痴漢と間違えられて、いや痴漢になりかかって警官に掴まったよ」（植物群）

次に、同じ下位構造 b で形容詞ないし形容動詞が評価的な態度を表わしている例を挙げる。

⁵⁰ ここに挙げた二格やト格の名詞を伴う処遇動詞や選択動詞の例は、当初〈被意義づけの態度型〉として非情主語受身文の〈意義づけ型〉と同じタイプに扱っていた。しかし、有情主語で個別一回的な事態の場合には、やはり何らかの評価性を帯びることがほとんどであるため、有情主語の〈被意義づけの態度型〉は〈AA 評価動作的態度型〉へ分類し、非情主語の同タイプは〈意義づけ型〉として、〈判断型〉とともに〈態度型〉に位置づけた。

⁵¹ この受身文の「大人扱いにされる」は、「大人に扱われる」という「意義づけ」の連語に相当すると考えられる。

(255) 榆家って家は、本当に冷たい、たとえようもなく冷たい家ね。上の者は、質のいい人たちは大事にされるわ。でもそれは愛情じゃなくって、功利的なだけなのよ。(榆家)

(256) それでも、こんなふうに無下に、冷淡に扱われると、人間である以上必然的に一種の……たとえてみれば人とも世とも距てられたというような感情を抱きたくなりますよ。(榆家)

(257) そのメダルが、若いボクサーに軽くあしらわれ、涙を浮かべながら引退の十点鐘に聞き入っている。私は顔をそむけた。(一瞬の夏.地)

次の例は、「鼻であしらう」というむすびつきが慣用的で、このむすぎつき全体が評価的態度を含んでいる。

(258) どうやらぼくは鼻であしらわれたらしい。あらかじめ彼は用意して待っていたにちがいないのだ。(裸の王様.地)

最後に、非情主語の例を挙げる。非情主語の例は、次に挙げる8例のみである。これらは、すべて主語が有情者の広義所有物と考えられ、益岡(1991a)の潜在的受影者のいる受身文である。

(259) 「やはりあなたの場合、特に今となってはそこまではつきりと徹底した考えをお持ちになった方が、何もかも常に『彼女』によって操られているのではないかという不安定な感情を抱かせるお疑いから脱け出すことがおできになるのではございませんかな。[後略]」(エディプス)

(260) 「ふむ、それは一応筋がとおる。わたしも日教組に牛耳られている現在の高校教育というものには根本的に疑問があるとおもっている。文部省も文部省だが……」(聖少女)

(261) 将来、国境を越えた取引や決済が単一の電子マネーで行われるようになると主権国家の通貨発行権が脅かされる。(毎日)

(262) とかく外国製品が高くて故障しやすいのにひきかえ、安くて品質のいい日本製品は、世界中の消費者から“熱烈歓迎”されている。(ゆとり)

(263) 「前の課長も君の企画を会議に出すことは出したらしいがね、山持ちの県会議員に一蹴されたいらしいよ。これは局長も文句をいえやしない。[後略]」(パニック)

(264) 一九一七年八月に参戦した中国は、戦勝国として講和会議に代表を送り、それまでの不利益を一扫しようとした。[中略]しかし、中国側の要求はほとんど無視されてしまったのである。(二十世紀)

(265) 新たにトライアスロン、テコンドーを加えた28競技に、世界約200の国・地域から1万人以上の選手が集まる大会は、スポーツ好きで知られる豪州の人々に見守られ、華やかに盛り上がりそうだ。(毎日)

(266) しかし君の好きな美的なものは、認識に守られて眠りを貪っているものだと思わないかね。(金閣寺)

AA 評価動作的態度型の周辺と他のタイプ

〈AA 評価動作的態度型〉は、〈AA 感情=評価型〉とよく似ている。いずれも、動作主の対象に対する評価的な態度を表わしている。違いは、前者がその評価的な態度を動作として表わすのに対し、後者は認識的な態度にとどまっている点である。こうした意味の違いは、対象になる名詞句の特徴に表れているようである。AA 評価動作的態度型では、不特定一般の人々が動作主である習慣的な事態でも、通常非情物が主語に立つことがなく、すべて有情者=受影者の広義所有物としての非情物のみである。これに対し、感情=評価的態度動詞では、個別の動作主の一回的な事態としては用例が少ないが、不特定一般の人々の習慣的な活動としては、通常非情物が主語に立つことも少なくない。こうした受身文は、I 習慣的社会活動型の〈I 社会的評価型〉に位置付けた。

- (267) ダイヤモンドは、自然にある物質の中でもっとも硬い物質であり、硬さの程度を表わすモース硬度でいえば、硬度10である。無色透明で、光の屈折率が大いので、みがくとキラキラと輝き、宝石として尊重される。(化学)
- (268)近年は、脳の話がもてはやされる傾向がありますが、人間の行動や精神活動が脳という物質の現象として説明される科学性に新鮮さが感じられるからでしょう。(記憶)
- (269)規制緩和や自由競争が声高に叫ばれ、能力主義が尊重され出した昨今の時代風潮に対し、「日光」が「共存」のメッセージを伝えている、と見ている。(毎日)
- (270)放送のデジタル化は衛星放送に始まり、さらには、わが国で最も慣れ親しまれている地上波放送についても21世紀早々にはデジタル化されることが決まっている。(毎日)

このように、AA 評価動作的態度型には、動作主が不特定一般であっても、通常の非情主語の例が見つからなかった。よって、AA 評価動作的態度型においては、不特定一般の人々が動作主である受身文を非情一項受身文の〈習慣的社会活動型〉として立てることはしなかった。

次の例は、もとは位置変化 (AA 位置変化型)を表わすものだったと考えられるが、「(大事にされずに)見捨てられる」のようなAA 評価動作的態度型に移行しているだろう。

- (271)「母さん、ぼくたちに 置き去りにされるみたいに感じるかもしれないけど、この方がいいんだ。結果的には母さんを苦しめずに済むと思うよ。〔後略〕」(結婚式)

下位構造 b において、二格やト格に立つ名詞に特に評価性がない場合、単なる「意義づけ」を表わしていると考えられるが、個別一回的な事態にはこうした受身文が見つからなかったため、タイプとして立てなかった⁵²。しかし、動作主が不特定一般の人々になると、評価性に中立な例が見つかる。これは、**II 社会的意義づけ型 (I 社会)**である。

- (272)男子は10～14歳で元服、女子は裳着(もぎ)という式をあげ、成人として扱われ、結婚年齢は男15歳、女13歳前後だった。(毎日)
- (273)〔前略〕と、書かれているが、その温容がひと目で純真な子供の心をひきつけたのでもあろうか。一步教会堂へはいっただけで、たちまち日曜学校の教師に扱われたのは、後にも先にも永野信夫一人であつたろう。(塩狩峠.地)
- (274)本人は西欧への開放改革を行ったピョートル大帝を範としたとされるが、「大動乱の時代」へ導いた僭越(せんえつ)王ボリス・ゴドノフに例えられることも多かった。(毎日)

同じく下位構造 b において、選択動詞と共に起した二格名詞句が社会的地位を表わすと、**AA 社会的変化型 (I1 社会)**へ移行する。次の例がそうである。先の(249)の例は、「交渉の仲立ち」というのが社会的な役割であるので、意味的にAA 社会的変化型に少し近づいている。

- (275)太統領代行に指名されたブーチン首相については、「エリツィン路線を引き継ぐと言っており、対日政策が大きく変わることはない」(幹部)という見方が多い。(毎日)

次の例は、ラレテイル形でかつ主語の存在場所を表わす二格名詞を伴っている。これは**I 存在様態型 (I 存在)**へ移行していると判断した。

- (276)翌朝の朝刊には、××省課長補佐、佐山憲一の情死が大きく扱われていた。(点と線.地)

統計を取ったデータではないが、評論文テキストに次のような例が見つかった。この例には、動作主の対象に対する「評価動作的な態度」は読み取れない。こうした例の位置づけについては、今後、さらなるデータの分析が必要である。

⁵² ただし、(249)は評価性に中立と言えるかもしれない。

(277)そこで、亜鉛が溶け出し、鉄は守られて、さびにくくなるわけである。(化学)

次のように、二格補語に非情物が現れることもあるが、これは背後にこの非情物を所有する有情行為者(=潜在的動作主)がいる例であり、周辺のではあるがAA評価動作的態度型に位置付けられる。

(278)「きょうは、その言葉にだまされそう。今夜の私、凄く寂しいんですもの」(ドナウ)

1.4.6 AA 接近的態度型「私はテンピラに追いかけられた」

〈AA 接近的態度型〉とは、主語に立つ有情者が動作主から近づいたり遠ざかったりする態度を受けることを表わす。AA 接近的態度型は、奥田(1960)の〈動作的な態度のむすびつき〉(p.263)における「対象にちかづいていくことを表現している」連語と「対象からとおざかることを表現している」連語を構成要素としている。

(279) AA 接近的態度型

対象=受影者	動作主	接近の態度を受ける
AN・ガ SUB	AN・ニ/カラ COM	接近 V・ラレル

接近動詞とは次のようなものである。ここには、動作主がみずから対象に接近していくことを表わす動詞(追う、つける等)から、対象の接近を動作主が受け止めることだけを表わす動詞(迎える、待つ等)、対象を包囲することを表わす動詞(囲む等)、対象から遠ざかることを表わす動詞(避ける等)などがある。

(280)追われる、追いかけられる、追いかえられる、追い込まれる、抜かれる、追い抜かれる、(後を)つけられる、ついてこられる、つけ回される、つけ狙われる、襲われる、見舞われる、迎えられる、訪問される、待たれる、待ち伏せされる、待ち受けられる、待たされる、マークされる、尾行される、狙われる、迫られる；囲まれる、取り囲まれる、取り巻かれる；さけられる、よけられる、やり過ぎされる、見送られる、etc.

奥田(1960)は、こうした動詞の対象(かざりになる名詞)は「一般的にいえば、具体名詞と現象名詞とにかざられている」(p.264)とするが、動作主が有情者であるAA接近的態度型の主語に立つのは原則的に具体名詞で、かつ有情者である。奥田(1960)の挙げている現象名詞の例には次のようなものがあるが、こうしたヲ格名詞が受身文の主語に立つとは考えにくい。

(281)倫は美夜の重態をみまいに病院にいていたが……(女・160)

(282)かれは自宅の方で……扇屋得右衛門のかえりをまちうけていた。(夜・225)

(283)……わたしは、いくどとなく夜あけをまちうける心にかえっていった。(侍・146)

(284)……一高の学生が一人あぐらをかいて……あつい日ざしをよけながら、岩波文庫らしいものをよみふけている。(寺・91)⁵³

ただし、行為者も非情物(現象)である場合は、〈II位置関係型(II関係)〉ないし〈II現象受身型(II現象)〉として、接近動詞の受身文の主語に非情物が立つことはある。

以下、実際の用例を見ていこう。

(285)夜道で男にあとをつつけられたので、恐怖のあまり幻覚を起した、と女は言った。(植物群.地)

(286)「犬がこわいといえば誰でもわらうが、僕は子供のころ、ふるさとの祭りの日に、狂犬に追

⁵³ 「女」:『女坂』(円地文子),「夜」:『夜明け前』(島崎藤村),「待」:『春を待ちつつ』(島崎藤村),「寺」:『寺田寅彦随筆集 第五巻』

- われて晴着の裾を噛みとられたことがあるのだ。[後略]」(驢馬)
- (287)「あたしひとりじゃ無理だわね。すぐにタクシーであとをついてこられたら、この道の狭いウィーンじゃあ、まけやしないよ」(ドナウ)
- (288)山を越えてやってきた兇悪な前科者だか脱獄囚だかに襲われ、殺されて山の中へ埋められているのではないとかね。(エディプス)
- (289)「人間はみんな他人をつけ狙うよ。精神病患者というものはよく何者かにつけ狙われるそうだね。[後略]」(楡家)
- (290)モリオリはポリネシア系の海洋民族で、13世紀ごろに海を渡って島に来たが、[中略]この日を選んで結婚した若いカップルが迎えられ、さまざまな先祖を持つ人々が一つになって新しい時代を祝福した。(毎日)

次にあげる動詞は、動作主が対象に対して「包囲」という特殊な位置関係で接近することを表わす動詞である。

- (291)「(見据えて) さっき、週刊誌の記者に囲まれた」(砂の上の恋人たち)
- (292)「まず、思想・哲学部会をつくりなさい」と言ったんですが、(設置に至らず) その部分が弱かった。非常に不満だった。中教審(中央教育審議会)を中心とする官・民の文部族に囲まれてできなかった。(毎日)
- (293)加恵は遅ればせに玄関に顔を出し、三和土に立って於継や妹たちに取囲まれている雲平を見た。(華岡青洲.地)
- (294)忽ちにして、運動場の真中で、雪枝は紺の制服たちに取り巻かれた。(あすなる.地)

包囲動詞では、行為者が非情物であることもある。

- (295)しかし、鮎太は、別に生活に不満はなかった。他人の眼にはどう映ろうと、結構祖母に可愛がられて育っていた。何年も祖母の皺くちやな両脚に挟まれて寝ていたし、夕食の時は、祖母から彼女が若い時祖父と共に行ったという日光や、身延山や、それから京大阪の町の話などを聞いた。(あすなる.地)
- (296)下田の婆やはといえば、そんなふうに争奪戦の間に挟まれ磔みたいに腕を引っぱられながらも、平気でたいそうの躰をかいて眠りこけた。(楡家.地)
- (297)気がつくと、いつの間にかコンピューターに包囲されているのに驚く。政府も企業も家庭もコンピューターに組み込まれてしまった。(毎日)

また、次の例は、対象から遠ざかるという接近とは逆の行為を表わす動詞であるが、これもAA接近的態度型に含めることにする。

- (298)澄江と、つる子はこわいものを見るように修一郎を避けた。それが修一郎にはわかった。刃物を握ってしのびこみ父を刺した以上、みんなから避けられても仕方のないことだ、と修一郎は考え、三十分ほどで出てきたのである。(冬の旅.地)
- (299)先ず床屋で鼻髭を落し頭を丸坊主にして、戦闘帽に巻ゲートルをはき、奉公袋をさげて妻や義兄に見送られ、福塩線の汽車に乗る。(黒い雨.地)⁵⁴

非情主語のAA接近的態度型は次の1例のみである。有情者の所有物が主語に立つ、潜在的受影者のいる受身文である。

- (300)「どういうことかな。どうしてこの絵だけが狙われたんだろう」(冷静)

⁵⁴ 「見送られる」という動詞は文末で用いられるよりも、「見送られて 移動Vスル」という外部構造で用いられることが多いようである。

AA 接近的態度型の周辺と他のタイプ

包囲動詞が、「AN・ガ 異性・ニ 包囲 V・ラレテイル」という構造で用いられると、「ちやほやされる、もてる」のような感情=評価的態度を帯びた意味を表わすようになる。ラレテイル形で習慣的な事態でもあるので、〈I 特徴規定型 (I 超時)〉にも近い。今回は AA 接近的態度型の周辺に位置づけた。

- (301)「おまえは幸福だよ。いつも女にとりまかれているからな。刺青をするときは痛いのか？」(冬の旅)
- (302)「俺には理解できないんだけど、こいつはやたらもててたな。いつも大勢の女性に囲まれていた」(冷静と情熱)
- (303)「ほら、国立の医大なんて女がいなくていいところでしょう。だからうちの姉ぐらいでも、男の人に追いかけて大変みたい」(女友だち)

超時的事態を表わす〈I 位置関係型 (II 関係)〉は、包囲動詞から構成される。「具体 IN₁-ハ 具体 IN₂-ニ 包囲 V・ラレテイル」という構造で、先行する変化が想定されなくなると、I 位置関係型へ移行する。先の(297)は、ラレテイル形でかつ行為者が非情物であるので、位置関係へ近づいているが、「いつの間にか」という副詞があるので、まだ先行する変化が想定されている。両タイプの中間に位置しているが、〈AA 接近的態度型〉に分類した。次の例は I 位置関係型である。

- (304)ロシア革命後、第二次世界大戦までの時期には、社会主義国家はソ連一国に代表されていたであり、そのソ連が資本主義諸国に包囲されていた。(二十世紀)
- (305)沖縄は日本本土をはじめ、現在の中国や朝鮮半島、東南アジアの国々との中継貿易が盛んだった。中国や日本に挟まれた小国の繁栄は、こうした海外貿易によって支えられた。(毎日)

さらに包囲動詞による受身文は、二格に現象名詞が立つと、〈II 現象受身型 (II 現象)〉を表わす。

- (306)月の光に見ると、僕等の舟は泡立った波に囲まれて、湾の中心を村とは反対の方角にやや押し流されて、ぼつんと孤立していた。(草の花.地)
- (307)金閣が見えはじめた。木立のざわめきに囲まれて、それは夜のなかで、身じろぎもせず、しかし決して眠らずに立っていた。(金閣寺.地)

「追われる、迫られる、駆られる、つきまとわれる、見舞われる」など、多くの接近動詞は、有情者ではなく非情物の二格名詞句と共に起することで、〈AI 心理・生理的狀態型 (AI 状態)〉へ移行する。

- (308)「主婦って大変なんですよ、旦那の世話に追われて、子供の世話に追われて.....[後略]」(砂の上の恋人たち)
- (309)ぼくは大田夫人がどれほどの必要に迫られてその質問をしたのか、はなはだあいまいな気がしたので、はぐらかしてしまった。(裸の王様.地)
- (310)それと同じに、私も最初の一、二行を書き記し、ふたたび茫然とした時間に見舞われる。(植物群.地)

2 AA 相手型（AA 相手）

〈AA 相手型〉は、対応する能動文では二格で標示される動作の相手が主語に立つ受身文である。AA 相手型には、次の 6 つのサブタイプを含めた。

- AA 譲渡型 「私は彼に手紙を渡された」
- AA 相手への動作型 「私は隣のおばさんに水をかけられた」
- AA 相手への発話型 「私は両親に東京に行くと言われた」
- AA 相手への提示型 「私は上司に計画書を見せられた」
- AA 相手への要求的態度型 「私は母親に庭の掃除を頼まれた」
- AA 相手への態度型 「私は両親に干渉された」

2.1 AA 譲渡型「私は彼に手紙を手渡された」

〈AA 譲渡型〉とは、主語に立つ有情者が動作主から対象の所有権（占有権）を譲渡されることを表す。AA 譲渡型では、対応する能動文における二格名詞である相手=着点の有情者が主語に立つ。

(311) AA 譲渡型

相手着点=受影者	起 点 = 動 作 主	対象=所有物	譲渡関係の変化を被る
A N・ガ SUB	AN・ニ/カ ラ COM	N・ヲ COM	譲渡 V・ラレル

「わたしは彼に手紙を手渡された」 【個別有情行為者】

〈AA 譲渡型〉には、次のような動詞が用いられる。ただし、ここに挙げた動詞がひとしく〈AA 譲渡関係型〉の要素となるわけではない。〈被譲渡関係型〉の要素となりやすいか否かは、主語に立つ有情者の「相手」としての対象性の高低にかかわる問題だろう⁵⁵。

- (312)与えられる, 贈られる, 渡される, 引き渡される, 受け渡される, 売られる, 貸される, 譲られる, 預けられる, 恵まれる, ささげられる, 戻される, 返される, 授けられる, 配られる, 払われる, 寄せられる, 託される, あてがわれる, ふるまわれる, 供給される, 提供される; 負わされる, 科せられる, etc.

例えば、「売られる」などは有情者が主語に立って具体物がヲ格に立つ受身文は手元のテキストには見当たらない。具体物がヲ格に立った受身文には、はた迷惑の意味が読み取れる。

- (313)a. 和夫は良子に辞書を売った。
b. 良子は和夫に辞書を売られた。

有情主語受身文の「売られる」のヲ格対象には「喧嘩／恩を売られる」といったかなり慣用的な組み合わせの受身文が見られた。

奥田（1968・72）も述べているが、譲渡関係を表わす動詞は、位置変化動詞が二格に場所名詞ではなく有情者をとることによって譲渡の意味を獲得したものが少なくない(波下線は対象)。

- (314)万全の準備をしてから、加恵は夫に与えられた薬湯に口をつけた。(華岡青洲・地)

⁵⁵ また、所有関係を表わす動詞は「譲渡 vs. 奪取」の関係がそれぞれ独立の動詞として存在するものが多く、受身文が果たしている機能の一部をこうした動詞が担っているために、受身文の使用が制限されているということも考えられる。「預ける vs. 預かる」「授ける vs. 授かる」「やる vs. もらう」「売る vs. 買う」「貸す vs. 借りる」など。

- (315)隣の内儀の家からは塩引の鮭を差し入れられて、ぎんは淋しいが、食べる方は結構見劣りしない正月気分を味わった。(花埋み.地)
- (316)「お茶汲みだけじゃないのよ。キャッシュカードを渡されて、銀行へ行くのよ。そして課長や部長のキャッシュをとってくるの。[後略]」(結婚式)
- (317)韓国のコミッションからの正式な招請状だった。
「今日、事務局に届いたそうだ。今、そうやって手渡されたんだけどね」(一瞬の夏)
- (318)草下萌子が泣いたのは、「彼」が自分の愛を受け入れてくれなかった悲しみのためではなく、第三者のいる前で手紙を突っ返されるという思いがけない出来ごとに出会った衝撃や、恥をかかれ誇りを傷つけられた怒りのためであったろう。(エディブス.地)
- (319)大学出の幹部候補生は、若いうちから美人秘書つきの個室をあてがわれ、工場の現場へはやって来もしない。(ゆとり)
- (320)吉川が帰るとすぐに、信夫は、待子の夫から贈られた聖書を開いた。(塩狩峠.地)

奥田(1968-72)も述べているが(p.87)、「あたえる」という動詞は、抽象名詞とも自由に組み合わせる。

- (321)山ばかり行っている文太郎を人並みの人間にしてくれと、花子に遺言して死んでいった父のことを思うと、彼が山が好きだということが、彼の周囲の者に異常な心配をかけていることになり、それが父のいうところの人並みでない人間としての評価を与えられるのではないかとおもった。(孤高の人.地)
- (322)はたして、その後、石田部長から商売上の便宜を与えられました。(点と線.地)

AA 譲渡型の周辺と他のタイプ

次の位置変化動詞による例は、「人・ガ モノ・ヲ 出される」という構造になっている。これは、対応する能動文で、二格の譲渡相手が主語に立った受身文と見なし、AA 譲渡型に分類した。

- (323)「ゆでたままのジャガイモを、皿にひとつポコンとつけて出されたときと、そのジャガイモをすりつぶし、グリンピースや、角切りにしたにんじんをまぜて、体裁よく出されたときとでは、われわれの食欲がちがう。[後略]」(ブンとフン)

次の例は、有情者主語の〈AA 譲渡関係型〉と非情物主語の〈I 所有変化型〉とのコンタミネーションであろうか。ガ格で標示されるべき有情者が二格で現れている。

- (324)多市、重七、五郎の三人には、それぞれ自分ひとりの四帖半を与えられているが、こっちの五人はなにもかもこみで、衣類や日用品、蒲団や持物なども、三間の戸納に仕切りがあって、その中へ入れるようになっていた。(さぶ.地)

所有変化を表わす動詞の基本的なもの⁵⁶は、心理的状态や生理的状态を引き起こすことを表わす表現に用いられることが少なくない。ヲ格に有情者の心理・生理を表わす名詞が立ち、心理・生理的状态を引き起こした原因は非情物の行為者として二格に現れる。次の例は〈AI 心理・生理的状态型(AI 状態)〉である。

- (325)はじめて夫人が太郎をぼくのところへつれてきた日のこと、山口に対してしんらつでの確な評を一言下したこと、川原へ太郎をつれだすときに言葉とはひどくうらはらな、なぜやいな違和感をあたえられたこと、そして夜ふけの広場がかいまみた眼の異常な輝きと酒の霧。(裸の王様.地)

⁵⁶ ある動詞カテゴリーの基本的な動詞とは、その語彙的な意味に動作様態の修飾がより少ない動詞である。例えば、「きざむ」や「切り裂く」などに対して「切る」という動詞はより基本的である。

また、ヲ格に「病気・疾患」を表わす名詞が立つ「病-ヲ うつされる」という例は、〈AA 生理的变化型 (AA 変化)〉に移行しているものと見なした。

(326) 私の体にはまだあの人からうつされた病毒が巣食っているのだ。(花埋み.地)

2.2 AA 相手への動作型「私は隣のおばさんに水をかけられた」

〈AA 相手への動作型〉とは、主語に立つ有情者が相手着点として、動作主が物理的に対象を位置変化させる動作を受けることを表わす。

(327) 相手への動作型

相手着点=受影者 A N 1・ガ	SUB	動作主 AN2・ニ	AN1の部分 (N・ニ)	対象 具体 N・ヲ	位置変化 V・ラレル
---------------------	-----	--------------	-----------------	--------------	------------

「わたしは隣のおばさんに(足に)水をかけられた」

(水を)かけられる, (石を)ぶつけられる, 差し出される, (服を)着せられる, (口紅)をぬられる, (化粧を)ほどこされる, (指輪を)はめられる, (銃口を)向けられる; 背中にシールを貼られる, 口に棒をつっこまれる, 頬に手をあてられる; 仕事を押し付けられる, 麻酔をかけられる, etc.

次のような実例がある。

(328) 子供は画で現実を救済しようとしているのに傷口をつつきまわされ、酸をそそがれたような気持ちになってしまう。(裸の王様.地)

(329) 「……上田さんの息子のトオルくんに石を投げられました。お父さんは嘘つきだ、って……」(砂の上の恋人たち)

(330) 金釘流というより、塩をぶっかけられたなめくじが、己の身の溶けていくのを知って愕然とし、のたうちまわっているような筆の運びだった。(ブンとファン.地)

(331) 四台の電車に不快な熱風をかけられた後で、ようやく遮断機が上がった。(一瞬の夏.地)

(332) ある老婆は、差し出されるマイクに向かって、目に涙を浮かべながら、こう語っていた。(ブンとファン)

(333) 加藤は金川義助から投げられた黄色いテープを偶然のように受け止めた。⁵⁷

(334) 門礼の後に立っていた加恵は、まさか自分にまで於継が気付くとは思わなかったのも、彼女の視線がびたりと自分の眉間に据えられたときは、小太刀の先を当てられたように緊張し身動きもできなかった。(華岡青洲.地)

(335) まるで体じゅうの神経という神経に憎悪のやすりをかけられているような気がしたのだ。(世界の終わり.地) ⁵⁸

次のように、ヲ格の対象が動詞の語彙的な意味の中に含まれていることもある。

(336) 「……突然死んで……骨にされて……埋められて……出られないように重石されて……」(砂の上の恋人たち)

基本的に、AA 相手への動作型の主語に立つのは有情者で、着点場所であるモノが主語に立つことは原則的にならないと考えるが、用例がないわけではない⁵⁹。もっとも(339)は擬人化されて

⁵⁷ この例は、連体修飾に現れているため、着点ニ格との混同を避けるためか、動作主にカラ格が用いられている。

⁵⁸ この例は、主語に立つ有情者の部分である名詞句が内面の心理に関わる名詞句であり、物理的な動作とは言えない。〈心理・生理的状态型〉へ移行していると見なすべきだろうか。

⁵⁹ 村上 1997 でも次の一例のみが見つかったとされている(同: 132, 例文の傍線は本稿の例文と同じになるよう

いると考えられる。

(337) 竈の火はとうにかきだされ、水をかけられて黒い焼木杭になった薪が、コンクリートの床の上でまだぶすぶすと煙をあげていた。(榆家.地)

(338) 左手の、階下は、階上の珊瑚の間を含む一郭は明治の末に建てまされたものであったし、裏手につづく病棟に至っては増築につぐ増築を加えられていた。(榆家.地)

(339) いやいや、右手の塀は今しがた基一郎好みの化粧をほどこされたところなのだ。煉瓦の表面に、洩れなく酸化第二鉄、つまり紅殻が塗られ終ったところなのである。もちろん左手の塀もこれから紅を加えられようとしているのだ。(榆家.地)

AA 相手への動作型の周辺と他のタイプ

「罵声を浴びせられる」などは、構造上は〈AA 相手への動作型〉に似ており、AA 相手への動作型から派生したものであるが、相手への感情=評価の態度を言語活動で表すことを意味する名詞がヲ格に立っていることから、〈AA 表現的態度型 (AA 態度)〉へ移行している。

(340) [前略]さぶはあるきだしながら、小舟町のへ奉公に来てから三年間の、休む暇もなくあびせられた小言と嘲笑と平手打ちのことを語った。(さぶ.地)

一方、「口を挟まれる」「頭を下げられる」など、ヲ格に動作主の身体部位が立ち、ヲ格と動詞とのくみあわせ全体が相手=受影者への動作的態度を表わす受身文は、〈AA 相手への態度型 (AA 態度)〉へ移行している。

(341) 「おれ」は人に干渉なんかされたくないんだ。***さん（と私の姓を呼んで）に口を出される覚えはないよ。」(草の花)

(342) 彼はもう十五年この病院で飯を炊いていて、おまけに御多分にもれぬ一刻者、ちょっとしたことでも他人に口に入れられることは容赦できない臍曲りだったのである。(榆家.地)

次の例はまだ AA 相手への動作型かもしれないが、相手への評価的態度をすでに含んでいるとも解釈できる。その場合は、〈AA 相手への態度型 (AA 態度)〉へ移行するだろう。

(343) 彼は相手がなに者だか知らなかったが、唾を吐きかけられた目明しは怒り、十手でさんざんに打ちすえたのち、子分の者に榮二を縛らせ、足蹴にしたり、手桶の水をぶっかけたりして突き転がした。(さぶ.地)

2.3 AA 相手への発話型「私は親に東京に行くと言われた」

〈AA 相手への発話型〉とは、主語に立つ有情者が発話の相手として、相手の動作主から、何らかの発言内容をともなった言語活動を受けることを表わす。〈AA 相手への発話型〉は、会和文テキストにおいて、最も頻度の高いタイプである。このタイプは、奥田(1968・72)の〈通達のむすびつき〉(pp.108-112)に対応しているのだが、奥田は〈通達のむすびつき〉の構造的な特徴として、話し相手を表わすニ格名詞が要素となることを述べている。〈AA 相手への発話型〉は、能動文におけるこのニ格の有情者=話し相手を主語にした受身文である。また、〈AA 知的認識型〉同様、ヲ格に抽象名詞ないし節が立ち、これが発話内容を表わす。

修正した)

・僧侶の読経があって、それがすむと、窓は四方の角に紐をつけられて、大きな穴の中に落とし込まれて行った。(しろばんば 225)

(344) AA 相手への発話型

発話相手=受影者	動作主	発話内容	発話行為を受ける
A N・ガ SUB	AN・ニ/カラ COM	抽象 N・ヲ／引用節・ト	発話 V・ラレル

「わたしは親に将来のことを聞かれた」「わたしは彼にもう会いたくないと言われた」
 発話動詞：言われる、聞かされる、知らされる、告げられる、うちあけられる、告白される、
 話しかけられる、聞かれる、訊ねられる、教えられる、相談される、etc.

さて、このタイプは、奥田（1968-72）の〈通達のむすびつき〉の連語を構成要素とするわけだが、〈通達のむすびつき〉に挙げられている動詞が等しく〈AA 相手への発話型〉に現れるわけではない。奥田（1968-72）には、上の 0 に挙げた動詞のスル形のほか、「はなす、かたる、ものがたる、のべる、しゃべる、とく」などの二格の相手を補語にとる動詞が挙がっている。しかし、これらの動詞が二格の相手を主語にした〈AA 相手への発話型〉に現れることはまれである。これは、二格で示された相手の、対象性の高さの差に起因していると考えられる。つまり、発言の行為が向かう相手としての対象性が高い有情者ほど、〈AA 相手への発話型〉の主語に立ちやすいということだろう。

まず、発言内容がヲ格（もしくはニツイテ）の抽象名詞で現れた例から見てみていく（波下線は発言内容）。この構造には、尋問を表わす動詞が多く現れる。

- (345)「りんりってなんですか。むずかしい言葉をいわれてもわかりませんよ」（冬の旅）
 (346)自分の出生のときは何一つ天変地異に類するものは起らなかったのか、加恵は自分が生れたときの話を聞かされていないことに気がついた。（華岡青洲.地）
 (347)「いるわ。結婚してから三十年間、自分がどんなに我慢してきたかを、面々と聞かされてるの」（ドナウ）
 (348)「前略こんどのことは、『小雪』さんから電報で知らされて飛んできたのですが、まったくかわいそうなことをしたと思います」（点と線）
 (349)「漢字で愛していたの？ 平仮名であいしあっていたの？」
 「未結にもおなじことをきかれましたね。両方ですよ」（聖少女）
 (350)鮎太は夕食の御馳走になった。家のことや学校の様子などを、品のいい口調で母親から訊ねられる度に、鮎太はそれに対して上手に答えるように努力した。（あすなる.地）
 (351)まだ明治神宮も存在しない当時の青山五丁目一帯の人々にとって、楡病院はすでに一つの名所、一つの目印ともなっていたのである。人々は家の在処を尋ねられたときにこう答えた。（楡家.地）

次に、発言内容が引用節で現れた例を見ていく。

- (352)エディさんがよそのジムに行っちゃうと、これとこれをやっておきなさいと言われても、うんと言うだけで実際にはやらないんだ。次の日、練習したって訊かれると、したよとか調子よく答えてね。（一瞬の夏）⁶⁰
 (353)「会って、いったい何を言えればいいのかな。向こうには新しい家族もあることだし、それに私は捨てられたわけじゃない。なのによ、もしも無理して会いに行って、来ないでほしかったなんて言われたら、もっと悲惨じゃない」（冷静と情熱）
 (354)彼女はぼくから太郎を写生に借りたいと聞かされて、たいへんよろこんだ。（裸の王様.地）
 (355)これは新発見であった。大田夫人からも山口からもぼくは太郎が田舎にいたことがあるなどとは一言も教えられていなかった。（裸の王様.地）

⁶⁰ 後で述べるように、前者の用例は発言内容が命令形であるので、〈AA 相手への要求的態度型〉に限りなく近づいている。

- (356)「圭一さんに言われたの。朗さんは、本当のことを知ってしまったから、私から心が離れたはずだ、って……」(砂の上の恋人たち)

発言内容を「そう、そんなこと、そうまで」で受ける場合もある。

- (357)「大事な友だちに、自分の使い古した女を払い下げるの？」

「そう言われちゃ身もフタもないよ」(結婚式)

- (358)「賢過ぎる女も、愚か過ぎる女も、人生を劇のようにには生きられないって。それから何度も、忘れ物はない？ そう念をおされたわ」(ドナウ)

- (359)「[前略]それからタバコもやめたほうがいいね。はじめてキスしたとき男の子としてるような感じだったよ」

「そんなこといわれるとちょっぴりかなしいわ。[後略]」(聖少女)

- (360)「いい加減でほっぽり出したらいいじゃねえか。ああまでいわれながら、彼奴の世話をする義理もねえだろう」(野火)

このように、〈AA 相手への発話型〉は構造上、原則的に発言内容を表わす語／句／節を補語／補部としてとるが、「ガミガミ言われる」など様態の副詞を伴ったり、「意見される、告白される」など言語活動の様態がその語彙の意味によってより限定された動詞では、発言内容を表わす要素が現れないこともある。

- (361)「[前略]自分でお料理をつくって、ちゃんと暮らしてるのはそれだけで立派よ。私なんかおかあさんに毎日ガミガミ言われてるけど何もできやしない。本当よ」(女友だち)

- (362)「さっき電車の中で喧嘩をしていたろう。あれはね、彼女が家からやかましく言われて、厭な男と結婚を迫られているからなんだ。[後略]」(金閣寺)

- (363)「慥かに、あつしは銭箱から銭をぬすみましと」と栄二は続けた、「[中略]けれども、おかみさんにみつかって意見されてからは、一度もそんなことはしなかったし、——おかみさんは、このことは誰にも云わないからと、はっきり約束してくれたんですよ」(さぶ)

発言内容も様態の副詞も伴わない場合は、「言われたトオリ／言われるママニ 意志 V スル」といった外部構造の中で用いられるのが普通である。後続の「意志 V スル」は、主語の有情者が言われた発言内容を動作に実現させたことを表わしている。動作主=与影者に何らかの動作を実行に移すように要求されたことが表わされている点で、これらの受身文は〈AA 相手への要求的態度型〉に一步近づいていると言える(波下線は実現した動作)。

- (364)「[前略] あたしはあんたに云われたとおり、金杉のうちへ帰ってたわ、ええ、あんたの荷物やお金も金杉のうちで大事に預かってます」(さぶ)

- (365)しばらく応接室で待っていると太郎が小学校から帰ってきた。彼は部屋に入ってきてぼくを発見すると、おどろいたように顔を赤らめたが、夫人にいわれるまま、だまってランドセルを絵具箱にかえて背にかけた。(裸の王様.地)

- (366)「さあ、真直ぐに歩いて行くの。背後を見たら諾かないわよ」／ と冴子は言った。背後に何があるか、何者がいるか知らないが、鮎太は冴子に言われるままに、素直に一度も背後を振り向かないで歩いて行った。(あすなる.地))

ただし、小説の地の文には、次のように発話の鍵括弧を受けて、発言内容が省略された受身文が見られる。

- (367)「お前は心配しなくともよい。大丈夫です」

言われるとぎんは本当に大丈夫なのだと思った。(花埋み.地)

- (368)「これから指一本触れないと誓いなさい。でないと諾かないから——」

言われた五年生は、口をもぐもぐさせていたが、他の一団の生徒と一緒に、後ずさりして行った。(あすなろ.地)

AA 相手への発話型の周辺と他のタイプ

発言内容が動作主の話し相手=受影者に対する動作要求的な内容になると、〈AA 相手への要求的態度型 (AA 態度)〉に限りなく近づく。このとき、構造は、-トで導かれる命令形／禁止形節、もしくは V-スルヨウという発言内容の形式をとる。

- (369)「大田のおやじさんに喧嘩するなっていわれてね、朝からあいつの顔やらこいつの顔やらたてるのに追われどおしさ」(裸の王様)
- (370)「[前略]たべたもんを、吐くのは、胃イがうけつけんさかいやて。あしたからな、お粥さんにして、胃イをあんまり働かさんようにしなさいいわれてきましたんや」(越前竹人形)
- (371)「ソヴィエトとも戦争になったんでしょう。ほだから、みんなですっかり頑張るように言われるんだよ」(楡家)

奥田 (1968-72) では、ヲ格の名詞が言語活動の素材的な対象ではなく、その内容的な質を特徴づける名詞である場合に、これを〈内容規定的なむすびつき (通達の内容規定)〉として〈通達のむすびつき〉を表わす連語とは区別している。〈内容規定的なむすびつき〉を構成するヲ格名詞には、「名前、小言、冗談、悪口、苦情、文句、お世辞、しゃれ、悔やみ、わび、うそ、不平、なきごと、意見、感想、日本語、英語」などが挙げられている (p.137)。この中で、「冗談／しゃれ／うそを言われる」などは特に評価性もなく、〈AA 相手への発話型〉とみなせると考えるが、「小言／悪口／苦情／文句／お世辞を言われる」などは、ヲ格名詞が動作主の主語に立つ有情者=受影者への評価を含んでおり、〈AA 表現的態度型 (AA 態度)〉へ移行していると考えられる。

- (372)「空気を入れ換えるよ。たてつづけに煙草を吸ったから、煙が溜まった。マサコにまた小言を言われる」(ドナウ)
- (373)「[前略] 商売人の慈善事業なんて誰も信用してくれませんかね。今度だって社員からずいぶんイヤ味だっていわれてるです」(裸の王様)

また、次のように「N・ヲ 評価 N/Adj-ト 言われる」という構造で、ト格に評価内容が現れているものも〈AA 表現的態度型 (AA 態度)〉に移行しているだろう (奥田 1968-72:128 参照)。

- (374)「行助は、自分の母を、女中だと言われて、あんなことを仕出かしたのです」(冬の旅)

「話しかけられる」「口答えされる」などは、言語活動を表わしているが、ヲ格名詞句をとらない動詞である。主語に立つ有情者は対応する能動文の二格の発話相手ではなく、二格の対象である。こうした受身文は、「干渉される、逆らわれる」などの〈AA 相手への態度型 (AA 態度)〉に近いが、本報告では〈AA 相手への発話型〉に分類した。

- (375) 自分の作りだした小説の中の人物に面と向かって口答えされたのは、フン先生としてははじめてのことである。先生はすこし腹が立ってきた。(ブンとフン.地)

次の「訴えられる」は本来《個人 vs. 個人》の言語活動を表わす動詞であったのが、二格の話し相手に社会的権力を持った組織が立つことで (「裁判所に 訴える」)、これが新しい意味として確立したもののだろう。ここでは、主語に立つ有情者は、対応する能動文における二格の話し相手ではなく、ヲ格の対象である (「裁判所-ニ 有情者-ヲ 訴える」)。このような構造的タイプはどこに分類すればいいかわからないが、〈AA 社会的変化型 (AA 変化)〉の周辺のものと

考えておく。

(376)「訴えられたの。事故の相手に……」(砂の上の恋人たち)

最後に、〈AA 相手への発話型〉の覚え書きとして、「私に言われても」という受身文の存在を指摘しておく。本来であれば、ガ格の主語として標示されるはずの発話相手=受影者が、能動文と同じニ格のまま標示されるのである。こうした受身文は、構造の制約が大きく、基本的に「私・ニ 言語活動 V・ラレテモ」のように、発話相手=受影者が話し手でかつ逆条件を表わす従属節の外部構造でのみ起こりうる現象である。

(377)「どうしたらいいかって……。そんなこと、私に相談されたって困りますよ。私は、汚い手を使う金貸しの実態を教えてさしあげただけです」(ドナウ)

2.4 AA 相手への提示型「私は彼に報告書を見せられた」

〈AA 相手への提示型〉とは、主語に立つ有情者が対象を提示する相手として、相手の動作主から、対象を自身の認識領域に合わせる動作を受けることを表わす。このタイプは、奥田(1960)の〈動作的態度のむすびつき〉の中で扱われている「対象を相手の認識にあわせる活動を表現している」連語を構成要素とする(pp.265-267)。

(378) AA 相手への提示型

発話相手=受影者	動作主	対象	対象を認識にあわせられる
A N・ガ SUB	AN・ニ/カラ COM	N・ヲ COM	提示 V・ラレル

「わたしは彼に報告書を見せられた」

見せられる、示される、提示される、指し示される、指示される、暗示される、紹介される、案内される、教えられる、指摘される、指導される、etc.

〈AA 相手への提示型〉の頻度は低く、ひとつのタイプとして確立するかどうか疑問が残る。構造的には、ヲ格の対象をとりながらニ格の相手が主語になる点で〈AA 相手への発話型〉によく似ている。実際、奥田(1960)も「指示する、指摘する、示教する」などは言語活動のむすびつきに含めた方が正しいかもしれないとも述べている(p.266)。確かに、これらの語はトで導かれる引用節と共起する点でも、「見せられる」などに比べ、〈AA 相手への発話型〉に近いだろう。しかしながら、提示動詞は、単に言語活動によって相手に情報を与えるのみならず、相手の知覚領域にも情報を与える行為である。この意味的な特徴は、ヲ格に具体名詞も抽象名詞も立つことができるという構造的特徴に現れている(発話動詞は対象に抽象名詞のみをとる)。

はじめに、ヲ格名詞の具体性の高い例から見ていく(波下線はヲ格の対象)。

(379) 理一はその手紙を澄江から見せられたとき、もういちど澄江を問いつめた。(冬の旅.地)

(380)「私のところへ来た分は全部読んでいるつもりです。この報告書は、いまはじめて見せられたので、別ですが……」(パニック)

(381)「野口課長は、あなたのことを金丸建設から紹介されたと言っていました」(砂の上の恋人たち)

(382)誰か起きてくれたのか。そう思っただけで、平吉は慈念に指示された蒲団に入ると、疲れがおしよせて寝入った。(雁の寺.地)

(383)「花見家」の場所を性急にきいた。その通りを五十メートルほど行った左側にある二階家だということである。親切な娼妓に礼をのべて、喜助は教えられた方角へ急いだ。(越前竹人形.地)

次に、より抽象度の高い例を挙げる。ここには、与影者である動作主の内部にある属性がヲ格名詞に立つもの（(384)）もある。

(384)それは、だましているからだ、このアパートの人たち皆に、自分が好意を示されているのは、自分も知っている、（人間失格.地）

(385)だからアベックといわれただけで宮村健は、なにかもうたいへん親密な関係を、園子によって暗示されたような驚きと期待を持った。（孤高の人.地）

次にあげる例はさらに抽象的であるのだが、このとき動作主は個別の有情者ではなく、主語に立つ有情者を取り巻く状況である。こうした受身文は、「感じさせられる」のような受身文でも述べることができる。

(386)金川義助はせせら笑った。加藤はそれ以上そこにいるのが嫌になった。金川義助の変貌ぶりに驚くよりも、金川をそのように変えていった社会の陰影を眼のあたりに見せられたような気持だった。（孤高の人.地）

(387)私はそれまでに、ほぼ人生と現実というものの仕組みを、自分なりに理解しているつもりでいた。しかし、これほど鮮やかなコントラストをもってその表裏の縮図を示されると、やはり一種の感慨を覚えずにはいられなかった。（風に吹かれて.地）

(388)混乱状態にもせよ、それがこれだけのイメージを生むようになったということは注目すべき開花だとぼくは思った。ただ、少女や人魚や馬車などのなかにある理解が典型的なエキゾチシズムをぬけきれていない点にぼくは自分の才能の不足と空想画の限界を暗示されるような気がした。（裸の王様.地）⁶¹

ほとんどの受身文タイプに、当該タイプが表わす意味に否定を含んだ意味の動詞が存在する⁶²。ここでは、「隠す」という動詞が「提示しない（見せない）」という態度を表わしているが、これも〈AA 相手への提示型〉と同じ構造をとるので、ここに含めることにする。

(389)「隠し事って疲れるわ。隠してるほうも、隠されてるほうも」（ドナウ）

AA 相手への提示型の周辺と他のタイプ

位置変化動詞「差し出される」による受身文は、本来は相手着点が主語になる〈AA 相手への動作型（AA 相手）〉である。しかし、意味的に対象が相手着点に必ずしも到達しておらず、対象を相手の認識領域に合わせるようにしているだけとも考えられ、AA 相手への提示型に近いと言える。

(390)横柄な言葉で差し出されたのは角封筒へ入っている手紙だった。（あすなろ.地）⁶³

(391)ある老婆は、差し出されるマイクに向かって、目に涙を浮かべながら、こう語っていた。（ブンとファン.地）

「教える」という動詞は、ヲ格の対象に具体名詞が来れば、単に相手の知覚領域に対象を合わせるという意味であるが、ヲ格対象に抽象名詞が来ると、相手の知的活動を通して対象を理解させようとする活動を表わす。後者の場合は〈AA 相手への発話型（AA 認識）〉であり、この場合は「たたきこまれる」などで言い換えられる（cf.(383)）。

(392)「――おれは島へ送られてよかったと思ってる、寄場であしかけ三年、おれはいろいろなこ

⁶¹ ニ格名詞句は原因としての行為者でもあるが、ヲ格対象が現れる場所でもある。

⁶² 「知的活動」における否定表現の動詞は「忘れられる」、「言語活動」では「内緒にされる」などがこれにあたるだろう。

⁶³ ただし、この例は被修飾語がガ格相当かヲ格相当か判断できない。ヲ格相当と見るなら〈位置変化型〉である。

とを教えられた、ふつうの世間ではぶつかることのない、人間どうしのつながりあいや、気持のうらはらや、生きてゆくことの辛さや苦しさ、そういうことを現に、身にしみて教えられたんだ、読本でも話でもない、なま身のこの軀で、じかにそういうことを教えられたんだ」（さぶ）

次のように、主語に立つ有情者の内部にある属性がヲ格の対象である場合は、「提示される」という意味はなくなる。これは、〈AA 相手への発話型（AA 認識）〉に移行している。

(393) 技手になったからすぐ洋服を着て、工員たちに見せびらかそうとする、あさはかな魂胆をこっぴどく加藤に指摘されたような気がした。（孤高の人.地）

特に「指示される」という動詞は・トで導かれる引用節と共起することが少なくなく、このときは発言内容が命令の意を表わしている。よって、これは〈AA 相手への要求的態度型（AA 態度）〉に近い〈AA 相手への発話型（AA 認識）〉と考えられる（波下線は発言内容）。

(394) 「実は、総務部長も知らないらしいんだ。ただ所長からの命令で、できるかぎり大量に買い集めろと指示されただけだというんだ」（戦艦武蔵.地）

2.5 AA 相手への要求的態度型「私は母親に庭の掃除を頼まれた」

〈AA 相手への要求的態度型〉とは、主語に立つ有情者が、相手の動作主からある動作を実行する／しないことを求められることを表わす。構造的には、奥田（1968-72）における〈モーダルな態度のむすびつき〉の〈要求的なむすびつき〉の連語から構成され、ヲ格の動作性名詞を補語として取ることが大きな特徴である。このヲ格の動作性名詞について、奥田（1968-72）は、「対象的な性格をうしないかけている」とし、「認識や伝達の対象というよりも、むしろ資料的な内容なのである」としている（奥田 1968-72:131）⁶⁴。〈要求的なむすびつき〉では、二格名詞で表わされる相手、かつヲ格名詞の表わす動作の主体である有情者の方が対象的な性格を備えていると言える。〈AA 相手への要求的態度型〉では、この二格名詞の相手=ヲ格名詞の表わす動作の主体が、受影者として主語に立っている。

(395) AA 相手への要求的態度型

a :

相手動作主=受影者	動作主	相手動作主=受影者の動作内容	動作実行の要求を受ける
A N・ガ SUB	AN・ニ/カラ COM	動作性 N/V スルコト・ヲ COM	要求的態度 V・ラレル

「わたしは母親に庭の掃除をたのまれた」

b :

相手動作主=受影者	動作主	相手動作主=受影者の動作内容	動作実行の要求を受ける
A N・ガ SUB	AN・ニ/カラ COM	命令形節・ト/V・スルヨウ COM	要求的態度 V・ラレル

「山田氏は上司から至急調査するよう命じられた」

要求的態度動詞：頼まれる、任される、求められる、請われる、要求される、要請される、言いつけられる、仰せ付けられる、許される、許可される、禁じられる、止められる、禁止される、命じられる、命令される、強制される、勧められる、指示される、期待される、望まれる、断られる、迫られる、せがまれる、囑託される、委託される、勧告される、etc.

以下、実際の用例を見ていこう（波下線は受影者が要求される動作内容）。まず、ヲ格が動作性名詞として現れている例（最も多い）から見ていく。

⁶⁴ 「復活をたくらむ」は「復活しようたくらむ」、「べんきょうをすすめる」は「べんきょうしたらとすすめる」にいいかえることができるとしている（奥田 1968-72:131）。

- (396)「それに孫でも出来たら、あたくしなど連日おしめの洗濯に通いづめですわ。もう今からベビー・シッターを頼まれてますんですから。子供のために、自分たちの生活を犠牲にしたくないんですと。[後略]」(結婚式)
- (397)「……お父さんはね、靴のデザイナーだった。二十代の後半には名前は忘れたけどこっちはものすごく有名な映画監督の衣装デザインも任されているの。才能だけはある人だった、と母が言っていた。[後略]」(冷静と情熱)
- (398)2月の大阪府知事選で、自民党府議団から立候補を要請された中馬弘毅・同党府連会長(63)＝大阪1区＝は31日、毎日新聞の取材に[後略](毎日)
- (399)たぶん、女遊びもしたことのない弟は、男には海千山千のその種類の女に翻弄されて、心中をせがまれたに違いありません。(点と線)
- (400)「日光の社寺」の修復作業に当たるのは、2社1寺から修復を委託される財団法人「日光社寺文化財保存会」と、保存会から仕事を請け負う市内5業者。(毎日)
- (401)その後、彼は定時制高校を辞めることになったのだが、それは噂のためだ。ただ噂だけのためで、辞職を勧告されたわけではない。(植物群.地)

次は、受影者が要求される動作内容が「V スルコト・ヲ」という句もしくは節の形で現れた例である。

- (402)「私ね、幸福っていうことは、他人から十分に尊重されることだと思う。仕事をばりばりしたい、煙草を吸いたいたいってことまで、あなたの趣味で止められたら、わたし、もうダメだわ。多分我慢できないと思う」(シガレット)
- (403)一体どんなふうに育ったことやら……あたしはそれをそっと聞くことも許されない女です。(楡家)

ヲ格補語は、動作性名詞であるのが基本だが、次のように具体名詞で現れることもある。しかし、こうした場合でも、(404)では「ナイトクラブの切り盛り」、(405)では「金の支払い」のような動作性名詞が省略されていると考えられる。

- (404)「水商売をしてたんです。ナイトクラブを一応まかされるような感じで」(一瞬の夏)
- (405)決定戦ともなれば、朴も内藤も条件は対等なはずです。金なんか要求される筋合いはない。(一瞬の夏)

先に奥田(1968-72)を引用して述べたように、〈AA 相手への要求的態度型〉は、ヲ格の動作性名詞の対象性が低く、内容的である。このことは、次のように受影者が要求される動作が、「命令形節・ト」や「要求内容・スルヨウ」の形で現れることがあることから明らかである(下位構造 b)。

- (406)「これを隊長さんに渡してくれ、とたのまれましたわい。お坊様のいやはることやし、これも最後のおつとめと、もってきたのや」(ビルマの堅琴)
- (407)彼の家にはお手伝いさんが三名ほど住み込んでいたが、お手伝いさんたちは台所にいる間は、書斎にいる大力氏にきこえるようにならず大きな声で歌をうたっているよう命令されていた。(ブンとフン.地)
- (408)風邪がはやっているから戸外へ行かぬようにとめられていた彼女は、もう部屋にこもっているのに飽々したのだ。(楡家.地)

1.2.2 で述べた〈AA 催促型〉とも共通する特徴だが、〈AA 相手への要求的態度型〉は、「V-ラレテ 意志 V スル」という外部構造で用いられることが少なくない。この外部構造で用いられた場合は、後続の「意志 V スル」が要求された動作を表わしているので、ヲ格の動作性名詞

は省略される。

- (409)「いや、持主の人からたのまれて、今朝貼り出したばかりなんですよ。[後略]」(團樂)
- (410)義兄「まず最初に謝らなくてはいけない。さる人に頼まれて俺はずっと君の行動を監視していた……義理の兄もゲイも君に近づくための偽装だ」(1000 マイル)
- (411)
- (412)俺はあいつの親父に請われて日野の家に来た。(ドナウ)
- (413)「圭一さんとは、父に勧められる形で付き合い始めました。もちろん、好きでした」(砂の上の恋人たち)
- (414)太郎には友人がいない。彼は仲間に対して圧迫感を抱いている。母親に禁じられて彼は粗野で不潔な仲間とまじわることができず、いつもひとりぼっちでいる。(裸の王様.地)
- (415)「私たちはハローフラワーサービスです。ハウステンボスさんから囑託されてランドスケープを担当しています」(砂の上の恋人たち)

主語に立つのは基本的に有情者だが、ごくまれに、有情者の広義所有物が主語に立つ場合もある。

- (416)この踊りと堅琴はいくどもくりかえしを求められました。とうとうこれがしまうと、水島は村民たちの驚嘆の声におくられて、部屋の隅に行って、そこに腰をおろして、膝をかかえこみました。(ビルマの堅琴.地)

「約束される」という動詞は、要求的態度動詞ではなく意志的態度動詞である。意志的態度動詞とは、要求的態度動詞同様、「動作性 N-ヲ V-スル」という構造をとるが、動作性 N を実行する動作主が「V-スル」の主体である点で異なる⁶⁵。しかし、次の(417)では、要求的態度動詞の構造とコンタミネーションが起こったのか、ヲ格名詞句が表わす動作の動作主は受影者=相手である。本来であれば、「山内の要職につかせることを」とならなければならないだろう。いずれにしても、意志的態度動詞による受身文はほとんど見つからなかったので、〈AA 相手への要求的態度型〉の周辺に位置づけることにした。

- (417)しかし、ひとたびこの千日の行を満願成就したあかつきには、行者は京都の御所にわらじばきのまま土足参内することができた。天皇に謁見して、山内の要職につくことを約束されたのである。(神と仏)
- (418)わたしは、和夫に結婚を約束された。

AA 相手への要求的態度型の周辺と他のタイプ

先に述べたが、〈AA 相手への要求的態度型〉は構造上、発言内容の引用節をとることができる。このことから、次のような、発言内容が要求的(命令形)である発話動詞による〈AA 相手への発話型(AA 認識)〉は、AA 相手への要求的態度型へ近づいていると言える。

- (419)「[前略]たべたもんを、吐くのは、胃ィがうけつけんさかいやて。あしたからな、お粥さんにして、胃ィをあんまり働かさんようにしなさいいわれてきましたんや」(越前竹人形)
- (420)「そんなこと嘘よ。北海道へ一緒に言ってくれて言われたことはあるけど、とんでもない話よね。[後略]」(女友だち)

奥田(1968-72:60)でも指摘されているが、よびかけ動詞が抽象名詞(主に動作性名詞)と

⁶⁵ 要求的態度動詞は、「和夫に入室を許可する／掃除を頼む」などの構造で、二格の相手がヲ格の動作性名詞の動作主となる。一方、意志的態度動詞は「良子に結婚を約束する」という構造で、ヲ格の動作性名詞の動作主は、「約束する」動作主その人である。

組み合わせると、〈モーダルな態度のむすびつき〉へ移行する。すなわち、受身文のタイプでは、直接対象の受身である AA 催促型（AA 無変化）が相手の受身である AA 相手への要求的態度型へ移行するということである。

(421)しかし、友達から共同湯に入浴に行くことを誘われると、いつもそれを断わるのにある努力を払った。(あすなろ.地)

また、奥田（1968・72）の「モーダルな態度」のもう一つの下位分類である〈意志的なむすびつき〉を構成する意志的態度動詞が、使役受身の形になると、〈AA 相手への要求的態度型〉を表わす。

(422)山田氏は良子の両親に結婚を約束させられた。
(423)山田氏は選挙に出馬するよう決意させられた。

「手伝う」という動詞の使役形「手伝わせる」も、二格の相手動作主とヲ格の動作性名詞をとるという点で〈要求的なむすびつき〉に構造がよく似ており、この使役受身形も〈AA 相手への要求的態度型〉であると言える。

(424)彼女はその家の娘で、店の仕事を手伝わされるのを嫌って、夜学に通っているということだった。(植物群.地)

「躰けられる」という動詞は、どのタイプに分類すべきか迷うが、次のようにヲ格に動作性名詞をとる場合は、〈AA 相手への要求的態度型〉の周辺に位置づけた。

(425)それでも妹背家の家風は堅実で、加恵は読み書きの他に裁縫も掃除の作法も厳しく躰けられた。(華岡青洲.地)

「許される」という動詞は、「有情者・ガ 有情者・ニ (抽象 N・ヲ) 許される」⁶⁶という構造では、〈AA 感情=評価型 (AA 態度)〉を表わす。(奥田 1968・72:133)。

(426)彼は小僧のじぶんに恥ずかしいあやまちを犯した。芳古堂の主婦にみつかって許され、主婦しか知らないと思っていたが、じつは兄弟子の和助や親方までが知っていたという。(さぶ.地)

2.6 AA 相手への態度型「私は両親に干渉された」

〈AA 相手への態度型〉とは、主語に立つ有情者が相手対象として動作主から何らかの態度を含んだ働きかけを受けることを表わす。奥田（1962）の〈態度的な動作のむすびつき〉(p.305)を表わす連語を構成要素とし、主語に立つ有情者は対応する能動文では二格で標示される相手対象であるという構造的特徴を持つ。

(427) AA 相手への態度型

相手対象=受影者	動作主	相手への態度を受ける
A N・ガ SUB	AN・ニ/カラ COM	相手態度 V・フレル

「わたしは子どもに逆らわれた」

〈AA 相手への態度型〉には、次のような相手への態度を含んだ働きかけを表わす動詞が要素となる。これを便宜的に相手態度動詞と呼んでおく。奥田（1962）では、こうした動詞が（自動詞の）位置変化動詞と二格とのむすびつき（くつつきあるいはゆくさき）から発展した動詞

66 「わたしはおかみさんに罪を許された」など、抽象名詞がヲ格に立つ場合もある。

であることが述べられている。それは、「そむく、はむかう、たてつく、たちむかう、かしづくのような動詞の単語づくりの構造のなかに証拠をみることができる」(p.306)とする。

(428)そむかれる、はむかわれる、さからわれる、たてつかれる、こびられる、かしづかれる、かまわれる、なつかれる、とりつかれる、つくされる、やさしくされる、おじぎされる、いたずらされる、ご馳走される、拍手される、服従される、反対される、抵抗される、味方される、協力される、干渉される、etc.

ただし、「相手への態度を含んだ働きかけ」という動詞タイプの意味規定は広すぎで、ここには意味・構造的に性格の異なる雑多な動詞が含まれている。例えば、「そむかれる、さからわれる、反対される」などは有情主語以外に、二格の抽象名詞（命令、計画、意見など）と共起することがある。また、「慣れられる、倣われる」なども「前例、方法」といった二格の抽象名詞を取ることがある。

あまり例がないが、次のような用例が見つかった。

(429)[前略]祖母は哲子ににくい、わが子であっても、五体そろった女体がにくい、いや、浮気もせず、稼ぎのある亭主もって、ぬくぬく暮している娘がにくい、せめて哲子に子供のないことが救いだったのに、養子といえ、生みの子供以上になつかれ、慕われている姿をみれば、心がやける。(プアボーイ.地)

(430)不思議だな。何かの悪霊に取りつかれたとしか思えないよ。俺より百倍も頭の悪い連中に、まんまとはめられた。(ドナウ)

(431)イマイチが栄養失調末期なら、サクライは刀創、ボーズは淋病梅毒二つながら街娼にいたずらされて患い、ちいさなチンポにぎりしめては、膿を押し出し「痛いよう、痛いよう」妙に力のない声でべそをかき、[後略] (ラ・クンパルシータ.地)

(432)エディに少しでも楽になってもらいたいというのは私たちに共通の思いだったから、エディに反対されるとは想像もしていなかったのだ。(一瞬の夏.地)

(433)「大丈夫です。そんなわからず屋の母でもないと思います。僕はもう宇野行助ではなく、矢部行助ですから、母からはあまり干渉されたくないのです。[後略]」(冬の旅)

AA 相手への態度型の周辺と他のタイプ

相手態度動詞は相手対象への働きかけ性に強弱があり、働きかけ性の弱い動詞は、〈AA はた迷惑型 (AA 迷惑)〉へ移行するだろう。「従われる、勝たれる、負けられる」などは、対応する能動文の二格の相手対象が主語に立っているにも関わらず、強いはた迷惑の意味を帯びる。これは、動詞の表わす働きかけ性の弱さに起因するものと考えられる。久野(1983)のインヴォルブメント仮説に従えば、働きかけ性が弱いゆえに相手対象の動作への巻き込まれ性も少なく、はた迷惑の意味を帯びやすいと言える。

3 AA 持ち主型 (AA 持ち主)

〈AA 持ち主型とは〉、動作主が主語に立つ有情者の所有物に働きかけ、変化させることで、所有者である主語の有情者が影響を被ることを表わす。このタイプは、鈴木(1973)の「もちぬしのうけみ」の一部を構成する。すなわち、動作の対象の所有者が主語に立つという構造的特徴を持つ。

AA 奪取型 「私は母親に本を取り上げられた」

3.1 AA 奪取型「私は母親に本を取り上げられた」

〈AA 奪取型〉とは、主語に立つ有情者が動作主から対象の所有権（占有権）を奪い取られることを表す。AA 奪取型では、対応する能動文におけるカラ格の起点ないし対象の規定語である所有者の有情者が主語に立つ。

(434) AA 奪取型

AA 奪取型

AN・ガ	AN・ニ	N・ヲ	奪取 V・ラレ
------	------	-----	---------

所有者=受影者 動作主=与影者 所有物 奪取関係の変化を被る

「わたしは母親に服を取り上げられた」

〈AA 奪取型〉を構成するのは次のような動詞である。ここでも、奥田（1968・72）が「対象が主体の方へちかづいてくることをあらわすもの」として挙げている動詞のうち、すべての動詞が等しく要素となるわけではなく、動作主の対象へのはたらきかけが積極的な動詞だけが要素となる。

(435)とられる、盗まれる、買われる、譲り受けられる、借りられる、受け取られる、もらわれる、奪われる、巻き上げられる、取り戻される、取り返される、購入される、etc.

動作主が対象へ積極的にはたらきかけていく動詞とは、「とる、ぬすむ、うばう、とりかえす」などであり、はたらきかけが消極的な動詞とは「かう、かりる、ゆずりうける、うけとる」などである。はたらきかけが消極的な動詞が受身文になると、はた迷惑の意味を帯びやすい。

(436)a. 和夫は良子から辞書を買った。

b. 良子は和夫に辞書を買われた。

(437)a. 和夫は父の形見を良子から譲り受けた。

b. 良子は父の形見を和夫に譲り受けられた。

さらに、「あずかる、もらう、いただく」などでは、〈AA はた迷惑型〉でしか述べることができない。

〈AA 奪取型〉の例を挙げよう。ここでも、位置変化動詞が二格に有情名詞をとることで奪取関係を表わすようになった動詞が見られる。

(438)「泳いでいる間に靴をぬすまれた、あんたの村のことはあんたに責任がある。靴をとりもどしてくれ」(不意の唾)

(439)それに、彼がレーゲンスブルクで、性悪女に金を巻きあげられたかってことは、俺たちが一番よく知っている。(ドナウ)

(440)「それからそのリストを誰かに奪われんようにくれぐれも気をつけてな。それを奪われると私も困るし、あんたも困るです」(世界の終わり)

(441)この少女は、女親替りの姉を他の男に取られたことに苛立っているのだろうか、とも彼は考えた。(植物群.地)

(442)烈しい憎しみを冴子に感じたが、結局、鮎太は冴子に紙包みを取り上げられた。(あすなろ.地)

(443)しかしソウル大会(88年)でベン・ジョンソン(カナダ)が金メダルをはく奪されるなど、ドーピング問題は後を絶たない。(毎日)

(444)「かつてわしの主君土岐茂正公が、家臣騒乱のお咎めを受けて身代を没収され、切腹してお果てになられたのが十二年前。それからは長い浪々の暮し。[後略]」(たそれがれ清兵衛)

「うばわれる」という動詞において、ヲ格に抽象名詞をとる例が見られる。

(445)「選挙権はともかく、傍聴まで禁じられては、政治に関して女性は発言の場はもとより、知る場さえ奪われることになります。[後略]」(花埋み)

(446)しかし、年老いて力が弱くなると、勢いのよい若いオス猿にボスの地位を奪われ、グループの外にはじき出されて、はぐれ猿になるという。(化学)

AA 奪取型の周辺と他のタイプ

奥田(1968・72)も述べているが(pp.88・89)、「とる」という動詞はいくつかの抽象名詞と組み合わさることがあるが、すべて慣用的である。本報告では、次のような例も〈AA 奪取型〉の周辺例と考えた。

(447)五日間でいいんだ。一〇日もとられちゃ君も困るだろうし、雑誌も困るだろう。だから五日間だけ、つきあってもらえないかな。(巨人と玩具)

(448)ここでこそ山本は、ナチスに言質を取られそうなことは口をつぐんで一切言うまいと思っていたにちがいない。(山本五十六・地)

先に AA 譲渡型の説明でも述べたように、所有変化を表わす動詞の基本的なもの⁶⁷は、心理的状态や生理的状态を引き起こすことを表わす表現にしばしば用いられる。このとき、心理・生理的状态を引き起こした原因は非情物の行為者としてニ格に現れる。次の例はすべて〈AI 心理・生理的状态型 (AI 状態)〉である。このうち、「気を／足を／手間をとられる」といった受身文は、対応する能動文を持っていない。すなわち、この移行関係は受身文タイプに特有のものである。

(449)キンボシの客は、土工、馬方、虚無僧、車夫、旅芸人、大道商人といった人たちで、それが車座になって井を叩き、調子はずれの唄を歌う光景に、私は心を奪われた。(幻燈畫集・地)

(450)前の日、彼は二本の紐の結び目に気を取られて、京子との次の約束の日を定めるのを忘れた。(植物群・地)

(451)太郎のときも、さんざんそんなふうについておきながら、いざとなると個展の日まで日数のないことや、カンバスの枠張りに手間をとられたことや、先方のたのみがことわりきれないことなど、自分勝手な弁解ばかりならべて逃げてしまった。(裸の王様・地)

3.2 AA 所有物の変化型「私は彼に机を壊された」

〈AA 所有物の変化型〉とは、与影者である動作主が主語に立つ有情者の所有物に働きかけ、変化させることで、主語の有情者が影響を被ることを表わす。

(452) AA 所有物の変化型

所有者=受影者	動作主	対象=所有物	所有物に変化を被る
A N・ガ SUB	AN・ニ COM	具体 N・ヲ	変化 V・ラレ

「わたしは彼に机を壊された」

動詞には対象を変化させる(客体)変化動詞が要素となる。それほど用例があるわけではな

⁶⁷ ある動詞カテゴリーの基本的な動詞とは、その語彙的な意味に動作様態の修飾がより少ない動詞である。例えば、「きざむ」や「切り裂く」などに対して「切る」という動詞はより基本的である。

いが、次のような例が見られる（波下線は対象=所有物）。所有物の所有傾斜の高い順に例を挙げる。

- (453)「[前略]ニュールンベルクの中央広場で、ぼくは危うく死ぬところだったよ。見も知らないレスラーみたいな男に首の骨を折られて……」(ドナウ)
- (454)胸を射たれて、道端まで匍い出して、虫の息の若い兵隊を見つけた。(野火)
- (455)「[前略]男なら心臓一突きやったのですやろが、女でも乳を裂かれてはどうで助からんかしれませんのう」(華岡青洲)
- (456)暗がりの水の底で、黒人兵が打ちのめされ、叩きふせられた家畜のようにぐったりし軀を屈めて床に倒れていた。
「殴ったのか」と怒りにふるえる上体を起して僕は兎口にいった。
「足を縛られて動けないあいつを殴ったのか？」(飼育)
- (457)誰よりも嫁が助かるのを念じているのは私やろのし。けども雲平さんに考えあつてのことを、口出しもできず、私は身を切られるより辛いのよし。察して頂かして。(華岡青洲)
- (458)いかに下の病といっても、そんな風に一概に断定できるものだろうか。[夫に]体を壊されたうえ、私はもう一人前の女ではなくなったのか、考えるうちにぎんの頭は憤りで熱くなった。(花埋み.地)
- (459)「こんな座敷牢じゃだめですがよ。相手がホンモノのブンじゃ、いつぺんで破られてしまいますぜ」(ブンとフン)
- (460)二人は同じ町に住んでいたが、戦争中空襲で家屋を焼かれた。(植物群.地)

このうち、主語に立つ有情者の身体部位がヲ格に立つ受身文は、〈AA 生理的变化型〉に含めてもいいかもしれない。

AA 所有物の変化型の周辺と他のタイプ

ヲ格対象が受身文の主語である有情者の広義所有物であっても、主語である有情者の巻き込まれ性が低いと、AA はた迷惑型に移行する

- (461)「[前略]こんな悪いやつに、自分の恥ずかしい手紙を読まれた。ぼくは死にたいですね。そのうえ、女のあなたにまで読まれた。なさけなくて涙がでそうですよ」(ドナウ)
- (462)「おまえには女中にしか見えない女でも、私にとっては大切な妻だ。私は、自分の妻を、息子から女中よばわりされた」(冬の旅)
- (463)「だけど私がいかなきゃ、あのうちの整理は誰ができるんだよ。昨日みたいなアルバムなんか、落子さんにみんな捨てられてしまう。あの人はものの価値がまるっきりわからないからね」(胡桃の家)

4 AA はた迷惑型 (AA 迷惑)「私はあなたに泣かれても困ります」

〈AA はた迷惑型〉とは、本来動作主が行う当該動作には直接的に関与しないはずの有情者が、動作主が当該動作を行ったことによってた迷惑を被ることを表わす。元の動詞（スル形）による基本文では同一節内の直接的な成分として現れることのない有情者が主語に立つという構造的特徴を持つ。すなわち、〈AA はた迷惑型〉は対応する能動文を持たない。

〈AA はた迷惑型〉は、受身文主語者が直接的に物理的・心理的作用を被るものではない。主語である受影者の視点から一方的に動作主を有責者として追及し、みずからに迷惑を及ぼし

た相手=動作主に仕立て上げる。別の言い方をすると、本来、《有情者⇒有情者》という働きかけのないところに、当該動作に間接的にかかわった有情者の側から「働きかけられ」をいわば捏造するのである。

(464) AA はた迷惑型

第三者=受影者 有情者・ガ	SUB	動作主 AN・ニ	COM	はた迷惑を被る V・ラレル
------------------	-----	-------------	-----	------------------

「わたしはあなたに泣かれても困ります」

また、〈AA はた迷惑型〉は、他のタイプに比べて特に、文末に現れる例が少なく、一定の外部構造で用いられることが多いという特徴を持つ。〈AA はた迷惑型〉が用いられやすい外部構造とは、次のようなものである。有情主語の受身文自体がこうした外部構造に現れやすいのだが、〈AA はた迷惑型〉は特に顕著に現れている。

(465)a. -たら大変：泣かれたら大変だ、泣かれるとたまらない

b. -ても困る：泣かれても困る、

c. -のは嫌だ：泣かれるのは嫌だ／やっかいだ

久野（1983）と、その後の柴谷（1997a）によれば、主語に立つ有情者の当該事態への関与性ないし巻き込まれ性がより低い事態ほど、はた迷惑の意味が現れやすいという。つまり、主語の当該事態への関わり方が弱ければ弱いほど、はた迷惑の意味が出るということである。このことから、まず、有情主語の関与性がより低いと考えられる、自動詞が要素となる例から見ていく。

まず、意志的な自動詞が要素となった用例から見ていく。先に、主語に立つ有情者は、元の動詞による基本文の直接的な成分とならないと述べたが、何らかの形でスル形動詞述語の同一節内に現れうる場合が多い。例えば、(466)は「人・カラ 逃げる」という表現が可能な場合もある。また、(467)及び(468)では「僕の家にのりつける」、「先生の家に入る」のように、同一節内の成分の規定語として現れうる。(469)では、「自分の病院の患者が自殺する」という基本文が可能である。このことは、主語に立つ有情者が、非常に間接的ではあっても、当該行為に何らかの形で関与していることを表わしている。

(466)「二匹だけしめたが、あとは逃げられたよ」(野火)

(467)「[前略]自動車でくるのならごめんだ。ぼくの生徒はみんな貧乏サラリーマンの子供だからね、自家用車なんかでのりつけられてはたまらないな」(裸の王様)

(468)「やあ、先生、何を泣いていらっしゃるんですか？ 泥棒にでもはいられて、洗いざらいすっかり盗まれたんですか。[後略]」(ブンとフン)

(469)何しろあそこの院長は、患者に「自殺なんかされるのが怖いから、それで無理に洗礼をすすめたのかもしれないよ。信者になったら自殺は出来ませんからね。(草の花)

(470)「でも、あたし、こうやってじっとしているのが勿体ないような気がして……。」

「いいんだよ、それで。へんにうごきまわられては、こっちがかなわないんだ。いざというときには、僕にだって考えがあるんだから、安心していいんだよ。」(帰郷)

(471)と言って、いつまでも半分雪の面に埋まっている冴子の白い手首を見詰めて立っていた。二人の友達に歩き廻られて、美しい雪面を汚されることが怖かった。(あすなろ.地)

(472)「山といっても、この辺じゃ、深山幽谷がねえからな。叫び声をあげられたらことだよ」(冬の旅) 68

68 ここでのヲ格名詞句は動作主と別個の実体ではなく、動作主の広義部分であり、再帰的動詞句なので、意志的自

次に、無意志的な自動詞（自然動詞）の例を挙げる。自然動詞であっても、行為者を有責者として追及できる、すなわち行為者が有情者であれば、どんな動詞でもはた迷惑の受身で述べる事が可能である。

- (473)「外国で暮らしてて、亭主に癩癩を起こされると、こっちはたまらないのよ。私ががヒステリーを起こしてしまったら、おさまりがつかなくなっちゃう。[後略]」（ドナウ）
- (474)「それが君、辰次はどうしても医者になるというんだ。あの身体でねえ。あれに医者になられたら困る。あんな医者が現われたら、これは君ねえ、患者さんがみんな逃げてしまうよ」（楡家）
- (475)鮎太は意外だった。二人いられては手紙を渡す相手を知るのに困ると思った。（あすなろ・地）
- (476)みな命がけで戦争してるときに、お前みたいなやつにそのそされると、誰だってへんにいらするんだ。（驢馬）
- (477)「いや、とにかく、俺は今まであの野郎に威張られたのが癪にさわって、しょうがねえんだ。このままじゃ済まされねえ」（野火）
- (478)「[前略]ただ、われわれがうかつだったのは、まだ事件の当初だったので、彼の監視が十分でなかったことです。そのため、うかうかと死なれてしまいました」（点と線）
- (479)「いいえな。私はは老先短い軀で、ことにはお父さんに先立たれ、子供は立派に育って、雲平さんには立派な嫁御がついていますのや。心残りになることは何一つありませんのよし。[後略]」（華岡青洲）⁶⁹

最後に、他動詞による例を挙げる。他動詞の場合、ヲ格の直接対象が主語に立つ有情者とまったく関わりのないものである例を探すのは難しい。

- (480)「まあ、いいから、それでもやんなさい。単語なんて暗記されているより、少しは助かるわ」（あすなろ）
- (481)「その花は毒なやよって、拭いた布を間違えんようにして頂かして」／ 「はい。必ず捨てるようにと、そない仰言ってなしたよし」／ 「手はよう洗っていてよ。その手で台所らされたら危ないよってにのし」（華岡青洲）
- (482)「それに、うちにも、御作のなかで描かれているような子供がおります。真似をされると困ります」／ 「たいへん失礼ですが、御宅のお子さんは、小説を読んですぐ真似をするほど頭脳が軟弱ですか」（冬の旅）
- (483)生徒たちだってそうだ。管理体制の中、受験っていうのを盾にとられて、どうしてもなく無気力になってるものだ。（シガレット）
- (484)修一郎 「（キツと）……私の事情は判ってただろう？」
- 圭 「総会屋への利益供与事件の渦中だった。娘が家出したことが判ると色々書き立てられ、立場的にマズい。そういうことなんでしょ」
- 修一郎 「（向き直り）その通りだ」（砂の上の恋人たち）

AA はた迷惑型の周辺と他のタイプ

主語の有情者を動詞の直接対象ないし話し相手と見なせるか否か、判断に迷う例がある。次の例は、基本文でヲ格の直接対象に立てるとしても、こうした例における有情主語は、事態への巻き込まれ性（久野 1983, 柴谷 1997a）が低いため、〈AA はた迷惑型〉の周辺にあると言えるだろう。

- (485)「電話貸してください。いま轢き逃げされたんです」（女友だち）

動詞の例とした。

⁶⁹ 「先立つ」という動詞は、「死ぬ」の意味では受身文で用いられるのが普通で、この意味で基本文で用いられることはほとんどないようである。

- (486)「[前略]もしあのときもっと抵抗していたらそれを叩いた方はいまとすると完全に立場がなくなってしまう。ぼくはますますけむたがられてマイナスばかりになるわけですよ」(パニック)

〈AA 相手への発話型 (AA 認識)〉の説明でも述べたが、発話動詞には、対象性の高い発話相手を二格に取る動詞（言う、伝える、告げるなど）と、対象性の低い発話相手を二格に取る動詞（しゃべる、話すなど）がある。次の例でも、受身文主語の有情者は、対応する基本文において発話相手の二格として現れうるとしても、対象性が低いため、やはりはた迷惑の意味を帯びている。

- (487)「そら、ええ旦那はんを持って、……あんたにのろけられると、嘘やと思えへんな。あんたみたいな、美し女に見そめられてる喜助はんも幸せなお人やなァ」(越前竹人形)
- (488)あたしは米国さんのことをふしぎな人だとは思いますが、悪い人じゃありませんわ。ただ、しょっちゅう不治の病のことを話されると、はじめはこちらもひやかし半分に聞いていまして、そのうちになんとかへんな気持ちになってくるのです。(楡家)

従来指摘されているように、〈AA はた迷惑型〉といわゆる「持ち主の受身」とは連続的である。次の例も、ヲ格対象が受身文の主語である有情者の広義所有物であるが、主語である有情者の巻き込まれ性は低く、〈AA はた迷惑型〉の周辺にあると言える。〈AA はた迷惑型〉でなければ、〈AA 所有物の変化型 (AA 変化)〉である。

- (489)「[前略]こんな悪いやつに、自分の恥ずかしい手紙を読まれた。ぼくは死にたいですね。そのうえ、女のあなたにまで読まれた。なさけなくて涙がでそうですよ」(ドナウ)
- (490)「おまえには女中にしか見えない女でも、私にとっては大切な妻だ。私は、自分の妻を、息子から女中よばわりされた」(冬の旅)
- (491)「だけど私がいかなきゃ、あのうちの整理は誰ができるんだよ。昨日みたいなアルバムなんか、落子さんにみんな捨てられてしまう。あの人はものの価値がまるっきりわからないからね」(胡桃の家)

次の例は〈AA 所有物の変化型 (AA 変化)〉に分類した。しかし、(493)は、〈AA はた迷惑型〉に分類するか、迷う例である。

- (492)「[前略]ニュールンベルクの中央広場で、ぼくは危うく死ぬところだったよ。見も知らないレスラーみたいな男に首の骨を折られて……」(ドナウ)
- (493)三人は同じ町に住んでいたが、戦争中空襲で家屋を焼かれた。(植物群.地)

5 その他の有情有情受身文

ここでは、有情有情受身文のサブタイプに明確に位置づけられなかったその他の有情有情受身文を見ていく。「その他」として位置づけた有情有情受身文には大きく二種類ある。1つは、「やられる」という受身文で、この動詞はさまざまなタイプの動作を表わすため、いずれのタイプにも分類せずに「やられる」とう受身文タイプとして分類した。ただし、非情物が行為者=原因であることが明らかな場合は、有情非情受身文の〈AI 心理・生理的状态型〉に位置づけた。2つ目は、慣用的な表現である。慣用的な表現は、特殊な構造を持っていることがある。以下で見えていく。

5.1 やられる

「やられる」という受身文は、非常に具体的な動作から心理・生理的な状態までさまざまな動作タイプを表現する。具体的な動作の場合は、攻撃性を含む動作であることが多い。次の(494)-(496)は具体的な動作を表わし、(497)と(498)はより抽象的な活動を表わしている。この「やられる」による受身文は、特に動作が抽象的であればあるほど、対応する能動文で述べることができなくなる。語彙的ラレル動詞と呼んでもいいかもしれない。

(494)「咬まれたなあ」と僕は狼のように狂暴な眼をし鼻をふくらませる犬を指さきで軽くふれながらいった。「巢へ這いこんだのか」

「喉をやられないように、皮おびをまきつけて行っただ」と兎口は誇りにみちていった。(飼育)

(495)「名前なんて、どうだっていいじゃないか。俺はね、寝る女の子ならどれだっていいんだ。それで、おまえの姉さんを、そのアパートでやるのかい？」

「アパートじゃまずいわ。この車で海岸か山に連れだすのよ」

「原っぱで強姦とはいいいねえ」

「あんたの仲間をつれてくればいいじゃない。そしたら輪姦が出来るわよ」【中略】

「俺はいつでもいいよ。しかし、俺にやられて、訴え出ないかな」

「ばかねえ。やられた女が訴えでると思っているの。旦那さんにばれてしまうじゃないの」(冬の旅)

(496)「班長殿はどこの隊でありますか」

「大島隊だ。ブラウエンへ斬り込んで、散々やられての帰りさ。落下傘部隊と協力するはずだったんだが、上空でやられて、三十人ぐらいつきや降りやがらねえ。それもさっさと、俺達の方のジャングルへ逃げ込んで来やがった。お蔭でこっちもやられちゃったのさ。弾も糧秣もねえし……昨日この島を見つけて、やっと一息吐いたところだ」(野火)

(497)「気にするな。張はスパイなんかしないよ。」と飛田がいった。

「戦ならするぞ。」と、べつのひとりがいった。「俺は前に、女学生とあるいたのをやられた『ちくられた』ことがある。満洲人は信用できんな。」(驢馬)

(498)アポロ〔他社〕の発想法はまったく卓抜だった。彼らは子供相手の戦争に見きりをつけて、ハッキリ母親に訴えることを決意したのである。子供の夢ばかり追いまわしていた私たちの盲点を彼らは完全についたようだ。【中略】

「やられましたね」

私は合田に声をかけて紙片をもどした。彼はタバコに火をつけると、深く息を吸いこんで、うなずいた。【中略】(巨人と玩具)

次の例は、行為者が非情物であることが明らかなので、〈AI 心理・生理的状态型〉に分類した。

(499)学名はロシア語でなんとかいつてね、日本語に訳せば、まあ貧乏熱、とでもいったところだ。文献によると、発生地はロシアではドストイェフスキーがやられてるねえ。(帰郷)

(500)このあいだも、世界タイトルで中南米の何とかというボクサーが、ソウルの寒さにやられて簡単に沈められたよ。ガタガタに凍らされて、六回すぎてようやく暖まったと思ったら、今度は汗が出すぎてバテたわけさ。(一瞬の夏)

5.2 慣用的な表現

「N-ヲ たらいまわしにする」という動詞があるが、これは対象に非情物も有情者も取りうる動詞である。意味的には、動作的態度動詞に分類できるだろうが、能動文との対応が特殊であるため、その他に位置づけた。「たらいまわしにす」は、例えば「病院が妊婦をたらいまわしにする」という能動文に対して、「妊婦が病院をたらいまわしされる」という受身文が存在する。これは、すなわち、動作主が受身文中にヲ格で表示されているということである。

- (501) 「あれ[上申書]はうちの課長をとびこして直接局長宛にだしたでしょう。課長やら部長やらをたらいまわしされてぐずぐずしておればササはどんどんみのってしまうんですから、そうするより仕方がなかったんですよ。[後略]」(パニック)

また、「刑に処される」という受身文も、いずれのタイプに分類すべきか分からず、その他とした。意味的には〈AA 社会的変化型〉の周辺に位置づけられるかもしれない。

- (502) 都市でも農村でも暴力行為が相つぎ、非暴力を説くガンディー自身が逮捕されて、六年の懲役に処せられた。(二十世紀)

第4章 有情主語非情行為者受身文

本章では、主語が有情者で行為者が非情物である受身文タイプについて見ていく。有情非情受身文は、主に、主語に立つ有情者が、彼／彼女をめぐる何らかの要因によって、普通でない心や身体の状態であることを表わす受身文である。すなわち、主語に立つ有情者の意志とは関係なく、ある状態に陥っていることを表わす。こうした受身文を〈AI 状態型〉と呼んでいる。〈AI 状態型〉には、〈AI 心理・生理的状态型〉、〈AI 陥る型〉、〈AI 不可避型〉の3つのサブタイプがある。

AI 状態型

AI 心理・生理的状态型 「私たちは、毎年、水害に悩まされる」

AI 陥る型 「和夫は悲惨な状況に置かれた」

AI 不可避型 「住民たちは移住を余儀なくされた」

〈AI 状態型〉の要素となる動詞は、その語彙的な意味の特徴と行為者が非情物であることにより、テンス・アスペクト的にラレティル形で現在の状態が述べられることも少なくない。通常の動作動詞の場合は、受身文において、ラレティル形で現在進行中の出来事が述べられることは極めて少ない。

(1) 和夫は良子にたたかれている（最中だ）。〈AA 接触型（AA 無変化）〉

(2) 和夫は母親に掃除を頼まれている（最中だ）。〈AA 相手への要求的態度型（AA 態度）〉

これに対し、〈AI 状態型〉の受身文では、ラレティル形で今現在の主語の状態を語ることも少なくないのである。

(3) わたしは、育児に{悩まされている／追われている}。〈AI 心理・生理的状态型（AI 状態）〉

(4) 企業は、コスト削減を迫られている。〈AI 不可避型（AI 状態）〉

以下、この〈AI 状態型〉と、その他の有情非情受身文について、その意味と構造的な特徴、及び他のタイプとの相互関係について考察する。

1 AI 状態型（AI 状態）

〈AI 状態型〉の受身文は、主語に立つ有情者の意志とは関係なく、彼／彼女をめぐる何らかの要因によって、通常ではない状態に陥っていることを表す。構造的には、行為者が有情者ではなく、主語に立つ有情者自身の内的属性や外的な状況といった、非情物であるのが特徴である。このため、対応する能動文で述べると不自然であるか、能動文で述べることで

きない受身文が非常に多い。

また、〈AI 状態型〉の表す事態は物理的な作用を受けるというものではなく、基本的に、その開始や終了が明確ではない「状態」にあることを表している。このため、ラレル vs. ラレテイルのアスペクト対立は、広義動作動詞による受身文に比べ、不明瞭である。

〈AI 状態型〉は、〈AI 心理・生理的状态型〉、〈AI 陥る型〉、〈AI 不可避型〉の3つのサブタイプに分かれる。以下。それぞれのタイプについて、その構造的特徴と他のタイプとの相互関係について見ていく。

1.1 AI 心理・生理的状态型

〈AI 心理・生理的状态型〉は、何らかの外的なコト（原因）に影響されて、主語に立つ有情者が、ある生理・心理的状态であるということを表わす。〈AI 心理・生理的状态型〉では、二格で表される行為者は現象名詞か抽象名詞で、原因を表わす非情物である⁷⁰。この状態を引き起こす原因となる非情物は、主語に立つ有情者の外部にある現象や実体の属性であることもあれば、有情者自身の内部に現れた感情やもともと持っている性質であることもある。また、〈AI 心理・生理的状态型〉の対応する能動文は、不自然な表現になるか、成立しない場合が多いということも構造的特徴である⁷¹。

生理的状态と心理的状态は、多くの場合有情者の内部に同時に現れるものであり、根本的には切り離せない意味領域だろう。ここでは、ごく便宜的に〈AI 心理・生理的状态型〉を〈AI 生理的状态型〉と〈AI 心理的状态型〉とに下位分類して用例を見ていく。

1.1.1 AI 生理的状态型「良子は病におかされている」

〈AI 生理的状态型〉は、主語に立つ有情者が何らかの内的／外的要因により、身体内部に、病や疲れ、忙しさのような、正常ではない生理的な動きを持っていることを表わす。

(5) 生理的状态型

対象=受影者	原	因	生	理	的	状	態						
A	N	-	ガ	SUB	現象／抽象	IN	-	ニ	COM	生理的状态	V	-	ラレル

「良子は病におかされている」

【非情行為者】

【対応する能動表現で述べると不自然なことが多く、対応する能動文を持たない動詞も多い】

動詞は、生理的状态を表す独自の動詞は少なく⁷²、多くが動作動詞の比喩的な使用である。

(6) a. 生理的状态動詞

疲れさせられる、忙しくさせられる、忙殺される、揺られる、刺激される、etc.

b. 通常の動作動詞

(生活に) 追われる、(病に) おかされる、巢食われる、(発作に) 襲われる、etc.

⁷⁰ 具体名詞が現れることもあるだろうが、その場合でも、具体名詞が持つ何らかの側面（性質や属性）が原因となっていると考えられる。

⁷¹ 対応する能動文が存在しないものには、①他動詞の存在しないもの（気圧される、揺られる、とらわれる、etc.）、②ラレル形が特別な意味を獲得しているもの（やられる、ひかれる、etc.）、③行為者が非情物であるために意味の変容しているもの（(衝動に) 駆られる、(生活に) 追われる、etc.）がある。

⁷² 「疲れさせられる」などが考えられるが、用例には見つからなかった。

実際の用例を見ていく。行為者はほとんどが何らかの「病」を表わすものであった。行為者としての「病」は主語の有情者にとって外的でもあり内的でもある存在だろう。また、「忙しい」という生理的狀態を表わすものも少なくないが、「忙しい」状態を引き起こす行為者は、原則的に動作性名詞で、これは主語にとって外的な存在である。

- (7) 於継はその女であつたが幼いときから才色の誉れが高かつたのを、適齡期に到つてひどい皮膚病に冒され、松本家では金にあかして医者に診せたが彼らは悉く匙を投げた。(華岡青洲. 地)
- (8) なんとか命は助かったけど、それから二年間、しょっちゅう発作に襲われたよ。(ドナウ)
- (9) 「[前略] バイドクに巢食われた人」はな、大きくなると鼻が流れてしまうんだと。」(幻燈畫集)
- (10) 「先進国病」にわざわざいされて、欧米人が一一とくにその“足腰”の部分が、かつての職人根性を失ってしまったことが、最大のポイントである。(ゆとり)
- (11) ロシアのエリツィン大統領の突然の辞任について、政府は31日、辞任の背景などの情報収集と分析に追われた。(毎日)
- (12) 「大田のおやじさんに喧嘩するなっていわれてね、朝からあいつの顔やらこいつの顔やらたてるのに追われどおしさ」(裸の王様)

AI 生理的狀態型では、「やられる」という動詞が用いられる場合も多い。「やられる」という動詞の受身文は、特に行為者が非情物である場合は、対応する能動文で述べることができない。

- (13) このあいだも、世界タイトルで中南米の何とかというボクサーが、ソウルの寒さにやられて簡単に沈められたよ。ガタガタに凍らされて、六回すぎてようやく暖まったと思ったら、今度は汗が出すぎてバテたわけさ。(一瞬の夏)
- (14) この年猖獗を極めた悪質のスペイン風邪にももの見事に彼はやられていたのだ。(楡家. 地)
- (15) 学名はロシヤ語でなんとかいってね、日本語に訳せば、まあ貧乏熱、とでもいったところだ。文献によると、発生地はロシヤではドストイェフスキーがやられてるねえ。(帰郷)

次の「揺られる」という動詞も、他動詞の存在しない、語彙的ラレル動詞である。

- (16) 「バスに揺られてそんなのを眺めていると、眠くなって仕方がないんだ。いくら走っても少しも風景が変わらないだろ。[後略]」(一瞬の夏)

1.1.2 AI 心理的狀態型「私は育児に悩まされている」

〈AI 心理的狀態型〉は、主語に立つ有情者が何らかの内的／外的要因により、喜怒哀楽や悩み、恐怖のような、正常ではない心の動きを持っていることを表わす。

(17) AI 心理的狀態型

対象＝受影者
AN-ガSUB 原因現象／抽象IN-ニCOM 心理的狀態
心理的狀態V-ラレル

「われわれは人員の不足に悩まされている」 ●能動文が不自然

動詞は、心理的狀態を引き起こす他動詞、もしくは心理的狀態を表わす自動詞⁷³の使役形が要素となるが、〈AI 生理的狀態型〉同様、通常の動作動詞が比喩的に用いられることも多

⁷³ こうした自動詞は、ヲ格ではなくニ格名詞句を心理狀態の向かう対象としてとる動詞である。

い。この動作動詞には、接触動詞と接近的態度動詞が多く現れる。

(18) a. 心理的狀態動詞

苦しめられる、悩まされる、困らされる、さいなまれる、焦らされる、びつくりさせられる、いらいらさせられる、圧倒される、満たされる、魅了される；つられる、惹かれる、ほだされる、気圧される、やられる、うなされる、当てられる、わざわざされる、つまされる、あつけにとられる、気を取られる、etc.

b. 通常の動作動詞

圧される、圧迫される、打たれる、救われる、(衝動に)駆られる、迫られる、つきまといわれる、見舞われる、捉えられる、縛られる、束縛される、支配される、流される；囚われる、etc.

以下、実例を見ていくが、先に述べたように、これらの受身文には対応する能動文を持たないものや、能動文が不自然な表現になるものが多い。しかし、対応する能動文を持つ動詞（例えば「圧倒される」）と持たない動詞（例えば「気圧される」）の間に、受身文としての大きな意味の違いは見られない。よって、同じ〈心理的狀態型〉の受身文タイプとして扱う。

まず、行為者（原因）が主語に立つ有情者自身の内部にある、内的な状態や属性である例から見ていく。

(19) そうでなくても**ぼく**は、**外界から自分一人が遮断されてしまうような違和感に悩まされている**のです。(楡家)

(20) 隠された意味が分って以来、その推理小説の序章が浮び上ってくると、**不快なそして不安な心持に捉えられた**。(植物群.地)

(21) **自分のイメージに追われて叫んだり、笑ったりしている仲間**の喧騒をよそに彼はひとりぼつんとアトリエの床にすわり、ものうげなまなざしであたりを眺めるばかりだった。(裸の王様.地)

(22) それで**お前**は**嫉妬に駆られて女を殺したのか**。うむ。(青春の蹉跌)

次に、行為者（原因）が主語に立つ有情者の外部にある、外的な属性である例を見てみる。

(23) 「夏用の離宮ですの。うんざりするような観光地。でも、**その広さには、やっぱりびつくりさせられますわ**」(ドナウ)

(24) **ヨーロッパを訪れた多くの人**がさまざまな美術館や聖堂などでルーベンスの大作に出会い、**その絢爛さに圧倒されると**言われる。(毎日)

(25) 昨日と同じに、**三原は彼の態度に気圧されるの**を感じた。(点と線.地)

(26) 彼の偽装に**ぼく**はふたたび迷わされなかった。(裸の王様.地)

(27) 音楽監督、指揮、演出、それにオペラの主役など専門性が要求される部分は、日本を代表する人たちに頼ってきたが、**市民の熱気に打たれた専門家たち**は、今やアマチュアと力を合わせてステージをつくることを喜ぶようになっている。(毎日)

(28) 「(徳川) **家康**が江戸に幕府を開いたのは**富士の美しい眺望に魅せられたから**。さらに、富士見は不死身に通じた」(毎日)

(29) 「**俺**は**あの無口で、清純なところに惹かれているんだ**。英子さんの方が顔立ちは美しいが、あのひとの方が心は美しいと思うな。[後略]」(あすなろ)

次のように、節や前後文脈に原因となった事態が述べられている場合もある。(30)は条件節で、(31)は後続する文に説明的に述べられている。いずれも「女医者がいることで」、「……整えようと考えていたことで」という原因節で述べることも可能だろう（波下線は原因となる事態）。

(30) 女医者がいれば私と同じように羞恥で苦しんでいる多くの女性が救われるのではないか。
(花埋み.地)

(31) 三和土の上に残された加恵は、俄かに自分ひとりが除けものにされた思いに、しばらく茫然として佇んでいた。信じられなかった。これが待っていた夫の帰った日の出来事なのである。加恵は雲平の妻である筈だったのに、雲平は母と弟妹に取巻かれて妻の前は素通りして父親のところへ行ってしまった。加恵の用意した湯も使わずに。[中略]

夕餉の用意はせめて妻の手で整えようと厨に立った加恵は、間もなくまた同じ思いの中へ閉ざされることになった。於勝と小陸が浮々して現われ、彼女たちは敬愛する兄のために彼の好物で食膳を整えようと考えていたのである。(華岡青洲.地)

〈AI 心理的狀態型〉の中にも瞬間的なアスペクトのものもある。これも動作動詞の比喩的な使用であるが、より瞬間的で個別的だろう。

(32) 「それでわかったわ。その愛の雷に撃たれたときからLさんはあなたを漢字で愛しはじめたのよ。[後略]」(聖少女)

次の例は、一見すると非情主語だが、有情者の部分(所有物)がガ格に立っており、先行する述語の「みていると」の主語相当の人物の視点で描かれた文と判断できる。こうした文は、「AN-ハ 部分-ガ V-ラレル」という「ハ一が構文」であると見なして、有情非情受身文の〈AI 心理・生理的狀態型〉に位置づけた。

(33) 唯、津上京子の淑やかのようで、したたかな身のこなし、薄い灰色の白眼をみていると、官能が鋭く刺戟され、憤りに似た感情が衝き上げてくる。(植物群.地)

AI 心理・生理的狀態型の周辺と他のタイプ

〈AI 心理的・生理的狀態型〉は、有情者の行為者ではなく、非情物の行為者=原因を二格にとるという構造的特徴を持つ。原因を表わす二格は、受身文に限らず、無意志的な自動詞文(自然動詞文)にも現れうる補語である。奥田(1962)の「に格の連語論」の〈原因的なむすびつき〉から例を引用する(p.322, 波下線と太字は原文による)。

(34) 勤は毎夜子の泣きごえにおこされて、はだけたねまきをあわせる暇もなく、夜のさむさにふるえながら、枕もとの鉄びんの湯でミルクをこしらえていた。(妻・148)

(35) お繁の方は、ひどく旅につかれた様子で、母の背中に頭をもたせかけたまま、気ぬけしたような目つきをしていた。(家・227)

(36) ひとつひとつ丹念に見ていけば、生徒たちの可愛さにまぶたがうるんでくる。(人・26)

(37) 木原が嫉妬にくるって、自分をころすほどいじめつけてくれるか、さもなくば……(秋・245) 74

のように、二格の原因が自然動詞文にも現れる補語であるということは、〈AI 心理・生理的狀態型〉の表わす事態が、単に外的動作主から一方的に動作や影響を身に受けるということを表わすのではないことを表わしている。そうではなくて、何らかの内的・外的原因が引き金になって、有情主語の内部に新たな状態(心理的・生理的な動き)が現れることを表わしている。つまり、「AN-ガ IN-ニ 心理・生理 V-ラレル」という受身文は、「AN-ガ IN-ニ 心理・生理 V-スル」という自然動詞文に限りなく近づいているのである。

さらに、この二格の非情物は、単に原因にとどまらず、主語に立つ有情者の心理的な態度が向かう対象を示す二格にまで近づいていく。奥田 1962 では、「おどろく、おびえる、あこ

74 「妻」:『妻』(田山花袋)、「流」:『流れる』(幸田文)、「家」:『家・前編』(島崎藤村)、「日」:『日々の背信』(丹羽文雄)、「秋」:『秋のめざめ』(円地文子)

がれる, ほれる, なやむ, 感動する, はらはらする」などの動詞と二格名詞句とのむすびつきを〈心理的な態度のむすびつき〉とし, この二格名詞句は「その[心理的]態度のむけられる対象をしめしている」とする (p.302)。一方で, この二格名詞句は, 心理的な態度を示す動詞がヲ格名詞句とむすびつく場合⁷⁵に比べ, 「原因的なニュアンスをおびてくる」 (p.303) ことも指摘している。つまり, この二格の非情物は, 心理的な態度が向かう対象であると同時に, 心理的な状態を引き起こす原因的な性格も持っているということである。受身文の場合, 特に原因的な意味合いの方が色濃くなるだろう。

(38) 屋敷の広さに [驚く／驚かされる]。

(39) 彼のやさしさに [心打たれる／感動する]。

このように, 〈AI 心理・生理的状态型 (AI 状態)〉は, 単に一方的に「身に受ける」という意味ではなく, 内的・外的な原因によってある心理状態を抱くこと, さらには外的な対象に心理的な態度が向かうことまでを表わすことがある。このことと, このタイプが対応する能動文で述べると不自然になる, ないし対応する他動詞文を持たないことが多いという構造的特徴は, 決して無関係ではないだろう。〈AI 心理・生理的状态型〉のラレル動詞は, 体系上, 心理・生理的状态を表わす自然動詞にきわめて近いところにあると考えられる。いくつかの動詞は, すでに自動詞に移行しているのだろう。次の例の, 最初の動詞はまだ受身述語であるが, 2 番目の動詞は, 形はラレル動詞でも対応する能動文を持たず, ほとんど自動詞であると言える。

(40) 私は, 彼女の美しさに [魅了された／惹かれた／ほれた]。

(41) 私は, 彼の態度に [圧倒された／気圧された／狼狽した]。

自然動詞文と常に移行関係にある一方で, 〈AI 心理・生理的状态型〉は, 有情主語の動作動詞による受身文とも移行関係を持っている。「押される, 打たれる, 引かれる, 縛られる⁷⁶」などの動作動詞は, もととは〈AA 接触型 (AA 無変化)〉の要素であるが, 非情物が二格に立つことで〈AI 心理・生理的状态型〉に移行している。

(42) 私⁷⁵は崔の勢いに押され, 仕方がないと返事をしそうになったが, 危ういところで踏みどまった。(一瞬の夏.地)

(43) さらに大田夫人の良妻賢母ぶりにうたれたのはぼくが太郎の過去を発掘したいきさつを打明けたときであった。(裸の王様.地)

(44) 僕はそういう話を聞きながら, ぼんやりとした悲しみに打たれていた。(草の花.地)

(45) 「ったく、いつまで死んだ恋人に縛られてんだよ」(砂の上の恋人たち)⁷⁷

また, 「追われる, 迫られる, 駆られる, つきまとわれる, 見舞われる, おそわれる」など, 多くの接近動詞が有情者ではなく非情物の二格と共に起することで, 〈AA 接近的態度型 (AA 態度)〉から〈AI 心理・生理的状态型〉へ移行している。

(46) 「主婦って大変なんですよ, 旦那の世話に追われて, 子供の世話に追われて.....[後略]」(砂の上の恋人たち)

(47) ぼくは大田夫人がどれほどの必要に迫られてその質問をしたのか, はなはだあいまいな気がしたので, はぐらかしてしまった。(裸の王様.地)

⁷⁵ 「恋する, 愛する, 憎む」のような動詞。

⁷⁶ 「縛られる」は, 姿勢の変化としての生理的变化動詞にも近いかもしれないが, 今回は接触動詞に含めた。

⁷⁷ ここでは, 有情者が二格補語に現れているが, これも動作主ではなく, 「死んだ恋人の存在」のような意味で, 原因である。

- (48) それと同じに、私も最初の一、二行を書き記し、ふたたび茫然とした時間に見舞われる。(植物群.地)

所有変化を表わす動詞でも、「あたえられる、うばわれる、とられる」などの基本的な動詞は、主語に立つ有情者の心理・生理を表わす名詞がヲ格に立つことで、〈AA 譲渡型 (AA 相手)〉ないし〈AA 奪取型 (AA 持ち主)〉から〈AI 心理・生理的狀態型〉へ移行する。

- (49) はじめて夫人が太郎をぼくのところへつれてきた日のこと、山口に対してしんらつ的確な評を一言下したと、川原へ太郎をつれだすときに言葉とはひどくうらはらな、なげやりの違和感をあたえられたこと、そして夜ふけの広場でかいまみた眼の異常な輝きと酒の霧。(裸の王様.地)
- (50) キンボシの客は、土工、馬方、虚無僧、車夫、旅芸人、大道商人といった人たちで、それが車座になって井を叩き、調子はずれの唄を歌う光景に、私は心を奪われた。(幻燈畫集.地)
- (51) 前の日、彼は二本の紐の結び目に気を取られて、京子との次の約束の日を定めるのを忘れた。(植物群.地)
- (52) それからしばらく、彼は、底なし沼に足を取られてもがき苦しみつづけているような眠りをつづけた。(孤高の人.地)
- (53) 太郎のときも、さんざんそんなふうについておきながら、いざとなると個展の日まで日数のないことや、カンバスの枠張りに手間をとられたことや、先方のたのみがことわりきれないことなど、自分勝手な弁解ばかりならべて逃げてしまった。(裸の王様.地)

こうした、動作動詞による〈AI 心理・生理的狀態型〉の受身文の多くは、対応する能動文を持っていない。すなわち、この移行関係は、受身文の体系に特有のものであると言える。

また、〈AI 心理・生理的狀態型〉は、自動詞の使役形が要素となることから、〈AA 強制使役型 (AA 無変化)〉とも相互移行がある。次の例は、他動詞の使役受身形であるが、心理動詞である。このため、有情者の動作主をニ格にとることもできるが、非情物のコト=原因が行為者であると見なして、〈AI 心理・生理的狀態型〉の周辺に位置づけた。

- (54) 「[前略]私、仙台に越してからとても焦ってしまうの。なんだか無理やりにいろんなことをあきらめさせられているような気分」(女友だち)
- (55) 良枝「あなたが“思い”だけで動き回ると迷惑する人間がたくさんいるんだ」／ 黎子「——」／ 良枝「私だってそうだよ。思い出したくない時にひとみのこと、思い出させられちゃうし」／ 黎子「……」(砂の上の恋人たち)

「心が洗われる／満たされる」のような表現は、構造的には非情主語の〈I 状態変化型〉の格体制を持っているが、ガ格とラレル動詞のむすびつき全体が〈AI 心理・生理的狀態型〉の意味を表わしている。これは、慣用的な表現として〈AI 心理・生理的狀態型〉の周辺に位置づけた。

- (56) この清楚な佇まい。心が洗われるとはまさにこういうものに触れた時に感じるものだ。見ているだけで気持ちが穏やかになってくる。(冷静と情熱)

さらに、次の例は、非情主語一項受身文の〈I 結果型 (I 変化)〉の構造を持っている。しかし、主語に心情を表わす名詞が立ち、出現場所のニ格に人間の心理にかかわる身体部位の名詞が要素になることで、全体の意味としては〈AI 心理・生理的狀態型〉を表わしている。このことにより、原因を表わすニ格の抽象名詞句と共起している。

- (57) その唇が、不可解なまま記憶の中に埋もれていたことに、彼の心に屈辱に似た気持が喚び起された。(植物群.地)

1.2 AI 陥る型「私は悲惨な状況に置かれた」

〈AI 陥る型〉とは、主語に立つ有情者が、その意志とは関係なく彼／彼女を取り巻く周囲の状況により、ある状況・立場に陥るという意味を表わす。主語の有情者を当該の状態に陥らせるのは、有情者の動作主ではなく周囲の状況であり、これが原因として文中に現れることもあるが、基本的に行為者を想定することは不可能であるという構造的特徴を持つ。これにより、〈AI 陥る型〉は対応する能動文が想定できない場合が多い。

(58) AI 陥る型

対象=受影者 A N・ハ	着点=状況 状況 N・ニ	陥る 位置変化 V・ラレル
-----------------	-----------------	------------------

「和夫は悲惨な状況に置かれた」 【能動文想定不可能】

〈AI 陥る型〉の生産性は低く、動詞はかなり限られている。次のような位置変化動詞の一部が要素となる。

(59) 置かれる、追い込まれる、立たされる、さらされる、巻き込まれる、etc.

また、二格の補語には着点=状況を表わす抽象名詞のうち、状況・状態を表わす名詞が立つ。それぞれの動詞がむすびつく名詞のタイプ（選択制限）は若干異なっている。(60)a は主に「置かれる、追い込まれる、立たされる」と結びつき、(60)b は「さらされる」と、(60)c は「巻き込まれる」と結びつく名詞である。

- (60) a. 状況、状態、立場、環境、苦境、窮地、etc.
 b. 危険、危機、脅威、競争、攻撃、暴力、虐待、批判、砲弾、etc.
 c. 事故、事件、犯罪、トラブル、喧嘩、争い、戦闘、etc.

実際の用例には次のようなものがある（波下線は状況・状態）。

- (61) つまりこいつは関係者がいつまでも不安定な状態に置かれるのを避けるための法律だね。
 (エディプス)
- (62) 導線の中を流れてきた電子は、電気分解の電極のところにて、大井川の岸にたどり着いた旅人のような立場に置かれる。(化学)
- (63) 自分が食うに困るほどの破綻に追いこまれても仕送りをたやすうなことはぜったいしなかったが、それはあとになって考えると事務家としての正確への熱度が主であったようだ。
 (裸の王様.地)
- (64) だが、平和的解決にこだわるアフガニスタン・タリバン政権がこれを阻止し、犯人側の要求を一部のまざるを得ない状況に追い込まれた。(毎日)
- (65) インド政府は事件の平和的解決の代償に、今後、大きな試験にさらされることになる。(毎日)
- (66) [前略] 多数派の一般大衆がつねに“失業と飢えの恐怖”にさらさしている状況が、社会のあり方としてけっして好ましいものではないということは、少なくとも“総論”としては、ほとんど全員の賛同が得られるたぐいの価値判断ではないだろうか。(ゆとり)
- (67) 「こっちに帰ってきて、友だちが事故に巻き込まれた。その時の加害者もそうだった。自分は悪くない……そればかり主張して……[後略]」(砂の上の恋人たち)

AI 陥る型の周辺と他のタイプ

〈AI 陥る型〉の構造としては、着点=状況の二格と共起する位置変化動詞のみを取り上げたが、次のように、起点=状況を表わすカラ格と共起する位置変化動詞もある。これは「陥

る」という意味規定が当てはまらないが、便宜的にこのタイプに分類しておく。

- (68) 「豊かな社会」とは、まず第一に、人びとが“失業と飢えの恐怖”から解放され、生活に困ることがなくなった、ということである。(ゆとり)

このほか、「置かれる」では「監視下に置かれる」などがある。これは、「ある状況に陥る」という意味まで抽象化が進んでいないが、〈陥る型〉の周辺に位置づけておく。

〈陥る型〉は位置変化動詞で構成されることから、位置変化動詞の有情主語受身文の二格に着点=場所名詞ではなく、心理状態を表わす名詞が立つと、〈AA 位置変化型 (AA 変化)〉から〈陥る型〉へ移行する。次の例は、未だ比喩的な使用であるが、〈陥る型〉へ移行していると見なした。

- (69) 加恵はたった今送り出されてきた妹背家の賑わいから突然隔絶され、怖ろしい孤独の中に突落されたような気がした。(華岡青洲.地)

- (70) 今まで五体に活力が漲り、自信が溢れていたものが急に失われ、暗い思いにとり残される。(花埋み.地)

しかしながら、先に〈AA 位置変化型〉の説明でも述べたように、「置かれる」という動詞は、有情者を主語にした「有情者・ガ 場所・ニ 置かれる」という〈AA 位置変化型〉ではほとんど用いられない。また、「有情者・ヲ 状況・ニ 置く」という能動文もかなり不自然な使用である。よって、〈陥る型〉の中でも、特に「置かれる」による受身文は、受身文に特有のパラディグマティックな移行関係（ネットワーク）を持っていると考えられる。

「追い込まれる」という動詞は、「生産中止／辞任／封鎖に追い込まれる」などのように、主に後退・中断を表わす動作性名詞と結びつくことがある。このとき、格標示は二格であるが動作性名詞と共に起する点、また、動作主が想定不可能である点の2つの構造的共通性から、「生産中止を余儀なくされる」などの〈AI 不可避型 (AI 状態)〉に意味的に近づいている。

1.3 AI 不可避型「企業はコスト削減を迫られている」

〈AI 不可避型〉とは、ある個別の参照時において、主語に立つ有情者がヲ格名詞句で示される動作の実現を避けられないことを表わす。この構造の要素となる動詞は、ヲ格の動作性名詞を補語とする要求的態度動詞の一部である。だが、具体的に誰が当該動作の実現を求めているのかを想定することはできず、主語を取り巻く状況から当該動作の実現が避けられないことを述べているに過ぎない。「せざるをえない」というモダリティ表現に近いだろう。しかし、AI 不可避型は生産性も頻度も低く、未だ暫定的な一般化である。

(71) AI 不可避型

対 象	動 作 内 容	不 可 避 で あ る
AN-ハ	動作性 N-ヲ	要求的態度 V-ラレル

「企業はコスト削減を迫られている」 【行為者想定不可能】
求められる、迫られる、余儀なくされる、強いられる、望まれる；負わされる、etc.

〈AI 不可避型〉は、有情主語で要求的態度動詞を要素とする点では〈AA 相手への要求的態度型〉⁷⁸と共通しているが、同じく要求的態度動詞を要素とし、行為者が想定できない事

⁷⁸ 「私は母親に掃除をたのまれた」、「私は上司に新商品の開発を要求された」などの受身文。

態である点では〈I 社会的関心型〉⁷⁹に意味・構造的に近い。すべての動詞が I 社会的関心型を構成する要求的態度動詞と共通するわけではなく、「求められる、望まれる」など限られているものの、これらの動詞による受身文は I 社会的関心型に非常に近い意味を表わしている。AI 不可避型でも「求められる、望まれる」などでは、動作主が社会の不特定多数の一般の人々とも考えられる。

要求的な態度動詞が、二格の相手を補語とすることをかんがみれば、この構造の主語に立つのは能動文で二格相手として現れる有情者が基本だろうが、非情物が主語に立つ例も見られる（波下線は動作内容）。

- (72) 自動車メーカーは10年までに22・8%の燃費向上を求められている。(毎日)
- (73) 不測の事態でユーザーからの対応を求められるコンピューター・電機業界は、大勢のシステムエンジニアが本社やユーザー企業に待機した。(毎日)
- (74) 「ロールスロイスで登場するか、天井からゴンドラで降りてくるかの選択を迫られたからさ。きみがゴンドラの綱が切れたらと、怖がったんだぜ」(結婚式)
- (75) 人口の多いアジア、アフリカなどに今後自動車を普及させることを考えれば、各メーカーが排ガスの出ない「究極の環境車」の開発を迫られるのは必然ともいえる。(毎日)
- (76) 献身的な母性愛も、文化の産物であるとも考えられ、いままで本能とされてきた性質の多くが見直しを迫られています。(記憶)
- (77) この温暖化で地球の平均海面は50年までに約20センチ、2100年には約50センチ上がり、バングラデシュでは国土の約11%が失われ、500万人以上が移住を余儀なくされる。(毎日)
- (78) それに打明けていえば、基一郎院長は郷里の山形県南村山郡の郡部から出馬した昨年の選挙に相当の出費を余儀なくされたのだった。(楡家・地)
- (79) しかも、残りの人の多くも、偏食ではないが、事情によって偏食を強いられたということがわかっている。(たべもの)
- (80) 企業は重いコスト負担を強いられ、法律を守らなければ操業していけなくなった。(毎日)

次の例は、「動作性 N・という 役割を 負わされる」という構造だが、これも「役割を負わされる」という組み合わせ全体が要求的態度動詞の意味を表わしており、また、行為者を想定できない受身文なので、〈AI 不可避型〉の周辺に位置づけた。

- (81) とはいえ、半年後のイタリア首相は、沖縄サミットで、これまでになく自国の売り込みという役回りを負わされるのは間違いなさそうだ。(毎日)

AI 不可避型の周辺と他のタイプ

先にも述べたが、「求められる、望まれる」などで構成される〈AI 不可避型〉は、〈I 習慣的社会活動型〉の下位分類である〈I 社会的関心型〉と構造的にも意味的にも非常に近い。AI 不可避型でヲ格に立っている動作性名詞が、I 社会的関心型ではガ格の主語に立つ。

- (72)' 自動車メーカーの燃費向上が求められている。
- (73)' コンピューター・電機業界のユーザーへの対応が求められる。
- (75)' 各メーカーの開発が望まれている。

しかしながら、「余儀なくされる、迫られる」などでは、こうした移行関係は不可能である。

次の例は、〈I 社会的関心型〉の〈あり方への社会的関心〉に対応する受身文である。ヲ格には動作性名詞ではなく、状態や特性を表わす名詞句が立つ。こうした受身文には「不可避」

⁷⁹ 「政府の早急な対策が求められる」、「自動車メーカーの燃費向上が望まれている」などの受身文。

という意味が当てはまらないが、暫定的に〈AI 不可避型〉の周辺に位置づけておく。

- (82) 大陸全体を通じて古い秩序は、一つには大戦がもたらした災害のゆえに、いま一つはロシア革命の衝撃のゆえに、存在理由を問われるようになった。(二十世紀)

また、〈AI 不可避型〉は有情者が主語に立ち、要求的態度動詞が要素となる点で〈AA 相手への要求的態度型〉とも共通している。しかし、〈AA 相手への要求的態度型〉は動作主が個別の有情者である点で意味・構造的に異なっており、また、〈AA 相手への要求的態度型〉にはさまざまな要求的態度動詞が要素となる。

- (83) 「さっき電車の中で喧嘩をしていたらう。あれはね、彼女が家からやかましく言われて、厭な男と結婚を迫られているからなんだ。[後略]」(金閣寺)
- (84) 2月の大阪府知事選で、自民党府議団から立候補を要請された中馬弘毅・同党府連会長(63)＝大阪1区＝は31日、毎日新聞の取材に〔後略〕(毎日)
- (85) たぶん、女遊びもしたことのない弟は、男には海千山千のその種類の女に翻弄されて、心中をせがまれたに違いありません。(点と線)
- (86) その後、彼は定時制高校を辞めることになったのだが、それは噂のためだ。ただ噂だけのためで、辞職を勧告されたわけではない。(植物群.地)

2 その他の有情主語非情行為者受身文

ここでは、有情主語でかつ非情物が行為者であるその他の受身文を概観する。統計をとったデータには、有情非情受身文の「その他」として分類された受身文は、全テキストを通じて1例も存在しなかった。一方で、非情行為者ではあるが、有情行為者による受身文の周辺のタイプと見なして有情有情受身文に分類した非情行為者の受身文がある。以下では、この有情有情受身文の周辺に位置づけた非情行為者の受身文を紹介する。

何らかのコト(抽象名詞)が有情者の認識活動を引き起こす原因となる場合がある。主語に立つ有情者は、そのコトをきっかけとして、そこから新たな認識を導き出すのだが、この認識活動が無意志的で、コトに誘発されて起こったことを強調するために受身文が用いられる。こうした受身文は、〈AA 知的認識型〉に分類したが、有情主語非情行為者受身文の1タイプとして立てるべきかもしれない。それは、この種の受身文には、主語に立つ有情者自身が認識活動の主体(経験者)であるという違いがあるためである。また、「教えられる(≡教わる)、学ばせられる(≡学ぶ)」などは行為者が有情者であることもあり得るが、「感じさせられる(≡感じる)、思われる(≡思う)、気づかされる(≡気づく)、考えさせられる(≡考える)」などでは、通常行為者は非情物である。

- (87) ……人間というのは不思議な存在だ。思いがけないところから教えられることがある。さて、私はひきあげるよ。(冬の旅)
- (88) 「武器は人間の方がずーっと進歩してますの。小はピストルから大は水爆まで、すごい威力! 人間の知恵と努力にはいつも学ばせられますわ」(ブンとフン)
- (89) 明治から平成まで、激動の時代を昭和天皇とともに生き抜いてこられた皇太后さまのご逝去の記事に、また一つの歴史が幕を閉じたことを感じさせられた。(毎日6月27日)
- (90) じわじわとむしばまれる健康に、もの言わぬ自然の報復を思い知らされるのだ。(毎日4月13日)

(91) ギリガンのこの批判は、湾岸戦争の際の反戦意識の違いを見ると納得させられるものがある。(毎日 6 月 27 日)

(92) 「さっきの刑事の言葉に、私は目をさまされた思いをした。もしかしたら、私は、修一郎を甘やかしすぎて育ててきたのかも知れない。[後略]」(冬の旅)

また、次の例では、行為者としての非情物が音量や動きを伴っていて、これによって「目を覚ます」ことが受身文で表わされている。これは、〈AA 生理的变化型〉に分類した。

(93) 「え、もう帰るの。飯食うぐらいいいじゃない、俺この騒動で起こされて、朝からコーヒー一杯だけだぜ」(帰れぬ人々)

また、「鉄砲に撃たれる」など、かなり慣用的ではあるが非情物を行為者としている。これは〈AA 接触型〉に位置づけた。

(94) 「[前略]父はその戦いの中で、官軍の鉄砲に撃たれて死にました」(たそがれ清兵衛)

(95) 「足がある。あそこに。足首の切ったのが、転がってるんだ」[中略]「わかってる。どっかの兵隊だろう。弾にすっ飛ばされたんだろう」(野火)

このほか、何らかの非情物により、主語に立つ有情者がある位置を占める、ないしある場所に置かれることを表わす受身文がある。こうした受身文は、〈AA 位置変化型〉の周辺に位置づけた。

(96) 「たかが知れてる。あいつら[ネズミ]は下水管に陸封されたようなもんだからね。一匹ずつシラミつぶしにやっつけていけばいいのさ」(パニック)

(97) 「[前略] こんな種類の結合は、ぼくらにとってあまりにも自然なことだった、つまりからで構わるということは自然すぎて、なんでもないのだ。[中略]もしここでぼくらがことばを分泌していたら、それはまさにねばねばした分泌物としかいえないようなことばで、ぼくらはそのなかにとじこめられてとけてしまったことだろう」(聖少女)

(98) それでも、こんなふうは無下に、冷淡に扱われると、人間である以上必然的に一種の……たとえてみれば人とも世とも距てられたというような感情を抱きたくなりますよ。そうでなくてもぼくは、外界から自分一人が遮断されてしまうような違和感に悩まされているのです。(楡家)

なお、行為者が非情物である受身文タイプについては、志波(2010)で詳しく用例を扱っている。

第5章 非情主語一項受身文

本章では非情物が主語に立ち、行為者が有情者である非情主語一項受身文（非情一項受身文）について、その意味・構造的なタイプの特徴と周辺の用例を詳細に見ていく。

非情一項受身文の中心的な機能は、動作主の存在を含意しつつ背景化し、「誰がやったか」ではなく「何が起きるか（起きたか）」に焦点を当てることである。誰が動作主であるかということには関心がなく、具体的な動作主の行為に対する責任性は背景に押しやられ、問題にされない。よって、特別な動機がない限り、動作主は同一節内に明示されない（Agentless である）。こうした機能と構造的特徴は、印欧語に見られる多くの受身文に共通したものである。

ただし、非情一項受身文には有情者の広義所有物が主語に立つ受身文も分類されている。こうした受身文は、割合は高くないものの、意味・機能、及び構造的に有情有情受身文に近いものも少なくない。この点に関しては、特に 1.2 の〈I 無変化型〉の中で述べているが、有情者の所有物が主語に立つと、所有者としての有情者が影響を受けるという意味が読み取れることがあり、益岡（1991b）の潜在的受影者のいる受身文になる。このとき、動作主は背景化されずに、行為の責任者として明確なことが多い。しかし、本報告ではこうした受身文を非情一項受身文として同列に扱っている。これは、有情者の所有物が主語に立つ受身文がすべて有情有情受身文に近づくとは限らないと考えたからである。

非情一項受身文は、大きく、〈I 事態実現型〉、〈I 習慣的社会活動型〉、〈I 存在型〉、〈I 超時的事態型〉に分けられる。以下、それぞれのサブタイプについて詳しく見ていく。

1 I 事態実現型

〈I 事態実現型〉とは、基本的に個別具体的（アクチュアル）な、時間軸上に一回的な事態として位置づけられる事態の実現を問題にし、テンス・アスペクト的に最も動詞文らしい受身文である⁸⁰。I 事態実現型には、大きく次の4つのタイプがある。それぞれ、次のような構造を持つ。

(1) a. I 変化型	IN・ガ 変化 V・ラレル
b. I 無変化型	IN・ガ 無変化 V・ラレル
c. I 認識型	IN・ガ 認識 V・ラレル
d. I 態度型	IN・ガ 態度 V・ラレル

⁸⁰ たとえ非アクチュアルなアスペクトで述べられても、当該タイプにおける頻度が低ければ、これは単なるアスペクト的な対立であるとして、アクチュアルなアスペクトの用例と同列に扱っている。

以下、これらのサブタイプについて、見ていく。

1.1 I 変化型 (I 変化)

〈I 変化型〉とは、動作主の存在を含意しつつも、その人格性や行為に対する責任性を問題にせずに、主語に立つ対象に変化が起きた（起きる）ことを表す受身文タイプである。非情一項受身文は、動作主を背景化することから、その動作プロセスも背景化されることが多く、対象の変化の局面が中心に捉えられる受身文タイプである。変化動詞は、こうした非情一項受身文の要素としてなじみやすく、よって〈I 変化型〉は非情一項受身文において、割合的にも中心的なタイプとなっている。

非情一項受身文の行為者は基本的に有情者であるが、〈I 変化型〉には、次のような自然勢力が行為者になった受身文も、数は多くないが含まれている。こうした自然勢力は、非情主語非情行為者受身文における自然現象とはことなり、物理的な作用でもって働きかける存在であることから、有情者の動作主に準ずる行為者と見なした。

- (2) 或いは爆風で薙ぎ倒され、気絶したのが真実であったかも知れない。(黒い雨.地)
(3) 雪底もいたるところにあった。風のために磨かれた氷盤もあった。雪の吹きだまりがあるかと思うと、アイゼンの爪も立たないように固く凍った雪盤もあった。(孤高の人.地)

また、次のように、動作主の身体部位等の所有物が主語に立つという特徴を持つ受身文がある。こうした受身文は、動作主と対象が別々の実体ではなく、対応する能動文が再帰的であるという特殊な構造を持つが、動詞の語彙的意味を優先してそれぞれのタイプに分類した⁸¹。こうした受身文は、小説の会話文テキスト、評論文テキスト、新聞テキストには見られず、小説の地の文に特徴的な表現である。

- (4) a. I 状態変化型：顔がゆがめられる、ひざが曲げられる、etc.
b. I 位置変化型：手に力がこめられる、手が（腕から）離される、顔が近づけられる、息が吹きかけられる、経験／年齢が重ねられる、etc.

次のような例が見つかった。

- (5) 鮎太は身をもがいたが、冴子の二本の腕にこめられた力は意外に強いもので、それが身内に滲みるように快かった。冴子は執拗に鮎太の上半身を抱きすくめていたが、やがてくっくつと切れ切れに笑った。冴子の唇が鮎太の頬に擦られた。(あすなろ.地)
(6) 傷にさわられるときだけ、栄二の顔は痛そうにしかめられたが、そのほかのときは痴呆のように無表情であり、誰の顔をも見ないし、なにをきかれても答えなかった。(さぶ.地)

以下、〈I 変化型〉のサブタイプについて、その意味・構造的な特徴と他のタイプとの相互関係を見ていく。

1.1.1 I 状態変化型「机が折り畳まれた」「国民の権利が平等化される」

〈I 状態変化型〉は、外的な働きかけ、あるいは外的な要因のために、モノあるいはコトに何らかの状態変化が起きる（起きた）ことを表わす。この構造の要素になる動詞は、対象

⁸¹ ただし、こうした特殊な構造の受身文が他の言語でも可能かどうかは、対照するさいに留意しなければならない。

(客体)を変化させる他動詞である。

次の例では、受身文で表わされている事態が、後につづく文ではまさに「変化が起きた」という表現で述べられている(波下線)。

- (7) いわば、かつてはエリートないし金持ちにだけ保障されていた“生存権”(?)が、いまや一般大衆ないし貧乏人にまで拡充されたのである。それは、“権利”の分配が著しく平等化されたことを意味する。この角度からいうと、「豊かな社会」がもつ第二の意味は、エリートないし金持ちと一般大衆ないし貧乏人との間に、かつてない平等化が起きた、ということにほかならない。(ゆとり)

〈I 状態変化型〉は次のような構造を持つ。結果の状態を表わす形容詞(形容動詞)または名詞句を修飾語としてとるという特徴を持つが、これは能動文と平行した特徴である。一方で、非情一項受身文は、動作主とともに動作プロセスが背景化されるため、道具をあらわすデ格名詞句はほとんど現れない。

(8) I 状態変化型

対 象	結 果 の 状 態	外的要因による状態変化
IN-ガ _{SUB}	(Adj-く/N-に _{MOD})	状態変化 V-ラレ _レ

「窓ガラスがこなごなに割られた」 【背景化された個別有情行為者】

「金持ちと一般大衆への権利の分配が平等化される」 【行為者想定不可能】

状態変化動詞は、漢語動詞まで含めればかなりの数になる。ここでは、和語動詞のみ、代表的なものを挙げておく(奥田 1968-72:26 参照)。

- (9) あたためられる、開けられる、荒らされる、折られる、崩される、碎かれる、消される、削られる、壊される、縛られる、閉められる、染められる、倒される、畳まれる、束ねられる、縮められる、潰される、濡らされる、伸ばされる、冷やされる、開かれる、広げられる、膨らまされる、伏せられる、振られる、干される、掘られる、曲げられる、まわされる、磨かれる、焼かれる、破られる、ゆすられる、汚される、割られる、etc.

では、まず具体名詞が対象である「モノの状態変化」の例から見ていこう。「モノの状態変化」では、何らかの動作主の関与によりある実体の上に変化が起きたことが表される。このとき、当該の変化を起こした動作主は含意されるものの、その人格性や動作に対する責任性はまったく無視されている。主語の具体性の高い順に例を挙げよう。

- (10) 外山は賞品の大スイカを加藤に与えながら、彼の卓抜した泳技を誉めた。加藤の貰ったスイカはその場で割られてみんなに配られた。(孤高の人.地)
- (11) 会場は、はやばやとアルバイトの若者たちの手によって後片付けが始められた。照明用のライトからひとつずつ灯りが落とされ、リングサイドの椅子が折り畳まれ、束ねられていく。(一瞬の夏.地)
- (12) 邸の玄関でぼくを迎えたのは太郎でもなく、夫人でもない。五十すぎの寡黙な老女中であった。書斎の厚い扉が閉じられると、広い邸内にはなんの物音も感じられなかった。(裸の王様.地)
- (13) 疑い、問いつめ、答えながら、突然、吟子の脛に、白く艶やかな肢体が浮びあがった。それはゆっくりと押し曲げられ、膝頭がまさに腹へつこうとした途端、とてつもない力で左右へ開かれていく。(花埋み.地)
- (14) 遺跡から出土した木材などに刻まれた年輪をこの標準パターンと重ねる。樹木の一番外側まで残っていれば、伐採された年が出る。(毎日)

(15) 広場を挟む形で新教会の向かいに市庁舎が建っている。60年代に改修され、17世紀当時の姿に戻された。(毎日)

(16) 放送のデジタル化は衛星放送に始まり、さらには、わが国で最も慣れ親しまれている地上波放送についても21世紀早々にはデジタル化されることが決まっている。(毎日)

(17) 今大会は国際オリンピック委員会のスキャンダルの影響で収入が減り、予算が切り詰められたが、それさえ「平等」を重んじる豪州人にとっては喜ばしいことだ。(毎日)

次の例は、アスペクトが結果状態であるが、これも「モノの状態変化」である。

(18) 白粉気のない薄桃色の顔はうぶ毛で覆われているようにみえた。しかし、その唇は口紅で真紅に塗られてあった。(植物群.地)

次のように、自然現象によって当該の変化が起きる場合には、具体的な動作主を想定することは難しい。主語に立つ実体を取り巻く現象や状況のために、その上に変化が起きることが表わされる。

(19) ロウソクが燃えているとき、その炎の熱によってパラフィンが融けて液体となり、この液体が芯を伝って上に昇る。これは毛細管現象という、細い隙間を液体が昇る現象だ。そして、液体のパラフィンは蒸発して気体となり、この気体が酸化されて炎となる。(化学)

(20) つまり、1Fの電流によって、銀は1モルつまり108gがメッキされるのである。(化学)

モノが消えることを表わす場合も、状態変化として、I状態変化型に位置付けた。

(21) 88年のソウル五輪決勝ではベン・ジョンソン(カナダ)が9秒79を出したが、ドーピング検査で陽性となり失格、記録も抹消された。(毎日)

(22) 近い将来、通勤ラッシュに嫌気のさした人々からゆとりのある通勤電車を求める声が高まり、古くなった地上の鉄道網は順次廃止され、地下に移される。(毎日)

(23) 黒板の文字が消された。

次に、抽象名詞が対象である「コトの状態変化」の例を見てみよう。「コトの状態変化」では、実体としての動作主を想定できないことの方が多く、主語に立つコトを取り巻く状況によって、当該の変化が起きると捉えられる。

(24) また、動物が高等になるほど、環境が変わると、新しく脳機能がつくり変えられる柔軟性に優れてきます。(記憶)

(25) はいってきたときは、個性のある味があったものであろうが、いつのまにか、日本的に味が同化されてしまい、その日本的な形の味で生き残ったのである。(たべもの)

(26) 三原は、その言葉で、どきんとした。いままで、ぼんやりとひろがっていた予感が、急速に一個の形に収縮されてゆくのを感じた。(点と線.地)

(27) 彼らは訓練主義教育で育てられた自分の肉眼の趣味にあわせて子供に年齢を無視した整形やぬりわけを強制するだろう。(裸の王様.地)

(28) 地底の闇をひとつにあつめて凝縮したような暗い思いと、光と目を失った世界で歪められ汚された時の流れが、巨大なかたまりとなって、我々の上にのしかかっているように感じられた。(世界の終わり.地)

(29) 小児期の脳は柔軟で多くのことを学習でき、人間はこの期間に食物や水がある場所、群れでの関係など、生きるための知恵を学んできた。現代ではこの期間が短縮される一方、脳が対応しなければならない外的刺激や情報は増えるばかりだ。(毎日)

コトの状態変化であっても、一般化された有情者や組織・専門家など、実体としての動作主を想定できる例もある。

- (30) たとえば、日本では嫁姑の問題は「家」の中のみで解決されなければならない、いびられた嫁は自分の親兄弟、親類、近隣の人々から援助を受けることなく、孤軍奮闘しなければならない。(タテ社会)
- (31) さらに均等法と労働者派遣法が昨年改正され、女性の働き方は新たな様相を見せてきた。(毎日)

抽象的なコトの消滅を表わす受身文も、コトの状態変化に位置づけた。

- (32) 情死という平凡さに、すぐ答えが出たのか、途中の演算がない。答えが出る前の手数が、どこかにはぶかれているような空隙を感じるのだ――。(点と線)
- (33) 67年には、パークス2代目イギリス公使夫人が、外国人女性として初登頂している。富士の女人禁制が解かれたのはそれから5年後、明治になってからだ。(毎日)

有情者の部分=所有物が主語にたち、さらに主語の所有者である有情者が動作主でもあるという構造を持つ受身文がある。この種の受身文は、「所有者・ガ 所有物・ヲ V・スル」という能動文と対立しているが、動作主が主語に立つ非情物の所有者であるため、主語が外的な行為者から働きかけを受けるという意味をほとんど持たない。外的要因(状況)の影響があったために当該事態が発生したという意味が現れる場合もあるが、**意志を持った動作主を想定できないため、きわめて自動詞に近い表現になる**。よく見られるのは、「能力・特性などが発揮される／失われる」という受身文である。(35)と(36)には、出現場所を表わす二格名詞句が現れている(波下線は出現場所)。

- (34) いいかえれば、自発性を生かしてこそ、人間の能力は存分に発揮される、ということになる。(ゆとり)
- (35) 人間の幸福の「ほど」の違いについて考え込ませるほどの深さに、作者の人間を見る目の凄(すご)さは遺憾なく、のびやかに発揮されている。(毎日)
- (36) こんなことにも いわゆる資格(嫁さんという)を同じくする者の社会的機能が発揮され、家という枠に交錯して機能しているのである。(タテ社会)
- (37) この温暖化で地球の平均海面は50年までに約20センチ、2100年には約50センチ上がり、バングラデシュでは国土の約11%が失われ、500万人以上が移住を余儀なくされる。(毎日)
- (38) 西欧では極右・極左による暴力的政権掌握は見られなかったが、経済苦境や失業や内閣の不安定から、伝統的な議会民主制の権威は失われようとしていた。(二十世紀)
- (39) ところが、そのとき上空が雲におおわれていると、放射された赤外線は雲に反射し、また地表に戻ってくる。それで地表の熱の失われ方が少なく、霜は降りにくい。(化学)
- (40) 荻江がいる時は忍術にかかったように生き生きとするぎんが、荻江がいなくなると再び生氣を失った。呪術にはまったように急に元気になり、また萎れる。今まで五体に活力が漲り、自信が溢れていたものが急に失われ、暗い思いにとり残される。(花埋み・地)

I 状態変化型の周辺と他のタイプ

先に、〈モノの状態変化〉におけるラテイル形が結果状態を表わす例を挙げたが、そこでは先行する変化への意識があり、その変化の結果としての状態を述べていた。一方、ラテイル形及び連体修飾において、「変化」の局面の具体的時間性(及び場所性)が欠けると、先

行する変化への意識がまったくない「特性」を表わす受身文になる。こうした受身文は〈I 特徴規定型 (I 超時)〉である。

- (41) たしかに荒蕪地はアスファルトで固められているが、ずっと遠い暗がりには草と水があったのだ。ここから掘り起していこうとぼくは思った。(裸の王様.地)
- (42) ニューヨークなど一部の大都会ではそういうことがあるかもしれないが、大部分のアメリカでは、加工された食品を家庭でそのまま皿の上ののせるようなことはほとんどない。(たべもの)
- (43) これに対して、社会人類学でいう「ソーシャル・ストラクチュア」というのは、ずっと抽象化された概念であって、一定の社会に内在する基本原理ともいうべきものである。(タテ社会)

有情者が主語に立ち、対象がヲ格のまま受身文に現れると〈AA 所有物の変化型 (AA 変化)〉へ移行する。

- (44) 三人は同じ町に住んでいたが、戦争中空襲で家屋を焼かれた。(植物群.地)
- (45) 織物問屋の男は、文子の死よりも、土蔵を血で汚されたことをきらって、杉の葉をもうもうとくべ、[後略] (死児を育てる.地)

「私がプライドを壊される」のように、有情者が主語に立ち、ヲ格の対象に有情者の心理・感情を表わす名詞句が来ると、〈AA 評価動作的態度型 (AA 態度)〉へ移行する。このような状態変化動詞の比喩的な使用による AA 評価動作的態度型は、「プライドを壊す」のような能動文よりも受身文の使用の方が自然であるように思われる。

- (46) なにより彼女は自分の感傷を――思い出のありあまる青山の土地を久方ぶりに訪れて複雑におし寄せてきた感情の波立ちを、ひどくぶしつけなやり方で壊されたのが腹立たしかった。(楡家.地)
- (47) だが、内藤は、その直後のリターンマッチにも敗れ、三度目の対戦にもノックアウトでタイトル奪還の夢を砕かれていた。(一瞬の夏.地)

1.1.2 I 位置変化型「庭に木が植えられた」「指令が送られる」

〈I 位置変化型〉は、外的行為者からの働きかけを受けて、具体的なモノもしくは抽象的なコトに、今まで存在していた場所から別の場所への位置の変化が起きることを表わす。I 位置変化型は、着点を表わすニ格の場所名詞、もしくは起点を表わすカラ格の場所名詞、もしくはこれら両方を補語としてとる。しかしながら、有情主語の〈AA 位置変化型〉同様、用例では着点のニ格名詞補語をとる場合がほとんどであった。すなわち、奥田の連語の「とりつけ」タイプがほとんどであった。こうした頻度の偏りは、能動文と平行した現象なのか、受身文であるために結果がより意識される着点ニ格と共起する例が多かったのか、今後の調査が必要である。

(48) I 位置変化型

対 象	着 点 ・ 起 点	外的要因による位置変化
IN・ガSUB	場所 N・ニ/カラ COM	位置変化 V・ラレル

「たくさんの花が庭に植えられた」 「様々な指令が脳から全身に送られる」

位置変化動詞は、漢語動詞も含めれば大変な数になる。用例には、次のような動詞が見つかった。

- (49) 送られる, 運ばれる, 移される, 出される, 入れられる, つけられる, かけられる, 掲げられる, 貼られる, 置かれる, 積まれる, しかれる, 並べられる, 盛られる, 配られる, 集められる, 備えられる, たくわえられる, 残される, とめられる, 届けられる, 隠される, ばら撒かれる, 投げ込まれる, 担ぎ込まれる, 閉じ込められる, 持ち込まれる, 押し流される, 打ち上げられる, 埋められる, 固定される, 収納される, 輸出される, 出品される, 放射される, 吸収される, 吸着される, 跳ね返される; 離される, しりぞけられる; 書かれる, 記される, etc.

まず, 具体名詞が対象である「モノの位置変化」の例から見ていこう。着点や起点を表わす場所名詞は文脈の中で省略されることもあるが, 構造上は必要なものである(波下線は着点/起点)。主語に立つ名詞の具体性の高い順に例を挙げる。

- (50) ホットケーキがフン先生の前に出された。(ブンとフン.地)
(51) その代り, その頭髮は黒々と若々しく光沢があり, 実に丹念に櫛があてられ, その髭は更に黒々と豊かで, 先のほうはぴんと跳ねあがり, [後略](楡家.地)
(52) フィンガー・ペイントがしりぞけられたので, ぼくはつぎに彼を仲間といっしょにぼくのまわりにすわらせて童話を話して聞かせたが, その結果, 聡明な理解の表情は浮かんでも, 彼の内部で発火するものはなにもないようだった。(裸の王様.地)
(53) ハムやソーセージは多くのばあい, うす切りしたものが買われ, それがそのままの姿で皿に盛られる。(たべもの)
(54) 漆喰壁では, 二酸化炭素を吸収するのは乾くまでの間であり, 吸収された二酸化炭素は壁面に固定されてしまう。(化学)
(55) 彼が死骸になり, 脆い灰白色の骨片になって素焼の壺に入れられ, 土の中に埋められる。(植物群.地)
(56) この投書が[紙面に] 掲載されるころには2000年を迎えているのだろうか。(毎日)
(57) 99年10月には上棟式が行われ, スピルバーグ氏がハリウッドで採火した炎が, はるばる太平洋を越えて空輸され, 屋外モニュメントに点火されて, ムードを盛り上げた。(毎日)
(58) [前略] 古くなった地上の鉄道網は順次廃止され, 地下に移される。(毎日)

次のように有情者が主語相当になる場合も, 総称的な一般化された有情者であったり, その人格性(意志や感情)が無視されている場合にはモノ扱いと考えられ, 「モノの位置変化」に分類されるものとする。

- (59) [アトラクションの説明] タイムマシンのデロリアンに乗り込んだ客は, 氷河, 雪崩, 噴火口などに次々と送り込まれる。(毎日)
(60) ここの篤志面接委員をしている人に聞いたのであるが, 収容される人の六〇パーセントに近い人が偏食であることがわかったということである。(たべもの)
(61) 展望台は閑散としていて, 全部の観覧客が昇降機に吸い込まれ, 彼一人が残される時間もあった。(植物群.地)

(61)のように, 「吸われる, 吸い込まれる, 吸収される」という動詞の受身文における二格補語は, 着点場所でもあるが, 同時に行為者性も持ち合わせている。次の文も, 「大気と地面, 海が炭酸ガスを吸収する」という能動文が可能であり, 他の〈I 位置変化型〉と構造的に異なっている。しかし, このように場所性と行為者性の両方を併せ持った二格名詞を取る位置変化動詞のタイプを別個に立てられるかどうかは, 対象にしたテキストにおける用例の数(頻度)が少ないため, よく分からない。

- (62) 例えば, 炭酸ガスが出て大気と地面, 海に吸収されれば問題ないが, 大気の炭酸ガス吸

収能力は海の100分の1にも満たないのに、炭酸ガスの半分が大気中に残っている。(毎日)

次に、抽象名詞が対象である「コトの位置変化」の例を見てみよう。コトの位置変化と言っても、抽象名詞のみを補語にとる動詞の受身文は少なく、ほとんどが「モノの位置変化」に用いられる具体的作用動詞の比喩的な使用である。

- (63) 目や耳などの受容器から脳に送り込まれてくる情報もこのような信号ですし、脳から全身に送られていく指令も同じ信号です。(記憶) ⁸²
- (64) 気がつくと、いつの間にかコンピューターに包囲されているのに驚く。政府も企業も家庭もコンピューターに組み込まれてしまった。(毎日)
- (65) 一年の時も、二年の時も、進級成績は抜群で、開校以来の秀才というような言葉が、教室で大人しい鮎太に好意を持つ国漢の教師の口から出されたりした。(あすなろ.地)
- (66) それは、冴子が、女学校で下級生から万年筆と時計を取り上げた事件をひき起し、そのために一年停学になり、郷里の町にいくくて、ここへ来ているのだという噂が村へばら撒かれたからである。それは勿論、日曜ごとに村へ帰って来る冴子と同じ女学校へ行っている村の二人の女学生に依って伝えられたものであった。((あすなろ.地)
- (67) 小渕恵三首相がこだわった朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)のミサイル問題だけは、ケルン・サミットのG8宣言に「憂慮」という表現が盛り込まれたが、地域問題に関する声明にコンボ以外で取り上げられたのは、南東欧の安定、中東和平、ナイジェリア、ヨルダン、キプロスといった欧州や中東地域の問題ばかり。(毎日)
- (68) しかし、彼が京子の軀に加える荒々しい力は、抵抗なくその軀の中に吸収され、かえってその軀を生き生きとさせ、その皮膚は内側から輝きはじめる。(植物群.地)

次の「もたらされる」は具体名詞が主語相当になっているが、「もたらす」という動詞が具体的作用を表していないため、主語は「中国陶磁器の技術」というような意味と考えられ、コトの位置変化であると考えられる。

- (69) またもともと陶器を作る技術があったところに17世紀のオランダ東インド会社によってもたらされた中国陶磁器がヒントになり、今日のデルフト焼の産業が興った。(毎日)

次のような、組織内のセクションのようなものは、モノとコトの中間的な名詞だろうか。

- (70) 政府としては現在、憲法改正する意思はないが、次の通常国会から衆参両院に憲法調査会が設置され、2000年が憲法を正々堂々と与野党含めて検討しようという年になったことは大変意義深い。(毎日)
- (71) 中国総監府は広島文理大学のなかに置かれていて、中国五県を管轄し、総監の大塚維精氏は古武士のような風格の人であったそうだ。(花埋み.地)

実体としての動作主が想定できず、主語を取り巻く状況から当該事態が発生することを述べる「残される」なども、「I位置変化型」と考えられる。

- (72) しかし、これらの理論を、歴史も民族も西欧のそれとは著しく異なる社会に適用する場合、西欧社会に適用した場合と違って、うまく割りきれない問題が残されるのは当然である。(タテ社会)

特に小説などの地の文では、「目／視線が人／モノに注がれる」のような受身文が少ない。このとき、二格に現れるのは場所名詞ではなく人名詞(有情名詞)ないしモノ名詞(非情名詞)である。この種の受身文が1つの構造的なタイプとして定着しているのかどう

⁸² 「受容器から」は起点である場所と考えられるが、次の例の「脳から」は動作主的でもある。

かは、まだよく分からない。今回は〈コトの位置変化〉として分類した。

- (73) 学会が終わって講堂を出ると、無数の讃嘆と好奇の眼が自分に注がれているのを、鮎太は感じた。(あすなろ.地)
- (74) 門礼の後に立っていた加恵は、まさか自分にまで於継が気付くとは思わなかったので、彼女の視線がびたりと自分の眉間に据えらたときは、小太刀の先を当てられたように緊張し身動きもできなかった。(華岡青洲.地)
- (75) その眼は伊木に向けられていたが、はっきり焦点を結んでいないことに、彼は気付いていた。(植物群.地)

I 位置変化型の周辺と他のタイプ

次のように、「場所-ニ モノ-ガ 塗られる」であれば〈I 位置変化型〉であるが、これが「紅殻で 煉瓦が 塗られる」となれば〈I 状態変化型 (I 変化)〉へ移行する。これは、能動文と平行した移行関係である。

- (76) 煉瓦の表面に、洩れなく酸化第二鉄、つまり紅殻が塗られ終ったところなのである。(楡家.地)

非情物の対象が主語に立つ位置変化動詞による受身文は、ラレテイル形／ラレテアル形になると〈I 存在様態受身型 (I 存在)〉へ移行する⁸³。

- (77) 瞬間、ぎんは息を呑んだ。眼の前に木製の台があり、その上に黒い皮が敷かれている。(花埋み.地)

次の例は、「命名に2人の思いが込められた」という完成相であれば〈I 位置変化型〉であるが、ラレテイル形なので、〈I 抽象的存在型 (I 存在)〉へ移行する。

- (78) 国際会議場の命名には、サミットを「宮崎観光浮揚の切り札に」と期待する2人の思いが込められている。(毎日)

次の例は、位置変化の構造を持っているが、呼称を表わすト格を伴って「ト 名がつけられる」と述べることもでき、〈AA 呼称型 (AA 態度)〉に近接している。

- (79) 英国の探検家クックが豪州東海岸に到達してまもない1788年に入植が始まり、町には英内務大臣シドニー卿の名がつけられた。(毎日)

同じ位置変化動詞による受身文で、有情者が主語に立つと〈AA 位置変化型 (AA 変化)〉へ移行する。ただし、有情主語受身文の中で、〈AA 位置変化型〉は特に有情者がモノ扱いである場合が多く、本来は有情主語も非情主語も1つのタイプとして分類するべきところかもしれない。

- (80) だから加恵は綿帽子を冠って見事な花嫁衣裳で平山まで窓をあけた駕籠で運ばれると、ただ一人で家の中に上らなければならなかった。(華岡青洲.地)
- (81) 「二人」はさ、シベリアへ送られる途中で、仲間と列車から飛びおりて脱走してきたんだ。山こえて中国へ出て、そうして仲間のうちの何人かが死んでさ、それでやっと逃げ還ってきたんだよ」(新橋鳥森口)

⁸³ 「置かれる」の場合では、用例の半数以上が〈I 存在様態受身型〉であった。

1.1.3 I 所有変化型「手紙が良子に渡された」「女性に選挙権が与えられる」

〈I 所有変化型〉は、主語に立つ非情物の所有権あるいは占有権（一時的使用权）の移動（変化）が起きることを表わすもので、大きく〈譲渡型〉と〈奪取型〉の2つのタイプがある。〈譲渡型〉では、所有権を得る有情者が二格で表わされ、この所有権を得る有情者、すなわち着点=受取相手は構造上義務的な補語である。一方、〈奪取型〉では、所有権を失う有情者（起点）がカラ格で表わされることがあるが、主語に立つ非情物の規定語として現れることもあり、義務的な補語ではない。

受身文の場合、〈I 位置変化型（I 変化）〉で二格着点と共に起する位置変化動詞（奥田連語論の「とりつけ」）の用例が多いのと平行して、この〈I 所有変化型〉においても、着点=受取相手と共に起する〈譲渡型〉の頻度が〈奪取型〉に比べてかなり高い。

(82) I 所有変化型：譲渡型

対 象 IN・ガ SUB	起点=動作主 (AN・カラ MOD)	着点=受取相手 A N・ニ COM	外的要因による譲渡 譲渡 V・ラレル
-----------------	-----------------------	----------------------	-----------------------

「オリーブの冠が勝者に与えられる」「女性に選挙権が与えられる」

譲渡動詞：与えられる、贈られる、渡される、引き渡される、受け渡される、売られる、貸される、譲られる、預けられる、恵まれる、ささげられる、戻される、取り戻される、返される、授けられる、配られる、払われる、寄せられる、託される、あてがわれる、ふるまわれる、供給される、提供される；負わされる、科せられる、還元される、拡充される、etc.

(83) I 所有変化型：奪取型

対 象 IN・ガ SUB	起点=動作主 (AN・カラ MOD)	外的要因による奪取 奪取 V・ラレル
-----------------	-----------------------	-----------------------

「多くの絵画が美術館から盗まれた」「戦後の復興政策により、秩序が取り戻された」

奪取動詞：とられる、盗まれる、買われる、譲り受けられる、借りられる、受け取られる、もらわれる、奪われる、巻き上げられる、取り戻される、取り返される、購入される、etc.

1.1.3.1 譲渡型

まず、具体物が主語に立つ例を見てみよう。主語の具体性の高い順に例を挙げる（波下線は着点=受取相手）。

- (84) 当初、勝者にはオリーブの冠だけが与えられるとされたが、時代を経るにつれ出身都市国家から経済的援助が贈られることが当然となり、腐敗が進行した。（毎日）
- (85) 遺体は無事に引取人に渡された。（点と線・地）
- (86) 「タイム・カプセルEXPO' 70」2号機は開封、点検が済めば、秋に再埋設して、21世紀の人々に託される。（毎日）
- (87) カプセル事業の企画・製作・埋設までのいきさは、日本語と英語で300ページ近い「記録書」に記載され世界の主要図書館に贈られた。（毎日）
- (88) 修復作業のためには、日本ユネスコ協会連盟に一般市民から寄せられた約300万円の寄付も使われている。（毎日）
- (89) 子供は画で現実を救済しようとしているのに傷口をつつきまわされ、酸をそそがれたような気持ちになってしまう。その結果ぼくに提供されるのは、防衛本能から不感症の膜をかぶった恐怖の肉体だけである。たいていの子供がイソップの蛙である。（裸の王様・地）

所有権をめぐる移動の対象となるのは、通常非情物であるが、対象が「子ども」を代表とする扶養者や庇護される者を表わす場合は、有情者であっても〈I 所有変化型〉の対象=主

語に立つ。

(90) しかし、鮎太は六歳の時からこのおりょう婆さんに引き取られていたので、すっかりこの戸籍上の祖母になっていたし、祖母もまた、鮎太に親身の愛情を感じていた。(あすなろ、地)⁸⁴

(91) シスター桑原は孤児だった。生まれるとすぐ、福岡市の郊外にあるカトリックの女子孤児院にあずけられ、そこで育った。(ブンとフン、地)

所有の変化は基本的には有情者間の関係の中で起こることだが、次のように非情物間における所有権のやりとりも、〈I 所有変化型〉(次の例は〈譲渡型〉)と考えられる。

(92) これで、マイナス電極は電子2個を失い、プラス電極は電子を2個得たので、電子2個分の電荷がマイナス極からプラス極へ受け渡されたことになる〔後略〕(化学)

次に、抽象名詞が主語に立つ例を見てみよう。

(93) 一九年三月のローラット法では、煽動者とおぼしき者を裁判なしで拘留する権限が総督政府に与えられ、また、陪審なくして審問する権限が裁判官に与えられた。(二十世紀)

(94) 加恵には厳格な武家の躰が与えられていたのだが、深窓の育ちは却って軀の奥に稚さを押しこめてしまっていたのであろうか。(華岡青洲、地)

(95) 巨大イベントの利益は庶民に還元されなければならない。(毎日)

次の「取り戻される」は、二格の着点を補語としてとっているが、この二格補語「西欧」は対応する能動文の主語になり得、動作主格的でもある⁸⁵。

(96) だが、曲がりなりにも一九二〇年代末までには、ある程度の秩序が西欧に取り戻された。(二十世紀)

1.1.3.2 奪取型

〈奪取型〉は〈譲渡型〉に比べ用例がかなり少ない。

(97) 私の自宅近くにある都立の有料公園が一時無料になったとき、中の貴重な植物が次々と盗まれた。(毎日)

(98) その剣は、黄金の国ジバングへの扉を開くカギだった。七支刀が盗まれたことで、古墳では半身入れ墨の古代人が千年の眠りから覚め、地獄極楽丸の追跡を開始。(毎日)

(99) いくらせいいっぱい、わたしなりにいい絵を描いても、常に本来の価値ではなく後から附加された価値によって賞讃されるのです。いくら褒められ、いくら絵が高い値で買われても、それはわたしの才能とは無関係なのです。(エディプス、地)

(100) 長男の嫁が家を取りしきるのは当たり前だと思いながらやはり他人者に自分達の家が奪われるといった感じは拭えなかった。(花埋み、地)

(101) 男は、遺留品のナイフなどが一括購入された京都府宇治市内の量販店などで防犯カメラのとらえた男と酷似し、同一人物の可能性が高い。(毎日)

(102) 「そのうち、生命保険が四千八百円、健康保険が二千五百円、残りが十四万二千七百円。それがファイトマネーだけど、一割が源泉徴収で引かれるから、十二万八千五百円になる。〔後略〕」(一瞬の夏)

⁸⁴ 「引き取られる、受け取られる」と共起する二格の有情者は、着点=受取相手であると同時に動作主でもある。よって、この種の受身文は、主語が非情物であるが、動作主が必須の補語であると言える。

⁸⁵ このとき、「取り戻される」は本来カラ格の起点を補語としてとり得るが、この例では起点のカラ格名詞を想定することは難しい。

1.1.3.3 I 所有変化型の周辺と他のタイプ

次のように、有情者が主語に立つ所有変化動詞による受身文は、有情者と有情者の間の所有をめぐる「関係」が表わされている〈AA 譲渡型 (AA 変化)〉である。しかし、(104)のように、主語も動作主も一般人称的であると、個別有情者間の「関係」という意味は薄くなる。よって、(104)は、「幹部候補生には、美人秘書つきの個室があてがわれる」という〈譲渡型〉の受身文と意味的に大きく違わないだろう。しかし、複文の主語をそろえるために、有情者を主語にした AA 譲渡型が用いられている。

(103)「お茶汲みだけじゃないのよ。キャッシュカードを渡されて、銀行へ行くのよ。そして課長や部長のキャッシュをとってくるの。[後略]」(結婚式)

(104)大学出の幹部候補生は、若いうちから美人秘書つきの個室をあてがわれ、工場の現場へはやって来もしない。(ゆとり)

次のような「責務・ガ 科せられる／負わされる」のようなタイプは、二格の着点=受取相手と共起することから、〈譲渡型〉に構造が似ているが、意味的に要求的態度動詞⁸⁶に近く、「所有権の変化」という意味特徴が当てはまるかどうか分からない。

(105)古代オリンピックでは相手を買収する不正行為が多発した。発覚すると、選手は公衆の面前でむち打ちを受けたうえ、厳しい罰金が科せられた。(毎日)

(106)だが、これとても満足のいく条件においてではなく、しかも責任はいつさい、インド側に負わされた。(二十世紀)

次の例は現象名詞が主語に立っており、行為者は有情者ではなく先行する事態である。これも「所有の変化」と言えるだろうか。今回は、〈奪取型〉の周辺に位置づけた。

(107)ところが、冬のよく晴れた風のない朝は、赤外線さえぎるものがなく、放射冷却が起ってどんどん熱が奪われるから、霜が降りやすい。(化学)

(108)の「機会 N・ガ 開かれる」という連語は慣用的な例であるが、〈譲渡型〉の周辺のタイプと考えられる。しかし、(109)のように、習慣的、一般的なアスペクトになると、これは〈I 抽象的所有型 (I 存在)〉へ移行する。

(108)五輪の実施競技は 1 9 8 8 年ソウル五輪以降、増加の一途をたどっている。[中略]種目も、重量挙げや水球、ハンマー投げなどで女子に門戸が開かれ、前回より 2 9 増の 3 0 0。(毎日)

(109)彼らに開かれた選択肢は、(1) 広大な屋敷に住むことを、いさぎよくあきらめるか、あるいはそれとも、(2) Do it yourself に忙殺されてでも、未練がましく広大な屋敷に住みつづけるか、どちらかしかない。(ゆとり)

1.1.4 I 結果型「駅前にビルが建てられた」「文化が形成される」

〈I 結果型〉とは、これまで現実の世界には存在していなかったモノやコトが、動作実行の結果として出現する(生み出される)ことを表すタイプで、主語に立つ非情物は動詞で表わされる事態の実現の結果として現れる結果対象を表わす。通常話し言葉であれば、「モノ／コトができる」という表現になる。

⁸⁶ 非情主語の要求的態度動詞によるタイプは、〈I 社会的関心型〉と〈社会的約束型〉があった。個別一回的な要求行為の受身文(「市民に重労働が強制された／命じられた」)のような受身文は、手元のデータには見つからなかった。

(110) I 結果型

出現場所 (N・ニMOD)	結果対象 I N・ガSUB	外的要因による結果的出現 作成 V・ラレル
------------------	------------------	--------------------------

「丘の上に教会が建てられた」「文化が形成される」

作成動詞：作られる，築かれる，建てられる，結成される，形成される，製造される，開発される，造営される，製作される，設けられる，創設される，設立される，出版される，（法が）制定される，（条約が）結ばれる，書かれる，刻まれる，完成される，生み出される，打ち出される，出される，etc.

（I 結果型）には，出現場所を表す二格名詞が現れることがある（波下線）。まず，具体名詞が主語に立つ「モノの結果型」の例から挙げよう。

(111) 反対に，黒鉛を 45，000 気圧という超高压で 1100℃ に保つと，ダイヤモンドになる。こうして人造ダイヤモンドが作られるようになった。（化学）

(112) 橋は戦争中に爆撃されてからとりこわされ、すこしはなれたところに鉄筋のものが新設された。（裸の王様・地）

(113) 元は 15 世紀に建てられた女子修道院で、16 世紀末にはオランダ建国の祖オラニエ公ウィレム 1 世（沈黙公）の住居にもなった。（毎日）

(114) レザーはさらに、トランス・イラニアン鉄道の建設をはじめ、本国経済および社会の近代化をはかった。トランス・イラニアン鉄道は三十九年に完成され、第二次世界大戦中、米英側がソ連に軍需品を輸送するうえの通路となっている。（二十世紀）

(115) アフリカは、ナイジェリアでの回教徒とキリスト教徒、スーダンでの回教徒と原始宗教信徒との対立をはじめ、かつては欧州の政治家たちによって引かれ、いまは便宜的に各独立国の標識となっている国境線によって、統一的状态からほど遠い。（二十世紀）

(116) 少女は軀を強張らせ、苦痛を訴えつづけ、すこしずつ擦上っていった。眉と眉の間に深い縦皺が刻まれ、それが少女の顔を歪め醜くした。（植物群・地）⁸⁷

「書かれる」「刻まれる」などの動詞では，内容節（・ト）を伴うと主語のない受身文になることがあるが，これもやはり「モノの結果型」と考えられる。次の例は，「という文字が」のような主語に相当すると考えられなくもない。

(117) その台座には「速い足と体力では勝つことができても、金では勝つことができない」と刻まれた。（毎日）

次のように，組織・機関が主語相当である受身文は，モノとコトのいずれに分類するか迷うところだが，その関係性や特性よりもモノ性（実体性）を重視し，「モノの結果型」の周辺に位置づけることにする。

(118) ネルー（一八八九―一九六四）を議長として結成された全インド独立連盟は、完全独立のみならず、社会主義路線に沿う根底的社会変革を標榜していた。（二十世紀）

(119) AISは、豪州が 76 年モントリオール五輪でメダルなしに終わった反省から、8900 万豪ドル（約 61 億円）をかけて 81 年に設立された。（毎日）

次に，抽象名詞が主語に立つ「コトの結果型」を見ていく。

(120) クロマトグラフィーという分別法は，比較的新しく開発された分析手段である。（化学）

(121) もちろん，抽象された理論と現実の社会の諸現象の間には，相当なずれがみられるのであ

⁸⁷ 「深い縦皺」は現象名詞的であるが，モノ名詞と見なした。

り、これらの理論が西欧社会にそのままあてはめられるというものではない。まして、社会というものは動態であり、いったん設定されたモデルもつねに修正を加えられる運命にあることはいうまでもない。(タテ社会)

(122)彼は以後二回逮捕され、彼に従った多くの者も投獄されたが、ようやく三五年八月のインド統治法で、不十分ながらインド連邦の構想が打ち出された。(二十世紀)

(123)すでに戦前・戦時中から、農地改革のシナリオが、日本の官僚たちの手で書かれていたという事実は、無視してはならない。(ゆとり)

こうした受身文では、まだ動作主が何らかの組織や専門家集団であることが想定できるが、「コトの結果型」には、動作主をまったく想定できない例も少なくない。動作主を想定できない受身文は、まさに自動詞相当として機能していると考えられる。ただし、そのような場合でも、原因や条件となるコトが句や節の形で現れることもある(点下線)。

(124)包丁さばきによって、料理文化が形成されていったといってもよい。(たべもの)

(125)そして、後天的につくられる脳機能、つまり条件反射は経験によって新しい信号路がつくられることを意味します。(記憶)

(126)この試みが成功すれば、不況の時勢の中、新たな雇用が生み出され、地域全体を活性化することができるかもしれない[後略]。(毎日)

「結ばれる」という動詞は、具体物を紐などでつなげたりまとめたりする意から、抽象的な関係を築くという意味を発展させている。特に、「男女が関係を築く」という意味の「結ばれる」は、意図的な行為者を想定できないことの方が多く、ほとんど自動詞化していると言っている。

(127)こんな経緯があつて結局妹背家と華岡家の縁組が結ばれることになったのは、最後には加恵の意志が働いたからだと言うことができる。(華岡青洲.地))

I 結果型の周辺と他のタイプ

「企画される、計画される、考案される、(特集が)組まれる、(協定が)合意される」などの意志的な態度を含んだコトの作成動詞も、コトの結果型の周辺例と言えよう。ただし、これらの動詞では出現場所を表わす二格補語が現れることはない。

(128)このプロジェクトは、98年に開通した明石海峡大橋とともに、淡路島を国際交流の拠点としていくことを見据えて計画されたものです。(毎日)

次のように、遂行動詞による受身文は、当該行為の結果として主語に立つ対象(行為)が出現(ないし実現)する点で、〈I 結果型〉に含めてもよいだろう。

(129)ローザンヌ条約はケマル外交の大勝利であり、ここに、五百年の歴史をもつオスマン帝国は決定的な死をとげた。そして二三年十月、ケマルを大統領として【ここに】トルコ共和国が正式に宣言された。(二十世紀)

次の例は、〈I 結果型〉の構造を持ちつつも、主語に心情を表わす名詞、出現場所の二格に人間の心理にかかわる身体部位の名詞が要素になることで、全体の意味としては〈AI 心理・生理的状态型(AI 状態)〉を表わしている。このことにより、原因を表わす抽象名詞節の二格と共起している。

(130)その唇が、不可解なまま記憶の中に埋もれていたことに、彼の心に屈辱に似た気持が喚び起された。(植物群.地)

先に、〈コトの I 結果型〉において、動作主を想定できない例が少なくないことを述べた。そして、その際には、当該の事態発生の原因や条件が明示されることもあるとした。一方で、この原因としての事柄を行為者と考えることも可能で、そのように解釈するなら、「N₁-ガ N₂-ニヨッテ 作成 V-ラレル」という受身文は、「N₂-ガ N₁-ヲ 作成 V-スル」という能動文と対立するとも考えられる。このような対立が成立するなら、これは論理的な関係の表現と見なせ、〈II 構成関係型 (II 関係)〉に限りなく近づいていく。

(131)a. 包丁さばきによって、料理文化が形成されていったといってもよい。(たべもの)

b. 包丁さばきが、料理文化を形成した。

(132)a. なぜなら、条件反射もすべて過去の経験によって形成されるからです。(記憶)

b. 過去の経験が、条件反射を形成する。

1.1.5 I 表示型「画面に絵が表示された」「金額が提示された」

〈I 表示型〉は、何らかの外的要因により、それまで当該の場所に知覚できる形では存在していなかったものが現れることを表わす。〈I 表示型〉には、〈表示型〉と〈公開型〉の2つのサブタイプがある。いずれのタイプも、動詞の生産性及び頻度があまり高くなく、完全に一般化できていないが、暫定的にタイプとして立てた。

〈I 表示型〉を構成する動詞の代表は「示される」であるが、この「示す」という行為は、対象を相手の知覚領域と知的領域の両方に合わせる行為である。このことは、「示される」の主語(対象)に具体名詞も抽象名詞も立つという構造的特徴に現れている。また、(135)のように、対象を提示する相手を二格に取ることから、言語活動の側面も持ち合わせているが、(133)と(134)のように、相手が対象を知覚で認識するために対象を置く場所を二格で取ることができる⁸⁸。対象を置く場所=対象の出現場所を表わす二格名詞をとることから、述語がラレテイル形になると、〈I 存在型 (I 存在)〉にも移行する。また、(133)のように二格の出現場所が対応する能動文の主語に立つ場合がある(「画面が文字を示した」という構造の特徴を持ち、この場合は、有情行為者を主語にした能動文を想定することができない)。

(133)画面に文字が示された。

(134)計画書には具体策が示された。

(135)若手弁護士によって、新たな問題が会員たちに示された。

本報告では、(133)を〈表示型〉、(135)を〈公開型〉とし、(134)は〈表示型〉の周辺に位置づけた。以下、〈表示型〉と〈公開型〉のそれぞれについて、構造と相互移行を考察していく。

1.1.5.1 表示型

〈表示型〉の受身文は、話し言葉であれば「現れる」という動詞で述べられるタイプで、「モノの表示」と「コトの表示」がある。モノの表示は、二格に具体名詞が立ち、「A に B が現れる」という意味をおよそ表わしている。これは、〈I 結果型 (I 変化)〉の「丘に教会が建てられる」という受身文に通ずるところがあるが、モノの表示の場合、二格の名詞が義務的である上、有情者の行為者を想定することができない。一方、コトの表示では、二格にはあらゆる名詞句が立ち、〈モノの表示〉同様、「A に B が現れる」という意味を表わすが、さらに抽象化して「A が B を持っている」という意味になる場合もある(用例参照)。

⁸⁸ この構造的特徴は、「書かれる」という動詞にも似ている。

(136) I 表示型

出現場所=行為者	対 象	外的要因による表示的出現
N・ニ COM	N・ガ SUB	表示/発表/提示 V-ラレル

「画面に絵が表示された」 「経済に回復軌道が示される」

表示動詞：示される，表示される，提示される，明示される，暗示される，映し出される，図示される，etc.

先に述べたように，表示動詞による〈I 表示型〉の受身文は，行為者の想定が不可能で，対立する能動文がないともとも考えられるが，ニ格の出現場所に対応する能動文の主語にして述べることができる。例えば，(137)は「ディスプレイがボタンやメッセージを表示する」，(140)は「日本経済が回復軌道を示す」といった能動文にそれぞれ対応しているとも考えられる。

まず，具体名詞が主語に立つ「モノの表示」の例から見ていこう（波下線は出現場所）。モノの表示の頻度はコトの表示よりも低いのだが，これは「示される」という動詞の主語に抽象名詞が立つことが多いためである。

(137) 8 インチのカラー液晶ディスプレイに表示されるボタンやメッセージに触るだけでファクシミリの設定やホームページのURL入力などできるのでキーボードアレルギーの人も楽勝だ。（毎日）

(138) わたしの打った文字はCRTのうえに表示される。（パチンコと日本人）

(139) 湖に山が映し出された。

次に，抽象名詞が主語に立つ「コトの表示」の例を挙げる⁸⁹。

(140) 世界経済は、好調を続ける米国とは対照的に、日本や欧州では回復への足取りが重く、日本も今年上半年まで〔経済に〕明確な回復軌道が示されなければ、各国が一層の景気回復策を求めてくる可能性がある。（毎日）

(141) 伊勢神宮における波波木神の在処も、図に示されるように、内宮の御垣の一番外側の荒垣の東南隅である。（日本人の死生観）

(142) また、言語を断つ行は、たとえば奈良時代に元興寺の沙門であった頼光が、この難行を完遂して極楽浄土に生まれ変わることができたというエピソードに示されているように、古くからあった。（神と仏）

(143) 東南は辰巳、竜蛇を象徴する方位であって、その神格は、その祭祀方位にも暗示されているのである。（日本人の死生観）

(144) 東西の疎隔は、戦時中の協力のいま一つの所産である国際連合にも映し出された。（二十世紀）

I 表示型の周辺と他のタイプ

表現動詞が〈I 表示型〉の構造の要素となることで，表示的出現を表わす場合がある⁹⁰。表現動詞とは，次のような動詞である。

(145) 表現動詞：描かれる，書かれる，表わされる，映される，表現される，描写される，真似られる，etc.

⁸⁹ 以下の例には，いくつかラレテイル形の例があるが，これは〈I 抽象的存在型〉ではなく，反復のアスペクト（習慣）と考えた。

⁹⁰ ただし，表現動詞の場合は，〈I 表示型〉とはニ格名詞句の性格が異なるため，これを1タイプとして立てる必要があるかもしれない。今回は頻度が低かったため，〈I 表示型〉の周辺に位置づけた。表現動詞は，動詞そのものの意味としては「動作的な態度」を示すものであって，その点で表示動詞に近いが，構造は〈I 結果型〉ないし〈I 位置変化型〉にむしろ近いという特殊な動詞である。

ただし、この場合には、何らかの組織・専門家集団が動作主として想定されるのが普通で、ニ格名詞句が主語に立つような能動文との対応関係を持つことはない。(146)や(147)などは、ニ格名詞句が具体物であり、場所性が高いため、〈I 結果型 (I 変化)〉ないし〈I 位置変化型 (I 変化)〉にも近づいている。同時に、(146)は((149)も)では、ニ格名詞句は出現場所でもあるが、動作主が対象を表現するための手段的でもある(デ格で言い換えることが可能である)。

- (146)ギリシア神話に登場する神々が、古くから彫刻や絵画に表現されたことはひろく知られている。(紙と仏)
- (147)第20歌集「ヴォツェック／海と陸」には、「抱かれるために美しい胸があるやうにむかしの世界はあつた」のような甘美な回想や、「その母とわれは別れむそれと知りて三人子ひとかたまれる見ゆ」のような痛切な私生活も抉(えぐ)られる。(毎日)
- (148)会社の営業システムにも習熟した頃、彼の脳裡には販売体制全般についての改善案が描かれ始めていた。(稟議と根回し)
- (149)これは、雑誌のヌードグラビアや、アニメのような平面、つまり二次元に描かれた異性を相手にしてしか性衝動がおこらないというものです。(全能型勉強法のすすめ)
- (150)この点は、条例制定がいわゆる権力事務にも及ぶことになった変革にも表現されることになる。(憲法を読む)

特に副詞句を伴う場合に、場所を表わすニ格が現れない場合もあるが、これも〈I 表示型〉の周辺に位置づけることにする。

- (151)人物の肌はいずれも生き生きといぶき、まるでたった今描かれたのではと思わせるほど新鮮な輝きに満ちている。(毎日)
- (152)したがって、天皇制においても、古来国民が純粋理念の高みで天皇に求めたものが適切に表現されたことになるというのである。(憲法を読む)

こうした表現動詞は、「N・ガ N・デニヨッテ/トシテ 表現V・ラレル」という構造で、表現手段を表わす句を伴うと、〈I 表現型 (I 態度)〉を表わす。

- (153)いま電気メッキで銀を析出させるとすると、 $Ag + (\text{銀イオン1モル}) + e - (\text{電子1モル}) \rightarrow Ag (\text{銀原子1モル})$ という反応式で表わされる。(化学)
- (154)「粹」集団としての一族郎党「家」よりも大きい集団としては、中世的な「一族郎党」によって表現される集団がある。この表現によってあらわさる集団構成のあり方は、筆者の提出している粹による集団のあり方をまったくよく反映している。(タテ社会)

そして、「示される、暗示される」なども、この構造に入ると〈I 表現型 (I 態度)〉へ移行する。

- (155)路線図では銀座線はいつも黄色いラインで示されている。(世界の終わり.地)
- (156)国王の全権力は、司法と統治で示されていた。(憲法をよむ)
- (157)ただし、彼は科学的であることに徹していましたから、「ソ連はパブロフを受け入れたが、パブロフはソ連を受け入れなかった」ということばで示されるように、彼の政治思想に対する関心は弱かったようです。(記憶)
- (158)これは神話作者によってたびたび用いられる起源譚の手法ではあるが、ここに注意されるのは、山の蛇神の手中に、岩によって象徴される永遠の生命と、花によって暗示される短い生命と、この二種類の生命が掌握されているということである。(日本人の死生観)

また、「考え、判断、情感」など、主語に有情者の知的ないし感情的な活動を表わす名詞が

立つ場合も、表現動詞の場合同様、二格名詞句を主語にした能動文との対立は考えられなくなる。これも、〈I 結果型 (I 変化)〉ないし〈I 位置変化型 (I 変化)〉に近いだろう⁹¹。

(159)宮沢俊義『日本国憲法』(昭和三〇年)五六ページのほか、法学協会『註解日本国憲法』(昭和二八年)一六二ページに示された考え方が今日にいたるまで影響力を持ちつづけている。(憲法を読む)

(160)そこで、まず西鶴の『好色五人女』を素材として、この作品に当時の民衆のどんな情感が示されているかを考えてみよう。(近世の日本)

(161)ここでは、人種差別、言論の自由、議員定数再配分などに、議会上をまわる進歩的な判断が示された。(憲法をよむ)

「示される」という動詞は、超時的なテンス・アスペクトで述べられると、〈II 象徴的關係型 (II 関係)〉へ移行し、「象徴される、代表される」のような動詞の意味に近くなる。先の(142)(143)は、習慣的な反復のアスペクトと見なしたが、これらの例も II 象徴的關係型に近づいている。

(162)近代国家のイデオロギーは、自由・平等の標語に示されるが、これは人間を抽象的均一なものにかえてしまう結果にもなった。(憲法を読む)

(163)しかし大新聞の多くは、『大阪朝日新聞』に典型的に示されるように、ポリシェヴィキのことを「過激派」と呼んだ。(近代の潮流)

(164)ドゴールの脱アメリカ政策は、ドル防衛のための「金プール」、すなわち、六〇年に成立した金輸出の欧米八カ国共同市場を、六七年の夏、フランスが脱退した事実にも示される。(二十世紀)

(165)原田氏の指摘によれば、この新吉原も寛文ころから大名・旗本・町奴などの遊び場から、紀文・奈良茂などの豪商の大尽遊びに示される町人の遊興地に変化してくるのだ。(近世の日本)

述語の形がラレテイル形(連体修飾ではラレタ形も)になると、「出現」から「存在」を表わすようになる。このとき、「モノの表示」は〈I 存在様態受身型 (I 存在)〉へ、「コトの表示」は〈I 抽象的存在型 (I 存在)〉へ移行する。

(166)彼が井村の視線を辿ると、飾り戸棚のガラスが鏡の役目をして、恭子の横顔が映し出されていた。(植物群、地)

(167)画そのものにも、また彼の叙述内容にも、ふつうの子供より彼が感情生活で数年おくらせている事実はまざまざと露呈されているが、経験によってぼくはその赤を怒りのサイン、そして攻撃と混乱の表徴と考えた。(裸の王様、地)

(168)でるくいは打たれるということわざがあるが、価値の多様性を許さない姿勢がよくそのことばに表わされている。(たべもの)

(169)そこまで作者は考えていたわけではないでしょうが、論理を越えたものはしらべの魔術による以外に手はないことが、この句によく示されていると思います。(俳句のたのしさ)

次の例は、二格に人名詞が立っていて、〈公開型〉の構造に似ているが、この二格名詞句は提示相手ではなく、出現場所=行為者であるので〈I 表示型〉である⁹²。

(170)この態度が慣習的となって極端にあらわれる例は、離島といわれる島の人たちや、山間僻地に住む人々などに往々にして示される、冷たさや疎外の態度である。(タテ社会)

⁹¹ もっとも、(159)、(160)は〈I 抽象的存在型〉である。

⁹² 連体修飾の外部構造であるために、意味の混乱を生じずに解釈できるのだろうか。

1.1.5.2 公開型

〈公開型〉は、主語に立つ対象が、何らかの動作主の働きかけにより、相手の有情者の認識領域に入ることを表わす。公開型の要素となるのは発表や提示を表わす動詞だが、「示される」など一部の動詞は〈表示型〉と重なる。だが、二格に出現場所=行為者ではなく、対象を提示する相手をとるのが公開型の構造的特徴である。この二格の提示相手は、個別の有情者である場合もあるが、「発表される、公開される」など、不特定多数の人々でなければならない動詞もある。二格名詞句が不特定多数の人々である場合は、構造上現れないのが普通で、義務的な要素ではなくなる。

(171) 公開型

対象	提示相手	外的要因による提示/公開
IN・ガ	(A N・二)	発表/提示 V・ラレル

「各チームのメンバーが発表された」「議員たちに修正案が示された」

発表される、公開される、公表される、披露される、示される、提示される、暗示される、紹介される、案内される；放送される、放映される、封切られる、etc.

主語に立つ名詞の具体性の高い順に例を挙げよう。

(172)同時に、実物施設の96分の1の巨大模型（9メートル×7メートル）も完成し、関係者に披露された。（毎日）

(173)たとえば、古代ギリシアにおいては、天の神ゼウスと穀物の神デメテルとの神婚の儀礼がおこなわれたが、その結果として、神の子ではなく麦の穂がまつりにあつまった信者たちに示された（フレイザー『金枝篇』）。（日本の神々）

(174)31日は前橋市内のホテルで監督会議と開会式が行われ、各チームのオーダーも発表された。（毎日）

(175)「西洋医学は漢方とは違います。診断治療の原則はすべて公開され討論され、定まっています。医者が替ったから治療が変わるなどということはありません」（花埋み）

(176)政府としても、国民に対して早期に周知徹底することが必要であると表明しているが、具体的に、いつ、どのような方法で周知徹底するかということについて、有効だと認められるような方策は何ら示されていない。（毎日）

次のように、「節・コトガ 提示 V・ラレル」という構造をとることも少なくない。引用のト節と共に示した例は見あたらなかったが、引用のト節と共にすれば、言語活動にかなり近づくだらう。

(177)ワイスマンの実験で、獲得形質が遺伝するという説は否定され、遺伝は生殖細胞だけを通して行われることが示されたことになる。（進化論が変わる）

(178)宇宙の初め、つまり時間の一番最初はどうなっているのか……は、まずは渡り鳥物理学者のガモフによって提示されたのである。（時間の不思議）

また、「発表される、示される」などの動詞では動作主がカラ格で現れることがある。これは、これらの動詞が言語活動的な意味も持ち合わせていることの表れだろう。

(179)今年の沖縄サミットでも福岡で蔵相会議、宮崎で外相会議が行われ、蔵相会議の結果が、沖縄での首脳会議に報告され、G7議長声明として、小渊恵三首相から発表されることになる。（毎日）⁹³

⁹³ 先行する述語に現れている「首脳会議に報告され」という発話動詞による受身文も、「発表される」という動

公開型の周辺と他のタイプ

〈公開型〉に含めていいものか分からないが、「放送される、上映される、演奏される」など、視聴覚情報を人々に送ることを表わす動詞がある。暫定的に〈公開型〉に含めた。

(180)正月三が日は多くの映画が放送される。(毎日)

次の例は、意味的に〈公開型〉に極めてよく似た事態(「披露され」)を表わしているが、二格の公の相手ではなく二格の着点と共起することから〈I 位置変化型 (I 変化)〉と見なすべきだろう。

(181)古代、中国との交流を示す国宝の金印も展示され「国際都市・福岡」を世界にアピールするにはもってこいの場所だ。(毎日)

提示相手である有情者が主語に立って、「AN₁-ガ AN₂-ニ/カラ N-ヲ 表示 V-ラレル」という構造になると、〈AA 相手への提示型 (AA 態度)〉になる。

- (182)a. 関係者に模型が披露された。〈公開型〉
- b. 関係者は模型を披露された。〈AA 相手への提示型〉

(183)理一はその手紙を澄江から見せられたとき、もういちど澄江を問いつめた。(冬の旅.地)

なお、〈AA 相手への提示型 (AA 態度)〉では、「見せられる」という動詞が代表的な要素としてあるが、この「見せられる」が〈I 表示型〉(公開型)の要素となることはほとんどないだろう。また逆に、〈公開型〉の代表的な要素である「発表される」などで有情者が主語に立つと、はた迷惑の意味を帯びやすい。このように、〈公開型〉と〈AA 相手への提示型〉の要素となりやすい表示動詞は、分布が異なっている。

1.1.6 I 実行型「明日学校で保護者が開かれる」

〈I 実行型〉とは、背景化された何らかの動作主によってある出来事の開催が実現することを表わす。動作主の人格性や責任性には関心がなく、「ある出来事が起きる(起きた)」ということが前景化されて表現される。この「出来事」というのは、「起きる」ことが前提となっていて初めてその存在を確認できるのであり、結果補語の性格を持っている。同様に、〈I 実行型〉の要素となる催行動詞及び達成動詞も、作成動詞的な性格を持っていると言える。よって、〈I 実行型〉は、〈I 結果型〉のサブタイプと考えることも可能かもしれない。

〈I 実行型〉には3つのサブタイプがある。それぞれ、〈行事实行型〉、〈動作実行型〉、〈出来事の局面型〉とした。

(184) I 実行型

a: 行事实行型

		対	象		開	催	／	実	行
(時 N _{MOD})	(場所 N _{MOD})	行事	N／動作性	N-ガ _{SUB}	催行	V／達成	V-ラレル		

「明日、学校で保護者が開かれる」

b: 動作実行型

対	象		実	行	／	達	成
動作性	N-ガ _{SUB}		催行	V／達成	V-ラレル		

「人間についてのさまざまな研究が行われる／成し遂げられる」

詞と極めて似た構造を持つ。違いは、二格補語の有情者がより個別的吗、より一般的かということだろう。

c：出来事の局面型

動作性 N／行事 N・ガ SUB 局面 V・ラレル：出来事の局面型

「昨日から予算委員会での討論が開始された」

行事实行型と動作実行型はともに催行動詞が要素となる共通性を持ち、出来事の局面型は動作性名詞ないし行事名詞が主語に立つ点で他の 2 つのサブタイプと共通している。以下、サブタイプごとに例文を見ていく。

1.1.6.1 行事实行型

〈行事实行型〉は、典型的には個別具体的な時と場所において、何らかの行事があることを表わす。よって、時と場所を表わす名詞句は義務的な補語ではないが、構造にとって特徴的な修飾語である。主語には、会（会議、大会、展覧会等）、式典、選挙や祭といった行事名詞が立つ。また、「行われる」を始めとする次のような催行動詞が要素になる。

(185)行われる、開かれる、開催される、催される、再開される、実施される、施行される、予定される etc.

行事实行型は、話しことばであれば「行事がある」のように存在動詞「ある」が用いられるタイプである。ただし、「行事 N・ガ ある」におけるアル形は現在テンスを表わすことができない点で、典型的な存在の表現ではない。

(186)アメリカンフットボールの第 17 回日本選手権「第 53 回ライスボウル」が 3 日に東京ドームで行われる。(毎日)

(187)一九一二年には、国王ジョージ五世（在位一九一〇―三六）の戴冠を祝う式典がデリーで行なわれたが、絢爛豪華をきわめた儀式の最中、国王は不服従の声ひとつも聞くことなく、土侯や有力筋から忠誠の宣誓を受けた。(二十世紀)

(188)ヒントになるのは昨年 11 月、日本の呼びかけでマニラで開かれた日中韓 3 カ国首脳会談だ。(毎日)

(189)賞与式は二階の娯楽室で行われる。娯楽室はちょうど中央玄関から後方の幾棟かの病棟に通ずる大廊下の階上に当り、百二十畳敷きの大広間であった。年に何回かここでは患者慰安のための演芸会が催される。日比野雷風が居合抜きを見せたり、男女の漫才がやたらとぱちぱちと扇子を鳴らしたり、職員と患者有志によるちょっとした芝居が演じられたりする。⁹⁴（楡家・地）

(190)エリツィン氏辞任に伴う次期大統領選は 3 月 26 日に実施される見通し。(毎日)

「予定される」という動詞による受身文は、当該の行事の催行を未来に認めているだけの動詞であるが、これも行事实行型である。新聞テキストに現れることの多い受身文である。

(191)これにより、3 月末にも予定されている大統領選挙で、プーチン首相が圧勝する可能性が一層高まり、「プーチン時代」の幕開けが現実性を帯びてきた。(毎日)

(192)天皇、皇后両陛下は 5 月 20 日から 6 月 1 日にかけて、オランダ、スウェーデンへの公式訪問が予定されている。(毎日) ⁹⁵

(193)河野外相は 1 月下旬に予定されているイワノフ外相の来日を待つて平和条約締結に向けた協力を確認し、早期の日露首脳会談実現を要請したい意向だ。(毎日)

⁹⁴ 最後の「芝居が演じられる」は〈動作実行型〉である。

⁹⁵ 「天皇、皇后両陛下」が実際に「予定した」かどうかは分からないが、「天皇、皇后両陛下は公式訪問を予定している」という能動文が可能なので、これを動作主と見なす。次の(193)も同様。

(194)そして03年からは関東、近畿、中京の3大都市圏で地上波放送のデジタル化が予定されている。(毎日)

次のように、法律・制度名詞が主語に立つものも、行事实行型の一種と考えられる。

(195)この4品目の使用済み廃家電製品について、回収と再利用を義務づける「家電リサイクル法」が来々4月、施行される。(毎日)

1.1.6.2 動作実行型

〈動作実行型〉は、背景化された有情者＝動作主による何らかの動作がなされることが出来事として捉えられ、そうした出来事が起きる(起きた)ことを表わす。主語は、動作性名詞が要素になり、動詞は催行動詞、もしくは達成動詞が用いられる。催行動詞には次のようなものがあるが、こうした催行動詞は〈動作実行型〉の中ではいわゆる機能動詞的(村木 1991)である。

(196)行われる、なされる、実行される、展開される、再開される、進められる、繰り広げられる、引き起こされる、(議論が)交々される；(処置・方法が)とられる、講ぜられる etc.

達成動詞には次のようなものがある。

(197)成し遂げられる、果たされる、達成される、確立される、樹立される、etc.

〈動作実行型〉の主語に立つ名詞は基本的に動作性名詞なので、次の2つの例文を見て分かるように、動作性名詞が動詞として用いられた受身文で表現することができる場合もある。

(198)受容器から送り込まれてきた信号は、脳の神経網の中を伝わるのですが、シナプスのところで、ある方向にだけ信号が伝わるという形で交通整理が行われます。(記憶)

(199)大切なのは、その信号の交通整理で、送られてきた情報に対して、生きるのに都合のよい指令が全身に送り出されるように交通整理されなければなりません。(記憶)

以下、動作実行型の例を挙げよう。

(200)だが、曲がりなりにも一九二〇年代末までには、ある程度の秩序が西欧に取り戻された。経済再建がなされ、失業が相対的に減少し、種々の国際問題が話し合いによって、さらには、ソ連が世界革命よりも一国社会主義に転じることによって、解決されるかに見えた。(二十世紀)

(201)もちろん賞与式のあとの従業員の宴会もここでやるのだし、基一郎の衆議院出馬のときには無数の手紙の発送はここでなされた。(楡家.地)

(202)特別昇格は、評価面で一般職女性が受けていたしわ寄せを一気に解消することを目指して行われた。(毎日)

(203)できるものも麦が主であるから、動物性の食品は、生存上欠かすことができない、そのため、牧畜が広く行われたのである。(たべもの)

(204)そして、再び性に関する会話ははじまった。しかし、無難な、社交的な話題として取交されているものとは、かなり趣が違ってきた。(植物群.地)

達成動詞による動作実行型には、次のようなものがある。

(205)三四年十月からまる一年にわたる、この歴史的な「大長征」の間、貴州省遵義での会議で、党全体に対する毛沢東の指導権は確立されたが、紅軍は一日に一回の割合で国民党軍と交戦

している。(二十世紀) 96

(206)だが王政復古が成しとげられ、明治となってからは新政府は彼を大博士とし、翌年三月には正六位、十月には大典医に任じた。(花埋み.地)

(207)戦時中のイギリスの約束にもかかわらず、シリアとレバノン⁹⁶はフランス委任統治領、メソポタミアとパレスティナはイギリス委任統治領となり、さらにエジプトでは、イギリスの全面的支配が達成された。(二十世紀)

「有情者の所有物（権利・動作・関係など）-ガ 達成 V-ラレル」というタイプは、「動詞-ラレル」の意味が可能用法の実現の意味にも近づいているように思われる。

1.1.6.3 出来事の局面型

〈出来事の局面型〉では、背景化された有情者＝動作主による動作や行事が始まったり終わったりという、出来事の展開過程の局面が表わされる。出来事が起こる開始の局面、途中の局面、終わりの局面など、テンス・アスペクト的に分割される出来事の局面のいずれかを捉えるものである。主語には動作性名詞ないし行事名詞が立ち、動詞には催行動詞のうちの局面を捉えるものが用いられる。

(208)始められる、開始される、終了される、中断される、中止される、見送られる、打ち切られる、繰り返される、つづけられる、etc.⁹⁷

次のような例がある。

(209)こうして、セーヴル条約の改訂とインドのスワラージ（自治）とを求める、インド人民全体をあげての対英非協力運動が、一九二〇年九月をもって開始されたのであった。(二十世紀)

(210)だがそのとき休みの刻限になり、互平の話は中断された。(さぶ.地)

(211)当時のブランデーJIOC会長は「五輪がテロによって中止されることがあつてはならない」と強い決意を見せ、1日延期しただけで大会を継続した。(毎日)

(212)辞任により、日露両政府間で合意している今年3月の大統領訪日は見送られ、3月末の大統領選まで模様眺めを強いられるのは確実で、2000年中の平和条約締結をうたった1997年のクラスノヤルスク合意の実現は事実上、困難な情勢となった。(毎日)

(213)「そりゃあなた、もう半狂乱でしたよ。捜査が打ち切られてからもひとりで山の中を歩きまわったり、近くの家や町を巡ねまわったりね。[後略]」(エディプス)

(214)おそらく、くり返される単純な反応とか習慣のような現象を、条件反射ととらえている人が、多いのでしょうか。(記憶)

(215)とくにはっきりしているのは、江戸時代である。この時代は、鎖国政策をしき、これが徳川の支配している時代のほとんどの間続けられた。(たべもの)

(216)その男女は、新婚とおもえた。たわいのない会話が、いそいそと続けられてゆく。(植物群.地)

次の受身文も〈出来事の局面型〉と言えるだろう。この場合、「X-ハ 幕が閉じられた」となっていて、「幕が閉じられた」全体が一つの動詞相当になっている。

(217)紀元前8世紀に始まった古代五輪は約1200年間続き、最後は選手の報酬をめぐる腐敗や為政者の意向などによって幕が閉じられた。(毎日)

96 この例は、動作実行というより、「コトの結果型（I 結果型）」に分類すべきかもしれない。

97 「延期される」などの動詞は、局面動詞とはいえないが、行事名詞（出来事名詞）が主語に立つことから、〈出来事の局面型〉の周辺に位置づけておく。

1.1.6.4 I 実行型の周辺と他のタイプ

次のように、動作性名詞ではなく、動作の方法・処置を表わす名詞句が主語に立ち、催行動詞が要素となる場合も、〈動作実行型〉と考えられる。(218)は「何らかの方法で集団結集力を導き出すことがなされる」というような意味と考えられる。

- (218)そこで次に問題となるのは、このように異なる資格をもつ者から構成される集団が強い機能をもつ場合、集団結集力を導き出す何らかの方法が必ず講ぜられなければならないということである。(タテ社会)

動作性名詞の中でも状態的な意味を表わす名詞⁹⁸や状態名詞が主語に立ち、保持・維持を表わす動詞で構成される受身文がある。これは、〈状態保持型〉として、1タイプとして立てるべき受身文かもしれないが、今回のデータでは頻度が低かったため、〈出来事の局面型〉の周辺に位置づけた。このタイプは、意味・構造的に、〈I 社会的約束型〉の〈社会的保障型〉にも近いかもしれない。

- (219)どうしてこのような長い期間鎮国が守られたのかという、それは、肉食の完全な禁止によると考えてもよいのではなかろうか。(たべもの)
- (220)しかし、これはあくまでも平城京のような都市生活者のあいだのことであって、わが国の農村部では、戦後まで村の行事の時にしか酒を飲まぬ「儀礼的集団飲酒」の習慣が、比較的によく守られていた。(酒飲みの心理学)
- (221)小集団というものが、いかに個人にとって社会学的に重要な意味をもち、その成員と常に仕事や生活を共にしているといっても、現実の個々人の生活においては、小集団以外の多くの人人に接し、またその人たちとさまざまな関係が維持されている。(タテ社会)
- (222)だから、税の高い負担に不満をもちながらも、いざ投票する段になると、与党たる社会党に票を入れ、ずっと社会主義政権が維持されてきたわけであった。
- (223)そして、この負担感の高まりが存在感の保証を上まわらない範囲で、日本の組織の均衡が保たれているのである。(稟議と根回し)
- (224)一般にものが燃えつづけるには、ある温度以上の温度が保たれる必要がある。(化学)

さて、〈I 実行型〉では、動作主が動作性名詞や行事名詞の規定語として現れることがある。こうした受身文では、「誰が当該動作を行ったか」という情報はむしろ重要な情報なのだが、その動作主の動作に対する責任性を背景化することができる。これにより、出来事を客観的・中立的に表現できる。

- (225)ヨコハマで、日本とドイツの動物学者たちによる緊急学会が開かれた。(ブンとフン.地)
- (226)ヴァスコ・ダ・ガマ、コロンブス、マジェランらの航海が行なわれてから後には、世界を区分けしたのは常に欧州であり、その世界支配過程は不断に進められてきた。(二十世紀)
- (227)欧州による支配は一八三〇年、フランスのアルジェリア侵略をもって開始され、一九〇一年イタリアのリビア征服をもって、いちおう完結した。(二十世紀)
- (228)地方を治める役人を決める選挙では、決定権のある公家に取り入ろうと、候補者による貢ぎ物合戦が繰り広げられた。(毎日)

また、ニヨッテ形式で動作主が標示される場合もある。このときは、規定語によって示されるよりも、情報的に際立って焦点が当てられているようである。

⁹⁸ 動作性名詞の動作的なものとは、「スル」を伴って他動詞になるものであり、状態的なものとは自動詞になるものである。

(229)村では心中事件はそう珍しくなかった。一年に二回か三回同じような事件が都会の若い男
女に依って惹き起され、その度に、村では青年たちが駆り出された。(あすなる.地)

1.2 I 無変化型 (I 無変化)「ドアが叩かれた」

〈I 無変化型〉とは、主語に立つ対象が持ちうる機能が、何らかの動作主のはたらきかけによって発現することを表わす⁹⁹。主語には具体名詞ないし現象名詞が立ち、動詞には対象を変化させることのない、接触動詞や同属目的語を取る無変化動詞が要素となる。

(230) I 無変化型

対 具体／現象	象 IN・ガ	SUB	接触V・ラレル
------------	-----------	-----	---------

「ドアが叩かれる」「鐘が鳴らされる」

無変化動詞¹⁰⁰: 打たれる, 押される, 押さえられる, 引かれる, 引っ張られる, 触れられる, 触られる, 叩かれる, 突かれる, つかまれる, 握られる, 踏まれる, etc.

また、光や音や臭いなど知覚で捉えられる現象を引き出す、同属目的語を取る次のような動詞も要素となる。これらを機能発現動詞と仮に呼んでおく。

(231) (音が) 鳴らされる, 出される, (火が) たかれる, 起こされる, (明かりが) 灯される, つけられる, (歌が) うたわれる, 弾かれる, 演奏される, (踊りが) おどられる, 舞われる, etc.

まず、接触動詞による〈I 無変化型〉の例を挙げる。こうした、接触動詞による非情主語の受身文の頻度は非常に低く、また、ジャンルも小説の地の文にほぼ限られる。接触動詞の頻度の低さは、接触動詞が対象に働きかけた結果までの変化を含まない無変化動詞であることと無関係ではないだろう。次の(232)・(236)は、そのように対象に接触することで、対象の持つ機能を引き出すか、対象に何らかの機能を果たさせることを表わしている。対象から何の機能をも引き出すことなく、単に対象に接触するだけの事態を表わす例はほとんどない。

(232)はじめ周二はたいそうな時間を要したが、毎度繰返してゆくたびにその時間が短縮し、自分でも興味を示しだして、ストップ・ウォッチが押される前には意気こんで手に息をふきかけて待機するようになった。(楡家.地)

(233)「よばりましたんとちがいまっか。麻縄がひっぱられましたんどす」(雁の寺)

(234)楽器というよりは美術工芸品として十分に通用しそだった。[中略]おそらくそれはかなり長いあいだ人の手に触れられることもなく放置されていたのに違いない。(世界の終わり.地)

⁹⁹ ただし、〈無変化型〉は用例(頻度)も少なく、未だ十分な一般化ができていない。

¹⁰⁰ こうした無変化動詞は、「対象へのはたらきかけ」を表わす動詞の中では、異質な動詞である。なぜなら、「対象へのはたらきかけ」というのは、通常、対象を変化させることを前提としているからである。先に〈被動作型〉の説明で引用した奥田(1968・72)の「ふれあいのむすびつき」の説明を再度ここに引用する。

・ ふれあいのむすびつきをあらわす連語では、を格の名詞でしめされる物へのはたらきかけが、なんの変化もよびおこさないで、たんなる接触あるいは把握におわっている。しかし、観察や感情表現のようなばあいをのぞいて、物にたいする物理的なはたらきかけが、その物になんの変化をももたらさないなら、それは無意味である。したがって、おおくのばあい、ふれあいのむすびつきは、物にたいして物理的にはたらきかけて、それを変化させる全過程のうちから、接触の段階あるいは接触のし方だけをとりだして、表現しているといえるのである。このことは、なぐりこす、うちたおす、かみくたく、にぎりつぶす、ひきぬく、うけとめるのようなあわせ動詞の存在が証明してくれる。(同 p.36, 太字原文, 波下線志波)

このように、接触動詞は「物へのはたらきかけ」の中でも特殊な動詞であるため、非情主語の接触動詞による受身文も頻度が低いと考えられる。

(235)このとき、廊下に足音がして、戸が叩かれた。(冬の旅.地)

(236)今はその束縛がとれ、心理の垂幕は引きちぎられ、現にトランペットとトロンボーンは調子よく鳴りわたり、クラリネットが甲高い響きを上下させ、太鼓とシンバルまでが勇ましく叩かれている。(檜家.地)

次の例は、変化動詞に近くなっている。(237)は作成動詞ないし「書かれる」などの書記動詞に近いし、(238)はテクル形式を伴って位置変化動詞に近くなっている。

(237)これが、「X日を十二月八日午前零時と定め、開戦」の意味であることは、周知の通りだが、一般に誤って解されているように、この短文そのものが暗号で、「ニ、イ、タ、カ、ヤ、マ、ノ、ボ、レ」とモース符号が打たれたわけではない。(山本五十六.地)

(238)大勢の従業員がばらばらと寄ってきて、飯を容器に移しはじめた。むこうでは大鍋から汁をよそっている。アルミニウムの食器がかちゃかちゃ鳴る。下に車のついた配膳台が押されてくる。日に三度の、慌しくも活気のある光景なのである。(檜家.地)

次の(239)は少し異質であるが、これは「足の下に」とあることから、存在文に近づいている。

(239)そこで、棟から棟へ渡ると、もっとも新しい木の色から、もっとも古い木の色にいたるまでの、各種の濃淡のモザイクが、足の下に踏まれた。(金閣寺.地)

次に、機能発現動詞の例を挙げる。こちらは、新聞テキストに例が見られる。新聞テキストに現れた例は、動作主が不特定多数の人々でかつ具体的な場所と時間を持っているためイベント的であり、全体が表わす意味は〈I実行型〉にも近い。

(240)登録決定の連絡が入った12月2日未明、市民約50人が手作りのあんどん413個を点灯し祝った。午前8時には市内7寺院の鐘が一斉に鳴らされた。(毎日)

(241)会場前には2000の数字が浮かび上がり、若い男女ら約5万人のカウントダウンで新千年紀の到来を祝福。花火が次々打ち上げられ、歓声が響き渡った〔後略〕。(毎日)

(242)人々の手にろうそくがいきわたった午前0時、中央に置かれた大きな器に67年前に滅んだ先住民モリオリの血をひく島民の手で火がたかれ、式典が始まった。(毎日)

(243)スキヤットとは即興的にうたわれる歌詞のない唱法で、楽器によるジャズのフレーズを声でまねたものであるが、〔後略〕(ブンとフン.地)

最後に、主語が有情者の所有物としての非情物である接触動詞の例を挙げる。同じ接触動詞による受身文でも、主語が有情者の所有物（主に身体部位）である以下の受身文は、先に挙げた(232)-(239)とは異なり、対象の機能を発現させるといような意味はほとんど読み取れない。むしろ、「有情者が与影者である動作主から接触の働きかけを受ける」という〈AA接触型〉の受身文と同じ意味を表わしている。その構造的な表れとして、先の(232)-(239)の例では動作主が誰であるかということは問題にされず、明確でないのに対し、以下の例ではある個別の動作主の存在が明確に読み取れる。また、接触の動作を行うための道具や接触動作の様態が副詞句として現れることが多いのも特徴的である。

(244)もし私が私の傲慢によって、罪に堕ちようとした丁度その時、あの不明の襲撃者によって、私の後頭部が打たれたのであるならば――(野火.地)

(245)私の背が柏木の尖った指先で押された。私はごく低い石塀をまたいで、道の上へ跳び下りた。二尺の高さは何ほどでもなかった。(金閣寺.地)

(246)竹小刀が胃袋の左脇でぐいっと上部へ移行して心臓を大きくえぐったのだ。つづいて、慈海の腹はもう一本の肥後守でとどめをさされるように力強く突かれた。血がふき出した。〔中

略] 蔭の葉の上でけいれんを止めた慈海の軀を黒い影が抱き起していた。影は本堂との間にある中門を押した。慈念である。(雁の寺.地)

(247)税関の列は長かったが私の場合は実に簡単に済んだ。ほとんどの人がスーツケースなどを開かれ念入りに調べられていたのに、私のものだけは全く手も触れられなかった。(若き数学者.地)

(248)私は自分の頭が皮や肉をそがれ脳味噌を取り去られてその棚に並び、老人にステンレス・スティールの火箸でこんこんと叩かれる様を想像してみた。(世界の終わり.地)

(249)鮎太は物も言わずに、雪枝の前をすり抜けると、そこから駆け出そうとした。が、鮎太の袍は雪枝の手に掴まれていた。(あすなる.地)

(250)信夫は思わずふじ子の手を取った。細い柔らかない手が、信夫の両手に素直に握られた。とけてしまいそうな柔らかなその手を握っていると、ふじ子の細々とした命がじかに感じられて、信夫は胸がつまった。(塩狩峠.地)

(251)そして僕は数人の外国兵が笑いざわめきながら僕の軀へ腕をかけるのをどうすることもできない。[中略]僕は四足の獣のように背を折り曲げ、裸の尻を外国兵たちの喚声にさらしてうなだれていた。僕は軀をもがいたが両手首と首筋はがっしり押さえられ、その上、両足にはズボンがまっわりついて動きの自由をうばっていた。(人間の羊.地)

I 無変化型の周辺と他のタイプ

上で述べたように、有情者が主語に立つて「AN・ガ AN・ニ 身体部位 N・ヲ 接触 V・ラレル」という構造になると〈AA 接触型 (AA 無変化)〉を表わす。

(252)「ひとかどの武将たる者が、茶坊主に頭を叩かれたのだ」[後略] (さぶ)

(253)連絡船が出るまでには四十分の間があったが、船までの長いホームを旅客がいい席を取るため、気持ちがよいように競走していた。三原は背中を何度もこづかれた。(点と線.地)

(254)そのとき、利兵衛は刑事に右手首をつかまれ、この野郎なぐってやろうか、と思ったとき、手錠がかかった。しまった！ と思ったときはすでにおそかった。(冬の旅.地)

接触動詞が特に身体部位の二格名詞句と組み合わせあった場合、二格名詞句は道具を表わすのだが(奥田 1962:308-309)、次の例では述語がラレテイル形であるため、二格名詞句が存在場所的になっており、〈I 存在様態受身型 (I 存在)〉に近づいている。

(255)僕は彼の丸っこい指に注射器が握られているのを見ながら、眼をふせて黙っていた。(死者の奢り.地)

1.3 I 認識型 (I 認識)

〈I 認識型〉は、主語に立つ非情物が、対象として、何らかの有情者の認識領域に取り込まれることを表わす。〈I 認識型〉は、知覚、思考、発見、及び言語活動を表わす動詞で構成される。これらの動詞を、本報告では広義認識動詞と呼んでいる。

〈I 認識型〉のサブタイプは、奥田(1968-72)の〈認識のむすびつき〉及び〈通達のむすびつき〉の連語を構成要素としている。奥田自身、〈通達のむすびつき〉に関しては、〈認識のむすびつき〉の下位カテゴリーとして分類しようと述べている(同:109)ので、〈通達のむすびつき〉を要素とする〈I 言語活動型〉を〈I 認識型〉のサブタイプとすることには、さほど問題はないだろう。よって、I 認識型には、次の4つのサブタイプが存在する。

I 知覚型	「細胞分裂が観察された」
I 知的認識型	「早急な対策が考えられた」
I 発見型	「山中で死体が発見された」
I 言語活動型	「関係者に事件のいきさつが報告された」

知覚や思考などの広義認識動詞は、特に非情物がガ格（主語）に立つ場合、〈習慣的社會活動型〉として現れることが多く、個別一回的な事態である〈I 認識型〉の頻度はあまり高くない。その理由のひとつに、**I 認識型は自発・可能用法と意味が曖昧になることが多いことが挙げられる**¹⁰¹。I 認識型と自発・可能用法は、文の構造がまったく同じであることがあり、いずれの意味であるかの判断は、最終的には視点がどこにあると解釈するか（文脈の構造）による。次の例では、主人公「ぎん」の視点から場面が描かれており、前文の述語「起きて過ごした」の主語も「ぎん」であることから、「ぎん」が動作主で彼女の視点から述べられた可能用法であると解釈できる。

(256) 終日、ぎんは奥の八畳間で過した。部屋では布団が敷きづめだったが、気分の良い時は床の上に起きて過した。部屋からは川上の家と同じように縁越しに庭が眺められた。(花埋み地)¹⁰²

以下、〈I 認識型〉のサブタイプについて、それぞれの構造と相互移行の関係を見ていく。

1.3.1 I 知覚型「細胞分裂が観察された」

〈I 知覚型〉は、主語に立つ非情物の対象が、何らかの有情者の知覚的（感性的）な認識領域に取り込まれる（入る）ことを表わす。奥田（1968-72）の〈認識のむすびつき〉の中の〈感性的なむすびつき〉をあらわす連語で構成される。すなわち、感覚器官で捉えられる具体的なモノないし現象がガ格に立ち、知覚動詞が要素となる。

(257) I 知覚型

対 具体／現象	象 IN・ガ	外的行為者による知覚行為 SUB 知覚 V・ラレル
------------	-----------	---------------------------------

「細胞分裂が観察された」

〈I 知覚型〉の要素となる知覚動詞は次のようなものである。奥田（1968-72）が挙げている知覚動詞（感性的な経験を示す動詞）のすべてが等しくこのタイプの要素となるわけではない。「嗅がれる、にらまれる、みつめられる」といった動詞が〈I 知覚型〉を構成することはまずないだろう。また、「見られる、感じられる、認められる」など、いくつかの動詞は常に受身用法か自発用法かという意味の曖昧さを常に持つ。

(258) 見られる、感じられる、聞かれる、読まれる、気づかれる、認められる、認識される、意識される¹⁰³、感覚される、観察される、識別される、点検される、検査される、etc.

¹⁰¹ 単に可能用法と言っても、潜在系と実現系などさまざまな可能文のタイプがあるが、本稿では〈認識活動型〉と相互移行する可能文のタイプについてまでは一般化できなかった。

¹⁰² このように、「場所・カラハ IN・ガ 知覚 V・ラレル」という構造で、場所の特徴を述べる文は、小説の地の文の叙景文によく現れる。

¹⁰³ 「認められる、認識される、意識される」は、その語彙的な意味にずれ=抽象化をおこさずに具体名詞とも抽象名詞とも自由にむすびつく（奥田 1968-72：103）。

次のような例がある。

- (259) 実際、地上波テレビやBSアナログ放送、CSデジタル放送もケーブルテレビを通じて見られている割合が多い。12月に始まるBSデジタル放送も半分近くはケーブルテレビで見られるとの見方もある。(毎日)
- (260) 栄二は抱き起こされた。縄が解かれ、二人に抱えられて火の側へいったが、火のあたたかみが感じられるまでには、かなり暇がかかった。(さぶ.地)
- (261) 諸外国とくらべて日本の「特殊性」を描いた書物が、次々と出てさかんに読まれ、「日本論」「日本人論」「日本文化論」が大流行しているのも、むべなるかな——という気が、いちおうはする。(ゆとり)
- (262) それは、脳に送り込まれてくる情報の大部分は、本人に感覚されないことがわかってきたため、感覚されない情報が感覚器から送られてくるというのはおかしいからなのです。(記憶)
- (263) 実は、原子は1個のときには、色や硬さなどの性質を持たない。原子が集まってある大きさの物となったとき、初めて色とか硬度が観察されるのである。(化学)¹⁰⁴
- (264) 署にかえった死体は、綿密に検査された。(点と線.地)
- (265) 「20世紀の文化を5000年後に伝えよう」と、毎日新聞社と松下電器産業が1970年に開かれた日本万国博覧会(大阪万博)を記念して製作した「タイム・カプセルEXPO'70」2基のうち1基がいよいよ3月、30年ぶりに初めて開封され、収納品が点検される。(毎日)

I 知覚型の周辺と他のタイプ

〈I 知覚型〉は、ラレル文の可能用法との境界に位置している。特に、一段活用の動詞では、可能か受身かの判断に迷うことが多い。可能用法であるか、受身用法であるかの違いは、先にも述べたように、話し手の視点がどこにあるかによる。すなわち、動作主(ないし経験者)が話し手自身で、視点が話し手=動作主の側にあれば可能用法と解釈されるし、動作主(ないし経験者)が不特定の人で、中立的な視点であれば受身用法と解釈される。また、「感じる」とは違い、「見る、認める」などの動詞は、スル形が未来を表わす動作動詞的なテンス対立を有している。よって、「見られる、認められる」などが未来ではなく現在を表わすようであれば、可能用法と解釈するのが妥当かと思われる¹⁰⁵。次の例は、述語が否定形であり、かつこれが現在を表わしているので可能用法とした。視点も、前文に「こちらに」というダイクティックな表現があり、「職人」の視点から述べられていると解釈できる。

- (266) すると、聖子はこちらにむかって、わずかに首をうごかして挨拶をかせした。どこか困惑したように、ほとんど認められないほどに口元をゆるめたが、冬の曇り空の下その血の気のない表情は、そうしたかすかな微笑によってなおさら職人の心を打ったのである。(楡家.地)

〈I 知覚型〉を構成する知覚動詞が対象の存在場所を表わすニ格名詞と共起すると、〈I 存在型 (I 存在)〉の〈I 存在確認型〉へ移行する。この構文は存在文の構造を有しており、ニ

¹⁰⁴ 「観察される」という動詞は、動作主が1人称の受身文を構成する。「一定の温度が観察された」という文は、動作主が1人称であり得る。「認められた、見られた」などもこの種の表現が可能であるが、一段動詞であるため、動作主が1人称の場合は常に可能用法との曖昧さが生じる。

¹⁰⁵ ただし、事態が反復・習慣的なアスペクトで述べられると、ラレル形が現在を表わすことになる。

格の場所に主語の非情物が「ある」ことを述べている（波下線は存在場所）。また、〈I 知覚型〉では、具体名詞ないし現象名詞のみが主語に立つが、I 存在確認型では、抽象名詞も主語に立つようになる。

- (267)[前略]ふたたび彼は、濃い朱色の雲が上空に拡がっている絵に、眼を移した。幾つもの塊に分れているそれらの雲々の中に、かすかに黒い線が認められることに、はじめて気付いた。
眼を近寄せて、凝視する。(植物群.地)
- (268)どの画用紙も余白が多く、描かれた線には対象への傾倒がまったく感じられなかった。(裸の王様.地)
- (269)無重力の宇宙ですごした宇宙飛行士に、骨の退化が見られるということも聞いたが、その構成成分の交替のうかがわせる事実である。(化学)

次のように、二格の存在場所が省略された場合、I 知覚型であるか I 存在確認型であるか迷うところだが、情景を描写している当該の場所における非情主語の存在を表わしている点で、I 存在確認型に位置づけるのが妥当かと思われる。

- (270)月曜日の昼さがりの川原はみわたすかぎり日光と葦と水にみちていた。対岸の乱杭にそって一隻の小舟がうごいているほかにはひとりの人影も見られなかった。(裸の王様.地)

なお、〈I 知覚型〉以外の〈I 認識型 (I 認識)〉のサブタイプは、すべて対応する〈I 習慣的社会活動型〉の受身文タイプを持っている。〈I 知覚型〉の受身文でも、(259)や(261)などは、不特定一般の動作主で習慣的な社会活動を表わしている。しかし、手元のデータでは頻度が低く、受身文の構造的なタイプとして確立しているか疑問が残るので、これは単なるアスペクトの違いとして、すべて〈I 知覚型〉に位置づけた。

有情者が主語に立って、「AN・ガ AN・ニ IN・ヲ 知覚 V・ラレル」という構造になると、〈AA 知覚型 (AA 認識)〉になる。次の例は、「とてつもないきんきら声^が姉たちに聞かれた」であれば〈I 知覚型〉であるが、「彼女^が主語であるので、「とてつもないきんきら声^を姉たちに聞かれた」という文が連体修飾になっていると考えられ、この場合は〈AA 知覚型〉である。

- (271)彼女は、姉たちに聞かれなくて幸いといえる、とてつもないきんきら声でそう叫んだ。(楡家.地)

1.3.2 I 知的認識型「実験を通して仮説が検証された」

〈I 知的認識型〉は、主語に立つ非情物が、何らかの有情者の知的な認識領域に取り込まれる（入る）ことを表わす。奥田（1968-72）の〈認識のむすびつき〉の中の〈知的なむすびつき〉をあらわす連語で構成される。すなわち、〈I 知覚型〉と違い、原則的に抽象名詞（ないし現象名詞）が主語に立つ。また、下位構造 b のように、主語と述語を持つ節が主語に立つこともある。

- (272) I 知的認識型

対 抽象	象 IN／節・ガ	外的行為者による知的認識 SUB 思考 V・ラレル
---------	-------------	---------------------------------

「実験を通して仮説が検証された」「商品の賞味期限が切れていたことが確認された」

〈I 知的認識型〉の要素となる動詞は、奥田（1968-72）が〈知的なむすびつき〉を構成する動詞として挙げている「思考活動をしめす」動詞及び「その結果である理解をしめす」動詞の多くである。しかし、「わきまえる、おもいしる」などが I 知的認識型要素となるとは考えにくい。この他、奥田（1960）が〈動作的な態度のむすびつき〉の中で挙げている「対象にたいする調査活動」を表わす動詞も I 知的認識型の要素とした。

(273)思考動詞：考えられる、思われる、知られる、考察される、検討される、分析される、考慮される、反省される、心配される、かえりみられる、連想される、気づかれる、認められる、認識される、意識される、忘れられる；理解される、捉えられる、解される、誤解される、把握される、察知される、推測される、予想される、見落とされる；確かめられる、確認される、証明される、実証される、調べられる、探される、探られる、調査される、研究される、テストされる、etc.

これらの動詞のうち、「考えられる、思われる、案じられる、心配される」など、いくつかの動詞は、受身用法か自発用法かという意味の曖昧さを持つことが多い。

まず、抽象名詞が対象である（主語に立つ）例から見ていく。

(274)庄吉さんのうちの放養池は異常が認められなかった。（黒い雨.地）

(275)また、近年、日本でもたいへん評判になっているパーソンズとかホーマンなどをはじめとする社会集団に関する結論も、それ自体としてはたしかにすぐれているが、異なる社会的差異、変数をどのように解釈し、処理すべきかという比較研究にとって重要な問題が十分考慮されていない。（タテ社会）

(276)それまでピストンのヘッドの形状はあまり考えられなかったが、ピストンのヘッドの形状を、燃料の噴射方向に対してある傾斜を持たせたらどうであろうか。噴射されて来る噴霧状の燃料は、そのピストンヘッドの傾斜角度に助けられて、堅の渦巻を作る。そうすれば燃料と空気との混合はよくなる。（孤高の人.地）¹⁰⁶

(277)その瞬間から、傍の女の存在が、強く意識されはじめた。それも、きわめて部分的な存在として、たとえば腕を動かすときの肩のあたりの肉の具合とか、乳房の描く弧線とか、胸から腰へのにわかに膨れてゆく曲線とか、尻の量感とか……、そういう離れ離れの部分のなまなましい幻影が、一つの集積となって覆いかぶさってきた。（植物群.地）

(278)克己とは何だろう。自分に克つ。その言葉の意味は十分に理解されなかったが、しかし、鮎太はこれまでに、これほど魅力ある言葉にぶつかったことはなかった。（あすなろ.地）¹⁰⁷

次に、節が主語に立つ例を見ていく。

(279)太郎は、五月さんと競技場の入口で別れた。別に人目をしのぶわけではなく、それまでもさんざん知り合いに会ったから、太郎が「女連れ」で競技場にやってきたことなどにはとくに知られてしまったのである。（太郎物語.地）

(280)私たちがかくまわれていることはまだ気づかれていなかったのです。（沈黙.地）

(281)死因は兩人とも青酸カリの中毒死であることが確認された。（点と線.地）

(282)安田が北海道に行ったことは証明されるであろう。（点と線.地）

¹⁰⁶ この例は、「どうであろうか」と考えている人物の視点からのべた不可能の用法とも読める。ここでは、「考えられていなかった」という意味で解釈し、受身とした。

¹⁰⁷ この受身文は、動作主が「鮎太」という話し手の視点が置かれた人物である。このため、動詞の形態はラレ形であるが、「理解できなかった」という実現系の可能の意味に近くなっている。

(283)たとえば、シナップスにおける信号の交通整理に際しては、そこに伝達物質とか抑制物質
とよばれる物質が分泌されることが、かなり研究されています。(記憶)

奥田(1968-72)は、〈知的なむすびつき〉のヲ格名詞句が、「-について」という後置詞によっても表わしうることを、このヲ格名詞句が対象的事であることの傍証として挙げている。つまり、「言い訳」などの「思考活動の内容を質的に特徴づける」(同：137)内容規定的な名詞は、「言い訳を考える」とは言っても、「*言い訳について考える」とは言わないことから、対象的性格が低い。これに対し、「政治、人生、環境、格差」などの名詞では、それぞれ「N-について 考える」と言えることから、対象的な性格を持っているとする¹⁰⁸(奥田 1968-72：97)。「N-について」が主語になった受身文を挙げておく。

(284)こうした立場は「家」というものを、特に封建的な道德規範などと結びつけたイデオロギ
ー的見地から論じたものであって、その社会的集団としての本質的構造についてはかならず
しも十分考察されていない。(タテ社会)

一方で、奥田(1968-72)は、内容規定的な名詞に、「対策、策略、方針、方法、理由、わけ」「当否」などを挙げているが、これらの名詞句が「内容規定的」である、つまり対象性が低いといっても、受身文の主語に立ちにくいということはない。

I 知的認識型の周辺と他のタイプ

奥田(1960)でも認識動詞に分類されている「計算活動」を表わす動詞は、本報告でも認識動詞の周辺のタイプと見なした。「計算活動」を表わす動詞とは、「かぞえる、計算する、測定する」などである。次の例は、〈I 知的認識型〉の周辺例である。

(285)この春に放送150回を迎えた時の記念プレゼントで、応募者がはがきに書いた「好きな
世界遺産」が集計されていて、日本人の好みがかがえる。(毎日)

〈知的なむすびつき〉は、抽象名詞がヲ格に立ち、むすびつきが抽象的事であるのが特徴である。ところが、次のように、具体名詞が主語に立つ受身文も見られる。

(286)たまたま、ある読書会の忘年会があった。そこで福引をやることになり、その年読んだ本
の題名をもじった景品が考えられていた。(化学)

こうしたむすびつきは、他にも「明日着ていく服を考える」(能動文)のような例が可能だが、ここでは「明日着ていく服をどれにするか考える」といった含意があり、単なる知的活動ではなく、話し手の意図や選択といった「判断」の態度が含まれている。よって、これは〈I 知的認識型〉ではなく、〈I 判断型 (I 態度)〉である。I 判断型は、奥田(1968-72)の〈態度のむすびつき〉で構成されるので、具体名詞でも抽象名詞でも自由に主語に立つのである。

また、その構造に引用句を取ることが〈I 判断型 (I 態度)〉の特徴であるが、いくつかの動詞では、主語を引用句で言い換えてもそれほど意味の変わらない場合がある。例えば、(281)は次のように述べれば、〈I 判断型〉である。

(287)死因は兩人とも青酸カリの中毒死であると確認された。

¹⁰⁸ 「政治、環境、格差」などの抽象名詞と思考動詞との〈知的なむすびつき〉が対象的な性格を持っているのは、こうした名詞の表わすものが、動作主の「意識のそとに存在する対象の側面であるか、対象間の関係で」あるからである(奥田 1968-72：97)。つまり、動作主にとって外的な実体である。

先にも述べたように、「病状が案じられた」など、いくつかの動詞では**自発用法**との意味の曖昧さが常に存在する。次の(288)の「知られる」という動詞は、「刑事たち」の視点に立てば自発用法と解釈できるが、ここでは中立視点と考へ、〈I 知的認識型〉とした。一方、(289)は可能動詞「知れる」の形ではなく「知られる」であるが、前後文脈の述語がすべて「吟子」を主語にしているため、これは「吟子」の視点から述べた**可能用法**と解釈した。

(288)男の上着のポケットから名刺入が出た。身もとはそれによって知られた。〔中略〕名前の横に、「××省××局××課 課長補佐」の肩書があった。左には自宅の住所名がある。

刑事たちは顔を見合せた。××省××課といえば、目下、ある汚職事件が摘発の進行中で、ほとんど毎日の新聞に、記事が載っていないことはなかった。(点と線.地)

(289)試験への焦りも、明日の生活への不安もなかった。すべて吟子の一存でやりたいだけ自由に勉強することができる。読むほどに面白いことが知られる。それと合せるように医者という立場の利点で、さまざまな世間から人の表裏まで見られる。(花埋み.地)

また、次の「読まれる」の例も受身用法ではなく、身元を確認している人物の視点から述べられた自発ないし可能用法と解釈するべきだろう。

(290)「女の方の身もとは、どうだね？」

それは出てきた。八千円ばかりはいった折りたたみの財布の中に、小型の女もちの名刺が四五枚、バラにはいていた。みな同じものだった。

「東京赤坂×× 割烹料亭小雪 時」

名刺の行書体文字はそう読まれた。(点と線.地)

〈I 知的認識型〉は、実際の用例の頻度は非常に低い。これに対し、動作主がある社会的範囲の不特定多数の人々で、反復のアスペクトで述べられると、〈I 社会的思考型 (I 社会)〉へ移行する。この〈I 社会的思考型〉になると、頻度が高くなる。

(291)ブランク尺度という、非局所場の頃とは比較にならないような小さい長さや時間が考えられるようになってきたのは、統一場の理論などで、ものすごいエネルギーが問題にされなければならないようになってきたからである。(時間の不思議)

(292)のように、対象である非情物の所有者が主語に立ち、「AN-ガ AN-ニ IN-ヲ 思考 V-ラレル」という構造になると、〈AA 知的認識型 (AA 認識)〉へ移行する(波下線は対象)。一方、(293)では、主題化された対象はガ格かヲ格か判断できない。動作主がニ格で標示されていることから、〈AA 知的認識型〉とも見なせるが、ここでは「小さい事件」が主語として述べられていると考へ、〈I 知的認識型〉に分類した。

(292)娘の頃は兄達の後ろで坐って聴いた。今度も聴いてみようか、ぎんは奥の間へ行ってみたかったが、万年には女として死ぬほど羞ずかしいことを知られていた。(花埋み.地)

(293)加島浜子が脳貧血を起して、椅子から床へ崩れるように倒れたのは、宴席が半ばを過ぎてからであった。

給仕は直ぐやって来て、彼女を助け起し、会場から連れ出して行ったので、この小さい事件は、その周囲の極く少数の人にしか、知られないですんだが、鮎太は彼女の前に席を取っていた関係で、ボーイがやって来るまで、床にしゃがむようにして彼女を支えてやっていた。(あすなる.地)

1.3.3 I 発見型「山中で死体が発見された」

〈I 発見型〉とは、また知られていない、あるいは探していた非情物の対象=主語が、何らかの有情者の知覚的(感性的)ないし知的な認識領域に取り込まれる(入る)ことを表わす。主語には具体名詞、現象名詞、抽象名詞のいずれも立つことができる。

奥田(1968-72)は、〈発見のむすびつき〉を表わす連語は、「対象の存在場所-ニ 対象-ヲ 発見動詞」という「発見の構造」をとるという特徴を持っているとしている。しかし、具体物が主語に立つ場合は、存在場所を表わすニ格名詞句より、動作の行われる場所を表わすデ格名詞と共に起する場合の方が多い。「具体 IN-ガ 発見される」の場合は、動作主の認識的活動よりも、動作性が際立っているように述べられるのだろうか。本報告では、存在場所を表わすニ格名詞句と共に起した発見動詞の受身文は〈I 存在型 (I 存在)〉のサブタイプに〈I 存在確認型〉として位置づけた。この〈I 存在確認型〉に対し、動作の行われる場所をがデ格で示される〈I 発見型〉は、動作的発見である。

(294) I 発見型

		対 象	外的行為者による発見
(場所 N-デ MOD)	具体 IN-ガ SUB	発見 V-ラレ	ル

「山中で死体が発見された」

〈I 発見型〉は、奥田(1968-72)の〈発見のむすびつき〉の連語の要素として、「発見する、みつける、みいだす」という3つの動詞を挙げているが、「みつけられる」という動詞が〈I 発見型〉に現れることは少ないだろう。よって、「発見される、見出される」の2つの動詞のみがこのタイプの要素となる発見動詞と考えられ、生産性は低いと言える。

具体名詞が主語に立った例から挙げよう。

(295)「[前略]全員立ちあいの上で北のはしから搜索する。品物が発見されるまで、独立行動は許さないことにする」(不意の唾)

(296)石見銀山というのは、石見の国にあった銀鉱山(いまの島根県大田市にあった)である。中世に発見され、その所有をめぐって、大内、小笠原、尼子、毛利などの諸大名が争ったという。(化学)

(297)関野さんは1993年12月、南米の最南端を出発し、ベーリング海峡をカヤックで渡るなど、動力を使わずに逆ルートでたどってきた。[中略]2001年中に、人類最古の足跡の化石が発見されたタンザニアのラエトリにゴールする予定だ。(毎日)

抽象名詞が主語に立った例は、次のようなものがある。

(298)いつもおなじ手口で成功するとはかぎらないが、彼らひとりひとりの生活と性癖をのみこんでいさえしたら、きっと突破口は発見されるのだ。(裸の王様.地)

次は、発見場所のデ格名詞句が現れた例である。(波下線は動作の行われる場所)。

(299) 筑波山中で新たに発見されたガマ蛙につけられた学名) (ブンとファン.地)

(300)しかし、そのお時は、同伴の男といっしょに、思いもかけぬ場所で、死体となって発見されたのである。(点と線.地)¹⁰⁹

¹⁰⁹ 有情者が主語に立っているが、「死体」であるのでモノ扱いと考える。もし、主語に立つ有情者の意志性や

Ⅰ 発見型の周辺と他のタイプ

上に述べたように、対象の存在する場所が二格で標示され、「対象の存在場所-ニ 対象-ガ 発見動詞-ラレレ」という構造をとった場合は、存在の意味を帯びていると見なし、**Ⅰ 存在確認型（Ⅰ存在）**に位置づけた。

- (301)古く縄文時代には各地に土偶が発見され、古墳時代には埴輪が大量に制作された。(神と仏)
- (302)影村一夫の一重まぶたの細い眼はいつも光を放っていた。容易に妥協を許さない鋭い眼な
ざしだった。その視線が当たったところには、きっとなにかが発見され、その発見に理由づけ
られ、そして結末をつけようとする眼であった。(孤高の人.地)
- (303)ぼくは彼女に一瞬ひどく肉にあふれたものを感じさせられた。ぼくは彼女の眼のなかをの
ぞきたい欲望を感じた。きっとそこには短切な夜の輝きが発見されるはずであった。(裸の王
様.地)

1.3.4 Ⅰ 言語活動型「事件のいきさつが述べられた」

〈Ⅰ 言語活動型〉とは、主語に立つ対象をめぐる、有情者による言語活動が行われるこ
とを表わす。奥田（1968-72）の〈通達のむすびつき〉を要素とするのだが、そこで指摘さ
れるように、原則的に抽象名詞が対象=主語となることから、〈Ⅰ 知的認識型〉によく似てい
る。ただ〈Ⅰ 言語活動型〉の場合は、相手の二格と共に起する場合がある点で、〈Ⅰ 知的認識型〉
と異なっている。

(304) Ⅰ 言語活動型

対象=発話内容 抽象 IN・ガ SUB	発話相手 (AN・ニ MOD)	発話行為の発生 発話 V・ラレレ
------------------------	--------------------	---------------------

「事件のいきさつが淡々と述べられた」

発話動詞：言われる、話される、述べられる、知らされる、伝えられる、訴えられる、耳
打ちされる、論じられる、語られる、報告される、通達される、伝達される、通告される、
説明される、論議される、議論される、指摘される、強調される、討論される、etc.

次のような例がある。

- (305)その言葉は、道化た余裕のある口調で言われた。伊木は安堵すると同時に、花田のその余
裕を憎んだ。(植物群.地)
- (306)「菓餌の及ばんところ、鍼灸の及ばんところ、そこが外科医の出る幕なんですから、お父
さんから僕に伝えられた外科というもの」は、医者では大喜利にかまえた看板役者のようなも
のですわのう。[後略]」(華岡青洲)
- (307)それを探ろうとすると、われわれは1章で論じられたテーマにもどることになる。(ゆと
り) 110
- (308)今年の沖縄サミットでも福岡で蔵相会議、宮崎で外相会議が行われ、蔵相会議の結果が、
沖縄での首脳会議に報告され、G 7 議長声明として、小渕恵三首相から発表されることにな
る。(毎日)
- (309)試験の結果は鮎太が一番だった。その試験の結果が通達されて一週間目に、鮎太は新しい

人格性が意識されて述べられているとすれば、〈AA 知覚型〉になる。

110 この受身文は動作主が1人称である。こうした受身文が自然な使用かどうかは検討の余地がある。

中学の校門をくぐった。(あすなろ.地)

(310) それはこの寄場の役人にも通告され、さらにもっこ部星の小頭たちにも耳打ちされたよう
で、[中略]栄二が意地になって反抗しても、かれらのほうで相手にならなかった。(さぶ.地)

(311)「[前略]これは私の内面の問題であり、裁判でとやかく論議されるべき性質のものではない
と思います」(冬の旅)

(312)と同時に、他方では自国第一主義が強調され、アラビア語の追放をはじめ、近代建築もア
ケメネス朝時代のスタイルが要求された。(二十世紀)

(313)「西洋医学は漢方とは違います。診断治療の原則はすべて公開され討論され、定まってい
ます。医者が替ったから治療が変わるなどということはありませぬ」(花埋み)

(314)「今回は弟がとんだ恥さらしをして赤面しております。死の原因については、新聞などに
いろいろ言われていますが、役所のことは、私にはほとんどわかりません。[後略]」(点と線)

I 言語活動型の周辺と他のタイプ

次の例に見られる「言葉が口から出された」や「噂が村へばら撒かれた」という受身文は、
〈I 位置変化型 (I 変化)〉の構造を持つため、「コトの位置変化」に分類したが、意味的には
個別一回的な言語活動が行われたことを比喩的に述べている。

(315)一年の時も、二年の時も、進級成績は抜群で、開校以来の秀才というような言葉が、教室
で大人しい鮎太に好意を持つ国漢の教師の口から出されたりした。(あすなろ.地)

(316)それは、冴子が、女学校で下級生から万年筆と時計を取り上げた事件をひき起し、そのた
めに一年停学になり、郷里の町にいくくて、ここへ来ているのだという噂が村へばら撒か
れたからである。それは勿論、日曜ごとに村へ帰って来る冴子と同じ女学校へ行っている村
の二人の女学生に依って伝えられたものであった。(あすなろ.地)

しかし、次の位置変化動詞による例は、比喩ではなくすでに言語活動を表わす動詞に移行
していると考え、〈I 言語活動型〉に位置づけた。

(317)「反射」ということばよりも、「反応」ということばを使うことが多いことも、すぐに心が
持ちだされたりすることも、そのあたりの事情と無関係ではありません。(記憶)

動作主が個別の有情者ではなく、不特定一般の人々で、反復のアスペクトで述べられると、
〈I 社会的言語活動型 (I 社会)〉へ移行する。

(318)考えてみれば、そうした「特殊性」論は、日本人には“大和魂”があるから絶対に不敗だ
——という議論と、瓜二つではないだろうか。“大和魂”がしきりにいわれたあの不幸な時代、
私は小学生だった。(ゆとり)

(319)[前略] 儀礼的なやりとりが簡略になってきたとか、敬語が乱れてきたとか、戦後の社会生
活における変化がいろいろ指摘されようが、その変化の代表選手のようにみなされている若
い人たち、たとえば学生の間では、今も上級生、下級生の根強い区別があり、[中略]同一集
団内における上下関係の意識はあらゆる面に顔を出している。(タテ社会)

上の例は、〈I 社会的言語活動型〉の引用節を伴わない例であるが、引用節を伴う〈I 社会
的言語活動型〉に対応する個別一回的な事態の受身文の例が見つからない。引用節を伴うタ
イプとは、例えば、「その病は治らないと言われている」のようなタイプである。これが、「そ
の病は(山田医師によって)治らないと言われた」のような個別一回的な事態としては存在

しないということである。「断定される」のような動詞であれば、個別一回的な事態として成立しないわけではないが、〈I 社会的言語活動型〉に引用節を伴うものの頻度が高いのに比べれば、まれである。

1.4 I 態度型 (I 態度)

〈I 態度型〉とは、態度動詞で構成される個別具体的な事態の非情主語の受身文である。〈I 態度型〉には、〈I 判断型〉、〈I 意義づけ型〉、〈I 要求型〉〈I 表現型〉の4つのサブタイプがある。

- I 判断型** 「その現象は突然変異と見なされた」
I 意義づけ型 「カレンダーが土産にされた」
I 要求型 「本部長に計画の見直しが求められた／許された」
I 表現型 「水の電気分解は次の式で表される」

このうち、〈I 判断型〉には格体制が同じである有情主語の受身文タイプ (AA 知的態度型) がある。

〈I 判断型〉は、「N-ト 思考 V-ラレル」という動詞句で構成されるが、同じ動詞句で構成された有情主語の受身文は〈AA 知的態度型 (AA 態度)〉である。次の例を比べてみると、有情主語の受身文は話し手の主観的な感情を表わす外部構造で用いられており (「V-ラレル-ト 辛い」)、受影の意味を帯びているのに対し、非情主語の受身文はより客観的、中立的な受身文である。

(320) 西暦2000年は日本の放送界にとって、デジタル化へ完全シフトを取った年として記憶されるだろう。(毎日) 〈I 判断型〉

(321) 「佐久間君、君はぼくと違ってたくましい男だが、人間というものはねえ、寿命がわかってみると……あと何年も生きられない、それも普通の症状ではなく、……まあそんなことは話したくないが、天寿というか、その残された何年かを……それを非国民というふうに思われるとぼくは非常に辛いんだ」 (楡家) 〈AA 知的態度型〉

また、〈I 意義づけ型〉については、当初、有情主語の受身文についても同じタイプに位置づけていたが、「意義づけ」を表わす動詞句で構成される個別一回的な有情主語の受身文は、すべて何らかの評価性を帯びていると考えた。よって、これは〈AA 評価動作的態度型 (AA 態度)〉の中に含めることにした

(322) いろんな家の押入れの中や納屋にはときどき古い楽器が埋もれていることがあるんです。
おおかたのものは使いみちがないままに焚き木がわりににされてしまいましたが、少しはまだ残っていました。(世界の終わり) 〈I 意義づけ型〉

(503) そうしたおりょう婆さんに関する風評は、何となく、子供の鮎太の耳にも入っていたが、どうして村人が祖母のことを悪く言うのか、その理由はよくは納得行かなかった。
「すっかり坊は人質に取られて、喰い物にされとる!」(あすなろ) 〈AA 評価動作的態度型〉

〈I 要求型〉は、要求的態度動詞で構成される受身文タイプだが、同じ要求的態度動詞で構成される有情有情受身文が〈AA 相手への要求的態度型 (AA 態度)〉である。しかし、〈AA

相手への要求的態度型)は、対応する能動文の二格の要求相手が主語に立っている点で、〈I 要求型〉とは格体制が異なる。

〈I 態度型〉の4つ目のタイプである〈I 表現型〉には、対応する有情主語の受身文は存在しない。

以下、〈I 態度型〉の4つのサブタイプについて、その意味・構造的特徴と他のタイプとの相互関係を見ていく。

1.4.1 I 判断型「彼の行動は生まれつきとみなされた」

〈I 判断型〉は、現実の実体や属性に対して、何らかの動作主による知的な判断が下されたことを表わす。〈I 判断型〉は、奥田(1968-72)の〈知的な態度のむすびつき〉の連語を構成要素とするが、個別具体的な事態である〈I 判断型〉の頻度は非常に低い。一方、同じ〈知的な態度のむすびつき〉を構成要素とし、動作主が不特定一般の人々で、反復のアスペクトで述べられる〈I 社会的判断型 (I 社会)〉の頻度は非常に高い。これは、先に見た〈I 認識型 (I 認識)〉と同じ特徴である。また、動作主が特定の個人で、かつ文末で「V-ラレル形」で用いられると、動作主に視点が置かれることが多く、可能ないし自発用法へ移行してしまう点も同じである。

〈I 判断型〉は、次のような構造を持つ。〈I 判断型〉のみに用いられる動詞は、「見なされる、解釈される、判断される」などのいくつかの動詞に限られるが、〈I 知的認識型 (I 認識)〉が判断内容をともなうことで、〈I 判断型 (I 態度)〉を構成する(奥田 1968-72 : 119)。よって、〈I 知的認識型 (I 認識)〉の要素となる思考動詞はもちろん、知覚動詞もまた、この構造の要素となる。

(323) I 判断型

a :	対 象	思考判断内容	有情者による判断の発生
	INp・ガ _{SUB}	INq・ト/ニ/トシテ COM	思考/知覚 V・ラレル

「彼の行動は生まれつきとみなされた」

b :	(N [主語] - V [述語]) 節・ト 思考/知覚 V・ラレル
-----	-----------------------------------

「この仕事は彼には向かないと判断された」

この他、基本構造 a のバリエーションとして、「[Np・ハ Nq・トシテ/ノ ヨウニ 思考/知覚 V・ラレル]」という構造も存在する。

〈I 判断型〉は、〈I 社会的判断型〉と迷う例も少なくない。(324)、(325)などは、事態は個別一回的なアスペクトで述べられているように見えるが、動作主が不特定多数の人々であるため、〈I 社会的判断型〉と考えられなくもない。

(324)西暦2000年は日本の放送界にとって、デジタル化へ完全シフトを取った年として記憶されるだろう。(毎日)

(325)この二月、アリがレオン・スピックスと闘うと発表した時も、単なる金稼ぎの試合にすぎないと見なされた。(一瞬の夏.地)

(326)何故なら次の一カ月に更に五人が死に、そのうちの三人は我々が徹底的に再チェックした被験者だったからです。再チェックして何も問題はないと判断された人々がその直後にあつ

先に〈I 知的認識型〉の説明でも述べたが、次の例は、「景品が（どれにするか）考えられていた」という含意があり、これも〈I 判断型〉である。

- (327) たまたま、ある読書会の忘年会があった。そこで福引をやることになり、その年読んだ本の題名をもじった景品が考えられていた。(化学)

次の例も、同様に、「(プロ選手がよしと) 認められる」といった含意があり、「娘の変化をめざとく認める」のような単なる知的活動の意味ではなく、「判断」の態度が含まれている。

- (328) 83年のI O C総会は「参加資格審査は、その競技者が所属する国際競技連盟が行う」と決め、この後一気にプロ選手への門戸開放に向かう。サラエボ大会(84年)のアイスホッケーを皮切りに、サッカー、テニスと次々に認められ、バルセロナ大会(92年)男子バスケットではNBA(米バスケットボール協会)選手の「ドリームチーム」が誕生、大会の花形となった。(毎日)

I 判断型の周辺と他のタイプ

先にも述べたとおり、〈I 判断型〉は、動作主が不特定一般の人々で、反復のアスペクトで述べられると、容易に〈I 社会的判断型 (I 社会)〉へ移行する。

- (329) 遼のさらに北東には女真が勢力を張っていた。1019年に九州を襲い「刀伊の賊」と呼ばれたのは、この女真と考えられている。(毎日)

- (330) 偏食とふつういわれるのは、ある特定の食品を食べられないことであると思われる。(たべもの)

思考動詞ないし知覚動詞といった、広義認識動詞の一部がラレル形で主に文末に現れると、自発ないし可能の意味へ移行していく。このときの動作主は、話し手である。こうした、「(主語-述語)節-ト 思考 V-ラレル」(話し手動作主)というラレル文は、書き言葉に用いられ、「だろう」のようなモダリティーの表現に近づいている。

- (331) [前略] それにしても、ブームの間に反射論がもう少し正しく理解されていれば、このような流行現象だけで終わることはなかったと思われます。(記憶)

- (332) このような四季の変化は、また、新しいものを好む習性に拍車をかけたのではないかと考えられる。(たべもの)

動作主が話し手でなくとも、前後文に特定個人の主語とその動作である述語がある場合、その個人に視点が置かれることになり、認識動詞のラレル形は自発ないし可能用法と解釈される(点下線は特定個人の動作、網掛けは視点のある動作主)。

- (333) と鳥飼は、佐山が宿で電話が外からかかってくるのを待っていたこと、二十日の午後八時ごろに、佐山の宿での変名であると名ざして女の呼び出し電話があったこと、佐山はすぐに出て行き、その晩に情死したと考えられることなどを話した。(点と線.地)

- (334) 池の生命がほぼ頂点に達したかと思われた瞬間、ふいに水音が起って、ぼくは森に走りこむ影をみた。(裸の王様.地)

111 この例は、〈AA 知的態度型〉の主語相当の有情者が被修飾語になった文とも考えられるが、「人々」という語がかなり特定性の低い有情者を指すことから、〈判断型〉と見なすこととした。

用例は多くないが、〈I 判断型〉は、有情者が主語に立つて、「AN・ガ AN・ニ IN・ト/ニ 思考V・ラレル」という構造になると、〈AA 知的態度型 (AA 態度)〉へ移行する。

(335)「盗む気持がないのに盗んでしまうというのは、それは、どういことかな。こんどの場合は、月に三千円しか生活費がないので切羽詰って盗んだのは判るが、しかし、二度三度とかさなっちゃ、常習犯と見做されても仕方ないな。……しかし、僕は、きみが好きななれそうだよ。[後略]」(冬の旅)

(336)「なんど精のつく食べ物を届けようかと思うていたのやけれども、この不自由なときに当てつけがましと思われてはいかんと思うて控えていたのやして。[後略]」(華岡青洲)

1.4.2 I 意義づけ型「ガウディの模型はみんなの手本にされた」

〈I 意義づけ型〉とは、対象(主語)が動作主から何らかの捉え方や意義づけといった態度を含んだ扱いを受けることを表わすタイプである。主語に立つ名詞そのものがもともと持っている属性とは別の新たな価値や意味を動作主に付与され、行為実現後はその「意義」を持ったものとして扱われることを意味する。構造的には、「意義」を表わす二格もしくはト格の補語を要素とするが、この二格/ト格補語は結果的であると言える。

多くの場合、対象に対する動作主の態度には何らかの評価性が含まれるものだが、この〈I 意義づけ型〉は、動作主の対象への評価性が中立的な事態を表わす。また、「意義づけ」は「判断」とは異なるので、このタイプの構造が引用節を取ることはない(奥田 1960:258)。よって、「意義」を表わす二格やト格に現れるのは、「名詞」に限られる。このタイプは、奥田(1960:257~259)の〈態度のむすびつき〉の中の〈意義づけ的な態度〉の連語¹¹²に対応しているが、奥田(1968-72)では〈意義づけ的な態度〉はなくなっていて、この連語で扱われていたいくつかの動詞は〈知的な態度のむすびつき〉で取り上げられている。

(337) I 意義づけ型

対 象	意 義	有 情 者	に よ る	意 義 の 付 与 成 立
IN・ガ SUB	N・ニ/ト/シテ COM	サレル/使用/例示/選択 V・ラレル		

「ガウディの模型はみんなの手本にされた」

〈I 意義づけ型〉を構成するのは、対象を扱うことを表すかなり一般的な意味の処遇動詞である。こうした動詞は、動作の様態や結果といったもろもろの具体的側面をその語彙的な意味に含まず、動作主が対象に新たな意義を与える、もしくは新たな意義を与えながら働きかけるといふ抽象的な意味だけを持っている¹¹³。

(338)される、取り上げられる、例えられる、なぞらえられる、見立てられる、あてはめられる、数えられる、間違えられる；選ばれる、推される、定められる、採用される、決められる、登録される、承認される、指定される、想定される；使われる、用いられる、使用される、利用される、採用される、etc.

¹¹² 意義づけ的な態度のむすびつきを表わす連語として、「かごを手土産にする」「いもやき餅を冬の朝の代用食とする」などが挙げられている。また、「しっかりものを斟酌に決める」「相手を発情中の動物に例える」などは、構造的にみて意義づけ的な態度のむすびつきに近いと述べている。

¹¹³ ただし、選択・決定を表わす動詞は、動作の結果や動作主の対象に対する評価性のある程度含んでいるだろう。選択・決定動詞が評価性を含むと見なすなら、これらは〈被感情=評価的態度型〉となる。いずれにしても、〈意義づけ型〉の要素となる動詞にはいくつかの意味の異なるグループが盛り込まれていて、寄せ集め的なものになっている。

動作主が対象に付与する「意義」を表わす名詞は、「目標／見本／代用／代表／土産／秘密」など、やはり何らかの「価値」を表わす名詞であることが多い。

用例を見ていく（波下線は意義）。

- (339) いろんな家の押入れの中や納屋にはときどき古い楽器が埋もれていることがあるんです。
[おおかたのもの]は使いみちがないままに焚き木がわりににされてしまいましたが、少しはまだ残っていました。（世界の終わり）
- (340) そればかりでなく、各新聞紙上にも事件のことが報道された。[中略]それがひとつの原因ではないかと疑いたくもなるほど、容赦なく記事にされた。（人民は弱し。地）
- (341) 加藤は貯金のことが他人に問題にされはじめたことがむしろおかしくてたまらなかった。（孤高の人。地）¹¹⁴
- (342) 会場に想定されているのは市内の大型リゾート施設・シーガイアにある国際会議場「ワールドコンベンションセンターサミット」。（毎日）
- (343) 「岡田さんの家に配達に行ったらさ、源ちゃんの手圧器がころがってさ。それが何に使われてたと思う。蚊取線香を置いてんの。ああ、おかしい」（玉呑み人形）
- (344) 調べでは、逃走に使われた自転車は12月4日、枚方市南部の自転車店で売られていた。（毎日）¹¹⁵

〈I 意義づけ型〉には、次のような、非情物の社会的状態変化とも言うべき例が数例ある。ここでは、二格ないしト格（トシテ）の名詞句は、非情物の社会的地位を表わしている。

- (345) ホイアンの町並みは昨年12月の世界遺産委員会で、世界遺産に登録された。（毎日）
- (346) 第41回日本レコード大賞（日本作曲家協会主催）の最終審査会が31日、東京・赤坂のTBSで行われ、大賞にGLAYの「Winter, again」が選ばれた。（毎日）
- (347) 一方で、東京都杉並区の高校生らがめまいや吐き気を訴え、国内で初めて光化学スモッグと認定され、公害問題が噴出。（毎日）
- (348) 「日光の社寺」が世界遺産暫定リストに掲載されたのは92年。正式登録には国内法による史跡指定が必要だが、国宝や重文が集中している「日光」は意外にも国史跡には指定されていなかった。（毎日）
- (349) ◇トランポリン／体操の新種目として今大会から採用された。4メートル×2メートル、高さ1メートルの演技台で規定と自由で各10種類の跳躍を連続して行う。（毎日）

次の例は、「意義」を表わす二格やト格の名詞句が省略されて、同一節内に現れていないが、これも〈I 意義づけ型〉である。

- (350) 北九州市はリサイクル施設の整備で通産省の助成が受けられる「エコタウン」。家電リサイクルでは秋田県と宮城県鶯沢町が昨年11月に「エコタウンに」追加承認され、プラント建設が動き出した。（毎日）
- (351) したがって、委任統治という一見新しい統治方式が採用されたものの、それは旧来の帝国

¹¹⁴ この例の「他人に」のように、不特定動作主の場合には非情主語であっても二格標示が不自然でないことが多い。しかし、この例では、「加藤」という有情者に視点があることも、動作主の二格標示を自然にしている要因かもしれない。

¹¹⁵ 二格に動作性名詞が立つと、直接的に「意義」を表わすとは言いにくくなる。いわば、二格の動作性名詞が示す動作の「材料」や「道具」として、主語に立つ対象が使用されることを表わしている。この「材料」や「道具」がすなわち「意義」である。

主義統治の、ほんの一步前進、要するに變形だ、といつても過言ではない。(二十世紀)

I 意義づけ型の周辺と他のタイプ

「採択される」という選択を表わす動詞では、二格やト格の名詞句が省略されていると見なすのは難しい。今回は、便宜的に〈I 意義づけ型〉に分類したが、〈I 知的認識型 (I 認識)〉に分類すべきかもしれない。

(352)世界遺産は1972年のユネスコ第17回総会で採択された、世界遺産条約に基づくもので、世界的な価値を持つ文化遺産や自然遺産は人類共有の財産との認識に立つ。(毎日)

次の例は、「N(デアル)-ト 認められる」であれば、〈I 判断型 (I 態度)〉である。「N-ト 認定される」は、「認められる」よりも引用節を導きにくいので、まだ〈I 意義づけ型〉であると考え。

(353)一方で、東京都杉並区の高校生らがめまいや吐き気を訴え、国内で初めて光化学スモッグと認定され、公害問題が噴出。総評(当時)が初の公害メーデーを開催した。(毎日)

動作主が不特定多数の一般の人々になり、反復のアスペクトで習慣的な事態として述べられると、〈I 社会的意義づけ型 (I 社会)〉へ移行する。他のタイプ同様、I 社会的意義づけ型となると、頻度が高くなる¹¹⁶。

(354)この社会人類学は、[中略]従来、歴史学者や社会学者によって対象とされていたような、スケールの大きい複雑な社会(これを complex society とよぶ)——日本や西欧諸社会を含めて——をも対象とするようになり、数々の研究成果を生みつつある。(タテ社会)

(355)材料に使用されている、ビーフ、チキン、シャンピニオンといった違いからはじまって、ヤングタイプとか、オールドエイジタイプなどといった対象とする年齢層の違いによる種類の違いまで作りだしている。(たべもの)

(356)一方、鉛白は白色の顔料である。大変のびがよいので、昔は白粉として使われたが、鉛の毒作用で害が出たのでいまは使われていない。(化学)

「N-ニ される」という受身文は、主語に立つ名詞の形状や性質といった属性を変化させることを表わす場合がある。このときは、単なる意義付与ではなく、対象の状態を変化させているので、〈I 状態変化型 (I 変化)〉となる。〈I 状態変化型〉では、二格名詞に、「粉々に／剥き出しに／半分にされる」など、主に形状を表わす名詞や、「体験が本にされる」「マグロが寿司にされる」など動作の結果として現れる実体が来る¹¹⁷(波下線は状態)。

(357)そして彼女が後ろむきになって障子を締めたとき、三つ編みにして輪にされた後ろ髪につけられた幅の広いリボンがゆらゆらと揺れた。(楡家)

(358)その間に、東京あたりは三度ぐらゐまる焼きにされて、非常なみじめな目に会うだろう。(山本五十六)

¹¹⁶ ただし、「使われる、使用される、利用される」などの使用動詞が圧倒的多数を占めており、これは、テキストの内容にも影響されているかもしれない。

¹¹⁷ しかし、現段階の分類では「秘密にされる」は〈意義づけ型〉、「明らかにされる」は〈状態変化型〉ということになっている。

1.4.3 I 要求型「学校に対し、父兄から対策が求められた」

〈I 要求型〉は、ある有情者に対して、当該行為の実現が求められることを表わす。
 〈I 要求型〉の頻度は非常に少なく、ほとんど用例が存在しない。

(359) I 要求型

対 象	相手動作主	動 作	主	外的行為者による動作実行の要求
動作性 IN・ガ SUB	(AN1・ニ COM)	(AN2・カラ/ニ ヲッテ MOD)		要求的態度 V・ラレル

「(学校に) 父兄から対策が求められた」

要求的態度動詞：求められる、要求される、義務付けられる、任される、頼まれる、要請される、言いつけられる、許される、許可される、容認される、禁じられる、止められる、禁止される、命じられる、命令される、強制される、勧められる、指示される、期待される、断られる、迫られる、せがまれる、囑託される、委託される、勧告される、etc.

次のような例が見つかった。

(360)しかし、司祭には告悔の秘蹟を拒絶する権利はどこにもなかった。秘蹟は求められれば自分の感情によってそれを承諾したり拒んだりできるものではなかった。(沈黙. 地) ¹¹⁸

(361)その席で、小川所長は、第二号艦の完成期日の大幅な繰上げが、海軍艦政本部から二回にわたって要求されていることを発表した。(戦艦武蔵. 地)

(362)政府筋によれば、カーン博士には国家予算にも計上されない膨大な核開発資金の運用が任されていたが、この中から同博士や知人が個人的資産を築いた疑いがあるという。(毎日 2 月 17 日) ¹¹⁹

(363)闘病の初期には、放射線治療の合間を縫って数日間の帰宅が許された。(毎日 3 月 16 日)

次の例は、「容れる」という動詞であり、「容認する、受け入れる」という意味だが、要求相手である相手動作主を二格では標示できない点で、周辺的である ¹²⁰。

(364)たとえば、列強がつくった勢力範囲の解消、各国駐在軍の撤退、租界と租借地の返還、日本二十一カ条要求の取り消しなどであった。しかし、中国側の要求はほとんど無視されてしまったのである。／要求が容れられないという情報に接すると、欧州近代思想を学び革新思想をもった北京の学生・知識人は、一九年五月四日、親日派要人の邸宅をおそい、軍隊と衝突した。これが、いわゆる五・四運動である。(二十世紀)

I 要求型の周辺と他のタイプ

〈I 要求型〉の頻度が低いのは、有情者に対して個別の動作主から動作の要求がある場合、通常は、動作の要求を受ける相手である有情者が主語に立つ「AN1・ガ AN2・ニ/カラ 動作性 N・ヲ 要求的態度 V・ラレル」という構造の〈AA 相手への要求的態度型 (AA 態度)〉として

¹¹⁸ ここでは対象が主題化されているため、ヲ格かガ格かが判然としないが、後続する述語の主語でもあるので、ガ格相当と判断した。なお、この文は恒常的な条件として述べられているため、動作主は特定できないが、個人の動作主が想定されていることは確かである。

¹¹⁹ 「任される」には、二格名詞句に「有情者」ではなく「有情者の所有物」が立つ、次のような例が見られる(波下線)。

- ・ カウンセリングも一部では行われているが、面接委員の人選や指導内容は各刑務所の裁量に任され、書道やそろばんを教えるだけのところもある。(毎日 5 月 27 日)

¹²⁰ 次の例を比較されたい。

- ・ 中国の要求が {容れられる／容認される}。
- ・ ??中国に要求が {容れられる／容認される}。

述べられることが圧倒的に多いためである。特に、「頼まれる、請われる、せがまれる」などが〈I 要求型〉の要素となることは、極めて少ないだろう。

(365)過労自殺については今年3月、最高裁が「電通過労自殺訴訟」判決で、「社員の心身状態を把握し自殺を予防しなければならない」と会社側に高度の安全配慮義務を課す初の判断を示しており、企業側は早急な労務環境の改善を司法から求められたことになる。(毎日5月18日)

(366)この時、理工学部の学生担当教務副主任の梅津光生教授は、学部事務所から学生の処分を任された。そこで提案したのが「罰掃除」だったのだ。(毎日5月27日)

(367)副長から感冒患者発生の原因、対策を要求された先任の軍医中尉が一応の報告書を持っていったところ、それが抽象的総論的であるというので、こんなことは素人でもわかると副長は声を荒らげて立腹した。(楡家.地)

次の例は、要求相手である相手動作主(「各政党」)が大主語として提示されており、〈AA 相手への要求的態度型(AA 態度)〉に近づいている。

(368)今回から各政党は比例代表名簿に女性を30%以上入れることが義務付けられる。(毎日3月14日)

また、対象である動作性名詞が主語に立つ場合は、動作主が不特定一般の人々である〈I 社会的関心型(I 社会)〉としての頻度が非常に高い。ただし、〈I 社会的関心型〉の要素になる要求的態度動詞は「求められる、要求される、期待される」などに限られており、タイプとしての生産性は低く、慣用的である¹²¹。

(369)しかし、温暖化の主原因は化石燃料の膨大な消費によるCO₂排出量の増加にある。容易な目標達成の道を探ることではなく、抜本的な排出削減策の実施こそが先進国に求められている。(毎日5月8日)

(370)魚雷攻撃には極度の近迫発射が要求され、訓練中雷撃機が近寄りすぎて目標艦のデッキにじかに魚雷を投げこむようなこともあったという。(山本五十六.地)

「求める」という動詞は、もとは感情=評価的態度動詞であり、具体名詞、抽象名詞といったあらゆる名詞とむすびついて、「対象を欲する、手に入れる」という意味を表わす。この受身形である「求められる」は、〈AA 感情=評価型(AA 態度)〉である。

(371)生み出されたものが人々に求められ、生活の中に取り入れられることによって彼等の生命を守り、暮らしをより豊かにしていく時、生産の目的は達せられる。(働くということ)

(372)誰もそんなものを求めていないにせよ、私にはそれ以外に与えることのできるものは何もないのだ。そういう意味では公正さは愛情に似ている。与えようとするものが求められているものと合致しないのだ。(世界の終わり.地)

また、「求める」は「探し求めて手に入れる」という意味から「発見」の意味をも持ち、対象の発見場所の二格と共起することがある。このときは、〈I 存在確認型(I 存在)〉へ移行する。

¹²¹ ただし、〈I 社会的関心型〉には、要求的態度動詞のほかに「注目される、予想される、望まれる」などの思考動詞、及び「問われる」などの発話動詞も要素となる。

(373) もっとも、反射論の考え方は、デカルトの二元論に源流が求められるほど、古くからみられたものです。

(374) この意味で、日々の生活を支配する日本人の価値観とは、生活に密着したレベルでの人間関係に求められたといえよう。(タテ社会の力学)

要求的態度動詞の中でも、許可・禁止を表わす動詞は、動作主が不特定一般の人々になることで〈**I 社会的約束型 (I 社会)**〉へ移行する。

(375) 富士は「女人禁制」の山。それが60年に一度の庚申縁年だけ入山が許された。(毎日)

(376) 「でもお医者様の解剖は禁じられてはいないのでしょうか」(花埋み)

このように、本報告では、動作主が不特定一般の人々である場合、同じ要求的態度動詞でも、願望・要求を表わす動詞グループと許可・禁止を表わす動詞グループは、別のタイプに位置づけている。

1.4.4 I 表現型「水の電気分解は次の式で表わされる」

〈I 表現型〉は、主語に立つ概念がある手段・方法でもって表されることを表わす。主語に立つ概念を表わすための広義手段は、具体性が高ければ道具的になるし、抽象性が高ければ方法的になる。この、表現手段を表わす名詞句は、デ、ニ、ニヨッテ、ト、トシテなどの形式で標示される。ただし、〈I 表現型〉は手元のデータのみでは頻度が低いため、暫定的な一般化である。

〈I 表現型〉は、個別一回的な事態の場合には何らかの有情行為者が想定されるが、特に主語に抽象概念が立つ場合は、具体的な時間に位置づけられない超時的事態を表わすことも多く、この場合には行為者は想定できない。

(377) I 表現型

対 象	表 現 手 段	表 現 的 出 現
INp・ガ _{SUB}	INq・デ/ニヨッテ/トシテ	表現V・ラレル

「水の電気分解は次の式で表わされる」

表現動詞：表わされる、表現される、言い表される、描かれる、書かれる、映される、描写される、etc.

実際の用例を、表現手段の形式別に見て行こう(波下線は表現手段)。以下に挙げる例(378)–(391)は、いずれの形式も、道具・手段のデ格で表わすことができる。

A) デ格

(378) しかしながら、それらの神々の姿は、偶像の形では表現されることがなかった。(神と仏)

(379) 問題は色彩ではなくて墨一色であらわされた表現の内容なのである。(近世の日本)

(380) ことばで表現された事象は色紙を切ってつくられたモザイクのようなもので、できるだけ実際の事象に近づけようとすれば、色紙の種類をふやして、こまかいモザイクにしていけます。(記憶)

(381) いま電気メッキで銀を析出させると、 $Ag + (\text{銀イオン } 1 \text{ モル}) + e^- (\text{電子 } 1 \text{ モル}) \rightarrow Ag (\text{銀原子 } 1 \text{ モル})$ という反応式で表わされる。(化学)

B) ニヨッテ

- (382) そういう点では、起源の問題としていえば、神は本来、鏡や珠や石のようなものによって象徴的に表現されるのが本筋だったわけで、神像のイメージもむしろ神の仏教化のあとをしめすものであったとしなければならないであろう。(神と仏)
- (383) 日本固有の親しみのある民謡音階と中世芸術的な律音階とのたぐみな交錯が、やや複雑な旋法を可能にし、それによって豊かな情感が表現されたのであろう。(近世の日本)
- (384) この事実からして、写生の彼岸について述べてきたのですが、此岸にあるものが彼岸について評論のない方で完全に述べることができないのは当然であり、ただ、俳句作品によってのみ、あらわされるものでしょう。(俳句のたのしき)
- (385) 「粹」集団としての一族郎党「家」よりも大きい集団としては、中世的な「一族郎党」によって表現される集団がある。この表現によってあらわさる集団構成のあり方は、筆者の提出している粹による集団のあり方をまったくよく反映している。(タテ社会)
- (386) こういう語尾をつかうことによって表現される言葉の世界を私たちの日本語は持っているということです。(エッセーの書き方)

C) ト格

- (387) この取りきめによると、宇宙の大きさはほぼ100億光年(10の26乗メートル)、宇宙の現在までの寿命は100億年(10の16乗秒)と表わされる。(時間の不思議)
- (388) 心臓の正常の大きさはこぶし大と表現される。(人体の不思議)

D) トシテ

- (389) この頭の上に蝮をのせた土偶が、神格化されたものとして表現されたとすれば、そこには宗教が成立していたことになる。(日本の神々)¹²²
- (390) そしてここでは時間が金でしか計れぬ以上、補償は金銭として表現されざるを得ないだろう([中略])。(働くということ)

次のように、「ある形式-ヲトッテ」という形で表現手段が現れる場合もある。

- (391) ここで面白いことに、その仏像の影響下につくられた神像の多くが、貴族などの官人の姿や俗体をとって表現されているということだ。(神と仏)

I 表現型の周辺と他のタイプ

「A・ガ B・トシテ 表現 V・ラレル」という構造では、-トシテという形式で標示された名詞句が表現手段ではなく、動作主によって付与された何らかの価値ないし意義を表わすことがある。この場合、-トシテの名詞句はデ格には置き換えることができない。このとき、この受身文は〈**I 意義づけ型 (I 態度)**〉ないし〈**I 社会的意義づけ型 (I 社会)**〉に移行している。

- (392) 見る対象として描かれている風景には、なぜか、思い出のなかの海辺の光景が多い。(まなざしの人間関係)
- (393) そして、民衆レベルでのシンボルとして表現されているかぎり、それらは華麗であり、芸術品であり、歴史的意義をになうものである。(近世の日本)
- (394) 「平家物語」で理想的な紳士として描かれている平重盛などという人は、さかんにそういう口のきき方をしている。(日本人の言語表現)

¹²² この例は、〈意義づけ成立型〉に分類すべきかもしれない。

ト格の場合は、主語と述語のある節の形をとっているものもある。これは、デ格で述べる
ことができないので、手段というより引用句である。このとき、受身文は〈I 社会的言語活
動型 (I 社会)〉に移行している。

(395)『搜神記』(四世紀)のなかの蛇も、「目は直径二尺の鏡の如し」と描写され、これらを考
え合わせると、猿田彦は蛇であることを神話は暗示している。(日本人の死生観)¹²³

(396)また、これらの物質は遺伝情報を「記憶」していると表現されることが多いので、記憶物
質とイメージが重なるところもあるのでしょうか。(記憶)

「示される、暗示される」などの表示動詞が〈I 表現型〉の構造に入ると、〈I 表示型 (I
変化)〉の〈I 表示型〉から〈I 表現型〉へ移行する。

(397)路線図では銀座線はいつも黄色いラインで示されている。(世界の終わり.地)

(398)ただし、彼は科学的であることに徹していましたから、「ソ連はパブロフを受け入れたが、
パブロフはソ連を受け入れなかった」ということばで示されるように、彼の政治思想に対す
る関心は弱かったようです。(記憶)

(399)ところで、エチルアルコールがC₂H₅OHと示されるように、有機化合物の中の-OH
は、アルコールの性質を持つ。(化学)

(400)国王の全権力は、司法と統治とで示されていた。(憲法をよむ)

(401)これは神話作者によってたびたび用いられる起源譚の手法ではあるが、ここに注意される
のは、山の蛇神の手中に、岩によって象徴される永遠の生命と、花によって暗示される短い
生命と、この二種類の生命が掌握されているということである。(日本人の死生観)

逆に、「Nニ IN-ガ 表示 V-ラレル」という構造に表現動詞が入ると、〈I 表示型 (I 変化)〉
の〈I 表示型〉へ移行する。

(402)ギリシア神話に登場する神々が、古くから彫刻や絵画に表現されたことはひろく知られて
いる。(神と仏)

(403)これは、雑誌のヌードグラビアや、アニメのような平面、つまり二次元に描かれた異性を
相手にしてしか性衝動がおこらないというものです。(全能型勉強法のすすめ)

(404)この点は、条例制定がいわゆる権力事務にも及ぶことになった変革にも表現されることに
なる。(憲法を読む)

さらに、〈I 表示型〉は具体物が主語に立って述語がラレテイル形になると〈I 存在様態受
身型 (I 存在)〉へ移行する。これは、表現動詞が要素となった場合も同様である。

(405)「オール7」の回路が点滅しはじめる穴は数字盤のすぐ下につくられているが、これは地
が黒でその上に黄色と赤と青の三色が放射線の上にデザインされているし、チューリップの部分
にはこれまた数色の色をつかった不定形な図形がえがかれていたりもする。(パチンコと日
本人)

また、〈I 表示型〉において、抽象名詞が主語に立って述語がラレテイル形になれば、〈I 抽

¹²³ この受身文は個別具体的な事態なので、本来、〈社会的 I 言語活動型〉ではない。しかし、本報告では、判断
の構造を持つ発話動詞の非情主語受身文は、通常の発話動詞による用例が得られなかったため、タイプとして立
たなかった。もし立てるとするなら、非情一項受身文の〈態度型〉のサブタイプとして〈判断言語活動型〉とい
うタイプを立てることになる。なお、この用例の主語を有情者と見なすなら、〈AA 表現的態度型 (AA 態度)〉に
分類されることになる。

象的存在型（I 存在）へ移行する。

- (406)こう書いてみると、いたってこむずかしいことになりましたが、私自身ハッキリとはいえないほどの深いものが、秀句のなかに表現されており、それはみな写生という方法だけではとらえられない深みを、おのずから読む者に感じさせます。（俳句のたのしさ）
- (407)でるくいは打たれるということわざがあるが、価値の多様性を許さない姿勢がよくそのことばに表わされている。（たべもの）

2 I 存在型（I 存在）

〈I 存在型〉とは、あるところに主語に立つモノやコトがあることを表わす受身文で、対象の存在場所や所有者を表わす二格名詞句をとるという構造的特徴を持つ。〈I 事態実現型〉が典型的な動詞文であるとする、〈I 存在型〉は存在文的である。〈I 存在型〉の受身文タイプは、すべて、「場所／人・ニ モノ・ガ アル／ナイ」という存在文で表わし得る受身文である。

〈存在型〉は、〈I 存在様態受身型〉、〈I 抽象的存在型〉、〈I 抽象的所有型〉、〈I 存在確認型〉の4つのサブタイプに分けられる。それぞれ、次のような受身文である。

- I 存在様態受身型** 「窓際に花が活けられていた」
- I 抽象的存在型** 「この研究では動詞の分類に比重が置かれている」
- I 抽象的所有型** 「彼女には多くのチャンスが与えられている」
- I 存在確認型** 「多くの国に共通の現象が見られる」

このうち、〈I 存在様態受身型〉、〈I 抽象的存在型〉、〈I 抽象的所有型〉は、対象の存在場所である二格名詞句をとり、かつ動詞が状態性動詞であるラレテイル形になることで「存在」の意味を帯びている。これに対し、〈I 存在確認型〉は、対象の存在場所である二格名詞句をとり、動詞が発見的認識を表わす動詞で、かつ動作主が不特定一般の人々であることで「存在」の意味を帯びている。

〈I 存在型〉は、意味・構造的なタイプのレベルで言えば、第3レベルの意味・構造的なタイプである。すなわち、その構造的な特徴に、テンス・アスペクトや主題性といった、より文の構造的な特徴に近い要素を含んでいる。〈I 存在型〉には、第2レベルの意味・構造的なタイプである〈I 事態実現型〉に、それぞれ対応するタイプがある。すなわち、〈I 存在様態受身型〉、〈I 抽象的存在型〉、〈I 抽象的所有型〉では、動詞がラレル形になると〈I 事態実現型〉の各タイプへ移行する。また、〈I 存在確認型〉では、対象の存在場所ではなく動作の行われる場所がデ格で標示されると、〈I 事態実現型〉の各タイプへ移行する。

表 3：I 事態実現型と存在型の対応関係

I 事態実現型	I 存在型
I 位置変化型／I 結果型／I 表示型のモノ対象	I 存在様態受身型
I 位置変化型／I 結果型／I 表示型のコト対象	I 抽象的存在型
I 所有変化型の譲渡型のコト対象	I 抽象的所有型
I 発見型（I 認識）、I 知覚型（I 認識）	I 存在確認型

このうち、〈I 抽象的所有型〉については、生産性も頻度も低く、1 タイプとして立てられるかどうか検討の余地がある。また、〈I 存在様態受身型〉についても、アクチュアルなアスペクトを表わすラレテイル文の中で、このタイプだけを受身文タイプとして立てる積極的な理由がなければならないが、現段階ではそれほど説得力のある理由は用意できていない。

個別具体的な、アクチュアルなアスペクトには、「存在様態」のほかに、「結果状態」と「動作進行」がある¹²⁴。しかし、本報告では、ラレテイル形のアクチュアルなアスペクト用法については、「存在様態」のみを受身文タイプとして立てている。そして、「結果状態」と「動作進行」¹²⁵に関しては、単なるアスペクトの違いとして、受身文タイプとしては取り上げていない。なぜ〈I 存在様態受身型〉だけを受身文タイプとして立てるのかについて、強いて言えば、〈I 存在様態受身型〉は頻度が高いということ、また、他の存在系の受身文を説明するためにも、〈I 存在様態受身型〉をタイプとして立てる方が、都合がいいことが挙げられる。

また、〈I 抽象的存在型〉のアスペクチュアルな意味が何であるか、という問題もそれほど簡単ではない。用例を見る限りでは、一回的な事態、反復的な事態、超時的な事態とさまざまであるが、一回的な事態であっても抽象的な事態なので、これを「アクチュアル（個別具体的）」と言えるのか、疑問である。いわば、「抽象的存在様態」とでもいうべきアスペクト用法である。

〈I 存在確認型〉は、発見的認識を表わす動詞が要素となる受身文で、「見られる」が主要な動詞である。二格で示される場所に、今まで存在が確認されていなかった実体ないし属性が見つかるということだが、動作主が一般人称で述べられることで、「一般的に見つかる＝存在」という意味を結果的に表わしている。テンス・アスペクト的には、特に「見られる」という動詞の場合は、ラレテイル形が用いられることはほとんどなく、通常ラレル形でかつ現在形で用いられることが圧倒的に多い。しかし、「識別される、確認される」など、他の動詞では、ラレテイル形で述べることも可能であり、アスペクトは反復を表わすと考えていだろう。また、〈I 存在確認型〉は、認識動詞である知覚動詞が要素となる非情主語受身文であるので、視点の位置（文脈の構造）によっては、可能用法と意味の曖昧性が生じるタイプである。

ところで、「存在系の受身文」には、上に挙げた5つのタイプ以外に、〈AI 状態型〉の〈AI 陥る型（AI 状態）〉、〈II 関係型〉の〈II 内在的關係型（II 関係）〉がある。〈陥る型〉の場合は、ラレテイル形でのみ、存在を表わす。

(408)私たちは悲惨な状況に置かれている。〈陥る型〉

〈II 内在的關係型〉は、「A に B が含まれる」という内在の関係を表わす受身文である。これもある種存在文的であるが、行為者が非情物であり、かつ現実界の作用関係ではなく論理の表現であるという共通性を考慮し、〈II 関係型〉の〈II 論理的關係型〉に位置づけた。

¹²⁴ このアスペクトの分類は野村（2003）にしたがっている。本報告では、アクチュアルなアスペクトとして、「存在様態」、「結果状態」、「動作進行」、非アクチュアルなアスペクトとして「反復(習慣)」「パーフェクト」、「超時(特性)」を認めている。この他、「いらいらさせられる」などの生理・心理状態や「星がきらきらしている」などの現象は、「一時的状態」のようなアスペクトとして認められると考えている。

¹²⁵ それぞれ、次のような受身文である。

- ・ 結果状態：先ほどまではきれいだっただ壁が汚されている。
- ・ 動作進行：答案用紙が次々に配られている。

(409)イチゴにはビタミン C が豊富に含まれる。〈II 内在的關係型〉

以下、〈存在型〉に位置づけた 4 つのサブタイプについて、その構造的特徴と相互移行関係を考察していく。

2.1 I 存在様態受身型「窓際に花が活けられていた」

〈I 存在様態受身型〉は、何らかの外的行為者の働きかけの残存として、ある場所にあるモノがあるあり方で存在していることを表わす。典型的には参照時において知覚される状況を描写する受身文である。述語はラレテイル形ないしラレテアル形で、主に位置変化動詞、作成動詞、表現・表示動詞が要素となる。

(410) I 存在様態受身型

存在場所	対 象	あ る 様 態	で 存 在 す る
場所 N・ニ COM	具体 IN・ガ SUB	位置変化/作成/表現 V・ラレテイル/ラレテアル	

「たくさんの花が庭に植えられている」

〈I 存在様態受身型〉は、ニ格の存在場所を補語とする〈存在様態文〉のサブタイプと考えられる。〈存在様態文〉とは、野村（2003）から借用した概念で、対象が「「どのようにあるか」までを表わす存在文である」（野村 2003:3）。野村は典型的な〈存在様態文〉の構文的特徴として、①アル・イルに置き換えて文意が通ずること、②ニ格で場所が表わされること、③動作・作用が現に行われた結果と言にくいこと、などを挙げている（同:4）。野村は、主にシテイル形式の体系の一概念として「存在様態」を述べているが〈存在様態文〉には、無意志自動詞（自然動詞）のテイル形（a）以外に、広義位置変化他動詞¹²⁶のテアル形（b）、もしくは広義位置変化他動詞のラレテイル形（c）／ラレテアル形（d）という、全部で 4 つのサブタイプが認められる。

(411)a. 壁に絵がかかっている。

- b. 壁に絵がかけてある。
- c. 壁に絵がかけられている。
- d. 壁に絵がかけられてある。

(412)a. 庭にたくさんの木が植わっている。

- b. 庭にたくさんの木が植えてある。
- c. 庭にたくさんの木が植えられている。
- d. 庭にたくさんの木が植えられてある。

〈存在様態文〉のサブタイプである〈I 存在様態受身型〉は、上の（c, d）の例文に相当する。〈存在様態文〉は、対象の参照時点での状態と以前の状態との差には関心がなく、先行する変化への意識が薄いのが特徴である。この点が、「（赤ん坊の服を見て）あ、ここも汚れ

¹²⁶ 李（2007）によると、テアル文の存在様態用法に現れる動詞は、963 例中、「設置・付着」を表わす動詞が 554 例、「書記」を表わす動詞（書く、記す、記入するなど）が 378 例、「つくりだし」を表わす動詞が 31 例だったという。李は、これらの 3 タイプの動詞グループを「いずれも対象である物の位置を変化させることを表わす動詞である」とし、三類の動詞を合わせて「物の位置変化動詞」と呼んでいる。本稿では、李の「設置・付着」を表わす動詞を通常の「位置変化動詞」と呼んでいるので、この 3 タイプを合わせた動詞グループを「広義位置変化他動詞」と呼ぶことにする。

ている」というような、結果状態を表わす文のAspectとの違いである。しかしながら、受身文の1タイプである〈I 存在様態受身型〉では、変化前と変化後の状態の差に意識はないものの、主語に立つ対象がその場所に存在している仕方に関わった外的行為者の存在は含意される。

なお、〈I 存在様態受身型〉は、〈II 現象受身型〉同様、古代日本語にも存在した非情主語受身文のタイプで、金水（1991）で「叙景文」と呼ばれた受身文の一部を構成する。

実際の例を見ていこう。まず、もっとも用例の多い設置や付着などを表わす位置変化動詞による例の、典型的な眼前描写の例から挙げる（波下線は存在場所）。知覚場面の描写である〈I 存在様態受身型〉は、特に小説の地の文に例が多い。

- (413) 今送り出されてきた妹背家の奥座敷にずらりと四十客分並べられていた、二の膳つきの本膳四つ椀に盛られた品々とは較べものにもならなかった。（華岡青洲.地）
- (414) 店へはいると、四十がらみの男が、灯を入れたはちけんを天床へ吊りあげているところだった。三間に五間くらいの土間に、飯台が二た側、おのおの左右に作り付けの腰掛が据えられ、蒲で編んだ円座が二尺ほどの間隔をとって置いてある。（さぶ.地）
- (415) いったい結び目を彼はどこにかくしたのだろう。ぼくはテーブルにおかれたコーヒーをゆっくりかきまぜながらつぶやいた。（裸の王様.地）
- (416) それは入念に探された。しかし、どのポケットにも遺書らしいものはかくされていなかった。（点と線.地）

次の例も位置変化動詞による例であるが、知覚場面の描写ではない。

- (417) 緑の中に埋もれるように配された〈夢舞台〉は、ホテル、展望テラス、百段苑、温室、野外劇場、国際会議場といったさまざまな施設群から成りますが、[後略]（毎日）
- (418) 昭和10年ごろ、昆虫採集用の毒ツボを持って薬屋に行き、10銭出せば青酸カリを一かたまり買った。[中略] いまは学校の実験室でも、鍵つきの戸棚に厳重に保管されている。（化学）
- (419) [前略] オランダ国内の四つの宮殿に所蔵されているコレクション、什器（じゅうき）の中から絵画、工芸品、宝飾品、調度品や日本から贈られた美術工芸品が日蘭の専門家による数度の調査でよりすぐられた。（毎日）¹²⁷

次は、作成動詞による例である。

- (420) 田圃から視線を移すと、土蔵の鉄の棒のはまっている窓から、土蔵の内部が見えた。どこかに明り窓でも造られてあるのか、土蔵の内部は明るく、ミシンが一台置かれてあるのが見えた。（あすなろ.地）
- (421) ——その北に面したほうに舟着きと門があり、門の左右に収容者たちの長屋が建っている。長屋は東側にもあり、そこには湯舎も設けられていた。（さぶ.地）

最後に、「書かれる、記される」などの「書記」を表わす動詞及び、「描かれる、示される」などの、表現・表示を表わす動詞の例を挙げる。

- (422) その下には白墨で日附が書きこまれており、それぞれの曜日の診察を担当する医師の名、

¹²⁷ 「所蔵される」という動詞は、二格の存在場所が同時に「所蔵する」という動作の行為者かつ対象の所有者でもある点で、位置変化動詞とは言いがたいが、暫定的にここに分類しておく。

または宿直医の名が記されていた。(榆家・地)

(423)ハンサム軒。／ と、入口のガラス戸に金文字で書かれてある。(植物群・地) 128

(424)鮎太は受取って初夏の夕明りの中で封筒を確かめた。封筒の隅にはコスモスの絵が描かれてあった。(あすなろ・地)

(425)要するに、盤面の中央にネオンで表示されている数字が完全に7でそろってしまったのだ。(パチンコと日本人)

(426)銅鐸に高床倉庫が表現されているのも、そのような意味があったはずである。(日本の神々)

次の受身文は、「二酸化マンガンは、酸化剤として乾電池の中に封入されている」という〈I存在様態受身型〉と考えていいだろう。

(427)乾電池の中の二酸化マンガも、酸化剤として封入されているのである。(化学)

次のように、特定の有情者が主語に立つ場合もあるが、位置変化動詞を用いた受身文では、モノ的な扱いとして解釈されがちである¹²⁹。次の「葬られる」は有情者のみを主語にとる位置変化動詞であるが、これも〈I存在様態受身型〉と考えていいだろう。

(428)結婚を機にプロテスタントからカトリックに改宗したと言われているフェルメールが、旧教会に葬られているのもうなずける。(毎日)

「残される」という動詞が要素になるラレテイル文は、多くの場合動作主の意志性がまったく想定されず、まだ外的行為者の存在は含意されるものの、ほとんど存在文である¹³⁰。

(429)貝塚は一種のゴミ捨て場であるが、ここには、すぐに手にいれやすい貝や魚の骨などが主として残されている。(たべもの)

(430)橋脚だけのこされたコンクリート橋のしたでぶくと太郎は腰をおろした。橋は戦争中に爆撃されてからとりこわれ、すこしはなれたところに鉄筋のものが新設された。(裸の王様・地)

また、通常の位置変化動詞であっても、次のように外的行為者を想定できない受身文もある。このように、外的行為者の意志性が含意されない受身文は、同じ〈存在様態文〉であるシテアル文では述べることができない¹³¹。こうした受身文は、「ある」に代表される存在表現のバリエーションとして、文学表現を豊かにしているのだろう。

(431)実物は返した後で写真だけだったけれど、長野県の王滝営林署で伐採した木曾ヒノキ。7.5センチの中になんと1030年分の年輪が実に細かく刻まれていた。(毎日)

(432)加恵は朱が古びて冴えた色をしている塗盃の中に、盛上るように湛えられている濃い酒を見詰めて、ここから新しい生き方が始まることを思った。(華岡青洲・地)

(433)放課後の運動場へ雪枝が入って行くのが見えた。何十という紺の制服がいっぱいにばら撒

¹²⁸ 「書かれる」などでは、このように引用の・トを伴うと、主語のない文になる場合がある。

¹²⁹ しかし、「(死んだ) 和子はこんなところに埋められているんだね」など、主語に立つ有情者への私的な感情が強く、さらに「こんなところに」のような評価性が加わると、存在様態であっても「受影」の意味を帯びようである。

¹³⁰ なお、次のような例の存在を考えると、二格の場所名詞が主語に立った能動文が対応しているとも考えられる。

・ デルフトの町にはフェルメールが暮らした雰囲気が残されている。
⇒ デルフトの町は、フェルメールが暮らした雰囲気を残している。

¹³¹ さらに、ラレテイル形でも不自然なようである。

かれている中で、雪枝の和服だけが異様に目立っていた。(あすなろ.地)
 (434)港は暗く、棧橋と貨物船の燈火が、黒と灰色の底で光っていた。反対側の市街地には、燈
火の黄色い点が敷き詰められている。(植物群.地)

I 存在様態受身型の周辺と他のタイプ

「残される」による受身文でも、次の受身文は、二格補語に存在場所ではなく有情者をとる。これは、〈I 抽象的所有型 (I 存在)〉である。

(435)第二に、蒋介石の権威主義的な一党支配は、反対グループが立憲的手段で自己を主張することを不可能にし、民主政治の芽をつぶした。だから、革命こそが唯一の「彼らに」残された手段なのであった。(二十世紀)

表示動詞による受身文は、「ガラスに横顔が映し出された」という受身文が「ガラスが横顔を映し出した」という能動文に対応していると考えられる。これは、〈I 表示型 (I 変化)〉の構造であるが、この構造がラレテイル形になった次の受身文も、やはり〈I 存在様態受身型〉と見なせる。

(436)彼が井村の視線を辿ると、飾り戸棚のガラスが鏡の役目をして、恭子の横顔が映し出されていた。(植物群.地)

表現動詞が主語と述語を持つト節と共起した場合、これは〈I 言語活動型 (I 認識)〉を表わすが、この受身文が「IN-ニ 節-ト 表現 V-ラレテイル/ラレテアル」という構造になれば、これもやはり〈I 存在様態受身型〉である。

(437)しかし検病院の入院案内書には、このラジウム風呂のことが特に一項目をもうけられて、ものものしい美文で説明されていたのである。(榆家.地)

(438)この人口が農村より移動してきたものであることは、西鶴の『日本永代蔵』に、「これ皆、大和・河内・津の国、和泉近在の物づくりせし人の子供」とか、「大方は吉蔵・三助がなりあがり」などと表現されているので明らかである。(近世の日本)

2.2 I 抽象的存在型「動詞の分類に比重が置かれている」

〈I 抽象的存在型〉は、〈I 位置変化型 (I 変化)〉の〈コトの位置変化〉のタイプにおいて、述語がラレテイル形になった受身文である。抽象的概念ないし現象が別の概念やコトに存在していることを表現する文である。主語には抽象名詞ないし現象名詞が立ち、二格の名詞にも、基本的には抽象名詞が立つ。動詞は位置変化動詞が多いが、〈I 存在様態受身型〉同様、作成動詞や表示動詞の一部もこのタイプの要素となる。また、「誰かが当該の事態を引き起こした」という含意はまったくなく、行為者を想定することはできない。つまり、対応する能動文が存在しない。

(439) I 抽象的存在型

存在場所	対 象	抽 象 的 に 存 在 す る
IN-ニCOM	抽象/現象 N-ガ SUB	位置変化/作成/表現 V-ラレテイル/ラレテアル

「動詞の分類に比重が置かれている」「彼女の額には深い皺が刻まれていた」

まず、抽象名詞が主語に立つ例から見てみよう（波下線は存在場所）。

- (440)すなわち、日本人の集団意識は非常に場におかれており、インドでは反対に資格（最も象徴的にあらわれているのはカースト——基本的に職業・身分による社会集団——である）におかれている。（タテ社会）
- (441)したがって切り方にあまり大きな比重は置かれていない。（たべもの）
- (442)このように日本の社会には、かなり徹底した平等主義が、たしかに貫かれている。（ゆとり）
- (443)「その序章の部分に、自分にとって何かの意味が隠されているに違いない」（植物群）
- (444)その京子の隠された生活を、ある機会に明子は知ってしまった。昼間の短い時間に、京子の秘密が量み込まれていたのである。（植物群.地）
- (445)於継が加恵を見込んだという理由の中に加恵の健康があげられていたように、丈夫で病知らずだった加恵が俄かに痩せやつれていく様子は、親たちを狼狽させずにはおかなかった。（華岡青洲.地）
- (446)華岡家の人となったからには、家の由緒もよく知っておかねばならないという意識よりも、直道の話に手繰られて医家の歴史の中には並々ならぬ人間の執念が積み重ねられているのを知ったからである。（華岡青洲.地）
- (447)【前略】——以上のような大盗賊から、ほったらかしにしておいても、どうということのない賽銭泥棒まで、すべての犯罪人の名前が、彼女の灰色の脳細胞のなかに叩きこまれていた。（ブンとフン.地）¹³²
- (448)シーガイアを経営する第三セクター・フェニックスリゾートの佐藤棟良社長と、全国で真っ先に2000年サミット誘致に名乗りを上げた宮崎県の松形祐堯知事は30年来の「盟友」だ。国際会議場の命名には、サミットを「宮崎観光浮揚の切り札に」と期待する2人の思いが込められている。（毎日）
- (449)【前略】また、家族成員の集団参加が、日本人の「家」にみられるような全面的参加ではなく、居住（または財産共有体としての）家族というものは、「家」のように閉ざされた世界ではなく、個人は家の外につながる社会的ネットワーク（血縁につながるという同資格者の間につくられている）によっても強く結ばれているのである。（タテ社会）

次は、現象名詞が主語に立つ例である。

- (450)彼女の顔には、深いしわが刻まれていた。
- (451)それというのも妻の心の奥には、彼女が妹背家に嫁して以来今日までの労苦を省みる嘆息が込められているからである。（華岡青洲.地）

現象名詞が主語に立つ受身文は、現実界で知覚できることなので、抽象名詞が主語に立つものよりも、具体的な存在を表わす〈I存在様態受身型〉に近づくだらう。

作成動詞による例はあまり見あたらなかったが、次のような受身文が考えられる。

- (452)そこで、つねに新鮮な食品材料を求めることが安全への道であった。ここに、日本人の性格が浮き彫りにされているように思う。（たべもの）
- (453)若い世代には新しい文化が形成されている。

¹³² この例は、「彼女は脳細胞の中にすべての犯罪人の名前を叩き込んだ」という能動文が可能である。次の例でも、「2人は国際会議場の命名に思いを込めた」という能動文が一応可能だろう。「能動文が存在しない（行為者を想定できない）」という構造の一般化は強すぎるだろうか。

頻度が低いので、確定的な一般化はできないが、「IN・ニ 抽象 IN・ガ 作成 V・ラレテイル」という受身文は、存在というよりも習慣的な社会活動を表わしやすいのではないかと考えられる。

Ⅰ 抽象的存在型の周辺と他のタイプ

抽象名詞が主語に立つ〈I 表示型 (I 変化)〉の受身文がラレテイル形になると、〈I 抽象的存在型〉へ移行する。このタイプは、「あらわれている」に言い換えられる受身文だが、上にあげてきた位置変化動詞による〈I 抽象的存在型〉に比べ、単に「ある」に置き換えられない例もある。だが、暫定的に〈I 抽象的存在型〉の周辺に位置づけることにした。

(454)でるくいは打たれるということわざがあるが、価値の多様性を許さない姿勢がよくそのことばに表わされている。(たべもの)

(455)だが問題は、この併合が一方的に琉球藩と命名し、軍隊を派遣し、清朝との外交断絶を強要し、国王が諸外国に助けを求めると、軍隊でおどして東京へ呼びつけ、ついに明治十二年(一八七九)には藩を廃して沖縄県の設置にまでもちこんだことにあらわされている。(近代の潮流)

(456)氏の人生は波乱と曲折に富んでいるが、それだけにその立身出世の物語には、大衆の心をひきつける人情のドラマが映し出されていた。(神と仏)

(457)経済が復興し、会社がようやく形を整備し終えた頃に入社したばくの眼に、工場長や部長と職場の班長クラスの板金作業者との地位の隔りはあまりに大きなものとして映し出されていた。(働くということ)

(458)それがオオクニヌシノ神のまつりと変わったところにも、出雲大社の祭祀がいくつもの信仰を重層したものであることが示されている。(日本の神々)

次の例は、知覚で捉えられる事態を表わすことから、〈I 存在様態受身型〉の周辺に位置づけたが、現象名詞が主語に立つ〈I 抽象的存在型〉に近づいている。ここでは、動作主は「木曽ヒノキ」であろうが、「木曽ヒノキ」が何らかの意図性を持って「刻む」という行為者ではないことも、行為者を想定できない〈I 抽象的存在型〉に近い要因である。

(459)実物は返した後で写真だけだったけれど、長野県の王滝営林署で伐採した木曽ヒノキ。7.5センチの中になんと1030年分の年輪が実に細かく刻まれていた。(毎日)

2.3 Ⅰ 抽象的所有型「彼女には多くのチャンスが与えられている」

〈I 抽象的所有型〉とは、ニ格補語の有情者が何らかの権利や属性、機会を持っているという意味を表わす。このタイプも、〈I 抽象的存在型〉同様、対応する能動文を想定することができない。一方で、〈I 抽象的所有型〉は頻度も生産性も非常に低いので、一タイプとして立てられるのかどうか、検討の余地がある。

(460) Ⅰ 抽象的所有型

所有者	対象	所有している
AN・ニ COM	抽象 IN・ガ SUB	譲渡 V・ラレテイル

「彼女には多くのチャンスが与えられている」

〈I 抽象的所有型〉に用いられる動詞は「与えられている」のような譲渡動詞や「用意されている」のような意志的態度動詞に近い動詞、「残されている」のような位置変化動詞である。また、動作主は基本的に想定不可能で、テンス・アスペクト的には反復・習慣を表わしている（波下線は所有者）。

(461)さらに、一度や二度のミスでは間引きせず、「敗者復活」のチャンスが与えられている点は、長い目でみて人間を評価する姿勢であり、あるいはそれは“日本的”なやさしさなのかもしれない。（ゆとり）

(462)つまり、いま問題としている差は、与えられた条件のちがいに起因するにちがいない。（ゆとり）

(463)「女子体操選手の紹介」その間、学校の授業には出席できないが、近くの公立校とA I Sが提携しているため支障はない。一般の生徒より1、2年卒業は遅れるが、望む教育は受けられるプログラムが「彼女には」用意されている。（毎日）

(464)彼らに開かれた選択肢は、（1）広大な屋敷に住むことを、いさぎよくあきらめるか、あるいはそれとも、（2）Do it yourself に忙殺されてでも、未練がましく広大な屋敷に住みつづけるか、どちらかしかない。（ゆとり）

(465)私たちに残された時間は限られている。

上の例では所有者である有情者が想定できるので「所有」と呼べそうだが、次の例では所有というより存在の意味しか読み取れない。所有者をより具体的に想定しているか否かが意味の違いに関係しているようだ。

(466)しかも当時、インドでは回教徒とヒンズー教徒との提携の道が開かれていた。（二十世紀）

(467)その携帯サイトには、ユーザーが利用可能なあらゆる機能が用意されている。

次の例は「許される」という要求的態度動詞だが、これも動作主がほとんど想定不可能であり、意味的に〈I 抽象的所有型〉に近づいている。

(468)チャンピオン・ペルトを持っているのは相手であり、そのフォアマンへの挑戦が、アリに許されたほとんど唯一の、そして最後のチャンスだったからである。（一瞬の夏.地）

I 抽象的所有型の周辺と他のタイプ

〈I 抽象的所有型〉は、主に譲渡動詞で構成されることから、〈I 所有変化型（I 変化）〉の動作主及びテンス・アスペクトが一般化することで抽象化したタイプと考えられる。次の例は個別の動作主の個別具体的な事態なので〈I 所有変化型〉である。

(469)一九年三月のローラット法では、煽動者とおぼしき者を裁判なしで拘留する権限が総督政府に与えられ、また、陪審なくして審問する権限が裁判官に与えられた。（二十世紀）

(470)加恵には厳格な武家の躰が与えられていたのだが、深窓の育ちは却って躰の奥に稚さ押しこめてしまっていたのであろうか。（華岡青洲.地）

2.4 I 存在確認型「彼の性格に攻撃性が発見された」

〈I 存在確認型〉では、あるところにあるモノないしコトが存在することが、何らかの動

作主が認識することとして表わされる。奥田（1968・72）の〈発見のむすびつき〉を表わす連語のうちの、「対象の存在場所ニ 対象ヲ 発見動詞」という「発見の構造」をとる連語を要素としている。〈I 存在確認型〉は、対象が主語に立ち、動詞がラレル形になり、「Nニ 対象・ガ 発見 V・ラレル」という構造になることで、存在文に近づいている。ただし、単に「アル」を用いた存在文と異なり、「N における対象の存在」が動作主の認識で確かめられることが表わされる。

奥田（1968・72）によれば、通常の知覚動詞が基本的に具体名詞を対象とするのに対し、「発見」を表わす動詞（発見動詞）は具体名詞とも抽象名詞とも自由に組み合わせると言う（pp.105・6）。そして、知覚動詞も、「発見の構造」にはいることで、抽象名詞とも自由に組み合わせるようになる。よって、「発見の構造」の連語を要素とする〈I 存在確認型〉の主語には、具体名詞から抽象名詞まで、あらゆる名詞が立つ。しかし、実際のデータでは、抽象名詞が主語に立つものが非常に多かった。以下、主語に立つ名詞の具体、抽象の順にデータを見ていく。

2.4.1 具体的存在「雲の間に黒い物体が発見された」

〈I 存在確認型〉の具体的存在を表わすタイプは、ある具体的な場所に具体物ないし知覚できる現象が存在することが、動作主の認識で確認されることを表わす。具体的存在を表わすタイプは、発見ないし知覚を表わす動詞で構成され、対象の存在場所を表すニ格名詞句と共に共起する。

(471) I 存在確認型（具体的存在）

存在場所	対	象	外的行為者による存在確認
場所 Nニ COM	具体／現象	IN・ガ SUB	発見 V・ラレル

「雲の間に黒い物体が発見された」

発見動詞を要素とする〈I 存在確認型〉の頻度はそれほど高くない。具体物が主語に立つ「発見の構造」を持つ例は数例しかない（(472)）（波下線は対象の存在場所）。

(472) 古く縄文時代には各地に土偶が発見され、古墳時代には埴輪が大量に制作された。（神と仏）

(473) 影村一夫の一重まぶたの細い眼はいつも光を放っていた。容易に妥協を許さない鋭い眼な
ざしだった。その視線が当たったところには、きつとなにかが発見され、その発見に理由づけられ、そして結末をつけようとする眼であった。（孤高の人・地）

発見動詞による〈I 存在確認型〉の頻度は非常に低い、知覚動詞による〈I 存在確認型〉の頻度は低くはない。この場合、知覚動詞による受身文は、〈I 知覚型（I 認識）〉から〈I 存在確認型〉へ移行していると言える。具体名詞ないし現象名詞が主語に立った例には次のようなものがある。

(474) さらにもう数歩を退いて眺めれば、屋根にはもっとおどろくべき偉観が見られた。あまり
厳密な均衡もなく、七つの塔が仰々しく威圧するように聳えたっていたのである。（檜家・地）

(475) 1996年、ハーグで開かれた「大フェルメール」展以来、「フェルメールの町」を訪れる
観光客も増え、町のあちこちにフェルメールに関連した場所を紹介する表示が見られるよう

になった。(毎日)

(476)栄二の着物から湯気がたちはじめ、軀にあたたかみが感じられると、全身の筋肉や骨のふしぶしが、熱をもったように痛みだした。(さぶ.地)

(477)書齋の厚い扉が閉じられると、広い邸内にはなんの物音も感じられなかった。(裸の王様.地)

(478) [前略]ふたたび彼は、濃い朱色の雲が上空に広がっている絵に、眼を移した。幾つもの塊に分れているそれらの雲々の中に、かすかに黒い線が認められることに、はじめて気付いた。眼を近寄せて、凝視する。(植物群.地)

このような知覚動詞の例は、〈I 知覚型 (I 認識)〉同様、やはり**可能用法**との境界が曖昧になる。こうした個別一回的な事態は、動作主が話し手もしくは話し手の視点のある人物である上、ラレル形が現在を表わしているため、可能ないし自発と解釈するべきかもしれない。

次の例は対象の存在場所がデ格で現れているが、これは存在の実際性を強調するためと考えられる。こうした例が具体的な「発見」や「知覚」ではなく、存在を確認するタイプだと言えるのは、動作主が特定の個人ではなく、不特定一般の人として述べられているためである。

(479)ヨーロッパの家庭では、冬中、このような深鍋に肉と汁を入れ、ストーブの上ののせてやわらかく煮ているという風景がよくみられるようである。(たべもの)

(480)太古に分離した豪大陸に生息する動植物は、ほかでは見られない独特なものばかりだ。(毎日)

しかし、次の例のように、特に発見動詞の受身文が個別の有情者の個別具体的な事態として述べられると、認識としての「発見」の意味が強調される。こうした受身文は、〈**I 発見型 (I 認識)**〉である。

(481) 筑波山中で新たに発見されたガマ蛙につけられた学名) (ブンとフン.地)

(482)しかし、そのお時は、同伴の男といっしょに、思いもかけぬ場所で、死体となって発見されたのである。(点と線.地)

2.4.2 抽象的存在「多くの国に共通の現象が見られる」

〈I 存在確認型〉の抽象的存在は、ある実体Aないし属性Aに何らかの実体Bないし属性Bが存在することが、知的な領域で確認されることを表わす。

(483) **I 存在確認型 (抽象的存在)**

存在場所	対象	存在の一般的確認
INp・ニ	INq・ガ	知覚/発見 V・ラレル

「多くの国に共通の現象が見られる」

【話し手含一般の人々行為者】

このタイプの述語は「見られる」に代表されるが、この「見られる」はアスペクトの対立を持たず、もっぱら「見られる」の形で用いられる。テンス対立は持つものの、実際にはラレル形(過去)の用例は3例のみであった。また、認識動詞であるため、動作主が話し手(の視点のある人物)のみであると捉えれば**可能**の意味を帯び、話し手を含めた一般の人であると捉えれば受身用法になる。

(484)どの画用紙も余白が多く、描かれた線には対象への傾倒がまったく感じられなかった。(裸の王様.地)

(485)鑑別所には、三年前の行助の鑑別書が保存されていた。今度も新たに綿密な鑑別がおこなわれたが、結果は前回と大差がなかった。殊に、性格に爆発性がまったく認められない点は前回と同じであった。(冬の旅.地)

まず、二格名詞句が場所名詞であるものの例を挙げよう(波下線は存在場所)。存在場所が場所名詞である場合は、デ格で現れることもある。

(486)これも、日本人の新しがりとか、時流主義が学問の世界にも見られたということでしょうが、[後略](記憶)

(487)このような論理を、いま「修正だめ派」と名づけよう。「修正だめ派」的な主張は、随所にみられる。(ゆとり)

(488)西欧では極右・極左による暴力的政権掌握は見られなかったが、経済苦境や失業や内閣の不安定から、伝統的な議会民主制の権威は失われようとしていた。(二十世紀)

次は、対象の存在場所が場所名詞ではない例である。

(489)ぼくは彼女に一瞬ひどく肉にあふれたものを感じさせられた。ぼくは彼女の眼のなかをのぞきたい欲望を感じた。きっとそこには短切な夜の輝きが発見されるはずであった。(裸の王様.地)

(490)一見わかり切ったことのようにだが、少し突っ込んで考えてみると、必ずしも単純ではない。いくつかのパラドックスが発見されるのである。(ゆとり)

(491)しかし、脳が障害を起こすと、知的機能も障害を起こすことがあります。感情や人間関係が障害を起こすこともありますし、運動機能が障害を受けたり、感覚が異常になったり、皮膚も含めて内臓が病気になったりすることもあります。つまり、全身のすべての機能、すべての行動に、障害がみられます。(記憶)

(492)無重力の宇宙ですごした宇宙飛行士に、骨の退化が見られるということも聞いたが、その構成成分の交替がかわる事実である。(化学)

(493)そして興味あることは、この方向は、最も先端をゆく大企業ほど、また、近代的とか先進的とかいわれる経営にきわめて顕著にみられることである。(タテ社会)

(494)

対象の存在場所が人である場合は、存在というより所有を表わすが、このとき所有者である人名詞句は、二格ではなく主題のハで提示されることがある。

(495)「辻谷黎子さんは、自分の気持ちを抑え込む傾向が見られます。いじめられた経験、母親の自殺も、心の奥底に封印してきたんでしょう」(砂の上の恋人たち)

時を表わす語や「よく、普通」などの頻度を表わす副詞は、その時間的な幅(期間)における対象の存在を一般的に示している場合がある。このときは、二格の存在場所は省略される(点下線は時や頻度の副詞)。

(496)昔はこのビタミンB1が極度に足りない人がいて、脚気などという病気があった。今はそれほどひどいのはみられない。(たべもの)

(497)五月四日に始まる抗議運動は、中国史上かつて見られないほど激烈で広範な民族主義感情

の表明であった。(二十世紀)

(498) ごくふつうに見られる銅合金はシンチュウ(黄銅)であるが、同じシンチュウ製の金ボタンでも、メーカーがちがうと色がわずかながら異なる。(化学)

〈I 存在確認型〉に現れる動詞は、ほとんど「見られる」であるが、「見られる」以外には次のような動詞の例があった。

(499) アラブ反抗運動の過程には、ある共通したパターンが識別される。まず、講和条約締結直後に武装蜂起が生じ、ついで英仏が押し返して秩序を回復し、最後に英仏がいちおうの自治を認める、という経過である。(二十世紀)

(500) だがしかし、現代史の時期区分は、以上のような大ざっぱな二分化にとどまるのではない。

第二次世界大戦の以前と以後にも、それぞれ諸時期が認められる。(二十世紀)

(501) 地近年は、脳の話がもてはやされる傾向がありますが、人間の行動や精神活動が脳という物質の現象として説明される科学性に新鮮さが感じられるからでしょう。(記憶)

(502) まるで見世物小屋の呼び込み人が、「さあいらっしゃい。世にも珍奇な動物がいますよ」と叫んで客寄せしているかの気配が、濃厚にうかがわれる。(ゆとり)

I 存在確認型の周辺と他のタイプ

「対象を欲して探し、手に入れようとする」という意味の「求める」という動詞が、「N-ハ N-ニ 求められる」のように、対象の存在場所を二格で標示することがある。これも「発見の構造」に準ずるものとして、〈I 存在確認型〉の周辺に位置づけられるだろう。

(503) その意味で、人事の不公平による弊害の有無は、日本的システム自体にあるというよりは、その集団の機能の高さ、性能の度合に求められるといえよう。(タテ社会)

(504) もっとも、反射論の考え方は、デカルトの二元論に源流が求められるほど、古くからみられたものです。(記憶)

(505) さきの柳田説によれば、日本人が視線に敏感になったことの理由は、わが国の近代化の過程に求められているわけである。(まなざしの人間関係)

(506) 治療のため「くすり」を用いることがなかったわけではないけれども、しかし主たる病氣退散の方法は、あくまでも加持僧による祈祷に求められたのである。(神と仏)

(507) そこには無限の修業、無窮の向上が求められるだけでなく、それを自らの生活規範として課する姿勢がある。(稟議と根回し)

「帰す(帰する)」という動詞は、古くからヲ格に抽象名詞をとるようであるが、この受身形「帰せられる」による次のような受身文も、〈存在型〉と考えられるだろうか。〈存在型〉においても、〈I 存在確認型〉か〈I 抽象的存在型 (I 存在)〉か位置づけに迷うところだが、ラレル形で用いられることから、〈I 存在確認型〉の周辺に位置づけることにした。ただし、二格に有情者がくる場合(「彼らに罪が帰せられた」)は、「科せられる、負わされる」に似た〈譲渡型〉とも考えられる。

(508) しかし他の理由は、協商国間の不一致に帰せられる。(二十世紀)

(509) 坐禅における坐法は、眼の位置、両手の組み合わせ、按摩法、調息法および丹田の運用などの身体的訓練について細かく規定しているが、そのシステムの多くは天台智顗の発想もしくは独創に帰せられる。(紙と仏)

「挙げられる」という動詞は、二格名詞句と共に起しない場合もあるが、これも「アル」に置き換えられるので、〈存在型〉に位置づけた。〈I 存在確認型〉の意味が当てはまるとは言いがたいが、これもラレル形で用いられることから、〈I 存在確認型〉の周辺に位置づけた。

(510)さらに、恵まれている証拠の一つに、日本には砂漠がないことがあげられる。(たべもの)

(511)この例としては、化学調味料の効いた食品を多くとることや、せっかくの料理にウスターソースをかけたり、化学調味料をふりかけたりして食べることなどがあげられる。(たべもの)

以上指摘した「求められる」、「帰せられる」、「挙げられる」の例は、いずれも述語の形がラレル形である。これらの例は、動作主が不特定一般の人々であると見なせば、受身用法である。一方、動作主話し手であると解釈すれば、**可能用法**の意味を表わすことになる。

「うかがわれる」という動詞では、主語の存在を確認した場所=コトがカラ格で現れることもある。この例は、思考活動の結果としての理解を示す「分かる」という動詞に近づいている。

(512)番組はビデオ化され、人気の回は7000～9000本売れている。こうしたことから、世界遺産への人々の関心の高さがうかがわれる。(毎日)

視覚では捉えられない音声などが主語に立つ場合に、「聞かれる」という動詞の用いられる例があった。これらの例には存在場所を表わす二格名詞句が現れていないが、知覚動詞で構成され、動作主が1人称を含んだ一般の人であること、また、ある範囲において主語に立つ名詞が存在していることを表わす点で、〈I 存在確認型〉の周辺に位置づけられるのではないかと思う。

(513)「ゆとり」ということばがよく聞かれるのも、近年の傾向である。(ゆとり)

(514)そこで、「バブロフはもう古い」などということばも聞かれるようになりましたが、これは反射論や条件反射学が政治思想の中で扱われてきたためで、バブロフにとっても不本意なことに違いないことでしょう。(記憶)

3 I 習慣的社会活動型 (I 社会)

〈I 習慣的社会活動型〉とは、ある社会的な範囲における不特定多数の一般の人々=動作主の習慣的な活動を表わす。〈I 習慣的社会活動型〉の構造は、動作主とアスペクトが特徴的である。動作主は特定の個人ではなく、不特定多数の一般の人々で、「具体的な誰かが当該の動作を行う」ということにはまったく関心がない。また、動作主が不特定一般の人々であることと連動して、アスペクトは個別具体的ではない、非アクチュアルな反復のアスペクトで、ラレル vs. ラレテイルのアスペクト対立は中和する。具体的な動詞の形式としては、「V-ラレテイル」「V-ラレテキタ」「V-ラレガチデアル」のような反復・習慣のアスペクトを表わす形で現れる。このように、〈習慣的社会活動〉は、動作主とアスペクトが具体性を失い、より抽象化したタイプと考えられる。意味・構造的なタイプのレベルとしては、〈I 習慣的社会活動型〉は第3レベルの意味・構造的なタイプである。

動作主が不特定多数の一般の人々であるこのタイプが、受身文の特徴的な1タイプとして立てられることと、受身文が持つ「行為者の背景化」という重要な機能とは、決して無関係ではないだろう。つまり、受身文の「行為者背景化」という機能が、動作主が不特定一般の人々である〈I 習慣的社会活動型〉を発達させたのだと考えられる。

しかしながら、すべての動詞が〈I 習慣的社会活動型〉を1タイプとして発達させているわけではない。〈I 習慣的社会活動型〉を構成する動詞は、認識活動を表わす動詞と態度を表わす動詞の一部に限られる。すなわち、主に対象への心理的な関わりを表わす動詞である。

構造は、次のようなになる。

(515) I 習慣的社会活動型

対 象	動 作 主	不特定一般の人々による習慣的心理活動
IN-ガ SU	(みんな-ニ MOD)	心理 V-ラレル/ラレテイル

もちろん、基本的にはどんな受身文タイプでも、動作主が不特定一般の人々で反復のアスペクトで述べられれば、習慣的な事態を表わせるだろう。例えば、次のような動作動詞による受身文である。

(516) わたしは、いつもみんなに頭をたたかれる。〈AA 接触型 (AA 無変化)〉

(517) この公園では、毎年秋に運動会が行われる。〈I 実行型 (I 変化)〉

このような受身文がまったく存在しないわけではないが、本報告で扱ったデータ内での頻度は高くなかった。よって、こうした受身文は、当該の受身文タイプにおける単なるアスペクトの対立であると見なすことにした。これに対し、〈I 習慣的社会活動型〉として立てたタイプの頻度は非常に高く、1つの構造的なタイプとして受身文の体系の中に定着していると判断した。さらには、特に非情主語の場合、心理動詞の受身文は、個別具体的な事態よりも、〈I 習慣的社会活動型〉として現れることの方が多いのである。

〈I 習慣的社会活動型〉は、主に、認識や判断などの心理的活動を表わす動詞で構成される。唯一、〈I 社会的意義づけ型〉は、「動作的態度」を表わす受身文で、動作と心理の間のような活動を表わしている。よって、先に(516)・(517)の例を挙げて述べたが、典型的に物理的動作を表わす動詞による〈I 習慣的社会活動型〉は、タイプとしては立たなかった。

I 社会的思考型

社会的対象思考型 「縄文時代には、靈魂の存在が信じられていた」

社会的判断型 「多くの行動は生まれつきと思われている」

I 社会的言語活動型

社会的対象言語活動型 「自由競争が叫ばれている」

社会的判断言語活動型 「近年、日本では格差が拡大したと言われている」

I 社会的呼称型 「このビルはランドマークと呼ばれている」

I 社会的評価型 「この政策は非常に重要視されている」

I 社会的関心型

活動への社会的関心 「本部の対応が注目されている」

結果への社会的関心 「いい結果が期待されている」

あり方への社会的関心 「国政の真価が問われている」

I 社会的約束型

社会的規制 「子供の入場は禁止されている」

- 社会的保障型 「国民の人権は守られている」
- I 社会的意義づけ型** 「鉛白は、昔は白粉に使われた」
「この現象は心理学の問題として扱われてきた」
- その他の社会的活動型** 「日本では、肉は大抵薄切りで売られている」

〈I 習慣的社会活動型〉は、個別一回的な事態を表す受身文タイプと、次の表 4 のように対応している。

表 4：〈I 習慣的社会活動型〉と個別一回的な事態との対応関係

	習慣的事態	個別一回的事態
①	I 社会的思考型の社会的対象思考型	I 知的認識型 (I 認識)
②	I 社会的思考型の I 社会的判断型	I 判断型 (I 態度)
③	I 社会的言語活動型の社会的対象言語活動型	I 言語活動型 (I 認識)
④	I 社会的言語活動型の社会的判断言語活動型	なし
⑤	I 社会的呼称型	なし
⑥	I 社会的評価型	AA 感情=評価型
⑦	I 社会的関心型	I 要求型 (I 態度)
⑧	I 社会的意義づけ型	I 意義づけ型
⑨	I 社会的約束型	I 要求型

「対応している」と言っても、実際には、要素となる動詞に若干のずれがあったり、用例が極めて少なかったりと、対応の仕方は単純ではない。

①の〈社会的対象思考型〉に対応する個別具体的な事態である〈I 知的認識型 (I 認識)〉は、きわめて頻度が低く、実際の確かな用例として得られたのは「考慮される、理解される、意識される、確認される、証明される」などのごくわずかな例に限られる。特に、「信じられる¹³³⁾」といった動詞が個人の動作主による〈I 知的認識型〉に現れるとは考えにくい。また、「思われる、考えられる、案じられる」などいくつかの動詞は、個別具体的な使用では、可能ないし自発用法と解釈されることが多く、受身文としての〈I 知的認識型〉には現れにくい。

②の〈I 社会的判断型〉も、非情主語の個別具体的な受身文としての〈I 判断型 (I 態度)〉の頻度はきわめて低い。すなわち、**思考動詞による受身文は、個人の動作主の個別具体的な事態としての受身文タイプはほとんど成立していない**と言ってよい。

③の〈社会的対象言語活動型〉と〈I 言語活動型 (I 認識)〉は、要素となる動詞にあまり違いもなく、両タイプともにそれほど頻度も高くなく、よって1つのタイプとしてまとめる方がいいのかとも思われる。つまり、両者は単なるアスペクトの違いであって、受身文タイプとしては1つと考えるのが妥当かもしれない。しかし、本報告では、〈I 社会的思考型〉と平行して、この〈I 社会的言語活動型〉にも〈社会的対象言語活動型〉を立てた。

④の〈社会的判断言語活動型〉には、これに対応する、個人の動作主の個別具体的な受身文タイプが存在しない。すなわち、「N・ガ N・ト 言語活動 V・ラレル」という構造の個別具体的な受身文は1例も見つからなかった¹³⁴⁾。

⑤の〈I 社会的呼称型〉も、同じく、対応する、個人の動作主の個別具体的な受身文タイプが存在しない。

¹³³⁾ 「神の存在が(和夫によって)信じられた」のような受身文。

¹³⁴⁾ 非情主語の例としては、「その病氣は、(山田医師によって)不治と言われた」ないし、「その病氣は、(山田医師によって)治療が難しいと言われた」のような受身文である。有情主語であれば、後者の例は多数存在するが、前者の例(「私は太郎に次期生徒会候補と言われた」)の例は手元のデータには見つからなかった。

⑥の〈I 社会的評価型〉に対応する非情主語の個別一回的な事態は、有情有情受身文の〈AA 感情=評価型 (AA 態度)〉に含まれている。しかし、それらはすべて有情者の広義所有物である非情物が主語に立つ例である。一方、〈I 社会的評価型〉になると、通常非情物が主語に立つ。評価的な態度を表わす動詞には、この他に、評価的態度を言語活動によって表わす表現的態度動詞 (叱られる、ほめられる、etc.) と評価的態度を動作によって表わす評価的処遇動詞 (かわいがられる、笑われる) があるが、〈I 社会的評価型〉には、心理面での評価を表わす感情=評価的態度動詞のみを要素と考えた。これは、感情=評価的態度動詞の場合には、不特定一般の人々が動作主となると、通常非情物が主語に立つことがあるのに対し、他の動詞では有情者の広義所有物が主語に立つ例しか見つからなかったためである¹³⁵。

⑦の〈I 社会的関心型〉に、構造的に対応する個別具体的な受身文タイプは、〈I 要求型 (I 態度)〉である。〈I 社会的関心型〉は、思考動詞の一部と要求的態度動詞の一部から構成される。思考動詞の場合は、個別具体的な事態としては、自発用法と解釈されるのが普通である。一方、要求的態度動詞の場合は、統計の対象にしたデータには個別具体的な事態の例が見つからなかったが、〈I 要求型〉として〈I 態度型〉に位置づけた。統計の対象でないデータからは次の例が見つかった。

(518)その席で、小川所長は、第二号艦の完成期日の大幅な繰上げが、海軍艦政本部から二回にわたって要求されていることを発表した。(戦艦武蔵.地)

⑧の〈I 社会的意義づけ型〉については、構成要素の動詞グループの語彙的な意味にあまり統一性がなく、課題の残るタイプである。「意義づけ」の構造をとる動詞の中でも、「使われる」などの使用動詞は、心理面より動作面が前面に出ており、個別具体的な事態も見つかる。これを〈I 意義づけ型 (I 態度)〉とした。

⑨の〈I 社会的約束型〉も、〈I 社会的関心型〉同様、要求的態度動詞で構成されるため、これに対応する個別事態の受身文は〈I 要求型 (I 態度)〉である。統計を取ったデータに個別具体の用例は見つからなかったが、統計の対象外のデータからは、次の例が見つかった。

(519)聯合艦隊が佐伯湾に入り、宮崎神宮参拝の上陸が許された時、宮崎の旅館の女中が、禿頭
の黒島先任参謀を長官と思いこんで応待しているので、[後略] (山本五十六.地)

以上、〈I 習慣的社会活動型〉と、それに対応する個別一回的な受身文タイプを確認したが、認識動詞の中では、知覚動詞のみ、〈I 習慣的社会活動型〉が立たなかった。〈I 習慣的社会活動型〉を構成するのは、すべて心理動詞であり、時間・場所においても、動詞の表わす行為においても、抽象度の高い事態である。一方で、知覚動詞が対象とするのは、基本的に具体名詞であることから、知覚行為は認識活動の中ではより動作的=物理的な活動であると考えられる。次の例は反復のアスペクトで社会的な習慣を表わしている。しかし、用例としての頻度も低いので、〈I 知的認識型 (I 認識)〉に、個別具体的な事態とともに位置づけた。

(520)実際、地上波テレビやBSアナログ放送、CSデジタル放送もケーブルテレビを通じて見
られている割合が多い。12月に始まるBSデジタル放送も半分近くはケーブルテレビで見
られるとの見方もある。(毎日)

(521)諸外国とくらべて日本の「特殊性」を描いた書物が、次々としてさかんに読まれ、「日本論」
「日本人論」「日本文化論」が大流行しているのも、むべなるかな——という気が、いちおう
はする。(ゆとり)

¹³⁵ 態度動詞は、対象が具体名詞であっても抽象名詞であっても、語彙的な意味に変化のない動詞である。また、有情者とも非情物とも自由に組み合わせる。しかし、受身文においては、通常非情物が対象となって主語に立つのは、感情=評価的態度動詞のみであった。しかも、動作主が不特定一般の人々である〈習慣的社会活動型〉においてのみである。

以下、〈I 習慣的社会活動型〉のサブタイプについて、その意味と構造的特徴及び、他のタイプとの相互関係を詳しく見ていく。

3.1 I 社会的思考型「肥満は現代病と考えられている」

〈I 社会的思考型〉とは、ある社会的な範囲における不特定多数の人々の習慣的な思考活動を表わすタイプである。〈I 社会的思考型〉は、大きく〈社会的対象思考型〉と〈社会的判断型〉の2つに分けられる。この2つのタイプの要素となる動詞は、次のような思考認詞及び思考活動の結果の理解を表わす動詞である。

(522) 思われる、考えられる、知られる、信じられる、考察される、検討される、分析される、考慮される、反省される、心配される、かえりみられる、連想される、認められる、認識される、意識される、忘れられる；理解される、捉えられる、受け取られる、解される、誤解される、把握される、察知される、推測される、予想される、見落とされる、怠られる、確かめられる、確認される、証明される、実証される、etc.

以下、それぞれ例文を挙げながら、構造と意味を見ていく。

社会的対象思考型

〈社会的対象思考型〉は、不特定多数の人々が主語に立つ対象をその「知的な認識の領域にとりいれていること」(奥田(1968-72):120)を表わす。〈社会的判断型〉と異なり、ここには対象に対する人々の判断活動は含まれない。また、〈社会的対象思考型〉では、抽象名詞のみが主語に立つという点でも〈社会的判断型〉と異なる。

(523) 社会的対象思考型

対 象	人々の思考認識活動
抽象 IN/節-ガ	思考 V-ラレル/ラレテイル

「縄文時代には、靈魂の存在が信じられていた」

「ある種の偏食は大した問題にならないことが知られている」

用例を見ていこう。まず、基本構造 a から例を挙げる。

(524) そもそも世界遺産の精神は、「保存も完璧な一流観光地」を褒めるものではなく、「放っておけば危機にたつかかもしれない」ところを保護するもの。その精神が結構理解されているのかもしれない。(毎日)

(525) ブランク尺度という、非局所場の頃とは比較にならないような小さい長さや時間が考えられるようになってきたのは、統一場の理論などで、ものすごいエネルギーが問題にされなければならなくなってきたからである。(時間の不思議)

(526) こうした例をあげればきりのないほどあるが、要するに、同じ資格、あるいは身分を有する者の間にあっても、つねに序列による差が意識され、また実際にそれが存在するということは、[後略](タテ社会)

(527) フェルメールの絵も生前、高く評価されていたが、寡作のうえ小品ばかり。オランダの黄金時代が去るのと歩調を合わせるように、没後、その存在はオランダ国外では忘れられた。(毎日)

次に、節が主語になる例を挙げる。主に「節・コトガ」という形で思考内容が現れる¹³⁶。「確かめられる、確認される、実証される」などの証明的認識活動を表わす動詞は、主にこの構文の要素となる。

- (528)そこで、2種類以上の電解質の溶液を混ぜたとき、そういう強い結びつきをするイオンがあったとすると、すぐに結びついて溶けなくなることが考えられるだろう。(化学)
- (529)そのため、このような形態の偏食はたいした問題にならないことが、栄養学的にも認められている。(たべもの)
- (530)これらの手法が子供の抑圧の解放に役だつことはみとめられねばならないし、ぼく自身もときどき試みるが、それがすべてなわけではない。(裸の王様・地)
- (531)文明は人間の未来を明るく彩どるものであり、車は便利なものであり、医師は病いの療治師であり、性は隠すべきものであり、[中略]人間がいかなる悪さや悪企みをしようと地球は大盤石である、などの常識が一般にはまだ信じられていた。(ブンとフン)
- (532)もっと長い時間を単位にしてみると、地球は過去、10万～11万の周期で「氷期」と温暖な「間氷期」を繰り返していることが確かめられている。(毎日)
- (533)しかし、研究がこのように細部に向かって展開されていくために、脳機能を機械のしくみのように説明する傾向が強くなり、脳全体が人間が生きるために、はたらいっているという点が見落とされつつあります。(記憶)

この〈社会的対象思考型〉と次に見る〈I 社会的判断型〉との意味的な違いは曖昧になる場合が少なくない。例えば、(526)は「序列による差があると意識される」という〈I 社会的判断型〉の構造と同じようにも考えられるのである。また、特に(531)のように主語の節内が名詞文である場合は、〈I 社会的判断型〉に限りなく近づく。次の例の「主として」は、副詞的でもあるが、述語性を帯びていると見なせば〈I 社会的判断型〉に近づく。

- (534)また、加熱をしないと、古くなった腐りかけの肉は食べられないし、また、生命に対する安全性も確保できなかったのである。そこで加熱調理が主として考えられるようになった。(たべもの)

I 社会的判断型

〈I 社会的判断型〉では、ある社会的な範囲における不特定多数の人々が、主語に立つ対象に対して何らかの判断や捉え方をしているという、人々の判断内容が表わされる。対象に対して何らかの判断をくだすという思考活動は、対象に対する人々の思考活動的な態度である。〈I 社会的判断型〉には、思考動詞のほか、「見られる」に代表される知覚動詞も頻繁に用いられる。

(535) I 社会的判断型

- a :

対象	思考判断内容	人々の思考・判断活動
Np-ハ SUB	Nq-ト/ニ COM	思考認識 V-ラレル/ラレテイル
- 「多くの行動は生まれつきとされている」
- b :

(N〔主語〕 - V〔述語〕) 節-ト	思考認識 V-ラレル/ラレテイル
---------------------	------------------
- 「生物は進化していると考えられている」

このタイプは、いずれが基本構造であるか迷うところだが、通常の受身文同様、能動文におけるヲ格の名詞句が受身文で主語に立つという点で、(535)aを基本構造と考える。これに対し、bの構造は、主語のない文と考えられ、他言語によく見られる非人称受身文(impersonal

¹³⁶ もしくは、「節・形式名詞・ガ」という形で現れる。

passive)に類似している¹³⁷。基本構造 a も、「Np・ハ Nq・ダ(・ト)」という名詞文の判定詞が省略され、「Nq・ト」となっているとも考えられ、下位構造 b にかなり近いものである。その証拠に、Np と Nq の語順はかなり厳密に守られる。

まず、基本構造 a から例を挙げよう(波下線は思考判断内容)。

(536)遼のさらに北東には女真が勢力を張っていた。1019年に九州を襲い「刀伊の賊」と呼ばれたのは、この女真と考えられている。(毎日)

(537)しぜんではあるが、原の意がまったく忘れ去られ、その結果、穢れが罪穢れというような抽象的な意味にのみ理解されるようになっては、まことに困るのである。(日本人の死生観)

(538)カナダといえば「森と湖の国」と連想されがちだが、実はハイテク産業が急成長している。(毎日)

(539)[前略]経営者と従業員とは「縁あって結ばれた仲」であり、それは夫婦関係にも匹敵できる人と人との結びつきと解されている。(タテ社会)

(540)「ねえ、君。どうなんだろう。ネズミの勢力はいまが最高潮だといえないかね。一般にはどう受けとられているか、そこが知りたいな」(パニック)

「Np・ハ Nq・トシテノヨウニ 認識 V・ラレル」のような構造の受身文も、基本構造 a の構造のバリエーションと考えられる。

(541)ところで、脳の信号活動は電気現象としてとらえられますが、そこには物質変化、または化学現象があることはいまでもありません。(記憶)

(542)骨粗しょう症というと現代病のように思われがちだが、1000年前にも苦しんだ人がいたはずだ」と話す。(毎日)

次に、下位構造 b を見ていこう。基本構造 a では、主語と判断内容が名詞文に準ずる構造であることから、まさに「判断文」の構造を有している。これに対し、下位構造 b には、個別一回的な動作や変化といった、動詞文が現れる。だが、**判断内容が個別一回的な事態(動詞文)であるものは、思考認識動詞よりも、「見られる、観測される」などの、知覚動詞に多い。**さらに、この「動詞文・ト 見られる」は、**事実報告などの内容が多い新聞テキストに頻繁に現れ、他のテキストにはほとんどみられない。**

まず、思考動詞で構成された例を見ていく。判断内容には動詞文も現れるが、個別一回的な事態を叙述した典型的な動詞文ではなく、超時の一般的事実ないし習慣的な事柄を述べる文がほとんどである。

(543)黙っていても食事は与えられる。何不自由なく傍から見ると結構な身分だと思われる生活だが、ぎんは楽しめなかった。(花埋み.地)

(544)男性的と女性的な性格の差は、きわめて大きいと考えられていたのに、それも社会(環境)によってつくられたものであるということになると、性格差の多くを生まれつきとするようなとらえ方はきわめて疑問です。(記憶)

(545)さて、カマイタチという現象は、空気中にミニ低気圧ができていて、それに人間がぶつかるとき、体の外と内の圧力差によって、皮膚が破れるのだと考えられるようになった。(化学)

(546)そして近代化に伴って、特に新憲法によって「家」がなくなったと信じられている。(タテ社会)¹³⁸

(547)つまり、材料はどんどん新しいものを求める。そのため、ナマコ、タコ、イカなどおおよそ

¹³⁷ この種の主語のない受身文は、鈴木(1972)で「内容のうけみ」と呼ばれているもの一種である。

¹³⁸ 「信じられる」という動詞は、他の思考認識動詞と異なり、ラレル形で用いることができないようである。ただし、過去の習慣を表わすラレタ形を用いることは可能である。

勇気がいると思われるようなものまで利用している。(たべもの)
(548)人類はこの地球上にあらわれて何百万年も生存し続けていると推測されているが、その個体は災厄死をまぬかれても自然死があり有限である。(高齢化社会)

次に、知覚動詞による下位構造 b の例を見ていく。知覚動詞による〈I 社会的判断型〉は、すべて新聞テキストからの用例で、思考判断内容が個別一回的な、具体的な事態の叙述で、まさに「動詞文-ト 見られる。」という構造をとっている。この「動詞文-ト 見られる。」は、モダリティ形式などは伴わずに、文末言い切りで用いられることが多い。また、「見られる」の意味もかなり漂白化している。この「動詞文-ト 見られる。」については、通常の〈I 社会的判断型〉よりもさらに抽象化の進んだタイプとして立てる必要があるかもしれない。

- (549)雅子さまは今後しばらくは公務を離れ、静養するとみられる。(毎日)
(550)パキスタン国营通信によると、同国東部のラホール近郊で12月初め、たるに入った子供のバラバラ死体が見つかった事件で、ジャベド・イクバル容疑者が30日、警察に自首した。
逃走資金に困って自首したとみられる。(毎日)
(551)95年、2回にわたって心臓発作を起こし、もはや政治生命は断たれたと観測されたが96年の大統領選で劣勢を跳ね返して当選。(毎日)
(552)インド政府は交渉団を派遣し、犯人側が要求するイスラム武装組織メンバーの釈放要求をめぐり交渉を続けた。だが交渉団に対テロ特殊部隊を忍ばせ、同時に強襲作戦を練っているともみられていた。(毎日)

数は少ないが、新聞テキストに現れた「節/句-ト 見られる。」には、名詞句が-トで導かれた基本構造 a の例もある。しかし、これも動作性名詞であったり、名詞句が動詞文の連体修飾節を伴っていたりと、やはり-ト節が動詞文的である。

- (553)2000年生まれ「ミレニアムベビー」を望むカップルが「産み控え」る半面、インフルエンザと肺炎による死亡者が増えたのが原因とみられる。(毎日)
(554)最近、日本から経済関係の代表団や有力政治家らが相次いでミャンマーを訪問、軍事政権側と接触しており、スーチーさんのメッセージは、こうした日本の姿勢に対する不満の裏返しとみられる。(毎日)

この「動詞文-ト 見られる。」は、「見られる」の語彙的な意味がかなり漂白化しており、「節-スルヨウダ」のような「推定」のモダリティ形式にも近づいている(工藤 1989a¹³⁹, 早津 2000)。

I 社会的思考型の周辺と他のタイプ

次の「公認される」は、「公によしと認められる」という意味で、〈I 社会的判断型〉であるが、動作性名詞が主語に立ち、社会的な許可や禁止を表わす文なので、〈I 社会的約束型〉の〈社会的規制型 (I 社会)〉に近づいている。

- (555)党活動は公認されているんだ。合法政党だからね。(青春の蹉跌)

「N-ト 比較される、区別される」といった動詞も、〈I 社会的思考型〉の周辺に位置づけた。様々なタイプの名詞句が主語(対象)になるので、知的な態度の活動であると考えられる。

- (556)ところが、「日本論」「日本人論」「日本文化論」の大流行にもかかわらず、そこで日本

¹³⁹ 工藤 1989a では、「推定」の2次的なモダリティ形式に「～と見える」が挙げられている。

と比較される外国は、ほとんどが欧米である。(ゆとり)
(557)が、聖子は慌てて、よく姉がやるように首すじをしゃっきりとやや後方にそらした。そうやっていれば、たとえば桃子が腹違いになって両足を宙にあげて絵本を見るような下町つ子にちかい自堕落さとは明らかに区別されるのだ。(榆家.地)

「認識内容・トシテ/デ 知られる」という受身文も、〈I 社会的判断型〉と考えられる。しかし、この構造は文末にはほとんど現れず、ほとんど連体修飾で用いられることから、「**特性規定的**」な特徴も持っている¹⁴⁰。

(558)記録に残る女性の最初の登頂は、1832年の高山辰(たつ)とされる。山開き期間外だったことや、キリシタン大名として知られる高山右近の子孫だったことなどから許されたい。(毎日)

(559)東京大進学者の多さで知られる筑波大付属駒場中・高校(東京)。授業中にほおづえをつく姿が後を絶たない。(毎日)

(560)現在、白と藍色(あいいろ)の美しい「デルフト陶器」の生産で知られるこの町は、17世紀当時、城壁に囲まれたオランダ有数の商業都市だった。(毎日)

(561)芳古堂は表具と経師とで、格も高く、手堅いので知られていた。(さぶ.地)

また、「知られる」という認識動詞は、次の例では思考判断内容を伴っているが、「よく」などの程度副詞と共に起すると「有名な」というナ形容詞に近づく。次の例はまだ〈I 社会的思考型〉であるが、「よく知られる」となれば、これは〈**I 社会的評価型 (I 社会)**〉もしくは〈**I 特徴規定型 (I 超時)**〉である。

(562)アラビア語でマグリブ、すなわち「太陽の沈む所」として知られる、エジプト以西の北アフリカは、十九世紀を通じて欧州の支配下にはいった地域である。(二十世紀)

さらに、「人に知られない」という受身文では、動作主である「人に」を省略することができない。連体修飾では、まさに「非常識的な」ないし「辺鄙な」、「秘密の」などの形容詞に近づいていて、〈**I 特徴規定型 (I 超時)**〉に移行している。

(563)けれども、そのほかにも、世間に知られないへんてこりんてみようちきりんな小事件がゴマンと起こっていた。(ブンとブン.地)

(564)われわれはうやうやしく敬礼しました。いま、ここに骨になっている人々も、いずれはめいめい家族もあり、仕事もあり、それぞれの希望をもっていたのでしょう。それが、世界の中でも人に知られないビルマの山の中で、無理な労役やばげしい疫病のためにたおれたのです。(ビルマの堅琴.地)

(565)これを記念して、毎日新聞社は、東京、京都の両国立博物館と共催で「オランダ王室一知られざるロイヤル・コレクション」展を開催する。(毎日)

さて、〈I 社会的思考型〉の要素となる思考動詞は、次の(566)のように、述語が文末にあるながらラレル形になると、当該の文章を書いている書き手(話し手)＝動作主に視点が行きがちになり、**可能・自発**の解釈が優勢になる。文末における思考認識動詞のラレル形は、受身と可能・自発の間で常に移行するタイプである。

(566)それによると、米はほぼ七〇であるのに対して、小麦では四八という低い数字になる。このような質では、いくら量的にタンパク質をとったとしても、生命を維持することができな

¹⁴⁰ また、他の思考動詞では、対応する能動文で「人々は～と考えている／思っている／信じている」などと述べてもそれほど不自然ではないが、「知られる」の場合は、対応する能動文で述べると不自然な表現になるようである。

い。そこで本能的に肉類がほしくなり、その結果として、肉食が生まれたと考えられる。(たべもの)

(567)反射機能もその過程にホルモンが介在する場合も少なくありません。したがって、記憶とホルモンの関係も無視できませんが、それも一種の伝達機能と考えられます。(記憶)

(568)日本における社会集団構成の原理は、このように、「家」に集約的にみられ、日本の全人口(少なくとも江戸中期以降いかなる農村においても)に、共通して「家」がみられることは、日本の社会構造の特色として、枠設定による集団構成というものがとらえられるのである。(タテ社会)

3.2 I 社会的言語活動型「視力は遺伝するとされる」

〈I 社会的言語活動型〉は、ある社会的な範囲における不特定多数の人々の、主語に立つ対象をめぐる、習慣的な言語活動を表わす。個別一回的な事態である〈I 言語活動型 (I 認識)〉が、反復のアスペクトで述べられたタイプである。〈I 社会的言語活動型〉は、その構造的特徴が上で見た〈I 社会的思考型〉の構造に非常によく似ている。〈I 社会的言語活動型〉もまた、〈社会的対象言語活動型〉と〈社会的判断言語活動型〉に下位分類される。

社会的対象言語活動型

〈社会的対象言語活動型〉は、主語に立つ対象をめぐって、ある社会的な範囲における不特定多数の人々が言語活動を習慣的に行うことを表わす。原則的に、抽象名詞が主語に立つ。

(569) 社会的対象言語活動型

対 象 IN／節・コト・ガ	人々 の 言語活動	V・ラレル/ラレテイル
---------------------	-----------------	-------------

「近年、経済格差が盛んに議論されている」

「放任主義は問題であることが言われている」

〈社会的対象言語活動型〉には、〈I 言語活動型 (I 認識)〉同様、次のようにさまざまな発話動詞が要素となる。抽象名詞が主語に立つ構造には、〈社会的判断言語活動型〉に頻繁に用いられる「言われる」や「-とされる」という動詞よりも、論調の強さや頻度の高さを含んだ議論動詞が要素となることが多い。

(570)言われる、話される、述べられる、知らされる、伝えられる、訴えられる、叫ばれる、論じられる、語られる、報告される、通達される、伝達される、通告される、説明される、論議される、議論される、指摘される、強調される、喋喋される、引用される、語り継がれる、etc.

まず、抽象名詞が主語に立つの例を挙げる。

(571)考えてみれば、そうした「特殊性」論は、日本人には“大和魂”があるから絶対に不敗だ——という議論と、瓜二つではないだろうか。“大和魂”がしきりにいわれたあの不幸な時代、私は小学生だった。(ゆとり)

(572)規制緩和や自由競争が声高に叫ばれ、能力主義が尊重され出した昨今の時代風潮に対し、「日光」が「共存」のメッセージを伝えている、と見ている。(毎日)

(573)それに加えて、「福祉国家」の評判がとみに悪くなり、「福祉」の“切り捨て”が臆面もなく議論されるようになった。(ゆとり)

(574)このような枠単位の社会的集団認識のあり方は、いつの時代においても、道徳的スローガ

- ンによって強調され、そのスローガンは、伝統的道徳的正当性と、社会集団構成における構造的妥当性によってささえられ、実行の可能性を強く内包しているのである。(タテ社会)
- (575)あの頃はまだいわゆる過激派の学生たちが健在、というより、ようやく誕生しかけていたぐらいの時であり、テレビはコント 55 号の天下だった。公害論争もそう派手には喋々されてはいず、佐藤首相の周辺には、引退のの字の気配もなく、彼は団栗まなこを炯炯と光らせて、天下を睥睨していた。(ブンとフン)
- (576)記憶についての話にしても、それが心理学者のものであっても、脳との関係が多く引用されています。(記憶)

次の例は、対応する能動文のヲ格名詞句ではなく、ニツイテで標示された対象が主語に立った例である。

- (577)「家」については、従来法学者や社会学者によって「家制度」の名のもとにずいぶん論ぜられてきた。(タテ社会)

発話相手を表わす二格名詞句が共起した例は見あたらなかったが、「報告される、通達される」などでは現れうるだろう。

- (578)近年、さまざまな症例が学会に報告されている。

しかしながら、このように二格の発話相手を取る発話動詞よりも、いわば論争・議論動詞とでもいうべき動詞グループが〈社会的対象言語活動型〉の抽象名詞が主語に立つ構造には多く見られることは、指摘しておかなければならない。

ただし、伝授・継承を表わす動詞による〈社会的対象言語活動型〉は用例があり、これらの動詞では、伝授する相手が二格もしくはへ格の名詞句で現れることがある。こうした伝授・継承動詞は、単なる言語活動ではなく、所有変化の譲渡のような意味も持っているが、本報告では〈社会的対象言語活動型〉に位置づけた。

- (579)近年、中野氏は、「ユーカラ」と同じく北方圏の国フィンランドに伝承された叙事詩「カレワラ」の美しい日本語訳に出会い、壮大な天地創造の英雄譚に書魂の感応を覚えて没入、スケールの大きな受賞作品を制作した。(毎日)
- (580)その代りに、一つでも事件が起ればこれは消えることなく口から口へ親から子へと語り継がれていく。於継が平山にきたのは宝暦の半ば頃であったから、それからまだ十年そこそこしか歳月は流れていず、話は登場人物が実在しているだけに一層ことあるごとに私たちの口によって繰返され、今では名手荘内で知らない者はいない程になっている。(華岡青洲.地)
- (581)包丁の使い方に関しては、室町時代に発した料理の家元「四条家」の『四条流庖丁書』、「大草家」の『大草家料理書』にはじまる。これが伝統として伝えられ発達した。(たべもの)
- (582)港町だから魚介類が豊富で、ワインも南欧の技術が直伝された良質品がそろっている。(毎日)

次に、節が主語に立った例を挙げる。この構造は、〈社会的判断言語活動型〉に位置づけるべきタイプかもしれないが、用例が少ないため、判断できなかった。よって、本報告では、〈I 社会的思考型 (I 社会)〉の分類と平行して、この〈社会的対象言語活動型〉に位置づけることにした。

- (583)たとえば、「植物性の食品を主に食べている国民の性質は、静かでおだやかであるが、肉食の国民は気が荒い」などといったことがいわれる。(たべもの)
- (584)発展途上国で高級官僚や学者の家に招かれると、「なぜ日本はこういう国を援助しなければならぬのか」と思う——という話は、いまでは言い古された感じがする。(ゆとり)

(585) いかに年金問題を解決すべきかが議論されている。

また、次の(586)は、補語の連体修飾に言語活動の内容が現れている。これも「言語活動内容-ことが 語り継がれている」という〈社会的対象言語活動型〉のの周辺例と考えたい。同様に、(587)では発話動詞が用いられていないが、「言語活動内容-ということばかりが 議論されていた」という文に相当すると考え、これも〈社会的対象言語活動型〉の節が主語になる構造の周辺例と考えた。

(586)さらに自らが出場するために「悲劇・音楽」「騎馬10頭立て戦車競走」の2種目を加え、自分自身が優勝できるように競技者や審判に命令したというこの大会はネロの死後、ギリシヤ人によって抹消された。現実主義のローマ人がギリシヤの精神主義を理解しようとはしなかった極端な例として、語り継がれている。(毎日)

(587)数年前までは「だめ派」の天下で、日本は「特殊」だからだめだという議論一色に塗りつぶされていた。(ゆとり)

社会的判断言語活動型

〈社会的判断言語活動型〉は、ある社会的な範囲における不特定多数の人々の判断を伴う言語活動の内容を表わす。〈I言語活動型 (I認識)〉の説明でも述べたが、この〈社会的判断言語活動型〉に対応する個別具体的な事態を表わす非情主語の受身文タイプは、手元のデータには見つからなかった。すなわち、「N-ト 言語活動 V-ラレル」という非情主語の受身文は、は、通常、不特定多数の人々が動作主で、反復のアスペクトで述べられるということである。

(588) 社会的判断言語活動型

a:

対象	発言内容	人々	の	言語活動
Np-ハ SUB	Nq-ト/ニ COM	言語活動	V-ラレル	ラレテイル

「マラソンは、持久力勝負の種目と言われている／される」

b:

[N[主語]-V[述語)] 節-ト	言語活動	V-ラレル/ラレテイル
-------------------	------	-------------

「近年、日本では格差が拡大したと言われている」

このタイプも、〈I社会的思考型〉同様、下位構造 b は主語のない非人称受身文である。〈I社会的言語活動型〉では、次のような動詞が要素になる。

(589)言われる、される、伝えられる、指摘される、強調される、説明される、書かれる¹⁴¹、etc.

動作主の「判断」を含む〈社会的判断言語活動型〉は、「言語活動」と言っても、「話す、語る、述べる、告げる」などのように、特に言語活動の様態が語彙の意味に含まれる動詞が要素になることはなく、用例のほとんどが「言われる」、「される」である。このことから、動詞は「言う」という発話動詞であっても、実際に人びとが当該の内容を声に出して「言っている」かどうかはあまり問題になっていないと言える。この点で、引用節の内容は思考・判断内容とも考えられ、〈I社会的思考型 (I社会)〉の一種とも考えられる。特に、「引用節-ト される」のように、動詞の実質的な意味がまったくなくなると、両タイプのいずれとも解釈できる。

このタイプが〈I社会的思考型 (I社会)〉と異なるところは、〈I社会的言語活動型〉では、文末であっても、ラレル形に自発・可能との間で解釈の揺れが生じることがないということである。「引用節-ト される」も、こうした解釈の揺れは生じないので、〈I社会的言語活動型〉に分類した。

¹⁴¹ ただし、「書かれる」は他の動詞と異なり、動作主が不特定の個人である。また、基本的に存在文の構造を持つ点でも異なる（「黒板には、本日休業と書かれていた／書かれてあった」）。

〈社会的判断言語活動型〉は、特に「引用節・ト される」という受身文では、対応する能動文で述べるのが難しいことが多い。

まず、基本構造 a から例を挙げよう（波下線は言語活動内容）。

- (590) マラソンが持久力勝負の種目と言われていたころ、女子の記録はいずれ男子を追い抜くのではないかという見方もあった。（毎日）
- (591)「（メモに書いて見せ）家庭内暴力や性犯罪、子供の頃に虐待を受けた人たちが、その後遺症に苦しむ。その特徴的な症状があるんですが、戦争や災害などの極限状態で衝撃的な体験をした人たちも同じ症状に苦しむことが判ったんです。それが、心的外傷後ストレス障害と言われるようになったんです」（砂の上の恋人たち）
- (592) “ノーマスの女王”を生んだのは、体操では世界一の規模とされる同国のナショナルトレーニングセンターでの猛練習。（毎日）
- (593) こうして、一九一九―一九二九年が相対的安定への時期とされるならば、一九二九―一九三九年は不安と危機の時期とされ、第二次世界大戦に直接つながっている。（二十世紀）

先の〈I 社会的思考型〉同様、「Np・ハ Nq・トシテ/ノ ヨウニ 言語活動 V・ラレル」のような構造の受身文も、基本構造 a のバリエーションと考えられる。

- (594) 近年は、脳の話がもてはやされる傾向がありますが、人間の行動や精神活動が脳という物質の現象として説明される科学性に新鮮さが感じられるからでしょう。（記憶）

次は、有情主語の例である。

- (595) アーチン氏は、昨年 8 月に首相に就任するまで無名だった。その後、チェチェンの武装勢力に対する強硬姿勢が国民に支持され、最近では「次の大統領に最も近い人物」といわれるまでになった。（毎日）
- (596) 清兵衛「当藩きつての一刀流の遣い手と言われるお方のお言葉とは思えましね。私の役目はあんたを斬ることでがんす。見逃すわけにはいきましね」（たそがれ清兵衛）
- (597) 天城の南麓の小さい幾つかの部落では、梶家は昔から代々の医家で通っており、他の農家とは格式が違うものとされていた。（あすなろ.地）¹⁴²

次の例は、構造的には基本構造 a の形をとっているが、主語相当節の主題性が低いため、下位構造 b に近づいている。

- (598) 大切なのは、多様な働き方、暮らし方を男女ともに選べ、人として認められることだ。高度成長期以降、いい学校、いい会社に入ることがハッピーと言われてきた。（毎日）

次に、下位構造 b の例を挙げよう。この、〈社会的判断言語活動型〉の下位構造 b は、伝聞を表わすモダリディ形式「ソウダ」にも近づいている。

- (599) 味覚の発達は、ふつう学習効果が必要であるといわれる。（たべもの）
- (600) 現に、去年の秋から某省を中心として不正事件が進行していた。それには多数の出入り商人がからんでいるといわれている。（点と線.地）
- (601) 男性が女性化したり、女性が男性化したともいわれますが、要するに男女差が小さくなってきたのです。（記憶）
- (602) 従って、三百年の樹齢を数えると言われる椎の老樹を玄関口に持っている梶家の大きい家屋敷は、鮎太の生れる前から天城営林署に貸してあり、その代々の署長官舎のようになっていた。（あすなろ.地）

¹⁴² この例は、〈社会的意義づけ〉に分類すべきかもしれない。

(603)清少納言の「枕草子」は1000年ごろに成立したとされる。(毎日)

(604)中には「富士山を見たいという願望から名付けられた」と伝えられる土地もあるという。(毎日)

I 社会的言語活動型の周辺と他のタイプ

「言われる」という動詞による〈社会的判断言語活動型〉において、主語相当の名詞句が「言われる」の被修飾語になる外部構造をとると、〈I 社会的呼称型 (I 社会)〉に意味が接近していく。

(605)近代的とか先進的とかいわれる経営では、「愛社精神」を真正面から吹きこむというよりは、「愛社心が旺盛であるかどうかは事務管理のバロメーターである」というように、経営方針の結果として、それを望むのであるらしいが、[後略] (タテ社会)

(606)環境先進国といわれるドイツを上回っている。(毎日)

しかし、「言われる」の場合、上のような連体節構造をとらなくても、〈I 社会的呼称型〉になることがある。次の例は、ト格の名詞句が主語の名称そのものなので、〈I 社会的呼称型〉に分類した。

(607)沈澱した炭酸カルシウムは、結晶していないのでやわらかい。これは、沈降性炭酸カルシウムといわれる。(化学)

この「INp-ガ INq-ト 言われる」という受身文は、「INq」の名詞句の属性的な側面が問題になっているのであれば〈社会的判断言語活動型〉であるし、その名称が問題になっているのであれば〈I 社会的呼称型 (I 社会)〉の意味を表わすことになるのだろう。

思考動詞や知覚動詞に比べ、発話動詞が可能用法との間で意味が曖昧になることはあまりないが、次の例は、可能用法とも解釈できる。

(608)集団が資格の共通性によって構成されている場合には、その同質性によって、何らの方法を加えなくとも、集団が構成されるものであり、それ自体明確な排他性をもちうるものである。もちろん、さまざまな条件が加えられることによって、その機能の強弱は論ぜられようが、集団構成の基盤に、その構成員の同質性自体が大いにものをいうのであって、条件は二義的なものとなる。(タテ社会)

3.3 I 社会的呼称型「このビルはランドマークと呼ばれている」

〈I 社会的呼称型〉は、ある一定の社会的範囲において、不特定一般の人々が主語に立つ対象をある呼称で呼んでいることを表わす。

(609) I 社会的呼称型

対象	呼 称	人 々 の 呼 称 活 動
Np-ハ SUB	Nq-ト COM	呼称 V-ラレル/ラレテイル

「このビルは、ランドマークと呼ばれている」

呼称動詞：呼ばれる、言われる、称される、etc.

まず、有情主語の例から挙げる（波下線は呼称）。

(610)鮎太は誰からも、シンドウ、シンドウと呼ばれていた。梶とも、鮎太とも呼ばれなかった。「神童」という言葉がそのまま鮎太の綽名になったのである。(あすなろ.地)

- (611)ぐれて、学問も捨てて、俺はだめだよ、俺はなっちゃいないようって、お酒ばかり飲んでいました。それでも、弁天さまの祭りの日には、羽二重の羽織なんか着て、くるわでは『当り矢のせんせ』ってよばれてたんです。(忍ぶ川)
- (612)「なあに、あの娘はいままでずっとトンカツ屋で働いていたものでね、ねえちゃんと呼ばれないと落着かないと、本人がそう言うのだ。[後略]」(樹々は緑か)
- (613)それというのも妹背家は近郷の地士頭と大庄屋を代々勤めている名門であり、藩主が伊勢路へ往復するときの宿と定められていたので、通称を名手本陣と呼ばれるほどの家柄だったから、士分の娘が百姓娘のように畝道を駆けまわるとな真似は許されていなかったからである。(華岡青洲.地)

次に非情主語の例を挙げる。非情物が対象である〈I 社会的呼称型〉の特徴は、「INq-ト 呼ばれる INp」のように、受身文の主語相当の名詞句が被修飾語になった連体節の外部構造で用いられることが非常に多いということである。このように、連体節で用いられた「A-ト呼ばれる B」は、「A という B」という表現に言い換えることができる場合がある。その場合、ヴォイスの対立は中和していると言える(高橋 1975)。

- (614)つまり、きわめて単純な形のインパルスとよばれる信号が網の中を走りまわっているのです。(記憶)
- (615)すでにその例をいくつかみたとおり、ふつう「日本特殊性」と呼ばれるものは、一歩突っ込んで検討してみると、実態はむしろ、「日本的」でも何でもないケースが、意外に多い。(ゆとり)
- (616)かつては金と羊毛の産出でうるおい、「ラッキー・カントリー」と呼ばれた豪州も、アジア経済圏の貿易で成長するしかない時代を迎えている。(毎日)
- (617)400万年前に東アフリカに誕生した人類が、南アメリカの最南端まで達した約5万キロの足取りは「グレートジャーニー」と称される。(毎日)
- (618)「それはたぶん、人間にはけっして理由がわからないから悪いことなのでしょう。理解しがたい禁止が掟というもので、その禁じられたものが悪と名づけられるのでしょうか?」(聖少女)

「呼称-という 名-デ」という形式で呼称が示されることもある。

- (619)なんといっても、生原稿から抜けだしたブンは、仲間から尊敬されていた。オリジナル・ブンという尊称でよばれているぐらいである。(ブンとフン.地)
- (620)「――悪かったら堪忍してくれ、おまえさんは油絞りで、こぶっていう仇名で呼ばれる人か」(さぶ)

先に〈社会的判断言語活動型〉の説明でも述べたように、「言われる」という動詞が名称を表わすト格名詞句と共に起した場合は、〈I 社会的呼称型〉を表わす。

- (621)「本当だよ。お父さんが戦争から帰ってきてちゃんと元の会社に勤めてたら、懐ちゃんだって、お嬢さんっていわれてたよ」(玉呑み人形)
- (622)一般に、酸といわれる物質と塩基(アルカリ)といわれる物質は、反対の性質を呈するが、混ぜると中和し、両方の性質をなくして、塩という化合物になる。(化学)

3.4 I 社会的評価型「素材が重視される」

〈I 社会的評価型〉は、主語に立つ対象がある一定の社会的範囲において一般の人々から

ある評価を受けていることを表す。〈I 社会的評価型〉の要素となる動詞は主に感情=評価的な態度を表す動詞であるが、感情=評価的な内容を伴った広義認識動詞も〈I 社会的評価型〉を構成する。

(623) I 社会的評価型

a:

対 象	人々	の	感情	=	評 価 的 態 度
N・ハ	SUB		感情=評価的な態度	V・ラレル/ラレテイル	

「ピカソの作品は広く愛されている」

b:

N・ハ	感情=評価 N/Adj・ト/ニ	感情=評価的な態度／認識	V・ラレル・ラレテイル
-----	-----------------	--------------	-------------

「ピカソの作品は、天才的と見られている」

〈I 社会的評価型〉には、次のような感情=評価的な態度動詞が要素となる。これらは、主に心理的側面における感情=評価的な態度である。評価的な態度を表わす動詞には、この他に、評価的な態度を言語活動によって表わす表現的な態度動詞（叱られる、ほめられる、etc.）と評価的な態度を動作によって表わす評価的な処遇動詞（かわいがられる、笑われる）があるが、〈I 社会的評価型〉には、心理面での評価を表わす感情=評価的な態度動詞のみを要素と考えた。これは、感情=評価的な態度動詞の場合には、不特定一般の人々が動作主となると、通常非情物が主語に立つことがあるのに対し、他の動詞では有情者の広義所有物が主語に立つ例しか見つからなかったためである。

(624) 愛される、憎まれる、嫌われる、好かれる、気に入られる、親しまれる、もてはやされる、見捨てられる、望まれる、疎まれる、恨まれる、信頼される、尊ばれる、尊敬される、尊重される、たたえられる、軽蔑される、評価される、注目される、重んじられる、重視される；疑われる、怪しまれる、 etc.

〈I 社会的評価型〉の主語には、有情者も非情物も、さらには具体名詞も抽象名詞も自由に立つことができる。また、このタイプは非情主語であっても、不特定一般の人々を表わす動作主がニ格標示で現れやすいという特徴を持つ。

基本構造 a の例から見ていこう。主語の具体性の高い順に挙げる。

(625) フェルメールの絵も生前、高く評価されていたが、寡作のうえ小品ばかり。(毎日)

(626) 以上のようなことから、とうぜんであるが日本では素材がひじょうに重視される。(たべもの)

(627) マラソンでは心肺能力や持久力が重要視されがちだが、同じ動作を延々と繰り返すのだから、百メートル以上に効率的なフォームを身につけることが大切だという。(毎日)

(628) 近年は、脳の話がもてはやされる傾向がありますが、人間の行動や精神活動が脳という物質の現象として説明される科学性に新鮮さが感じられるからでしょう。(記憶)

(629) 規制緩和や自由競争が声高に叫ばれ、能力主義が尊重され出した昨今の時代風潮に対し、「日光」が「共存」のメッセージを伝えている、と見ている。(毎日)

(630) 高校総体にも出ず、ひたすら将来へ向けた練習を重ねるスタイルは異端視もされた。(毎日)

次のように、-トシテという形式で「意義」を表わす名詞句が現れることがある。これは、評価内容が「-ト」で導かれる下位構造 b に形が似ているが、「-トシテ」の場合は評価内容というより「意義」であり、思考や知覚を表わす動詞と組み合わせることもないので、基本構造 a のバリエーションと考える。

(631) [ダイヤモンド]は] 無色透明で、光の屈折率が大きいので、みがくとキラキラと輝き、宝石として尊重される。(化学)

(632)富士山と日本人の関係は長く、深い。万葉の時代からその姿が歌われ、江戸時代には信仰の対象としてあがめられた。(毎日)

(633)ガソリンエンジンに代わる次世代環境技術として本命視される「燃料電池自動車」の開発に要する費用は数千億円ともいわれ、[後略](毎日)

次に、評価内容を伴った下位構造 b の例を挙げる。・トで導かれる引用節には評価形容詞や評価名詞が現れる(波下線は評価内容)。

(634)シドニーの観光名所、シドニー湾やオペラハウスが舞台となる。マラソンより長い 51・5 キロを、遠泳(1・5 キロ)と自転車(40 キロ)、長距離走(10 キロ)の3競技に分け、タイムを競うサバイバルレース。勝者は「鉄人」とたたえられる。(毎日)

(635)登録は、地元に「明るいニュース」と受け止められている一方、「一過性のものにしないで、いかに文化財の保護意識につなげるかが大切」という声も上がっている。(毎日)

次の例では、評価内容が評価形容詞の連用形で現れているが、これも下位構造 b のバリエーションである。

(636)そういう時代風潮の下では、およそ何事につけても、「小」よりは「大」のほうが好ましく思われたかもしれない。(ゆとり)

I 社会的評価型の周辺と他のタイプ

評価内容ではなく、評価的な様態がデ格で現れた「感情=評価の様態-デ 知覚 V-ラレル」という構造の次のような例も、〈I 社会的評価型〉の周辺例と見なせるだろう。

(637)「学校に戻ったって、どうせ白い目で見られるだけじゃないか。それなら、いっそ、学校などはやめちまった方がいいんだ」(冬の旅)

同様に、次の例では、感情=評価の様態が動詞の中止形(連用形)で現れている。

(638)ここで重要なことは、この「家」集団内における人間関係というのが、他のあらゆる人間関係に優先して、認識されているということである。(タテ社会)

3.1 でも述べたように、「知られる」という動詞が「よく」などの程度副詞を伴ったり、「名・ガ 知られる」という構造をとると((640))、「有名だ」のような評価形容詞に近くなる。これは、〈I 社会的評価型〉の周辺に位置づけられる。

(639)これまで、データ放送といえは「見えるラジオ」として知られる FM 多重放送などがよく知られている。(毎日)

(640)パブロフはロシアの脳生理学者ですが、脳生理学者で一般の人々にこれほど名前の知られている人はいないと思います。なにしろ「パブロフのイヌ」などということばがよく使われるほどです。／しかし、これだけ名前が知られているのに、その業績が彼ほど知られていない人も、珍しいでしょう。(記憶)

認識動詞が判断内容を伴った〈I 社会的思考型 (I 社会)〉の〈I 社会的判断型〉において、判断内容に評価性を帯びた形容詞句ないし名詞句が用いられると、〈I 社会的評価型〉へ近づく。

(641)「ああ、そいつはコミュニストより百倍もわるい。変質者、殺人狂のたぐいと同列にみられる。[後略]」(聖少女)

(642)荻江を知っている人々は荻江を無愛想な男勝りな女だと言っていたが、実際に会って話してみると、外から見る印象とは随分違っていた。[中略]愛想のない女と見られたのは、あまり

にも出来すぎた女の一面だけを見た結果かもしれない。(花埋み.地)

次の例は、構造的には「意義」を表わすニ格が現れており、〈I 社会的意義づけ型 (I 社会)〉であるが、この「意義」が評価性を帯びているため、〈I 社会的評価型〉に近づいている。

(643)成績のいい品行方正な生徒は、とにかく悪童連から揶揄や嘲笑の対象にされ易かったが、鮎太ひとりとは別格で、そうした生徒たちも鮎太の頭脳の優秀さには、何となく敬意を払う以外仕方がないと言ったような恰好であった。(あすなる.地)

「選ばれる」という動詞も、「意義」を表わすニ格と共起することがあるが、次のような例では評価的側面が前面に出ていると言えるだろう。これらは、〈I 社会的評価型〉である。

(644)しかし、同じ業種の中では、環境保全に努力している企業が選ばれているようだ。(毎日)

(645)この洗剤がママ達に選ばれるのには理由があります。

次の例では、先に見た〈I 社会的言語活動型 (I 社会)〉の周辺例 ((586)(587)) と同じように、補語の連体修飾に評価内容が現れている。これも、〈I 社会的評価型〉と見なす。

(646)環境先進企業は資金調達で有利になる一方、環境への取り組みがおろそかというレッテルを張られることは、市場から退場勧告を受けるのに等しい重みを持つことになる。(毎日)

3.5 I 社会的関心型「本部の対応が注目される」「国政の真価が問われる」

〈I 社会的関心型〉とは、ある実体の動作や活動、現状やあり方、もしくはある活動や出来事の結果や効果といった広義属性に、社会的な関心が集まっていることを表わすタイプである。〈I 社会的関心型〉は、〈I 要求型 (I 態度)〉の願望・欲求を表わす受身文タイプが、動作主とテンス・アスペクトが一般的になることで抽象化したタイプである。動作主は、他の〈I 習慣的社会活動型〉同様、ある社会的範囲の不特定一般の人々であると考えられるが、動作主をほとんど想定できない場合もある。テンス・アスペクトは、反復で現在を含むこと(ラレル形ないしラレテイル形)が多い。ラレル vs.ラレテイルの対立は中和しているが、ラレル形の方が、動作主が話し手を含んだ一般の人々であることが強調されるだろう。

〈I 社会的関心型〉は、抽象名詞が主語に立ち、要求的態度動詞の一部か、思考活動の結果を表わす次のような動詞が要素となる。

(647)a. 要求的態度動詞：求められる、要求される、期待される、望まれる；問われる¹⁴³、問い直される、etc.

b. 思考活動の結果動詞：見直される、注目される、懸念される、心配される、危ぶまれる、疑問詞される、予想される、見込まれる、待たれる、想定される、etc.

「要求的態度動詞」とは、能動文であれば、相手ニ格にヲ格の動作性名詞が表わす動作の実現・非実現を要求するようなデオンティックな動詞である(ex.「部下に出入りを許可する」)。しかし、〈I 社会的関心型〉の受身文タイプには、「命ずる、許可する」のような、相手に動作を促す要求者の許可や禁止、命令を表わす動詞は現れない。「要求的態度動詞」の中でも、要求者の願望や欲求を表わす動詞が要素となる。

一方、「思考活動の結果動詞」とは、思考活動の結果としてのある対象への心的態度を表わすもので、感情=評価的なニュアンスを含む動詞もある。「思考活動の結果動詞」は、能動文

¹⁴³ 「問われる、問い直される」は、発話動詞とすべきかもしれない。

で、相手のニ格を取ることはないが、ヲ格動作性名詞（結果名詞／状態名詞）の規定語として、当該の動作や現状の所有者が現れることが多い（ex.「部下の出入りを見直す」）。

これらの動詞は、奥田の連語論ではまったく別の連語タイプであるが¹⁴⁴、いずれも対象への期待や注目といった「関心」を表わす点で共通している。

〈I 社会的関心型〉の構造は、次のようになる。

(648) I 社会的関心型

対 象 IN／節・ガ SUB 要求／思考活動の結果 V・ラレル/ラレテイル

「本部の対応が注目される」

〈I 社会的関心型〉には、次の3つのサブタイプがある。3つのサブタイプは、主語に立つ名詞句のカテゴリカルな意味の違いによって区別される。

- 1) 活動への社会的関心型
- 2) 結果への社会的関心型
- 3) あり方への社会的関心型

(649) I 社会的関心型のサブタイプ

a: 活動への社会的関心型

動作性 IN・ガ 要求／思考活動の結果 V・ラレル/ラレテイル

「本部の対応が注目される」

a': (主語－意志 V) 節・ガ 要求／思考活動の結果 V・ラレル/ラレテイル

「本部がどのように対応するかも問われる」

b: 結果への社会的関心型

出現場所 (N・二) 無意志的動作性 IN・ガ 要求／思考活動の結果 V・ラレル/ラレテイル

「エネルギー供給に大変革が予想される」

b': (主語－無意志 V) 節・ガ 要求／思考活動の結果 V・ラレル/ラレテイル

「実のある会議になるのか疑問視されている」

c: あり方への社会的関心型

状態・特性 IN・ガ 要求／思考活動の結果 V・ラレル/ラレテイル

「国政の真価が問われている」

c': (主語－状態述語) 節・ガ 要求／思考活動の結果 V・ラレル/ラレテイル

「その活動に本当に意味があるのかが問われている」

〈I 社会的関心型〉の要素となった要求的態度動詞は、要求相手=主語の抽象名詞の所有者をニ格補語としてとるよりも、主語に立つ名詞の規定語としてとることが多い。すなわち、「政府の早急な対応が求められる」のように、主語に立つ抽象名詞のノ格規定語として現れることが多く、「?政府に早急な対応が求められる」という受身文はきわめて少ない。統計を取ったデータ以外のデータに、数例が見つかるのみである（波下線は要求相手）。

(650) と言っていたそうだが、それで自然、早期講和の方法探求がブレーンの学者グループに期待されることになったのである。（山本五十六.地）

(651) そこで、働く人間に問われねばならぬのが「職業意識」なのではあるまいか。（働くということ）

¹⁴⁴ 要求的態度動詞は、〈モーダルな態度のむすびつき〉の〈要求的なむすびつき〉、思考活動の結果動詞は〈認識のむすびつき〉の〈知的なむすびつき〉の構成要素である。

なお、〈I 社会的関心型〉は、新聞テキストに特徴的な受身文タイプで、他のジャンルでの頻度はそれほど高くないものの、新聞テキストでは〈I 実行型 (I 変化)〉について、非常に高い頻度を見せている。この〈I 社会的関心型〉は、誰が当該の動作や状態を要求ないし望んでいるかといった行為の具体性が希薄であるため、非常に間接的な「願望・当為」のモダリティ表現に意味的に近づいているように思われる。

以下、それぞれのサブタイプについて、用例を確認していく。

活動への社会的関心型

まず、〈活動への社会的関心型〉から見ていこう。〈活動への社会的関心型〉には、何らかの実体の活動や動作を表す動作性名詞が主語に立つ。そして、**主語の表わす動作の動作主が、「実体 A の活動 B (実体 A は活動の動作主)」という形で現れることも多い**。こうした実体の活動に、人々の関心が集まっていることを表わす(波下線は要求相手=抽象名詞の所有者)。

(652)しかし、公認が得られない場合は出馬しない意向も示し、党本部の対応が注目される。(毎日)

(653)ちょうど米国では 1 1 月の大統領選に向けてゴア副大統領が白熱したキャンペーンを展開し、上院選ではニューヨーク州から出馬するヒラリー夫人の選挙戦も注目されている。(毎日)

(654)本人の適性にあった就職先を見つけられるよう、ハローワークなどでのきめ細かい職業紹介もいっそう求められる。(毎日 6 月 28 日)¹⁴⁵

(655)積極的なレース運びが求められる。(毎日 3 月 5 日)

(656)日本の会社はイエ共同体的色彩を濃厚にもっており、そこで生きるには共同体成員への全体的気くばりが求められることをこれまでに見てきたが、[後略](稟議と根回し)

(657)秀吉を祭った豊国社の臨時祭に、京都の町衆の大量参加が予想された。(近世の日本)

〈活動への社会的関心型 a'〉として示したように、主語が節の形で現れることもある。このとき、節内の述語となる動詞は、意志性の、主に他動詞である。

(658)8 6 年の男女雇用機会均等法の施行で注目されたのは、女性が総合職として大企業でも男性と肩を並べてキャリアを追えるかどうかだった。(毎日)

(659)その一部となっている五カ条の御誓文でも、「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決ス可シ」とあるように、天皇みずから統治権者として行動することは予想されていない。(憲法を読む)

(660)服装についても、昔より自由になったとはいえ、やはりスーツを着込んでネクタイをしめることが暗黙のうちに求められている。(働くということ)

(661)1 9 世紀のスイスでは、国民が定住し戸籍を持つことが求められた。(毎日 1 月 25 日)

(662)また、廃家電の回収ルートをいかに合理的につくり運用するかも問われる。(毎日)

結果への社会的関心型

次に〈結果への社会的関心型〉であるが、このタイプには、何らかの実体の活動や出来事の結果や効果を表わす無意志的動作性名詞が主語に立つ。無意志的動作性名詞とは、「スル」を後接すると無意志動詞になる動作性名詞である。そうした出来事の結果・効果に、人々の関心が集まっていることを表わす。動詞は、期待や予想を表わす動詞が多く用いられる。

(663)2 時間 2 1 分 4 7 秒の日本最高を持つ高橋尚子(積水化学)は 3 月の名古屋国際に臨む。[中略] 東京で山口衛里(天満屋)が 2 時間 2 2 分 1 2 秒の好タイムで優勝しただけに、残る 2

¹⁴⁵ 「求められる、要求される」などの動詞では、単に動作性名詞のみが主語に立つのではなく、その動作性名詞の特徴を規定する語を伴うことが多い。この例では、「きめ細かい」、後続する例では「積極的な」、「全体的」がこれにあたる。「求められる、要求される」は〈あり方への社会的関心型〉を構成することが多く、こうした例も、動作性名詞が主語に立ちながら、同時にその動作のあり方も問題にしていると言える。

- レースでも「ハイレベルの結果」が求められる。(毎日)
- (664)しかし、それを真の人間の課題として克服するためには、「被害者であると同時に加害者でもある、企業内部で働く人々の「職業意識」の成熟と強化」こそが求められるのだ、といわねばならぬ。(働くということ)
- (665)「シドニーでの活躍」が期待される注目の選手たち。(毎日)
- (666)「財政再建および行政改革の行方」がすこぶる注目されるし、郵便貯金の急速な伸びも警戒を要する点である。(ゆとり)
- (667)しかしデータ放送の本命は衛星放送で、その帯域の広さ(データ伝送スピードの速さ)や、カバーできる地域の広さで「将来の急速な普及」が見込まれている。(毎日)
- (668)一方で、Y2K問題には数日間にとどまらない長期的な側面もあり、改めて「その影響」が懸念される。(毎日)
- (669)特に最大の貸手であるドイツの大手銀行は、1998年夏以降のロシア危機で「巨額の融資」焦げ付きが心配されたことで、株価が急落するなど大きな影響を受けた。(毎日)
- (670)柔道で「最も厳しい戦い」が予想されるのは男子60キロ級の代表争いだ。(毎日)¹⁴⁶
- (671)2000年を迎える前に「携帯電話による「おめでとうコール」の殺到」が予想されたため、NTTドコモが通話規制したためだが、事前に利用者に告知していなかったという。(毎日)

〈結果への社会的関心型〉でも、〈結果への社会的関心型 b〉として示したように、主語が節の形で現れることもある。このとき、節の述語となる動詞は、無意志性の主に自動詞である。

- (672)「今年11月に大統領選挙を控えているクリントン政権の戦略」もかなり政治的な色彩を帯び「ること」が予想され、サミットでは、新ラウンド開始に向けて米国のイニシアチブも含めた議論が、重要な議題の一つに浮上したと言える。(毎日)
- (673)ABM条約改定についても、改定交渉にゴーサインを出したエリツィン大統領の辞任を機に、「ロシア軍部の「改定反対論」が強まる」ことも予想される。(毎日)
- (674)これはいわば文明人間の宿命であり、「抑制力をもちその調和に懸命に努力する人間――私はこれを文化人間と呼んできた人間への転身をどうして成しとげ得るか」が問われているのが現状である。(高齢化社会)
- (675)そのテストには、海軍で使われている発煙筒が利用され、「海面に流れ出る濃い煙が、進水した艦を完全に包み込んでしまうこと」が期待されたのだ。(戦艦武蔵・地)
- (676)新大統領の就任式は8月上旬の予定で、「直後に退任するエリツィン大統領が参加して実のある会議になるのか」、疑問視される。(毎日)

〈結果への社会的関心型〉では、〈I 結果型〉が出現場所の二格名詞を補語とするように、結果の現れるところが二格で現れる場合がある(点下線は出現場所)。

- (677)もとより「国家機能の中心が行政に移ること」には「大きな弊害」も予想されるので、別の選択が有効であればそれに越したことはない。(憲法を読む)
- (678)さらに、「20世紀の文明を支えたエネルギー」にも「大変革」が予想される。現在確認されている埋蔵量を今の年間生産量で割ると、原油は約40年、天然ガスは約60年、ウランも約70年で底をつく計算になる。代替エネルギーをどこに見いだしていくのか。(毎日)
- (679)「ディーゼル機関」については「理論上の大発展」は期待されないとしても、小改良点はいくらで

¹⁴⁶ 「戦い」という名詞は動作性名詞であり、「2人の戦いが注目される」であれば、先の〈活動への社会的関心〉の(653)の例に近いだろう。しかし、「最も厳しい」という形容詞で、当該の活動がそのようになる、という結果が表わされているので、これは〈結果への社会的関心型〉である。また、動詞が期待や予想を表わす動詞であることも、「結果や効果に注目している」という意味と関わっているのだろう。

もあった。(孤高の人.地)

周辺の例ではあるが、出現場所がガ格相当となり、結果を表わす名詞がヲ格で現れて、「N・ガ N・ヲ 予想される」という例が見つかった。

(680)第二の仕事は、技術的研究であったが、最も困難を予想されるのは、進水だった。(戦艦武蔵.地)

(681)それまでどの民間企業も手をつけていなかった光ファイバーの量産開発は、当然のことながら多大のリスクを予想される事業だった。(稟議と根回し)

あり方への社会的関心型

〈あり方への社会的関心型〉の主語に立つ名詞は、何らかの実体の現状やあり方、その価値、能力といった状態や特性を表す名詞である。こうした実体のあり方に、人々の関心が集まっていることを表わす。

(682)わが国リーダーたちの先見性が問われる局面だ。(毎日)

(683)いま、記憶力が問われている一方、創造性についてもその開発が求められています。(記憶)
147

(684)これに対して日本の職場は、仕事のみで見た「使用価値」だけで結びついた組織ではなく、全人格的な「存在価値」が求められ問われる職場である。(稟議と根回し)

(685)いや、民衆と一般的にいうよりも、労働者階級が勝利できるかどうかの可能性が問われはじめていたのである。(近代の潮流)

(686)米国が行き詰まっていく中で日本の精神風土が見直され、それが広く普遍的な目標になるのではないか。(毎日)

(687)アトランタ五輪で活躍した大黒柱、ミレーヤ・ルイス(32)が姿を消して世代交代が難航したキューバ。昨夏の国際試合で日本にまで敗れ、「女王」の座が危ぶまれた。(毎日)

(688)こうした流れの延長線上に、高度情報社会では、合意形成の方法や代表することの意味自体が問い直される時代まで見通せる。(毎日)

(689)〔前略〕昨年のケルン・サミット(独)に続き、再発防止に向け、国際通貨基金(IMF)を中心とした体制強化の必要性が確認されるだろう。

(690)と同時に、他方では自国第一主義が強調され、アラビア語の追放をはじめ、近代建築もアケメネス朝時代のスタイルが要求された。(二十世紀)

(691)音楽監督、指揮、演出、それにオペラの主役など専門性が要求される部分は、日本を代表する人たちに頼ってきたが、〔後略〕(毎日)

〈あり方への社会的関心型〉でも、主語が節の形をとることがある。次の(692)は、〈活動への社会的関心型 a'〉とも考えられるが、「能力」の状態性述語と捉え、〈あり方への社会的関心型 c'〉と考えた。

(692)人間がどこまで気候変動のメカニズムを理解し、対応できるかが問われている。(毎日)

(693)自然との戦いに勝ち、月にまで着陸するという時代になって、はじめて世界的規模で、人間とは何か、どんな環境で生活すべきなのかが、人類破滅の危機を宿しながら、問われたしたのである。(二十世紀)

(694)古墳と関係があると思われる神社は、宗像神社の辺津宮とか伊勢の外宮などもあって、あんがい多いことが予想される。(日本の神々)

(695)第二には、進水台の取り付け時期が早いので、固った獣脂も進水の日までの長い期間、絶

147 「開発が求められている」は〈活動への社会的関心〉。

対にひびわれしたりしないことが要求されるのだ。(戦艦武蔵.地)

次の(696)も、〈活動への社会的関心型〉に近づいているが、「突き進むこと」よりもそうした「姿勢＝あり方」が主語に立っていると見なし、〈あり方への社会的関心型〉と考えた。

(696)これからは、自身で自分なりの方向を見つけ、突き進む姿勢が求められる。リスクも伴うが、後戻りすることはできない。(毎日)

次の例は、動詞が要求的態度動詞または思考動詞ではないが、実際の「試す」という行為は問題になっておらず、「問われている」に近いだろう。よって、〈あり方への社会的関心型〉の受身文と考えられる。

(697)代替エネルギーをどこに見いだしていくのか。地球規模の難題の数々。次の100年は、人類の英知が試されている。(毎日)

I 社会的関心型の周辺と他のタイプ

特に「注目される」という動詞では、具体名詞から抽象名詞までさまざまな名詞が主語に立つ。通常の思考活動の結果動詞であれば、抽象名詞のみが主語に立つはずである。これは、この「注目される」という動詞が評価性をもあわせもった、感情＝評価的態度動詞に近いことを意味しているのだろう。次の例では、ある結果を目指した動作の行われる場や、ある結果や効果をもたらすであろう実体が主語に立っている。これらは、周辺のではあるが、実体をもたらす何らかの結果やそのあり方といった属性に人々の関心があるという点で、〈I 社会的関心型〉の周辺に位置づけたい。

(698) [2選手が五輪に] ともに出場すれば金メダル候補だけに、代表最終選考会となる4月の全日本選抜体重別選手権(福岡)が注目される。(毎日)

(699)当主ウィレム1世(1533～84)は神聖ローマ皇帝カール5世の側近として期待されたが、カール5世の子フィリップ(フェリペ)2世の代にオランダ諸州の総督に就任、オランダ共和国独立を指導して建国の祖となった。(毎日)

(700)人口の多いアジア、アフリカなどに今後自動車を普及させることを考えれば、各メーカーが排ガスの出ない「究極の環境車」の開発を迫られるのは必然ともいえる。

そこで注目されるのがガソリンを使わない燃料電池自動車だ。(毎日)

一方で、「世界的に注目される」というような表現になると、かなり社会的な評価性のニュアンスを帯びる。こうした例も、やはり実体の持つ属性に関心がある点で上の(698)・(700)の例と連続的であるが、これらは〈I 社会的評価型(I 社会)〉と見なした。

(701) [インタビュー] ――これからの課題は何ですか。 ◆デリバティブ(金融派生商品)の大証と自負しているので、デリバティブの分野で世界に注目されるよう力を入れていきたい。(毎日)

(702)この国は東西軍事ブロックの廃止を呼びかけ、東西対話の口火を切ることによって、世界から注目されてきた。(二十世紀)

また、「注目される」は「N・トシテ/デ」といった「意義」を表わす名詞句と共起する場合がある。この「意義」を表わす名詞句は「N・ト/ニ」と述べられないことから、典型的ではないが、これは〈I 意義づけ型(I 態度)〉または〈I 社会的意義づけ型(I 社会)〉の周辺に位置づけたい(波下線は意義)。

(703)RNAとかDNAは遺伝を左右する物質として注目されたもので、しかも、これらはすべての細胞に含まれています。(記憶)

- (704)ただどういうわけか、「オール２０」になってからパチンコは賭博性をもつものとして警察当局から注目されるところとなり、昭和三八（一九六三）年には「オール２０」は、その製造、販売、使用を禁止されるようになった。（パチンコと日本人）
- (705)だが堀川病院はそれを負担しながら赤字を切り抜けることができる状態になったのであるから、地域社会の老人対策に関する一つのモデル・ケースとして注目されてよいと思う。（高齢化社会）
- (706)オッタワ会議は、世界にブロック経済の大勢をうながす契機となった点で注目される。（二十世紀）

要求的態度動詞や思考活動の結果を表わす動詞の多くが、-トで導かれる引用節の構造をとることができる。このときには、〈I 社会的判断型(I 社会)〉に移行する。次の(707)は〈I 社会的判断型〉の基本構造 a の形¹⁴⁸をとっているし、(708)は b の構造¹⁴⁹をとっている（波下線は判断内容）。

- (707)シドニー五輪に臨む日本競泳陣の中で「一番メダルに近い種目」と期待されているのが女子背泳ぎだ。（毎日）
- (708)しかし、たとえば将来の住民補償や保険金支払額が環境対策によっていくらか減るかを予想するのは、仮定が多すぎて正確な把握は困難だ。今後も試行錯誤が続くと予想されるが、環境会計への取り組みは、企業に自発的で持続的な環境対策への取り組みを促すきっかけとなりそうだ。（毎日）

〈I 社会的関心型〉の要素となる動詞は、有情者の対象への関心という心的態度を含む精神活動を表わすという点では通常の認識動詞と異なるが、広く精神的な活動という点では「思われる、考えられる、見られる」といった動詞に共通している。よって、抽象名詞が主語に立つ構造や、節-コトガが主語に立つ構造、さらに引用節-トと共に起る構造をもとりうるのだろう。また、ラレル形で述べられる際には、話し手が動作主に含まれることが暗示され、このときに自発用法との境界が曖昧になることも、認識動詞と共通している。次の例は、いずれも〈I 社会的関心型〉であるが、話し手に視点があると解釈すれば、自発用法である。

- (709)大型台風の襲来が懸念される／心配される。
- (710)日本人選手の活躍が期待される／予想される。

特に、次のような思考活動の結果動詞による個別一回的な例では、動作主が話し手（ないし話し手の視点のある人物）としか解釈できない。この場合、自発用法と見なすべきかと思われるが、動作主が話し手である受身用法と見なすなら、〈I 知的認識型 (I 認識)〉に位置づけられるだろう。

- (711)この図でもアルファ波が減少していないことが注目されます。（全能型勉強法のすすめ）
- (712)デッキに出てみると潮風が実に心地良い。波も、これが太平洋かと思われるほど穏やかだったから、のどかで快適な一日の遊覧が予想された。（若き数学者のアメリカ）

上にように、思考活動の結果動詞による個別一回的な例は自発用法と見なされる。一方、要求的態度動詞によるラレル文はどうであろうか。「動作性 N-ガ (個別 AN-ニヨッテ) 要求的態度 V-ラレル」といった個別一回的な例は、〈I 要求型 (I 態度)〉である。ただし、〈I 要

¹⁴⁸ 「日本は、先進国と思われている」のような、「Np-ハ Nq-ト/ニ 思考認識 V-ラレル/ラレテイル」という構造。

¹⁴⁹ 「近年、日本では生活格差が拡大したと考えられている」のような、「[N〔主語〕-V〔述語〕] 節-ト 思考認識 V-ラレル/ラレテイル」という構造。

求型)の頻度は非常に低く、統計をとったデータにはほとんど例が見つからなかった。

(713)その席で、小川所長は、第二号艦の完成期日の大幅な繰上げが、海軍艦政本部から二回にわたって要求されていることを発表した。(戦艦武蔵.地)

要求的態度動詞の中でも、「期待される、望まれる」などは、動作を要求する相手を取らずに、通常の抽象名詞が主語に立って、思考活動の結果動詞のように振る舞う場合がある。しかし、動作性名詞が主語に立ち、動作を要求する相手をとる場合でも、これらの動詞では、**自発用法**との曖昧性が生じるようである。

(714)大正が昭和に変わったことは、なにかそこに新しいものが期待されたけれど、すぐ、加藤は、新しいものが、大正時代より更に暗いもの、つまり、大正から昭和への移行は、暗転でしかあり得ないように考えると、見るもの聞くものすべてが憂鬱に思われてならなかった。(孤高の人.地)(思考活動の結果動詞)

(715)a. 生徒たちの成績向上が期待された。(要求的態度動詞)

b. 生徒たちに成績向上が期待された。(要求的態度動詞)

要求的、もしくは意志的態度動詞が連体修飾の外部構造に現れるとき、具体的時間性を失って行為者が想定できない、属性形容詞的な意味を表わす場合がある。このような例は、**〈I 特徴規定型 (I 超時)〉**に移行する。

(716)予想される問題、想定された使い方、約束された勝利、約束された運命、期待される内容、期待された効果、求められる力、求められる情報、望まれた結婚、望まれた結末、意図された目的、用意されたシナリオ、etc.

有情者が主語に立って、「AN-ガ 動作 N-ヲ 要求的態度 V-ラレル」という構造になると、**〈AA 相手への要求的態度型 (AA 態度)〉**へ移行する。

(717)海軍艦政本部が、軍令部から、帝国海軍第三次補充計画の一つとしてこの新戦艦の研究を要求されたのは、昭和九年、山本がロンドンに着いたか着かぬかの十月のことであった。(山本五十六.地)

(718)ここでも、聞き手や読者は、理解のための相当の努力を求められる。(日本人の言語表現)

(719)おれには無限に大きな未来がある。おれは多くの人たちから将来を期待されているのだ。(青春の蹉跎.地)

「求められる」という動詞は、「N-ニ N-ガ 求められる」という構造になると、**〈I 存在確認型 (I 存在)〉**へ移行する。この〈I 存在確認型〉における「求められる」は、**可能用法**との境界が曖昧になる。

(720)もっとも、反射論の考え方は、デカルトの二元論に源流が求められるほど、古くからみられたものです。(記憶)

(721)さきの柳田説によれば、日本人が視線に敏感になったことの理由は、わが国の近代化の過程に求められているわけである。(まなざしの人間関係)

(722)日本人にとって「神」「祖先」というものは、この「タテ」の線のつながりにおいてのみ求められ、抽象的な、人間世界からまったく離れた存在としての「神」の認識は、日本文化の中には求められないのである。(タテ社会)

3.6 I 社会的約束型「人身売買は禁止されている」「国民の権利は守られている」

〈I 社会的約束型〉は、主語に立つ有情者の広義所有物（動作や属性など）が、社会的な約束・ルールによって規制ないし保障されることを表わす。社会的なルールによって人々の動作を規制する事態を表わすのが「社会的規制」であり、これは「許される」などの要求的態度動詞で構成される。また、人々の属性や権利といった広義所有物を社会的なルールによって保障していることを表わすのが「社会的保障」で、これは「守られる」などの保護動詞で構成される。

(723) I 社会的約束型

所有者	対象 = 所有物	社会的規制	社会的保障
(AN・ノ/ニ)	動作性 N/N-ガ	要求的態度 V	保護 V-ラレル/ラレデイル

「夜間の入場は禁止されている」「国民の人権は守られている」

いずれも有情者の広義所有物が主語に立つのだが、これが社会的な制度等によって規制ないし保障される場合、「制度／設備-ニヨッテデ」という修飾語が共起することがある。

「社会的規制」の要素となる動詞は、モーダルな態度（デオンティックな態度）を含む要求的態度動詞のうちの、願望や欲求を表わすもの¹⁵⁰ではなく、より相手の行動を規制することを表わす許可や禁止の動詞である。

(724)許される、許可される、認められる、定められる、禁止される、禁じられる、廃止される、制限される、規制される、義務づけられる、etc.

また、「社会的保障」を構成する動詞は、「約束される」のような意志の態度を表す動詞も要素になるが、ほとんど「保護」を表わす評価的処遇動詞に限られている。

(725)守られる、保障される（保証される）、保護される、約束される、etc.

次のように、個人の動作主による要求的態度動詞の個別具体的な事態は〈I 要求型 (I 態度)〉である。〈I 社会的約束型〉は、この〈I 要求型〉の動作主とテンス・アスペクトが一般的になることで抽象化したタイプと考えられる。

(726)さらに、地球温暖化防止京都会議で各国に義務づけられた二酸化炭素（CO₂）削減も大きな課題になっている。（毎日）

(727)聯合艦隊が佐伯湾に入り、宮崎神宮参拝の上陸が許された時、宮崎の旅館の女中が、禿頭の黒島先任参謀を長官と思いこんで応待しているので、[後略]（山本五十六.地）

上の個別具体的な〈I 要求型〉は、すべてのテキストを通じて頻度が非常に低い。一方で、動作主が不特定一般の人々である〈I 社会的約束型〉は、非情主語受身文でありながら、会話文テキストでの頻度が比較的高く、他のテキストにおいても〈I 要求型〉に比べれば圧倒的に頻度が高いのが特徴である。

以下、「社会的規制」と「社会的保障」の別に用例を見ていく。

社会的規制型

〈社会的規制型〉の要素となる要求的態度動詞は、その他動詞文（能動文）において、ヲ格に動作性名詞、ニ格に要求相手かつヲ格動作性名詞の動作主でもある有情者を補語として

¹⁵⁰ 「のぞむ、ねがう、もとめる、いのる、希望する、期待する」など。〈I 社会的関心型〉では、逆に、要求的態度動詞のうちの願望や欲求を表わすこうした動詞が要素となった。

とる (ex.「生徒たちに入場を許可する」)。しかし、〈社会的規制型〉は、社会の構成員である「一般の人々」の動作を規制するものなので、要求相手=動作性名詞の動作主である二格名詞句は、省略されることが多い。現れる場合は、二格の相手として現れたり ((737)、主語の規定語として現れたり ((733)、また、主語に節が含まれる場合はその中で主語として現れたり ((728)(736)) する。

なお、手元のデータを見る限りでは、〈社会的規制型〉は「禁止」を表わす場合が多く、「許される」という動詞も、「許されない」という否定形や反語の疑問文で用いられる方が多い。

(728)[前略]通称を名手本陣と呼ばれるほどの家柄だったから、士分の娘が百姓娘のように畝道を駈けまわるような真似は許されていなかったからである。(華岡青洲.地)

(729)「恋愛のない結婚なんて許されないことだわ」(楡家)

(730)富士は「女人禁制」の山。それが60年に一度の庚申縁年だけ入山が許された。(毎日)

(731)「俺達の商売は江戸の昔からちゃんと認められた商売だ」

「人身売買は寛政にすでに禁止されています」

「あの女にはちゃんとした証文があるんだ」

「廓での女性の売買は、明治五年の芸娼妓契約無効令により廃止されております」(花埋み)

(732)「[教練] 文部省の中学校令施行規則によって定められているのです。仕方ありませんね。[後略]」(雁の寺)

(733)「でもお医者様の解剖は禁じられてはいないのでしょ」(花埋み)

(734)江戸時代、それまで武士などの間に行われていた肉食の風習が強く禁止されてしまった。¹⁵¹
(たべもの)

(735)現在は毒物及び劇薬取締法があって、取り扱いが制限されている。(化学)

次の例は、主語の動作性名詞が節として現れた例である。ここでは、(737)のように、節内の動詞述語の主語相当の動作主が主題として現れている例もある。

(736)ナレーション「あの頃、侍の家族が町人やお百姓のお祭りを見物することなどは、固く禁じられていたのですが、朋江さんはそんなこと一向に気にされませんでした。私たち武家の暮らしはお百姓のおかげで成り立っているのですよと話して下さったことをよく憶えております」(たそがれ清兵衛)

(737)「だから、近親相姦はふつうの人間には禁じられているのだ。これをおこなう資格があるのは、自分の兄や妹を愛することができるほどの精神的エネルギーをもった女、あるいは男にかざられますよ。こういう精神的王族は、自分たちだけで愛しい、神に対抗して自分たちもまた神の一族であると主張することがゆるされるのだ。[後略]」(聖少女)

(738)しかし、「興奮しないように」と産前・産後に新聞を読んだり、テレビをみることは禁止されていた。(毎日)

社会的保障型

〈社会的保障型〉では、有情者の属性や権利といった広義所有物が社会的な約束として守られていることが表わされる。

(739)まず「終身雇用」制によって、いかにいいかげんな働きぶりでも、定年までの雇用は完全に保証されているから、人びとはけっして勤勉に働こうとはしない。(ゆとり)

(740)いわば、かつてはエリートないし金持ちにだけ保障されていた“生存権”(?)が、いまや一般大衆ないし貧乏人にまで拡充されたのである。(ゆとり)

¹⁵¹ この例では、一テシマウが用いられているが、やはりこれも非アクチュアルな、個別具体的ではない反復的社会活動を表わしているだろう。

- (741)受験なんてものは、早くすませられればそれにこしたことはないんですもの。三百万円で、大学まで保証されるんだったら、安いものよ。(女友だち)
- (742)個人の時間までも社宅や厚生施設や企業の病院によって物質的に守られているからというだけではなく、彼の意識そのものも、本当は見えない深部においてまた企業の保護を受けているのである。(働くということ)
- (743)こう考えてくと、日本の文化は明日の生が約束された基盤の上に立っているととってもよい。(たべもの)

主語に立つのは基本的に有情者の属性や権利であるが、次のように非情物の属性が現れることもある。

- (744)天皇制の神聖性は、刑罰で守られるということがなくなったのである。(憲法を読む)

I 社会的約束型の周辺と他のタイプ

次の例は、動作性名詞がヲ格で現れており、「有情者・ガ 動作性N・ヲ 要求的態度 V・ラレル」という〈AA 相手への要求的態度型 (AA 態度)〉の構造をとっているが、主語に立つ有情者が一般化されているため、意味的に〈社会的規制型〉に移行している。

- (745)その現存作品はわずか三十数点、すべて所蔵美術館の至宝となっており、ほとんど貸し出しを許されないが、うち5点が今春、日本で一挙に公開される。(毎日)

保持を表わす動詞は、状態名詞が主語に立つと「状態 N・ガ 保持 V・ラレル」という構造で〈I 実行型 (I 変化)〉(出来事の局面型)の要素にもなる ((746), (747))。また、いずれのタイプにも位置づけられなかったが、「具体 N・ガ 守られる」という受身文もある ((748))。

- (746)どうしてこのような長い期間鎖国が守られたのかというと、それは、肉食の完全な禁止によると考えてもよいのではなからうか。(たべもの)
- (747)環境経済学者、ハーマン・デイリーは人類の文明がサステナブル(持続可能)な発展を遂げるための三つの条件を挙げている。例えば「物を使ったらその分補充する」とか「物を捨てるのは吸収能力の範囲内にする」とか、実に簡単なこと。ところが、それが守られていない。(毎日)
- (748)そこで、亜鉛が溶け出し、鉄は守られて、さびにくくなるわけである。(化学)

3.7 I 社会的意義づけ型「その顔はよく漫画の材料にされる」

〈I 社会的意義づけ型〉は、主語に立つ対象がある一定の社会的範囲において一般の人々から何らかの意義を付与されていることを表す。〈I 社会的意義づけ型〉は、個別一回的な事態の〈I 意義づけ型 (I 態度)〉に対応しており、「意義」を表わす結果的な二格ないしト格(トシテ)の補語を取るという構造的特徴を持つ。

- (749) I 社会的意義づけ型

対 象	意 義	人 々 に よ る 意 義 の 付 与
Np・ハ _{SUB}	Nq・ニ/ト/トシテ _{COM}	サレル/使用/例示/選択 V・ラレル/ラレテイル

「その面長の顔はよく漫画の材料にされる」

〈I 意義づけ型〉同様、次のような、対象を扱うことを表すかなり一般的な意味の処遇動詞の他、使用動詞、例示動詞、選択動詞が要素となる。

(750)扱われる, される, 取り上げられる, 使われる, 用いられる, 使用される, 利用される, あてられる, 例えられる, なぞらえられる, 見立てられる, あてはめられる, 数えられる, 間違えられる; 選ばれる, 推される, 定められる, 採用される, 決められる, 登録される, 承認される, 指定される, 想定される, etc.

有情主語の例から挙げよう(波下線は意義)。有情主語の意義づけを表わす個別具体的な事態のタイプは, すべて〈AA 評価働作的態度型 (AA 態度)〉に位置づけた。これは, 個別具体的な事態の場合には, 評価性に中立な「意義づけ」の例を見つけるのが困難だったためである。しかしながら, 動作主が不特定一般の非アクチュアルな事態になると, 次のように評価性に中立な「意義づけ」が見られる。

- (751)いつになったら女も男と同じに扱われる時代が来るのであろうか。(花埋み.地)
- (752) [前略]と、書かれているが、その温容がひと目で純真な子供の心をひきつけたのもあろうか。一步教会堂へはただで、たちまち日曜学校の教師に扱われたのは、後にも先にも永野信夫一人であつたろう。(塩狩峠.地)
- (753)男子は10～14歳で元服、女子は裳着(もぎ)という式をあげ、成人として扱われ、結婚年齢は男15歳、女13歳前後だった。(毎日)
- (754)あのときは、宇野電機に入社できるかどうか、入社しても社長の息子としてあつかわれるかどうかの危惧があつた。(冬の旅.地)
- (755)本人は西欧への開放改革を行ったピョートル大帝を範としたとされるが、「大動乱の時代」へ導いた僭越(せんえつ)王ボリス・ゴドノフに例えられることも多かった。(毎日)
- (756)乗組員には、定まった訓練以外にこれといってしなければならない事もなかった。春島の平坦な場所に建設される小さな飛行基地の使役に使われたり、秋島の一劃をきりひらいて作物を植え武蔵農園と称したりした。(戦艦武蔵.地)

次に、非情主語の例を挙げる。

- (757)当時ジンギスカン料理はまだ珍しく、中華料理屋で前菜のようにあつかわれていたが、千代子をはじめ食べる羊の肉の臭みが鼻についたので箸をつけるのをやめ、いずれ出てくるであろう中華料理を愉しみに待つことにした。(楡家.地)
- (758)ふたつの半円は北の広場と南の広場と呼ばれ、一対のものとして扱われたが、実際には両者が見るものに与える印象は正反対と言つていいほどに違つていた。(世界の終わり)
- (759) [蔵王山の] その顔の長い、しばしば漫画の材料にされる面は通路にむかつて伏せられ、果してケー・エヌ丸の効果があつたのかどうか判断をくだすことは難かしかった。(楡家.地)
- (760)この社会人類学は、[中略] 従来、歴史学者や社会学者によつて対象とされていたような、スケールの大きい複雑な社会(これを complex society とよぶ)——日本や西欧諸社会を含めて——をも対象とするようになり、数々の研究成果を生みつつある。(タテ社会)
- (761)それというのも昧背家は近郷の地土頭と大庄屋を代々勤めている名門であり、藩主が伊勢路へ往復するときの宿と定められていたので、通称を名手本陣と呼ばれるほどの家柄だったから、士分の娘が百姓娘のように敵道を駈けまわるような真似は許されていなかったからである。(華岡青洲.地)
- (762)ファラデーは「電気化学の父」と呼ばれるが、電気分解に関するファラデーの法則は、化学の教科書に必ず出ている基礎的な法則である。そして、電気化学の面から、電気量の単位に、その名が使われている。(化学)
- (763)緑青は、緑色の顔料に使用される。一方、鉛白は白色の顔料である。大変のびがよいので、昔は白粉として使われたが、鉛の毒作用で害が出たのでいまは使われていない。(化学)
- (764)つまり、目的とか必要性というのは、生きるという方向性に伴うものですから、それがな

「いコンピューター」は、人間の目的や必要性に応じて道具として使われるだけです。(記憶)
(765)しかも馬鹿高い税金のほとんどが、この町の修復に充てられているのよ。町はどんどん老朽化していく。(冷静と情熱)

I 社会的意義づけ型の周辺と他のタイプ

使用動詞の受身文は、「節・タメニ/コトニ 使用 V-ラレル/ラレテイル」という構造をとる場合がある。これは、「動作性 N-ニ 使用 V-ラレル」として述べることも可能である¹⁵²。しかしながら、(765)の例も含め、二格に動作性名詞が立つと、これが直接的に「意義」を表わすとは言いにくい。いわば、二格の動作性名詞が示す動作の材料や道具として、主語に立つ対象が使用されることを表わしている。そして、その「動作の材料や道具」というのが「意義」だと言える。よって間接的な意義づけではあるが、これも〈I 社会的意義づけ型〉の周辺に位置づけることにする。

(766)修復作業のためには、日本ユネスコ協会連盟に一般市民から寄せられた約300万円の寄付も使われている。(毎日)

(767)同じ「日本的」制度・慣行が、かつては「だめ派」によって、日本がいかにだめかを説明するために用いられ、いまでは逆に、「すばらしい派」によって、日本がいかにすばらしいかを説明するために用いられる。(ゆとり)

(768)ドライアイスをお湯の中に投入すると、それといっしょに蒸発する水蒸気が冷えて、霧になる。これがドラマの舞台や結婚式場で、白い雲を作ることに利用される。(化学)

また、使用動詞では、「意義」が明らかな場合は、これが省略されることがある。特に、「よく、しばしば」などの頻度副詞が共起した場合に、省略されることが多い。

(769)パブロフはロシアの脳生理学者ですが、脳生理学者で一般の人々にこれほど名前の知られている人はいないと思います。なにしろ「パブロフのイヌ」などということばがよく使われるほです。(記憶)

(770)たとえば、アメリカで多く使用されるソースにグレービーソースがある。(たべもの)

(771)日本では、この包丁は、広く使われている。

さらに、使用動詞による受身文は、「対象・ガ 着点場所-ニ 使用 V-ラレル」という構造をとることがある。これは、〈I 位置変化型 (I 変化)〉に限りなく近づいているが、「調味料として」や「方法論として」などが省略されているとも考えられるので、〈I 社会的意義づけ型〉の周辺に位置づけた (点下線は着点場所)。

(772)そして、このソースが煮込み以外の料理でも西洋料理のほとんどに使用されるのである。
(たべもの)¹⁵³

(773)クロマトグラフィーという分別法は、比較的新しく開発された分析手段である。[中略]しかし、一般の学者の注目をひくようになったのは、それから20年もたってからで、第二次大戦後にいろいろな方面に活用されるようになった。(化学)

次のように、意義を表わす名詞句が評価性を帯びると、〈I 社会的評価型 (I 社会)〉へ移行する。

(774)成績のいい品行方正な生徒は、とかく悪童連から揶揄や嘲笑の対象にされ易かったが、鮎太ひとりとは別格で、そうした生徒たちも鮎太の頭脳の優秀さには、何となく敬意を払う以外

¹⁵² 「修復作業に使われる」、「説明に用いられる」、「白い雲の作成に利用される」など。

¹⁵³ この例では、「調味料として」のような意義が省略されているとも考えられる。

仕方がないと言ったような恰好であった。(あすなろ.地)

先にも述べたが、有情主語で個別具体的な事態になると、〈AA 評価動作的態度型 (AA 態度)〉を表わす。

(775) 榆家って家は、本当に冷たい、たてようもなく冷たい家ね。上の者は、質のいい人たちは太事にされるわ。でもそれは愛情じゃなくて、功利的なだけなのよ。(榆家)

(776) 十年の余も稼ぎに稼いで、子供が三人もできたのに、亭主らしい扱いをされたことは一度もなく、朝から晩まで頭ごなしにどなられ、追い使われた。(さぶ.地)

(777) そうしたおりょう婆さんに関する風評は、何となく、子供の鮎太の耳にも入っていたが、どうして村人が祖母のことを悪く言うのか、その理由はよくは納得行かなかった。

「すっかり坊は人質に取られて、喰い物にされとる！」(あすなろ)

(778) 鮎太は、勉強はしていなかったが、黙って大学生の方へ傾いてみせた。急に自分が大人扱いにされているような変な気がした。(あすなろ.地)¹⁵⁴

(779) そのメダルが、若いボクサーに軽くあしらわれ、涙を浮かべながら引退の十点鐘に聞き入っている。私は顔をそむけた。(一瞬の夏.地)

3.8 その他の社会的活動

本報告で立てた〈I 認識型 (I 認識)〉及び〈I 態度型 (I 態度)〉のサブタイプは、〈I 知覚型〉、〈I 発見型〉、及び〈I 表現型〉以外は、対応する〈I 習慣的社会的活動型〉を持っている。このうち〈I 態度型〉のサブタイプである〈I 表現型 (I 態度)〉は、次のように、反復ないし特性のアスペクトで述べられることも多く、これを個別一回的な事態とは別に立てる必要があるかもしれないが、全体の用例の頻度が低かったため、今回はすべて〈I 表現型〉として位置づけた(波下線は表現手段)。

(780) いま電気メッキで銀を析出させるとすると、 $A g + (\text{銀イオン} 1 \text{ モル}) + e - (\text{電子} 1 \text{ モル}) \rightarrow A g (\text{銀原子} 1 \text{ モル})$ という反応式で表わされる。(化学)

(781) この取りきめによると、宇宙の大きさはほぼ 1 0 0 億光年 (1 0 の 2 6 乗メートル)、宇宙の現在までの寿命は1 0 0 億年 (1 0 の 1 6 乗秒)と表わされる。(時間の不思議)

(782) そしてここでは時間が金でしか計れぬ以上、補償は金銭として表現されざるを得ないだろう ([中略])。(働くということ)

〈I 知覚型 (I 認識)〉には、次のように、動作主が不特定多数の一般の人々で、反復アスペクトで述べられた例が数例見つかったが、これも頻度が低かったため、すべて〈I 知覚型〉に位置づけた。

(783) 実際、地上波テレビやBSアナログ放送、CSデジタル放送もケーブルテレビを通じて見られている割合が多い。12月に始まるBSデジタル放送も半分近くはケーブルテレビで見られるとの見方もある。(毎日)

(784) 諸外国とくらべて日本の「特殊性」を描いた書物が、次々と出てさかんに読まれ、「日本論」「日本人論」「日本文化論」が大流行しているのも、むべなるかな——という気が、いちおうはする。(ゆとり)

¹⁵⁴ この受身文の「大人扱いにされる」は、「大人に扱われる」という「意義づけ」の連語に相当すると考えられる。

〈I 発見型 (I 認識)〉は、頻度が低い上、不特定一般の人々が動作主である習慣的な事態は見あたらなかった。ただし、〈I 発見型〉の、発見場所がデ格ではなくニ格で表示された場合は〈I 存在確認型〉として〈存在型 (I 存在)〉のサブタイプに位置づけた。〈I 存在確認型〉は、抽象名詞が主語に立つことが多く、この場合、動作主は不特定一般の人々で、存在のアスペクトを有している。この〈I 存在確認型〉、非常に頻度の高いタイプである。

また、所有変化動詞である「売られる」という受身動詞は、対象の移動が逆向きである「買われる」やその他の所有動詞に比べ、不特定一般の動作主の反復アスペクトの事態として述べられることが多い。

(785)肉を焼いたときにしたり落ちた汁をベースにしたソースであるが、これが、インスタント的な食品に加工されて多く売られている。(たべもの)

(786)DDI (第二電電)とIDO (日本移動通信)は31日、高音質携帯電話サービス「cdmaOne」用端末の2機種(京セラ製)が、「1999年12月31日(金)」の日付を「2000年12月31日(日)」と誤って表示した、と発表した。2機種は60万台が売られているが、誤作動は初めて。

先に本項の冒頭で述べたように、催行動詞による受身文も、特に評論文テキストではよく現れる。

(787)社会集団のあり方については、すでに社会学の分野で多くの試みがなされてきた。(タテ社会)

(788)できるものも麦が主であるから、動物性の食品は、生存上欠かすことができない、そのため、牧畜が広く行われたのである。(たべもの)

(789)ヴァスコ・ダ・ガマ、コロンブス、マジェランらの航海が行なわれてから後には、世界を区分けしたのは常に欧州であり、その世界支配過程は不断に進められてきた。(二十世紀)

4 I 超時的事態型 (I 超時)

〈I 超時的事態型〉とは、具体的な時間の流れの中における対象の変化を問題にしない事態で、主題化された名詞句の特性や実体ないし属性間の関係を述べる受身文である。構造上の特徴として受身文の主語が主題化されるか、主語相当の名詞句が被修飾語となった連体修飾の構造をとることが多い。また、具体的な働きかけを表わさない事態であるため、行為者は通常想定できない。このような特徴を持つ〈I 超時的事態型〉は、形容詞文に近いタイプであると言える。

〈I 超時的事態型〉には、次のようなサブタイプがある。

I 特徴規定型 「箱の中は4つに仕切られている」「煮込み用に作られた鍋」

I 論理的操作型 「水に溶ける物質は、大別して2つのグループに分けられる／分類される」

I 限定型

条件限定型 「製品化される発明品は、小型のものに限られる」

縮小化型 「戦時中の食糧生産量は限られていた／抑えられている」

なお、超時の事態を表わす受身文には、このほかに、非情非情受身文の〈II 関係型 (II 関係)〉がある。〈II 関係型〉とは、次のような受身文である。

II 位置関係型 「この国は海に囲まれている」／「樹々にさえぎられる」

II 論理の関係型

II 内在的関係型 「イチゴにはビタミン C が豊富に含まれる」

II 構成関係型 「委員会は 5 人の議員から構成されている」

II 象徴的関係型 「戦後の高度経済成長は、東京オリンピックに代表される／象徴される」

II 影響関係型 「人の性格は環境に左右される」

以下では、非情一項受身文に位置づけた〈I 超時的事態型〉の 3 つのサブタイプについて、その構造と相互移行のあり方について考察していく。

4.1 I 特徴規定型「この箱は中が仕切られている」「洗練された人」

〈I 特徴規定型〉とは、主語に立つ非情物の時間を越えた特徴を規定する受身文である。〈I 特徴規定型〉は、動詞性をほとんど失っていて、「恵まれた環境（≒豊かな環境）」のように形容詞に限りなく近い。

〈I 特徴規定型〉には、広く対象を変化させる変化動詞が要素となるが、中でも状態変化動詞が代表的である。ただし、作成動詞も広義状態変化動詞として、〈I 特徴規定型〉を頻繁に構成する。〈I 特徴規定型〉は、連体修飾の外部構造をとることが多く、その場合はラレタ形もしくはラレテイル形が用いられ、文末ではラレテイル形となる。

(790) I 特徴規定型

対 象	特 性
IN・ハ SUB	変化 V・ラレテイル

「この箱は、中が仕切られている」 【行為者想定不可能】

実例を見ていこう。まず、連体修飾構造に現れた例から挙げる。

(791) とくに煮込み用に作られた ずんどう鍋 は、その料理の形態をよく表わしている。(たべもの)

(792) 「うん、昔の私はいつも心がささくれだって荒れていた。表向きは穏やかなんだけど、心の中にいつも 満たされないもの」を持っていた。[後略] (冷静と情熱)

(793) アリストテレスやプラトンの時代なら世界を統一的、体系的に説明する「知」の世界があった。イデオロギーもその範ちゅうだ。しかし我々は 細分化された無数の情報 の山の前で右往左往している。(毎日)

(794) 人影疎らな冬の公園の中で、そのトランクは 置き忘れられたもの のように見えた。(植物群地)

(795) 日比谷公園には、戦捷祝賀の連合国旗に彩られた 山形の大門 が建ち、群衆は押しあつて怪我をした。飾りつけはなかなかの見物であった。(榆家・地)

(796) フン先生は、刑務所の正面玄関の方へ、歩いて行った。前庭にはよく 手入れされた松 がほどこい間隔で、緑と枝ぶりのよさを誇りあっている。(ブンとフン・地)

(797) 後に説明するように、「パブロフのイヌ」の実験は、条件反射の基本的性質を知るために 工夫された、実に優れた実験 として 選ばれたもの のなのです。(記憶)

次は、ラレル述語が文末ないし連用中止に現れた例である。

(798) もし、両方の箱 とも、中がテニスボール大の 1 2 の区画に仕切られていて、その 1 区画にそれぞれのボールが 1 個ずつ入っているとすれば、ピンポン球でもテニスボールでも、1 ダース入りの箱の大きさは同じということになろう。(化学)

(799)石の家は、幽霊でも住んでいるみたいだけど、台所の設備も、インテリアも洗練されてる筈です。(ドナウ)

(800)つまり日本の料理は、一見いろいろなものがいりまじっているようにみえるが、味の面からいうと、日本的なものという単一化したもので固められているといってもよいのである。(たべもの)

(801)「ソーシャル・ストラクチュア」の持続性・固執性の度合いは、その社会の歴史が古いほど、またその社会の人口が大量で密度が高いほど強いものである。これは社会がそれ自体高度に統合されており、社会としての質が高く厚いために、いっそう根強い力をもつものである。(タテ社会)

次の例の主語は有情者名詞であるが、個々の人格性（意志や感情）は問題にされていないので、非情物相当と見なす。

(802) [前略] 居住（または財産共有体としての）家族というものは、「家」のように閉ざされた世界ではなく、個人は家の外につながる社会的ネットワーク（血縁につながるという同資格者の間につくられている¹⁵⁵）によっても強く結ばれているのである¹⁵⁶。(タテ社会)

(803)「そんなことを言っても仕方ないよ。現代人はみんな要領がよいようにつくられているからね」(冬の旅)

(804)この不思議な祖父と孫が、本当に人々が言うように痴呆的な夢想家だったのか、正義と情熱に裏打ちされた告発者だったのか。彼等には何があつて、何が足りなかったか。(ドナウ)

この他、次のような例がある。

(805)恵まれた環境，加工された食品，記憶について書かれている本，疎外された人々，血塗られた大会，開かれた社会，抽象化された概念，制度化された組み立て，舗装された道，隠された生活，etc.

こうしたラレル動詞は、結果状態を表わすものと違い、「V-ラレル」が起きる以前の状態と以後の状態との違い、すなわち先行する変化はまったく意識されていない。いわば、特徴を規定する形容詞に近づいている。例えば、「抽象化された概念」などは、「抽象的な概念」ということであり、「加工された食品」は「加工食品」としてもほとんど意味が変わらない。しかし、受身文構造をとることで、具体的な動作主はまったく想定できないものの、やはり何らかの外的要因が当該の特徴づけに関与したことが含意されるだろう。

I 特徴規定型の周辺と他のタイプ

次の例も、変化前の状態と変化後の状態の差に意識がある「結果状態」ではなく、対象の特徴を述べる〈I 特徴規定型〉とみなした。しかし、動作主を想定することは一応可能である。もし結果状態のアスペクトと見なすなら、〈I 状態変化型 (I 変化)〉になる。

(806)冷静さを取り戻せたことに、彼は驚いていた。当然、彼は川村朝子の濃く塗られた唇を、眼の前の少女の唇から連想していた。(植物群.地)

(807)この家は考えると太郎そのものであった。美しくて、整理され、しみも埃りもないが空虚であった。部屋は死んだ細胞だ。みんなそのなかに隔離されて暮らしている。(裸の王様.地)

対象としたテキスト内にそれほど多くの実例が見つかったわけではないが、要求的もしくは意志的態度動詞が連体修飾の外部構造に現れ、具体的時間性と具体的な行為者を失った次

¹⁵⁵ この「つくられている」は、〈I 抽象的存在型〉である。

¹⁵⁶ この例の「閉ざされた」は主語相当名詞句が非情物の例である。。

のようなタイプも、〈I 特徴規定型〉であろう¹⁵⁷。

(808)想定される問題，想定された使い方，約束された勝利／運命，期待される内容／効果，求められる力／情報，望まれた結婚／結末，用意されたシナリオ，意図された目的，仕組まれた戦争，etc.

次の例の「予定された」も意志的態度動詞が具体的時間性と具体的行為者を失った例である。「決まった環境」というような，対象を限定修飾するだけの意味しか持たないと考えられる。

(809)しかし、下等動物は生きていくことのできる環境がほぼ決まっていて、それからはずれると生きていけません。巧妙な生存機能は予定された環境の中でのみ発揮されるのです。(記憶)

4.2 I 論理的操作型「水に溶ける物質は大きく2つに分けられる」

〈I 論理的操作型〉は、生産性も頻度も低く、未だ暫定的にしか一般化できていない。〈I 論理的操作型〉は、〈I 位置変化型 (I 変化)〉の〈コトの位置変化〉や〈I 抽象的存在型 (I 存在)〉にも意味・構造的に近い。それは、もともと物理的はたらきかけを表わす位置変化動詞がこのタイプの要素となることに現れている。また、奥田 (1960:213) は、このタイプが「くらべる」「たとえる」などの論理的な態度をしめす例示動詞に近いことを述べている。本報告では、例示動詞は〈I 意義づけ型 (I1)〉の要素である。確かに、例示動詞と共に二格やト格の名詞句に似た意味の名詞句がこのタイプの要素となる。

また、〈I 論理的操作型〉は、意味的には〈II 論理的关系型 (II 関係)〉のサブタイプであるように思えるが、構造的に、そのテンス・アスペクトは個別の一回的な事態でもあり得る点で他のタイプと異なる。

(810) I 論理的操作型

対 象	位置づけ場所	論 理 的 操 作
IN-ハSUB	IN-ニ/カラCOM	論理的操作 V-ラテイル

「水に溶ける物質は (通常) 大きく 2 つのグループに分けられる」【行為者想定不可能】

〈I 論理的操作型〉の要素となる動詞は、次のような動詞を考えている。

(811)分けられる，分割される，分類される，分散される，振り分けられる，結び付けられる，切り離される，入れられる，加えられる，足される，引かれる，除かれる，etc.

次のような例が見つかった (波下線は位置づけ場所)。

(812)水に溶ける物質は，大別して二つのグループに分けられる。(化学)

(813)日本人の意識では，文化は「表」と「裏」に分けられる。(日本人の意識構造)

(814)アジア大陸の東に住んでいる人種は，北モンゴロイド、中央モンゴロイド、南モンゴロイドの三つに分類される。(進化論が変わる)

(815)牛乳は，タンパク質も多くふくむが，カルシウムも多くふくむので，アルカリ性食品の仲間に分類されている。(化学)

(816)朝の食事を抜くことは、それだけどこかで抜いた分だけの栄養をとらなければ必要なもの

¹⁵⁷ 英語の「expected」といった形容詞に相当する表現だろう。「expected」の場合は、「unexpected」のように、形容詞にしか付かない un- という接頭辞がついた語もあり、形容詞として語彙化してるといえる。

- を満たせない。ふつうは昼と夜の食事にこれが分散される。(たべもの)
- (817)バレーボールの男子は昨年末、上海のアジア予選で敗れたため、7月の世界最終予選がラストチャンス。3枠をめぐりフランス、ポルトガル(ともに21～23)、ギリシャ(24～26日)の3大会いずれかに振り分けられ、各1位がシドニーに行ける。(毎日)
- (818)いずれにしても、ある神が特定の土地に結び付けられ、そこに「坐」しているという状態をあらわしている点では、共通しているといえるであろう。(神と仏)
- (819)ところが、フランス大革命で彼の一般意思は人権宣言のなかに書きこまれ、大共和国と結びつけられてしまった。(憲法を読む)¹⁵⁸
- (820)欧州内においても、この原則は万遍なく適用されたのではなく、将来に禍根を残したが、欧州外世界が適用範囲から除外されたということは、アジア＝アフリカ植民地問題をいよいよ深刻にした。(二十世紀)

I 論理的操作型の周辺と他のタイプ

次のような「抽象 IN・ニトシテ 上げられる」の受身文も、〈I 論理的操作型〉と言えるだろうか。これらの例は、本報告では〈I 抽象的存在型 (I 存在)〉に位置づけている。

- (821)企業の問題環境への取り組みが例に上げられた。
- (822)さらに、恵まれている証拠の一つに、日本には砂漠がないことがあげられる。(たべもの)
- (823)ヨーロッパの隅々にまでルーベンス芸術が浸透した理由の一つに、こうした制作方法が上げられる。(毎日)

特に「分けられる、上げられる、あてはめられる」などは、可能用法との境界が曖昧であることが多い。次の例では、先行する「みられる」も可能用法との意味が曖昧であるが、「みられる」は〈I 存在確認型 (I 存在)〉、「あてはめられる」は〈I 論理的操作型 (II 関係)〉として受身用法に数えている。

- (824)もちろん、抽象された理論と現実の社会の諸現象の間には、相当なずれがみられるのであり、これらの理論が西欧社会にそのままあてはめられるというものではない。(タテ社会)

4.3 I 限定型

〈I 限定型〉とは、主語に立つ非情物の広い意味での属性がその通りに発現せず、属性の発現がある範囲に狭められたり、弱められたり、縮小されたりする意味を表わす。〈I 限定型〉は大きく〈条件限定型〉と〈縮小化型¹⁵⁹⁾〉に分けられる。

〈条件限定型〉は、ある集合全体の中で、主語で表わされる属性Aを持つものが、二格名詞で表わされる属性B=条件を持つものだけであるという意味を表わす。集合の中から、主語が表わす動作や事態、特性を可能にする、もしくは持ちうるグループを、二格名詞句の条件で限定しているのである。

一方、〈縮小化型〉は、主語に立つ非情物の属性が、何らかの外的要因により、通常通り発現せず縮小されることを表わす。

¹⁵⁸ 「結び付けられる」という動詞では、補語がト格で標示されることもある。この点は、〈意義づけ型〉にも極めて近い。

¹⁵⁹ 「縮小化」という名づけはあまりよくないと思うが、他にいい名づけが思いつかなかった。

(825) I 限定型

a. 条件限定型

集合全体=範囲 (N p・で MOD)	動作・事態・特性 属性 A を持つ Nq・ハ SUB	条件 属性 B を持つ Nr・ニ COM	限定・制限 限ラレル/ラレテイル
------------------------	-------------------------------	-------------------------	---------------------

「(発明品の中で) 製品化されるのは、小型のものに限られる」 【行為者想定不可能】

b. 縮小化型

対象 N・ハ SUB	縮小化される 限ラレル/ラレテイル
---------------	----------------------

「戦時中は、食糧生産量が限られていた」 【行為者想定不可能】

〈I 限定型〉には、次のような動詞が要素になる。

(826)限られる, 限定される, 制限される, 抑えられる, 抑制される; 抑圧される, 圧迫される, etc.

〈I 限定型〉のテンス・アスペクトは、もっとも用例の多い「限られる, 限定される」については、通常具体的時間性を持たない、非アクチュアルな事態になる。一方、これ以外の動詞では、一回的な出来事として現れることも少なくない。ただし、その場合でも、動作主はほとんど想定できない場合が多い。よって、常に超時的事態を表わすわけではないが、便宜的に〈I 超時的事態型〉のサブタイプに位置づけておく。

4.3.1 条件限定型「入国できるのは白人に限られていた」

〈条件限定型〉の構造は、具体的には次のように文に現れる。

(827)a. 発明品の中で製品化されるのは、小型のものに限られる。

b. 製品化される発明品は、小型のものに限られる。

以下、用例を見ていこう(波下線は条件)。なお、例(833)のように、「抑えられる」の二格補語に現れるのは、数値を表わす名詞句に限られる。

(828)過去数世紀にわたって、モロッコにあるスペイン領土は、地中海沿岸の四つの小さな飛び地に限定されていた。(二十世紀)

(829)しかしこの境界線を越えるのは白人に限られていた。(ゆとり)

(830)入浴は12日のうち8日が凶とされたため、申(さる)、酉(とり)などの4日だけに限られた。(毎日)

(831)このように、小集団のあり方はさまざまであるが、構成員がお互いによく知りあった仲間に限定されるので、その大きさは二人から十数人が常で、[後略](タテ社会)

(832)衆議院すら、選挙権は直接国税十五円以上を納める二十五歳以上の男子の記名投票に制限されたのだった。(近代の潮流)

(833)1973年に規制が開始される前の8%に抑えられ、2005年にはさらに0・04グラムまで制限される見通しだ。(毎日)

4.3.2 縮小化型「時間が限られている」

次に、〈縮小化型〉の例を挙げよう。〈縮小化型〉は、主語に立つモノの数量が少ないことや、コトの発現する範囲などが狭い、小さいということを表わす。

- (834)ところで、同じもののばかりを食べていると、脳細胞のうちよく刺激される細胞が限定されてくる。(たべもの)
- (835)平本さんは「[中略]その後、仏教の浸透で肉食がタブー化し、食糧生産量が限られたなかで、人口を維持、増加させるために体が小型化したのではないか」と話す。(毎日)
- (836)理解力が高まれば記憶力はひとりでに高まりますが、記憶力だけを高めようとするば理解力が抑えられて、結局は記憶力も高まらないことになるのです。(記憶)
- (837)とにかく仲よくやっていかなければならない人たちで、個人の好みは抑制されたり、また長いあいだに友情が形成されたりする。(タテ社会の力学)
- (838)この当時の幸福追求の意味は非常に限定されていた。(憲法を読む)

〈縮小型〉の中でも特に「限られる」は、連体修飾の外部構造で、「限られた時間／予算／条件」といった形で用いられることも多い。

4.3.3 I 限定型の周辺と他のタイプ

〈条件限定型〉では、主語で表わされる属性 A を持つグループの範囲を二格補語で表わしているとも考えられる。そのように考えると、次のような範囲を表わす二格補語をとる「適用される／拡大される／拡充される」などの受身文は、この〈条件限定型〉に近いものであると考えられる¹⁶⁰。暫定的に〈条件限定型〉に位置づけた。

- (839)しかも、こうした方式が戦勝国的発想の所産であり、戦勝国の植民地には適用されなかったということ自体、意味深長である。(二十世紀)
- (840)「リサイクル」は当面 4 品目が対象だが、いずれは O A 機器やパソコンにも拡大される見通しで、各社は研究を進めている。(毎日)
- (841)いわば、かつてはエリートないし金持ちにだけ保障されていた“生存権”(?)が、いまや一般大衆ないし貧乏人にまで拡充されたのである。(ゆとり)

また、次の(842)のように、動作性名詞が主語に立って、社会的なルールとして有情者の動作が制限されることを表わす場合、「禁止される」のような〈I 社会的約束型 (I 社会)〉に非常に近くなる。同様に、(843)のように、有情者が主語に立ち、動作性名詞がヲ格に立つと〈AA 相手への要求的態度型 (AA 態度)〉へ移行する。いずれも「要求的態度動詞」の特徴を持っているということだろう。

- (842)現在は毒物及び劇薬取締法があつて、取り扱いが制限されている。(化学)
- (843)問題は、若干の(場合によっては多数の)成員が発言を抑制されたり我慢させられたりして、気がねと遠慮のもとでの全会一致という場合であろう。(稟議と根回し)

¹⁶⁰ こうした受身文は、まだどのように位置づけられるか、分かっていない。なお、この二格補語はさらに使用動詞がとる用途を表わす二格補語にも通じていくものだろう。

5 その他の非情主語一項受身文

本節では、本報告で取り出したサブタイプに位置づけられなかった非情一項受身文を紹介する。

奥田（1968-72:62）で「生き物にたいするはたらきかけ」とされている「おう、おいはらう、そだてる、やしなう、かう、かる、かりたてる、ならす、しつける」などの動詞がある。このうち、「追う、追い払う、駆る、駆り立てる」は接近動詞（被接近型）とし、「育てる、養う、飼う、ならす、しつける」は生理的变化動詞（AA 生理的变化型）の周辺に位置づけた（第3章 1.1.3 (p.26) 参照）。しかし、「飼う」という動詞は動物のみを対象とする点で有情主語の受身文には位置づけにくく、また「変化」を表わすわけではないので、位置づけが難しい。次の例は、非情一項受身文のその他に含めた。

- (844)たとえば、母親はわが子に乳をのませることができるよう、生まれつきできていますが、のませる方法は後から身につけます。動物の場合は、主として仲間の模倣で身につけるので、仲間から離されて飼われている動物の中には、乳ののませ方がわからずに、ついには乳を子どもにあたえられないという場合もあるのです。（記憶）

第 6 章 非情主語非情行為者受身文

本章では、主語も行為者もモノないしコトといった非情物である受身文を見ていく。この非情主語非情行為者受身文には、大きく、〈II 現象受身型〉と〈II 関係型〉という 2 つのタイプがを含めた。〈II 関係型〉には、さらに細かい下位タイプである〈II 位置関係型〉、〈II 論理的関係型〉、〈II 影響関係型〉を含めた。そして、〈II 論理的関係型〉には、さらなる下位タイプである、〈II 内在的関係型〉、〈II 構成関係型〉、〈II 象徴的關係型〉、〈II 継承関係型〉という 4 つのサブタイプを含めた。

- II 現象受身型 「炎が風にあおられて燃え広がった」
- II 関係型 II 位置関係型 「この国は海に囲まれた島国だ」
- II 論理的関係型
 - II 内在的関係型 「紫芋にはアントシアニンが豊富に含まれる」
 - II 構成関係型 「委員会は 5 人の役員から構成される」
 - II 象徴的關係型 「高度経済成長は東京オリンピックに象徴される」
 - II 継承関係型 「昔ながらの風景が白川郷に受け継がれている」
- II 影響関係型 「人の性格は環境に左右される」

こうした〈II 現象受身型〉と〈II 関係型〉はいずれも非情物が主語に立ち、行為者も非情物である受身文タイプだが、実際の用例には有情者が主語ないし行為者に立つ場合もわずかながら見られる。

- (1) 彼は、雨に打たれながら歩いていた。〈II 現象受身型〉
- (2) 委員会は 5 人の役員から構成される。〈II 構成関係型〉

しかしながら、こうした例における有情者は、意志や感情を持った人格者としての側面は問題にされていないと考え、非情物相当と見なして、いずれも非情非情受身文に分類している。

なお、〈II 現象受身型〉は、テンス・アスペクト的にアクチュアルな事態であり、これは第 2 レベルの意味・構造的なタイプであると考えられる。一方、〈II 関係型〉は、テンス・アスペクトが超時の特性を表わしており、これが〈II 関係型〉の構造的特徴でもあることから、第 3 レベルの意味・構造的なタイプであると言える。

以下、非情主語非情行為者受身文のサブタイプについて、その意味と構造的特徴を考察していく。

1 II 現象受身型 (II 現象) 「水面が陽に照らされてきらきらしている」

〈II 現象受身型〉とは、主語に立つ実体が、何らかの自然現象による作用の中に取り込まれることを表わす。参照時において眼前に展開する現象を、それを引き起こした原因である自然現象をニ格行為者として描写する受身文である。この現象名詞のニ格行為者は、勢力を持って対象に働きかけて変化を引き起こすような行為者ではなく、自然現象として作用している状況の中に対象を巻き込むだけの存在である。このような自然の動きを、知覚された現れとして述べるのが〈現象受身文〉である。

古代日本語に存在した非情主語受身文について、金水 (1991)は、その多くがその場面で知覚的に捉えられた状況を描写する「叙景文」¹⁶¹であったことを指摘している。〈II 現象受身型〉は、この叙景文としての受身文に重なる。ただし、ここで言う〈II 現象受身型〉は非情主語に限らず、有情者も主語に立つ。

〈II 現象受身型〉のアスペクトは、典型的には状態を表わす「V-ラレテイル」であるが、テンス・アスペクトの対立がないわけではない¹⁶²。

(3) II 現象受身型

対 象 具体 N・ガ SUB	原 因 現象 N・ニ COM	自然現象による作用を受ける 無変化作用 V-ラレテイル
-------------------	-------------------	--------------------------------

「水面が陽に照らされてきらきらしている」 ●能動文が不自然、文末に現れにくい

〈II 現象受身型〉は、より上位レベルの〈現象型〉とでもいうべきタイプのサブタイプとして存在する受身文である。〈現象型〉は、ニ格の現象名詞をその構造の特徴とし、無意志自動詞 (自然動詞) も要素となる。

- (4) 彼女の長い髪が風になびいている。
- (5) 椿の花も雨にぬれていた。
- (6) 霧に煙る／むせぶ／かすむ森

〈現象型〉にはこのほか、「陽に染まる／光る／溶ける／灼ける」「雪に輝く／散る／舞う／埋もれる」「風に揺れる」などがあり、ある程度生産性のあるタイプである。

さて、〈II 現象受身型〉の要素となる動詞は、自然現象のみを行為者とする動詞は少なく、ほとんどが通常の動作動詞である。その中でも対象に変化を引き起こさない、接触動詞や包囲動詞がほとんどである。また、「雨に打たれる」「波に洗われる」などは、対応する能動文で述べるのが極めて難しい。このことも、〈II 現象受身型〉の構造的な特徴と言える。

- (7) 照らされる、吹かれる¹⁶³、あおられる、なぶられる、(雨に) 打たれる、降られる、たたかれる、ひたされる、洗われる、打ち寄せられる、あぶられる、さらされる、おおわれる、つつまれる、かこまれる、etc.

〈II 現象受身型〉は、「V-ラレテ 状態」「V-ラレナガラ 状態」という外部構造、もしくは連体節のような、状態性の高い外部構造で用いられることが圧倒的に多い。文末に現れるこ

¹⁶¹ 「叙景文の特徴は限定された時空に存在する、ものの「現れ」を写し取るというところにある。受動文の新種後は時空を超えた「個体」や「種」の総体として表現されているのではない」(金水 1991:4) とする。

¹⁶² ただし、「V-ラレタ」という形でも、完了的な過去の変化の一点ではなく、過去の参照時における状況を状態的に捉えたものと解釈されるのが普通だろう。

¹⁶³ 本報告では、「風に吹かれる」「雨に降られる」などは、受ける作用が直接的であり、まともな受身 (直接受身) に準ずる受身文と考えている (杉本 1999 参照)。

とはまれである。また、有情主語は可能であるが、用例は少ない。

- (8) 「……道の向こうの方に湖のようなものが見えるんだ。日に照らされてユラユラと揺れている。もちろん蜃気楼じゃないと思う。〔後略〕」(一瞬の夏)
- (9) 彼は汐風に吹かれながら、埠頭を歩いていた。(孤高の人.地)
- (10) その丘の秃げた頂上から、一条の細い煙が、朝の微風になぶられて、ためらうように揺れながら、次第にその勢を増しつつあった。(野火.地)
- (11) ぎんは起き上り障子を開けた。風を交えた豪雨であった。隙間からの雨で縁側の廊下も濡れている。庭土の部分は雨水に浸されてなにも見えない。(花埋み.地)
- (12) 足元の小石はごろごろして草履をはいた足にも歩き難かった。それは元は珊瑚礁の細片らしく、波に洗われて丸くなっていた。(楡家.地)
- (13) 七月の、晴れて、あつい日だった。照りつけるつよい陽にあぶられて、バラック建てのひくい屋並をつらねた街々は、白い埃と陽炎をあげてくすぶっていた。(忍ぶ川.地)
- (14) 「いったいどうしたっていうの、十五日の日に酔っぱらって、また来ると云って出てったっきり、からっ風に飛ばされた枯葉みたいに音沙汰なし、〔後略〕」(さぶ)
- (15) 眼鼻や口にはさして変化はないが、頭髮が薄くなり、三十七年間空気にさらされてきた顔の皮膚はしぶとく厚くなっていて、まぎれもない中年男の顔であった。(植物群.地)
- (16) 南条の山々は、一夜のうちにすっかり真綿のような雪におおわれ、村の家々は終日吹雪にとじこめられた。(越前竹人形.地)
- (17) [前略]自分に今までに一番大きいものを与えてくれた二人の人間が、同時に、同じ場所で死んでいることが、鮎太の心に悲しみよりもっと大きい得体の判らぬ衝撃を与えていた。二つの全く異質なものが、雪に包まれて、息をひそめている感じだった。(あすなろ.地)
- (18) ふたりの存在だけを照らす明るさを残して、豆ランプがともった。部屋は闇に包まれた。(孤高の人.地)
- (19) 何よりも目の奥に残ったのは、花のように白い肌と、一筋の後れ毛もなく今結いあげたばかりのように艶やかな丸髷であった。肌の白さに強められて髪の色も一層黒々として、青い眉は昨日剃ったばかりの新妻のように鮮やかで初々しくさえ見えたのを、加恵ははっきりと覚えている。(華岡青洲.地)

先に述べたように、もともと動作動詞であったものも〈II 現象受身型〉に比喩的に使用されることでこのタイプの要素として定着したと考えられる。しかし、(16)の「とじこめられる」や次のような動詞はまだ比喩的な使用と言えるだろう。

- (20) 昼になっても風雨は弱まる気配はなかった。二階の蚕室の窓からみると煙も街道もすべてが白い雨にぬりつぶされている。(花埋み)
- (21) スコットランドの火山岩地帯を切り裂くように細長く斜めに走るネス湖は、不思議な湖である。すべてが霧と氷に閉ざされるスコットランドの冬がやって来ても、この湖は凍らない。(ブンとフン.地)

次の例のように、主語の部分がヲ格で現れた例もある¹⁶⁴。

- (22) 私も、Aさんも、Oさんも、足もとを波で洗われ、裸足になって頑張った。日本海の海水は恐ろしく冷たく、長く足をつけていると感覚がなくなる。(風に吹かれて.地)

¹⁶⁴ 〈II 現象受身型〉は、接触動詞が多く要素となっていることから、〈AA 接触型〉と構造的な特徴が似ているのだろうか。

II 現象受身型の周辺と他のタイプ

上で見てきたように、包囲動詞による受身文は、二格に現象名詞が立つと、〈II 位置関係型 (II 関係)〉から〈II 現象受身型〉へ移行する。

- (23) 月の光に見ると、僕等の舟は泡立った波に囲まれて、湾の中心を村とは反対の方角にやや押し流されて、ぽつんと孤立していた。(草の花.地)
- (24) 金閣が見えはじめた。木立のざわめきに囲まれて、それは夜のなかで、身じろぎもせず、しかし決して眠らずに立っていた。(金閣寺.地)

〈AA 接触型 (AA 無変化)〉の二格に有情者ではなく現象名詞が立つと、〈II 現象受身型〉へ移行する。

- (25) 加藤は雨の中で野宿したときのことや、みぞれに打たれながら一晩中、歩きつづけたことなど思い出していた。(孤高の人.地)
- (26) 曲目が終り、アンコールも終わった。僕がホールの中から人波に押されて出て来ると、明るい廊下に、菅とし子が少し顔色を蒼ざめさせて、僕を待って立っていた。(草の花.地)

次のような非情主語の受身文も〈II 現象受身型〉であるが、こうした受身文にも、二格の行為者から接触のはたらきかけを受けるという意味が残っている。よって、非情主語の接触動詞による〈II 現象受身型〉は、非情主語一項受身文である〈I 無変化型 (I 無変化)〉ではなく、この〈AA 接触型 (AA 無変化)〉から派生したのではないかと考えられる。

- (27) 昔どおりの小舎だ。わずかな砂洲の端に建てられたそれは、床几が一つ置いてあるきりで、雨に叩かれて木目が出ていた。(越前竹人形.地)
- (28) 丘の頂上の草は、水の流れに押されて、靡いていた。そして火は頂上を取り巻く低く黒い林に向って、追われるように、逃げて行った。(野火.地)

「吹き飛ばされる」「流される」などは、主に現象名詞が二格に立つことから〈II 現象受身型〉に近いが、二格やマデ格などの着点場所と共起した場合は〈I 位置変化型 (I 変化)〉に分類した。次の例は着点場所が省略されているが、「-テキタ」という形式で位置変化が表わされているので、〈I 位置変化型〉とした。

- (29) 木綿のモンベをつけ、白いほおかぶりをしながら、かよはしやがみ込み、押し流されてきた大石を抱え込んでいる。(花埋み.地)

同様に、「崩される」「壊される」などの状態変化動詞が二格の現象名詞と共起した場合も、その現象名詞は変化を引き起こす自然勢力であり、人間の動作主に準ずるものと考えた。よって、これは、〈I 状態変化型 (I 変化)〉とした。

- (30) さらにまた夏作は洪水でよくいためつけられたが、洪水のない年には夏作はもちろん、春作は上流から運ばれてきた肥沃な土壌のため農作に恵まれた。(花埋み.地)

「AN-ガ 病気におかされる」などは〈AI 心理・生理的状态型 (AI 状態)〉であるが、次の例は、まだ〈II 現象受身型〉であると見なした。

- (31) 「また出たのですよ。この前治りきらないうちに向島まで出歩いて雨に当てられた故かもしれません」(花埋み)

2 II 関係型 (II 関係)

〈II 関係型〉とは、主語に立つ実体ないし属性とニ格やカラ格で現れる実体ないし属性との間の関係を表わす受身文である。この〈II 関係型〉におけるニ格やカラ格などの名詞句は、対応する能動文の主語に立てるという意味で「行為者」と呼ぶが、意味的にはこれを「行為者」と呼べるかどうか疑問が残る。

〈II 関係型〉の構造的な特徴としては、行為者が非情物であるということに加え、テンス・アスペクトが基本的に時間を越えた超時の事態を表わすということがある。これは、〈II 関係型〉が、時間軸上に起こる、非常に広い意味での「変化」を語るものではなく、「関係」を語るタイプであることによる。

〈II 関係型〉には、つぎの6つのサブタイプがある。このうち、〈II 内在的關係型〉、〈II 構成關係型〉、〈II 象徴的關係型〉、〈II 継承關係型〉をまとめて〈II 論理的關係型〉とした。〈II 論理的關係型〉は、現実界の作用として実際に起きることではなく、論理的に結び付けられた関係を表現する受身文である。

II 位置關係型 「日本は海に囲まれた島国だ」

II 論理的關係型

II 内在的關係型 「紫芋には、アントシアニンが豊富に含まれる」

II 構成關係型 「この素粒子は、3つのクォークから構成される」

II 象徴的關係型 「この国の経済活力の低さは、高い失業率に象徴されている」

II 継承關係型 「昔ながらの風景が、白川郷に受け継がれている」

II 影響關係型 「人間の性格は、環境に左右される」

これらの〈II 関係型〉のサブタイプは、テンス・アスペクト的に超時という特徴を持ち、抽象度も高い受身文タイプであることから、第3レベルの意味・構造的なタイプであると考ええる。ただし、本報告の分類では、〈II 影響關係型〉に個別具体的な例も含まれてしまっている。本来なら、この個別具体的な例は、〈I 事態実現型〉の中に1つのサブタイプとして立てるべきであるが、用例が少なかったため、すべてここに含めてしまった。

以下では、〈II 関係型〉の6つのサブタイプについて、その意味と構造的な特徴、及び他のタイプとの相互関係を考察していく。

2.1 II 位置關係型「この国は山に挟まれている」

〈II 位置關係型〉は、主語に立つ実体とニ格名詞句に立つ実体との位置関係を表わす。AとBとの位置関係を表わすわけであるから、ニ格ないしデ格、もしくはニヨッテの名詞句は構造上義務的な要素となる。このニ格名詞句は場所名詞である必要はなく、むしろ空間化のてつづき（「～の下に」「～の間に」など）をされると、〈I 存在様態型 (I 存在)〉に移行する。このニ格名詞と動詞述語との語順上のむすびつきは強く、間に他の名詞句が介入することはまれである。また、〈II 位置關係型〉が表わす位置関係は、ある一定期間動かない実体の間の位置関係であるので、行為者に有情者が立つことはなく、主語に立つのも基本的には非情物である。

時間的には、先行する変化が想定されず（もしくは存在せず）、発話時に存在する位置関係だけが主語に立つものの「特性」として述べられる。よって、〈II 位置關係型〉は〈I 特徴規定型〉のサブタイプであるとも考えられる。そのため、〈II 位置關係型〉は、連体修飾の外

部構造で用いられることが多い。

(32) II 位置関係型

対 象	行 為 者	位 置 関 係 に あ る
具体 IN1-ガ SUB	具体 IN2-ニ/デ/ニヨッテ COM	包围 V-ラレテイル

「この国は（周囲を）山に挟まれている」

包围動詞：囲まれる、取り囲まれる、囲われる、はさまれる、包围される、包まれる、覆われる、巻かれる、しきられる、区切られる、etc.

次のような用例がある。

- (33) ユーカリ林に囲まれた近郊の国立公園では、カンガルーやコアラを野生の姿で観察できる。
(毎日)
- (34) 鋳鉄製の唐草模様の柵でかこまれた美しい邸のなかで彼がどういうふうにも暮らしているのか、そこでなにが起っているのか、ぼくには見当のつけようがなかった。(裸の王様.地)
- (35) 母の髪はそれほど白くはないのに、燈火が映えてそう見えたのである。その髪に囲まれた小さな顔は動かなかった。(金閣寺.地)
- (36) 僕はチェロと太鼓にはさまれたところに転がっている手風琴に目をとめて、それを拾いあげてみた。(世界の終わり.地)
- (37) いつもは錠前の掛った入口を明けると、土間の向うに祭壇のある八畳間、その隣が六畳の控室、そして裏に、厚い壁に仕切られて、解剖室が附いていた。(草の花.地)
- (38) 動物の生活圏は眼に見えない城や壁や境界標によって種族ごとに区切られ、領土は固く守られるのがふつうの場合である。ある地方では、一軒の家の屋根裏に住むネズミと床下や溝に住むネズミとで、もう種族のちがってることがあるくらいなのだ。(パニック.地)
- (39) 火葬場は木立に包まれ、炭焼小舎に似ていた。(草の花.地)
- (40) 口の中は粘膜でおおわれている。(たべもの)
- (41) 「気管から左右に分れて肋骨におおわれる部分に両の肺臓、左の肺の下に隠されるように拳大の心臓、右は傘形に肝臓、横隔膜を境いに腹部となり左に脾臓、【後略】」(花埋み)

特に小説の地の文というジャンルに、包围動詞によって人物の身体特徴を描写する受身文が顕著に現れる。これも、〈II 位置関係型〉に位置づけたが、上に挙げた例に比べ、超時というより一時的状態を表わす例も見られる。

- (42) 紺色のセーラー服に似た洋服を着て、女子高校生の年頃である。白粉気のない薄桃色の顔はうぶ毛で覆われているようにみえた。(植物群.地)
- (43) そこで大人たちの不精鬚におおわれた、貧しく陰険な顔が緊張にゆがみながら少年を見おろした。(不意の唾.地)
- (44) しかし老師のふくよかな皺に囲まれた目は、何の感興もあらわさずに、私を経て隣りの顔へ移って行った。(金閣寺.地)
- (45) 眺めている彼の眼に、明子の裸体が映っている。それがセーラー服によって覆い隠されているために、余計あらわに浮び上ってくる。(植物群.地)
- (46) 一方、隣にボアのショールに包まれて、しかし明らかに首をしゃっきりさせて乗っているその姉龍子のほうは、そんな職人の挨拶にはてんで気がつかないようだった。(檜家.地)

次は、主語に立つ実体の部分ないし側面がヲ格名詞句で現れている例である。

- (47) 裏庭はひっそりとして三方を社屋で取囲まれ、一方は櫟の木の茂る岡の麓につづいている。
(黒い雨.地)

- (48) 一つの丘があった。両側を細い支流に区切られて独立し、芒が馬の鬣のように、頂上まで匍い上っていた。(野火.地)

II 位置関係型の周辺と他のタイプ

「N-ニ さえぎられる」という動詞は、包囲動詞とは言い難く、また、特殊な振る舞いを見せる。文末に現れることはほとんどなく、「雲に遮られた富士山」と言えば、2つの実体の位置関係を単純に表わしているようであるが、「富士山が雲に遮られて見えない」と言えば、2つの実体と視点者との位置関係が表わされる。特殊な動詞であるが、〈II 位置関係型〉の周辺に位置づけることにする。

- (49) 塔の外に広がっている夜景に眼を向けて、彼はしばらく沈黙していた。昇降機の出入口に遮られて姿は見えないが、円型展望台の向う側から、若い男女の声が相変わらず聞えてきていた。(植物群.地)

「具体 N-ガ 有情者-ニ 包囲 V-ラレル」という構造になると、〈AA 接近的態度型 (AA 態度)〉を表わす。次の(50)がそうであるが、(51)と(52)はまだ〈II 位置関係型〉である。ただし、行為者が組織や団体のような有情者性を帯びているため、〈AA 接近的態度型〉に近づいている。

- (50) 「(見据えて) さっき、週刊誌の記者に囲まれた」(砂の上の恋人たち)
(51) 北九州ジムは国鉄小倉駅から十分ほど歩いたところにあった。一般の商店や事務所にはさまれながら、辛うじてその存在を主張しているといったかたちの間口が二間あるかないかの小さなジムだった。(一瞬の夏.地)
(52) ロシア革命後、第二次世界大戦までの時期には、社会主義国家はソ連一国に代表されていただけであり、そのソ連が資本主義諸国に包囲されていた。(二十世紀)

「具体 N-ガ 現象 N-ニ 包囲 V-ラレテイル」という構造は、〈II 現象受身型 (II 現象)〉である。次の例はいずれも〈II 現象受身型〉である。

- (53) 「その石、御影石だからな。今朝がたまで、青苔で包まれておった石だろう」(黒い雨)
(54) 12月初旬のウィーンは、市内で最もにぎやかなショッピング・ストリートと言われる聖シュテファン大寺院とオペラ座を結ぶケルントナー大通りをはじめ、随所にクリスマスツリーが立ち並ぶ華やかな雰囲気包まれていた。(毎日)

〈II 位置関係型〉を構成する包囲動詞は、もともと状態変化を表わす動詞である。次の例も、先行する変化がほとんど想定されておらず、特徴規定的ではあるが、意志的な動作主の含意があり、二格ないしデ格名詞は道具的である。これらの例は、〈I 状態変化型 (I 変化)〉に分類した。

- (55) 白布に包まれた棺が唐門を出るとき、曇った空一杯の雲がわずかばかり割れて陽がさしてきた。(雁の寺.地)
(56) 『砂糖入りの甘いお汁粉』というピラが下手糞な墨の字で書かれて、その下に、『但し本日は五人限り』と断わり書きがしてあった。ピラは竹の棒に挟まれて地面に突きさされてあった。(あすなろ.地)
(57) ぎんは立ち上り男に命じられるままに白い布で囲まれた部屋の前へ入った。(花埋み.地)

上の(55)と(56)の二格はデ格で言い換えることもでき、道具的であるが、次のように、二格名詞が明確に空間を表わして、「場所 N-ニ 具体 N-ガ 位置変化 V-ラレテイル」という構造になると〈I 存在様態型 (I 存在)〉を表わす。

- (58) なだらかな裾一円は、すっかり葉の疎らになった落葉樹林にかわっていたが、山の赤い地肌のすけてみえるあたりに、紅葉した楓がいくつもはさまれて映えている。(雁の寺,地)
- (59) 美術年鑑を美術関係書ばかりが並んでいる棚のものと位置へ戻そうとした七瀬は、数冊隔てた場所に「現代洋画家略伝」という美術雑誌の特集号が部厚い書籍の間にはさまれているのを見つけた。(エディプス,地)

2.2 II 論理的関係型

〈II 論理的関係型〉とは、現実界にある関係ではなく、話し手の頭の中で論理的に結び付けられた関係を表わすタイプである。〈II 論理的関係型〉は、〈II 内在的關係型〉、〈II 構成関係型〉、〈II 象徴的關係型〉、〈II 継承関係型〉の4つに大きく分類される。

- II 内在的關係型** 「イチゴにはビタミン C が豊富に含まれる」
II 構成関係型 「委員会は 5 人の議員から構成されている」
II 象徴的關係型 「西欧先進国はイギリスに象徴される」
II 継承関係型 「昔ながらの飛騨の風景が、白川郷に受け継がれている」

この4つのサブタイプのうち、〈II 構成関係型〉以外は、栗原（2005）で「定位のための受身表現」とされた受身文タイプである。よって、〈II 内在的關係型〉と〈II 象徴的關係型〉、〈II 継承関係型〉は、論理的な関係を表わすと同時に、ニ格名詞句が、ガ格名詞句が示す実体の現れる／存在する「場」であるという存在文的な特徴もあわせもっている。

また、〈II 論理的関係型〉を構成する2つの参与者（主語＝対象と行為者）は、まったく別個の2つの実体ではなく、非常に広い意味で「全体・部分」の関係にあると言える。〈II 構成関係型〉は、まさに「全体・部分」の関係であるし、〈II 内在的關係型〉と〈II 象徴的關係型〉、〈II 継承関係型〉では、ニ格名詞句が、ガ格名詞句が示す実体ないし属性を特徴として持っているという関係と見なせる。こうした受身文は、現実界で起こる、対象への具体的な働きかけを表わす受身文から派生したタイプと考えられる。

2.2.1 II 内在的關係型「イチゴにはビタミン C が豊富に含まれる」

〈II 内在的關係型〉とは、主語に立つモノ／コトがニ格で示されるモノ／コトに内在していることを表わす。ニ格名詞句は主語に立つ非情物の内在する場所である。さらに、このタイプの構造的特徴として、内在場所を表わすニ格名詞句を主語にした能動文と対立している、ということが挙げられる。

(60) II 内在的關係型

行為者=場所	対 象	内 在 する
IN1-ニハ COM	IN2-ガ SUB	含有 V-ラレル/ラレテイル

「イチゴにはビタミン C が豊富に含まれる」

ここで注意したいのは、ニ格で表わされる名詞句は対応する能動文の主語に立つ実体なのだが、行為者性はほとんどないということである。行為者らしさの特徴である意志性がないのはもとより、「イチゴはビタミン C を含む」のような他動詞文において、ヲ格で示される名詞句は、主語と別個に存在する実体ではなく、主語の部分として主語に内在する実体である。さらに、受身文においても、ニ格名詞句が主題化されたり、受身文主語に前置することが多いという、存在文の構造的特徴を示す。これは、まさにこのニ格名詞句が行為者的では

ない，ということの現れである。

さて，奥田（1960）を参照すると，内在の関係を表わす連語を構成する動詞には，「もつ，ふくむ，おびる，そなえる，やどす，ひめる，とどめる，かく（欠く）；保有する，含有する，包含する，具備する」などが挙げられている。しかし，これらの中でヲ格名詞を主語にした受身文で述べることができる動詞はかなり限られている。それは，内在の関係を表わす他動詞文が，主語が全体であり目的語が部分であるという，同一実体内の関係を表わす，再帰的な文であることが関係しているだろう。

また，〈II 内在的関係型〉は，栗原（2005）の「定位のための受身表現」の「含む類」に相当する。栗原（2005）は，このタイプに現れる動詞として次のものを挙げている。この他，「秘める」なども〈II 内在的関係型〉を構成する。

(61) 含有する，含む，内包する，包含する，包摂する，内蔵するなど

以下，実際の用例を見てみよう。

- (62) これと同じように，物質は何であれ，1 モルの中には同数の原子または分子がふくまれている。（化学）
- (63) 「[前略]それ以外の者は三十分前に出発する。可哀相だが移動の時間は練習時間には含まれない。以上」（自転車.夏）
- (64) ただ，ここで「中」とは，ブルジョアジーのこと、いわばお金持ちのことである。プロレタリアートまたは貧乏人は，そこには含まれない。（ゆとり）
- (65) 本陣の娘という身分柄には微妙な意味合が含まれていることに，佐次兵衛は迂闊にもごく近頃になって気がついたのである。（華岡青洲.地）
- (66) このお時の行動には，情死という感情に密着しない，何かが含まれていそうだった。（点と線.地）
- (67) 東照宮の彫刻に秘められた意味を研究している東照宮神職の高藤晴俊さん（51）は，有名な「眠り猫」の裏にスズメの彫刻があることに注目している。（毎日）
- (68) このイヤフォンにはマイクが内蔵されている。

II 内在的関係型の周辺と他のタイプ

さて，この〈II 内在的関係型〉は，〈I 抽象的存在型（I 存在）〉タイプに非常に似てくる場合がある。例えば，次の(69)は上の(67)に近い意味を表わしている。いずれも，ニ格名詞句は主語に立つモノないしコトが内在する場所を表わしている。しかしながら，(69)，(70)はニ格名詞句を主語にした能動文との対立関係がないので，これらは〈I 抽象的存在型〉に位置づけられる。

- (69) 東照宮の彫刻に隠された意味を研究する。
- (70) 国際会議場の命名には，サミットを「宮崎観光浮揚の切り札に」と期待する2人の思いが込められている。（毎日）

〈I 抽象的存在型（I 存在）〉に意味・構造的に近いことからもうかがえるように，〈II 内在的関係型（II 関係）〉を構成する代表的な動詞である「含む」は，本来は位置変化動詞であろう。「口に物を含む」など，主語に立つ動作主の身体部位ないし所有物に対象を持つことを表わす動詞である。

「浮き彫りにされる」などの動詞は，ニ格名詞句で表わされている内在場所以外の何らかの動作主を想定することも可能だが，ニ格名詞句を主語にした他動詞文で述べることも可能な場合がある。つまり，何らかの動作主を主語にした能動文と，内在場所を主語にした能動文のいずれとも対立関係にあるのである。

- (71) a. まず、IT 面から各社の問題点が浮き彫りにされます。
 b. わが社は、まず、IT 面から各社の問題点を浮き彫りにします。：動作主主語
- (72) a. この結果には、各社の問題点が浮き彫りにされている。
 b. この結果は、各社の問題点を浮き彫りにしている。：内在場所主語

「封じ込められる」という動詞もまた、動作主を想定することも可能だが、二格名詞句を主語にした他動詞文を想定することも可能な場合がある。手元のデータからの観察では、「封じ込める」という動詞は連体修飾での使用が多いようである。こうした構文環境も、〈II 内在的関係型 (II 関係)〉への抽象化を促しているだろう。

- (73) a. カニの美味しさを封じ込めたグラタン
 b. カニの美味しさが封じ込められたグラタン
 c. そのグラタンは、カニの美味しさを封じ込めている。
- (74) a. 中世の香りを封じ込めたアクセサリー
 b. 中世の香りが封じ込められたアクセサリー
 c. そのアクセサリーは中世の香りを封じ込めている。

このような例の存在は、〈II 内在的関係型 (II 関係)〉が〈I 位置変化型 (I 変化)〉から派生したタイプであることを表わしている。

2.2.2 II 構成関係型「委員会は 5 人の議員から構成されている」

〈II 構成関係型〉とは、カラ格やデ格、ニヨッテで標示される名詞句が構成部分として、主語で表わされる非情物に属していることを表わす。このタイプの要素となる動詞は、「構成される、組み立てられる、形作られる、形成される」など限られている。

(75) II 構成関係型

全	体	構	成	部	分	構	成	的	関	係	に	あ	る
IN1	-ハ	SUB	IN2	-カラ	/デ	ニ	ヨッテ	/ヨリ	COM	構	成	V	-ラレル/ラレデイル

「委員会は 5 人の議員から構成されている」

実際の用例には、「構成される」しか見つからなかった。構成部分を表わす名詞句の標示形式順に例を挙げる。

- (76) [前略] とくにその中でも、従来より家族形態が単純化され、夫婦とその子供から構成される小家族が圧倒的に大きいパーセンテージを占めるようになることなどは、注目すべき現象であろう。(タテ社会)
- (77) そのため物体はますます地平面に近づき、むしろブラックホールから構成された宇宙になってしまう。(時間の不思議)
- (78) 衆議院議員選挙法も、貴族院令も、同日に公布されたが、貴族院が皇族・華族・多額納税者で構成されることになったのはまだわかるとして、衆議院すら、選挙権は直接国税十五円以上を納める二十五歳以上の男子の記名投票に制限されたのだった。(近代の潮流)
- (79) 恐怖と怒りと快樂の三者で、人間の感情の基本が構成されているわけです。(全能型勉強法のすすめ)
- (80) 日本の小料理屋にせよアメリカのレストランにせよ、複数の人間によって構成された立派な経営組織体である。(稟議と根回し)
- (81) 集団が資格の共通性によって構成されている場合には、その同質性によって、何らの方法

を加えなくとも、集団が構成されうるものであり、それ自体明確な排他性をもちうるものである。(タテ社会)

(82) すなわち、居住(共同生活)あるいは(そして)経営体という枠の設定によって構成される社会集団の一つである。(タテ社会)

(83) 日本髪は四つの部分より構成される。(近世の日本)

2.2.3 II 象徴的関係型「西欧先進国はイギリスに象徴される」

〈II 象徴的関係型〉とは、主語に立つ抽象的概念が二格名詞句で示されるモノないシコトに象徴的に現れていることを表わす。〈II 象徴的関係型〉の主語には抽象名詞が立ち、この抽象概念を二格名詞句が属性として持っているとも言える。また、このタイプの受身文は、二格名詞句を対応する能動文の主語にして述べることができるという構造的特徴を持つ。

(84) II 象徴的関係型

対 象 抽象 N-ハ	出現場所=行為者 I N・ニ	象 徴 的 出 現 象徴 V-ラレル/ラレテイル
---------------	-------------------	-----------------------------

「西欧先進国はイギリスに象徴される」

この〈II 象徴的関係型〉は、栗原(2005)が提唱する「定位のための受身文」のうちの「現れる類」に重なる¹⁶⁵。〈II 象徴的関係型〉の要素となる動詞は、次のような動詞である。

(85) 象徴される、代表される、凝縮される、体現される、具体化される、具現される、結実される、集約される、反映される、etc.

以下、具体的な用例を見てみよう。

(86) 大交易時代の再来とダブるサミットへの県や県民の思いは、部瀬名岬の突端に建設中のメーン会場「万国津梁(しんりょう)館」のネーミングに象徴されている。(毎日)

(87) この集団認識のあり方は、日本人が自分の属する職場、会社とか官庁、学校などを「ウチの」、相手のそれを「オタクの」などという表現を使うことにもあらわれている。／この表現によく象徴されているように、「会社」は、個人が一定の契約関係を結んでいる企業体であるという、自己にとって客体としての認識ではなく、私の、またわれわれの会社であって、主体化して認識されている。(タテ社会)

(88) ロシア革命後、第二次世界大戦までの時期には、社会主義国家はソ連一国に代表されていただけであり、そのソ連が資本主義諸国に包囲されていた。(二十世紀)

(89) 一方で、東京オリンピック(1964年)に代表される戦後の高度経済成長が、富士山をますます身近な山にした。(毎日)

(90) 「エコファンド」に代表される資金調達面での企業選別の動きに加え、企業自身が社内の「環境指針」などにより、環境負荷の少ない製品や部品を優先的に購入する「グリーン調達・購入」を進めており、ISO取得の有無はその前提条件となっている。(毎日)

¹⁶⁵ 栗原(2005)は、「現れる類」に用いられる動詞として、次のような動詞を挙げている。

凝縮する、体現する、具体化する、具現する、抽象化する、結実する、集約する、反映する、集大成するなど

栗原(2004)は「代表される、象徴される」をこのタイプに分類していたようだが、栗原(2005)はこれらの動詞を「現れる類」から外している。「凝縮される、結実される、集約される」などと異なり、「代表される、象徴される、体現される」などは二格名詞をニヨッて表わすことも可能である。この点で、単なる「出現場所」とは異なるようである。また、前者は二格名詞句を「は」で主題化し、二格名詞句の性質を述べる文として表現することが可能であるのに対し、後者はこうした述べ方が難しいように思われる。

- (91) 人物の躍動感や輝かしい色彩など「ルーベンス作品の特徴」がこの1点に凝縮されていると言
って過言ではない。(毎日)
- (92) 彼らの神がかり的な神秘体験もしくは法悦体験は、本人の人格を永続的に変換させる象徴
的な行為であり、「そのさい神霊」は、いわば彼らの肉体の内部に同化され体現されている。(神
と仏)
- (93) もっとも私たちを招待したウィリアムズ氏は、「憲法に具体化された外来の政治原理」とは、
欧米民主主義のことであり、日本国民はこれを心から受け入れた」と論文にも書いているく
らいだから、もとのボスのため弁明にまわる。(憲法を読む)
- (94) その過程のなかに、「ヨーロッパに形成された市民階級の利害関係」が反映されている。(近世
の日本)

II 象徴的関係型の周辺と他のタイプ

次のように、象徴的に出現する場所を表わす名詞句が二格以外で現れることもある。二格
以外の形式をとると、〈I 態度型 (I 態度)〉の〈I 表現型 (I 態度)〉へ近づく。

- (95) 日本の料理が包丁で代表される「海岸文化的料理」であるのに対して、ヨーロッパをはじめと
する料理は、煮込み料理に代表されるといってもよい。(たべもの)
- (96) 「西欧」(とくにイギリスによって代表される)が先進国であるというのは、年代的に工業化
(industrialization)のはじまりが早かったという歴史的事実なのであって、現在の日本の工
業化の水準が西欧の国々より低いということではない。(タテ社会)

主に抽象名詞が主語に立った「示される」という動詞による〈I 表示型 (I 変化)〉(〈I 表
示型)〉が、時間を越えた一般的なテンスで述べられると、〈II 象徴的関係型〉へ移行する。

- (97) 「近代国家のイデオロギー」は、「自由・平等の標語」に示されるが、これは人間を抽象的均一な
ものにかえてしまう結果にもなった。(憲法を読む)
- (98) しかし「大新聞の多く」は、『大阪朝日新聞』に典型的に示されるように、ポリシェヴィキのこ
とを「過激派」と呼んだ。(近代の潮流)
- (99) 「ドゴールの脱アメリカ政策」は、「ドル防衛のための「金プール」、すなわち、六〇年に成立し
た金輸出の欧米八ヵ国共同市場を、六七年度の夏、フランスが脱退した事実」にも示される。(二
十世紀)
- (100) 原田氏の指摘によれば、この新吉原も寛文ころから大名・旗本・町奴などの遊び場から、
紀文・奈良茂などの豪商の大尽遊びに示される「町人の遊興」地に変化してくるのだ。(近世の日
本)

2.2.4 II 継承関係型「昔ながの風景が白川郷に受け継がれている」

〈II 継承関係型〉とは、主語に立つ非情物が二格で示される実体に継承されて存在するこ
とを表わす。これは、栗原(2005)が「定位のための受身文」の「受ける類」として提唱し
た受身文タイプである。主語に立つ実体と二格で示される実体は、継承される対象と継承先
という関係にあるが、二格で示された実体を主語にした能動文で述べるができるという
特徴を持つ。この継承の関係は、実際に現実界で起きた事態ではなく、論理的に結び付けら
れた関係であるため、「II 論理的関係型」に位置付けたが、栗原(2005)が「定位」として
いるように、構造的に存在文にも近い。一方で、他の〈II 論理的関係型 (II 関係)〉と異な
り、ラレル形とラレテイル形の対立は中和せず、テンスの対立も持っている点で、他のタイ
プほどには抽象化が進んでいないようである。

(101) II 継承関係型

対 象	継承先=行為者	継 承 関 係 に あ る
IN1-ハSUB	IN2-ニCOM	継承V-ラレテイル

「昔ながらの飛騨の風景が白川郷に受け継がれている」

栗原（2005）では、以下の動詞が挙げられている¹⁶⁶。

(102)受け継がれる、踏襲される、引き継がれる、継承される、襲名される、吸収される、etc.

統計を取ったデータには用例が見つからなかった。手元の追加データには、以下のような例が見られる。手元の用例を見る限りでは、ニ格名詞句が主題化された用例は見あたらない。

(103)この伝統は弥生時代の稲作の高い技術に受け継がれ、やがて日本の近代化や科学技術文明を受け入れる際、有効に働いた。（毎日6月3日）

(104)この告発の文学は、俳句よりもむしろ百年後の川柳に受け継がれていると思います。（毎日5月14日）

(105)だから、浪花節のようなものは消えた。内容やフィーリングが、時代に合わなくなったとことがあります。それと、浪花節は一時、演歌にとって代わられた。短くなって、演歌に受け継がれた。気付かないところで、別のジャンルに受け継がれる。（毎日1月28日）

(106)この印象派に刺激を受けたフィンセント・ファン・ゴッホらは自身の精神的内面を大胆な色彩で描き、こうした色彩の冒険はさらにアンリ・マティスらのフォービズムに受け継がれた。（毎日1月24日）

(107)その基本精神は現在のボランティア情報面などに引き継がれ、毎日新聞の震災報道のバックボーンとなっている。（毎日1月16日）

栗原（2005）は、「吸収される」という動詞も挙げているが、「吸収される」では、テンス・アスペクト的に超時の特性を表わす例は見つからなかった。次の例は、やはり実際に現実界で起きた出来事ではなく、論理的に結び付けられた関係を表わしているが、完了的なアスペクトで述べられている。

(108)▼[成人の日が]1月10日では、私の大学では、冬休みに吸収されてしまうので無意味。代わりの休日をよこせ！（電通（3）男）（毎日1月14日）

(109)多様性の追求が成功のカギであり、東北や九州はその意識で自立的によくやっている。事実、成長率が高くなっています。それに反して関西はちょっと東京に吸収されすぎちゃったんじゃないですか。（毎日4月15日）

後で述べるように、「吸収される」は他のタイプとの移行関係も他の動詞とは異なり、〈II 継承関係型〉の中では異質な動詞である。

次の例は、ニ格行為者相当の実体が主題化され、「は一が構文」のような構造になっている。

(110)「赤毛のアン」の舞台で作者L・M・モンゴメリの故郷として日本でも人気のカナダ東海岸の同島は、美しい自然や移民当初からの古き良き伝統が受け継がれて魅力的だ。（毎日2月2日）

II 継承関係型の周辺と他のタイプ

〈II 継承関係型〉は、〈I 所有変化型（I 変化）〉の〈奪取型〉が抽象化することで派生したタイプと考えられる。〈奪取型〉とは、所有権が移動する対象を受け取る側（もらう側）の有

¹⁶⁶ 栗原 2004 では、この他に「入力されたデータは、サーバーに記録されます」という例が挙げられている。本稿の〈I 表示型（II 変化）〉にも近いだろうか。

情者が、対応する他動詞文（能動文）で主語に立つ受身文のことである。〈奪取型〉では、「盗まれる、買われる」といった動詞による受身文が多いが、「譲り受けられる」などは、「受け継がれる」という動詞に近いだろう。

(111)a. 外資系企業が株式の 20%を譲り受けた。

b. 株式の 20%が外資系企業に譲り受けられた。〈I 所有変化型 (I 変化)〉

(112)a. 孫たちが家のしきたりを受け継ぐ。

b. 家のしきたりは、(孫たちに)受け継がれた。〈I 所有変化型 (I 変化)〉

(112)b のような受身文において、動作主である「孫たち」は同時に所有権の移動先でもある。こうした受身文で、二格の「移動先」に場所やモノを立てることで、非情物と非情物との間の関係を比喩的に表現することが慣習化し、〈II 継承関係型〉がタイプとして定着していったと考えられる。次の例は、受け取る側の有情者にまだ意志性が認められるので、〈I 所有変化型 (I 変化)〉であるが、この動作主がすでにへ格で標示された例もある。

(113)たゆまぬ修練と技術の伝承が伴う芸能がたいいそうであるように、「弓馬の芸」も次第に「家の芸」として特定の家に受け継がれるようになった。(毎日 5 月 15 日)

(114)公社の事業はやがて日本たばこへ、さらに財団法人の塩事業センターへと受け継がれた。(毎日 6 月 14 日)

「継承する、引き継ぐ」といった動詞では、与える側と受け取る側の両方が他動詞文の主語に立つことができる。

(115)a. 日系一世たちが、子孫に日本語を継承する。

b. 子孫が、一世たちから、日本語を継承する。

(116)a. 和夫は、後輩に仕事を引き継いだ。

b. 和夫は、先輩から仕事を引き継いだ。

こうした他動詞文が、対象がガ格に立つ受身文で述べられた場合、与える側と受け取る側のいずれが動作主であるかは曖昧になる。しかし、ここでもやはり二格（ないしへ格）で示される「受け取る側」は、動作主的でもあり、移動先でもある。次の例はいずれも〈I 所有変化型 (I 変化)〉である。ただし、(120)は対象がかなり抽象的な実体であり、〈II 継承関係型〉へ近づいているとも言える。

(117)昨年 5 月に経営破たんした第二地銀上位の幸福銀行（本店・大阪市）の営業譲渡問題は、米個人投資家のウィルバー・ロス・ジュニア氏が主宰する投資ファンドなどが一括買収し、今年 12 月末にも設立する新銀行に資産が継承されることになった。(毎日 5 月 19 日)

(118)コンサートに河島家は総出になる。[中略]回を重ね、長女から二女へ、今は高校生の長男へと仕事は引き継がれている。(毎日 5 月 16 日)

(119)県警監察官室によると、2 人は 1997 年 3 月 3 日、当時高校生だった被害者から調書を取り、診断書の提出も受けた。しかし、同 24 日付で 2 人とも署内で担当がかわり、関係書類も後任に引き継がれなかったという。(毎日 4 月 8 日)

(120)その志は、84 年から 13 年余り総主事を務めた草地賢一さん（今月 2 日病死）らスタッフに引き継がれた。(毎日 1 月 20 日)

以上、〈II 継承関係型 (II 関係)〉が〈I 所有変化型 (I 変化)〉から派生したタイプであることを考察した。一方、「吸収される」という動詞では、対象の移動先の二格に有情者が立つことがなく、これはもともと〈I 位置変化型 (I 変化)〉であったと考えられる。しかし、「吸う、吸い込む、吸収する」という動詞は、具体的な位置変化を表わすタイプでも、やはり着

点場所の二格名詞句が行為者的で、この二格名詞句を主語にした能動文が成立する。(122)では、「の中に」という形で空間化されているが、やはり「その軀」を主語にした能動文で述べるができる。この二格名詞句には意志性はないが、対象を「吸収する」性質を持つ実体であり、現実界で起きたこととして述べられていると言える¹⁶⁷。

- (121)例えば、炭酸ガスが出て大気と地面、海に吸収されれば問題ないが、大気の炭酸ガス吸収能力は海の100分の1にも満たないのに、炭酸ガスの半分が大気中に残っている。(毎日)
- (122)しかし、彼が京子の軀に加える荒々しい力は、抵抗なくその軀の中に吸収され、かえってその軀を生き生きとさせ、その皮膚は内側から輝きはじめる。(植物群.地)
- (123)漆喰壁では、二酸化炭素を吸収するのは乾くまでの間であり、吸収された二酸化炭素は壁面に固定されてしまう。(化学)

2.3 II 影響関係型「人間の性格は環境に左右される」

〈II 影響関係型〉は、主語に立つ非情物が持つ性質に対して、二格名詞句で表わされる実体や属性が影響力を持っているという関係を表わす¹⁶⁸。AのBに対する影響関係を表わすタイプなので、二格名詞句は構造上義務的な要素となる。

(124) II 影響関係型

対 象	行 為 者 = 影 響 者	力・性 質 に 影 響 を 受 け る
IN1・ガ	IN2・ニ/ニヨッテ	影響 V・ラレル/ラレテイル

「和夫の行動は母親の言葉に影響される」

影響動詞：支えられる、支持される、支配される、影響される、左右される、占領される、掌握される、率いられる¹⁶⁹

〈II 影響関係型〉は、物理的はたらきかけを表わす「柱が男たちの手で支えられた」のような受身文が、抽象名詞を主語にとるようになることで発展したタイプと考えられる¹⁷⁰。本来であれば、この行為者が有情者である個別具体的な受身文を〈I 事態実現型〉に1つのサブタイプとして立てるべきであるが、今回はデータが少なかったため、すべて〈II 影響関係型〉として同列に扱った。

まず、より具体的な名詞が主語と補語に現れた例から見ていこう。行為者が有情者である次のような例は、〈I 事態実現型〉のサブタイプとして立てるべきだが、位置づけができなかったため、ここに含めてしまった。

- (125)企業に支えられたプロ選手が増え、社会主義国家に支えられたステートアマ選手が登場すると、アマチュア概念は揺らいだ。(毎日)
- (126)第一に、農村地域での国民党は地主層に支持されていたため、抜本的な農地改革は行なわれなかった。(二十世紀)
- (127)ブーチン氏は、昨年8月に首相に就任するまで無名だった。その後、チェチェンの武装勢

¹⁶⁷ 「吸い込まれる」という動詞にも、次のような論理的な結び付けの使用が見られる。ただし、これは実験的な文体が多い小説の地の文の用例であることから、こうした使用は未だ比喩的なものにとどまっていると考えられる。

・展望台は閑散としていて、全部の観覧客が昇降機に吸い込まれ、彼一人が残される時間もあつた。(植物群.地)

¹⁶⁸ 奥田の連語論では、この種の動詞は扱っていない。

¹⁶⁹ 「率いる」はむしろ「連れて行く、導く」などの随伴動詞だろうが、ここでは抽象的な使用であつたので「影響動詞」に分類した。

¹⁷⁰ この物理的はたらきかけを表わす「支えられる」は接触動詞だろうか。

力に対する強硬姿勢が国民に支持され、最近では「次の大統領に最も近い人物」といわれるまでになった。(毎日)

(128)ガンディーに率いられた国民会議が、このように制約的な改革案を呑まないのは自明のことであった。

(129)どういうわけか知らないけど、いつのまにかレストランになってたんですって。みつけたのは小泉くん。でも彼、日本人の学生には内緒にしてるの。この狭い店が日本人に占領されたら面白くないからって」(ドナウ)

(130)ここにおいて一九二二年、イギリスはエジプトを独立主権国家とし、スルタンのフアッド(一八六八—一九三六)を国王とする立憲政体を認めた。だが、軍事・外交の実権はイギリスに掌握されていたため、テロリズムは絶えなかった。(二十世紀)

次に、行為者が非情物である、より抽象度の高い例を挙げよう。

(131)今のすべてのシステムが、産業社会に支えられた国民国家を前提にして組み立てられている。(毎日)

(132)そして「すばらしい派」は、この強い忠誠心・帰属意識が、世界に類をみない「日本的」制度や「日本的」慣行によって、しっかり支えられているとみる。(ゆとり)

(133)中国や日本に挟まれた小国の繁栄は、こうした海外貿易によって支えられた。(毎日)

(134)この見方はいうまでもなく、単純な発展段階説に依拠するとともに、西欧を日本よりはるかに高次にある先進国としてしか考えることのできない、明治・大正以来の日本インテリにしみついている根強い西欧コンプレックスにささえられている。(タテ社会)

(135)すでに98年度の東京展で大方の注目を浴びたが、新作15点を加えた99年9月の札幌展32点は、言葉のひびきを醇化(じゅんか)した強靱(きょうじん)な筆線と自在な淡墨の韻律に支えられて、いっそうの進境と充実ぶりを発揮。(毎日)

(136)記憶といえば、ことばや数などの記憶だけを連想する傾向が強いようですが、私たちの生活の大部分は記憶によって支えられているようなものです。(記憶)

(137)では、なぜ人の性格がたべものに支配されるのであろうか。(たべもの)

(138) [前略]したがって、日本の工業化が西欧の水準に達すれば、社会のあり方も西欧と同様なものになるはずだという見方に支配されていたので、西欧にないような社会現象を一括して、日本の後進性とか、封建遺制と説明する傾向が強かった。(タテ社会)

(139)さらに、タンパク質が足りない傾向のときは体力の低下を甘いもので補うように体が要求する。そこで、甘い砂糖のはいった菓子類を多く食べることが多いし、料理も甘味がきいたものや濃厚な味のものがよいと感じる。その結果、甘い味に影響されて、細かい味を知るような味覚は発達しない。つまり、単一性の味覚が生まれる。(たべもの)

(140)他方、年功序列制について、ふつう人びとが抱くイメージは、企業内の昇進とそれに伴う昇給とが、ただ年功だけできまり、勤勉・能力や実績にはまったく左右されない——ということである。(ゆとり)

3 その他の非情主語非情行為者受身文

本節では、非情主語非情行為者受身文のその他の受身文について見ていく。

まず、「さまたげられる」という動詞による受身文がある。「さまたげられる」による受身文は、行為者が有情者である場合は、動作的態度を表わす動詞(「邪魔される」など)になる

だろう。一方、行為者が非情物である場合は、〈II 位置関係型〉（「N-に囲まれている」など）に近くなる。位置関係を表わすので、二格行為者は必須の成分となる。しかし、〈II 位置関係型〉と異なり、超時的ではなく、個別具体的な事態を表わしう。

(141)こうして見ると、今も、この電車と十四番線についている列車にさまたげられて、十五番線ホームの見とおしはやっぱりできないのだ。（点と線・地）

(142)ナメクジに塩をかけると溶けるといいうが、皮膚から体内に入ろうとする水分は塩の粒子に妨げられるのに対し、内から外に出る水は妨げられずどんどん出てしまうため、体がしぼみ、あたかも溶けているかのように見えるのである。（化学）

また、次のような「へだてられる、隔絶される、断絶される」などの動詞は、具体的な行為者は想定されておらず、主語に立つ対象を取り巻く状況から当該事態が発生するという意味である。位置変化動詞による受身文の周辺に位置付けてもよさそうだが、ト格の名詞句を補語としてとることから、位置変化動詞とは区別して、ここにその他として位置づけた。

(143)それでも、こんなふうは無下に、冷淡に扱われると、人間である以上必然的に一種の……たとえてみれば人とも世とも距てられたというような感情を抱きたくなりますよ。そうでなくてもぼくは、外界から自分一人が遮断されてしまうような違和感に悩まされているのです。（楡家）

(144)つぎに試みに、死体の発見された二十一日朝の六時半ごろを見ると、列車は岩手県の一戸駅を発車したばかりであった。安田がこの列車に乗っていると、九州香椎の海岸の出来事とは、まったく時間的にも空間的にも隔絶されている。（点と線・地）

消滅を表わす事態で、二格の現象行為者をとる受身文がある。この種の受身文は、構造的に〈II 現象受身型（II 現象）〉によく似ている。ただし、テンス・アスペクトが完了的である点で、状態性の高い〈II 現象受身型〉とは異なる。また、対象となる名詞も現象的な名詞に限られる。

(145)小さく声を出してみたがすぐ風に吹き消された。（花埋み）

(146)二人は帰路についた。雪に足跡を消されないうちに、槍の穂の取付点まで引きかえさねばならなかった。（孤高の人）

(147)しかしこの声は四人の役僧と五人の小僧連の唱和する経文の流れで消された。（橙）

「謎に包まれている」という表現があるが、これは抽象的な包摂関係を表わしていて、II 論理的关系型のサブタイプであろう。「主語-ハ 謎だ」という名詞文相当の意味を表わしている。

(148)〔前略〕その生涯は多くのなぞに包まれている。（毎日）

用例抽出資料

作品は、著者名、著者生年、作品名、作品の出版年の順に示し、著者生年順に挙げる。当該作品名を、本報告の用例に付する際に略称で示した場合は、その略称を墨付き括弧内に示す。

小説の会話文テキスト

1) CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊より¹⁷¹

竹山道雄(1903 生)『ビルマの豎琴』(1947)／山本周五郎(1903 生)『さぶ 1』(1963)【さぶ】／石川達三(1905 生)『青春の蹉跎』(1968)／井上 靖(1907 生)『あすなる物語』(1953)【あすなる】／松本清張(1909 生)『点と線』(1957)／大岡昇平(1909 生)『野火』(1951)／太宰 治(1909 生)『人間失格』(1948)／福永武彦(1918 生)『草の花』(1954)／水上勉(1919)『越前竹人形・雁の寺』(「越前竹人形」「雁の寺」所収)(1961)／吉行淳之介(1924 生)『砂の上の植物群』(「砂の上の植物群」「樹々は緑か」所収)(1964)【植物群】／三島由紀夫(1925 生)『金閣寺』(1956)／立原正秋(1926 生)『冬の旅』(1969)／北 杜夫(1927 生)『楡家の人びと』(1964)【楡家】／開高 健(1930 生)『パニック・裸の王様』(「パニック」「巨人と玩具」「裸の王様」「流亡記」所収)(1957)／三浦哲郎(1931 生)『忍ぶ川』(「帰郷」「幻燈畫集」「初夜」「恥の譜」「忍ぶ川」「團欒」「驢馬」所収)(1960)／有吉佐和子(1931 生)『華岡青洲の妻』(1966)／渡辺淳一(1933 生)『花埋み』(1970)／井上ひさし(1934 生)『ブンとフン』(1970)／筒井康隆(1934 生)『エディプスの恋人』(1981)【エディプス】／大江健三郎(1935 生)『死者の奢り・飼育』(「死者の奢り」「飼育」「人間の羊」「戦いの今日」「他人の足」「不意の唾」所収)(1957)／倉橋由美子(1935 生)『聖少女』(1965)／椎名 誠(1944 生)『新橋鳥森口青春編』(1985)【新橋鳥森口】／沢木耕太郎(1947 生)『一瞬の夏』(1981)

2) シナリオ

- ・ 山田洋次(1931 生)・朝間義隆「シナリオ たそがれ清兵衛」2003 年月刊『シナリオ』1 シナリオ作家協会【たそがれ清兵衛】／村上 修(1951 生)『1000 マイルも離れて・さわこの恋』1995 年月刊『シナリオ』6 シナリオ作家協会【1000 マイル】／伴 一彦(1954 生)『砂の上の恋人たち』1999 年 関西テレビ <http://www.plala.or.jp/ban/>

3) 手作業による収集

- ・ 林真理子(1954 生)『胡桃の家』(「胡桃の家」「玉呑み人形」「女友だち」「シガレット・ライフ」所収)(1986)新潮社 【シガレット】／森 瑤子(1940 生)『結婚式』(1985)新潮社／宮本 輝(1947 生)『ドナウの旅人(上巻)』(1985)新潮社 【ドナウ】／辻 仁成(1959 生)『冷静と情熱のあいだ Blue』(1999)角川書店 【冷静と情熱】／鷺沢 萌(1968 生)『帰れぬ人びと』(1989 雑誌『文学界』文芸春秋・初出)

小説の地の文テキスト：著者生年順

CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊より

- ・ 井上 靖(1907 生)『あすなる物語』(1953)【あすなる.地】／松本清張(1909 生)『点と線』(1957)【点と線.地】／山本周五郎(1903 生)『さぶ 1』(1963)【さぶ.地】／吉行淳之介(1924 生)『砂の上の植物群』(1964)【植物群.地】／北 杜夫(1927 生)『楡家の人びと』(1964)【楡家.地】／開高 健(1930 生)『裸の王様』(1957)【裸の王様.地】／有吉佐和子(1931 生)『華岡青洲の妻』(1966)【華岡青洲.地】／渡辺淳一(1933 生)『花埋み』(1970)【花埋み.地】／井上ひさし(1934 生)『ブ

¹⁷¹ このうち、椎名 誠『新橋鳥森口青春編』(1985)のみエッセイである。

ンとファン』(1970)【ブンとファン.地】

《追加データ》(統計の対象外の作品, 上記作品についても, 101 例以降の用例は統計の対象としていない)

- ・ 井伏鱒二(1898 生)『黒い雨』(1965)／竹山道雄(1903 生)『ビルマの堅琴』(1947)／山本周五郎(1903 生)『さぶ 1』(1963)【さぶ】／石川達三(1905 生)『青春の蹉跎』(1968)／大岡昇平(1909 生)『野火』(1951)／太宰 治(1909 生)『人間失格』(1948)／新田次郎(1912 生)『孤高の人』(1969)／福永武彦(1918 生)『草の花』(1954)／水上勉(1919)『越前竹人形・雁の寺』(「越前竹人形」「雁の寺」所収)(1961)／阿川弘之(1920 生)『山本五十六』(1920)／三浦綾子(1922 生)『塩狩峠』(1968)／池波正太郎(1923 生)『剣客商売』(1972)／安部公房(1924 生)『砂の女』(1962)／三島由紀夫(1925 生)『金閣寺』(1956)／立原正秋(1926 生)『冬の旅』(1969)／吉村 昭(1927 生)『戦艦武蔵』(1966)／開高 健(1930 生)『パニック・裸の王様』(「パニック」「巨人と玩具」「流亡記」)(1957)／野坂昭如(1930 生)『アメリカひじき・火垂るの墓』(「アメリカひじき」「プアボーイ」「ラ・クンバルシータ」「火垂るの墓」「死児を育てる」「焼土層」所収)／曾野綾子(1931 生)『太郎物語』(1978)／三浦哲郎(1931 生)『忍ぶ川』(「帰郷」「幻燈畫集」「初夜」「恥の譜」「忍ぶ川」「團樂」「驢馬」所収)(1960)／筒井康隆(1934 生)『エディプスの恋人』(1981)【エディプス】／大江健三郎(1935 生)『死者の奢り・飼育』(「死者の奢り」「飼育」「人間の羊」「戦いの今日」「他人の足」「不意の唾」所収)(1957)／倉橋由美子(1935 生)『聖少女』(1965)／椎名 誠(1944 生)『新橋鳥森口青春編』(1985)【新橋鳥森口】／沢木耕太郎(1947 生)『一瞬の夏』(1981)／村上春樹(1949 生)『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』【世界の終わり】

評論文テキスト

日本語教育支援システム研究会 (CASTEL/J) CD-ROM より, すべて講談社刊行

- ・ 今津 晃著(1917 生)『二十世紀の世界』(1974)【二十世紀】／米山正信(1918 生)『化学とんち問答——休さんに挑戦!』(1991)【化学】／千葉康則著(1925 生)『記憶の脳生理学—もの憶えをよくするために』(1991)【記憶】／中根千枝著(1926 生)『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』(1967)【タテ社会】／河野友美著(1929 生)『たべものと日本人』(1975)【たべもの】／飯田経夫著(1932 生)『「ゆとり」とは何か—成熟社会を生きる』(1982)【ゆとり】

《追加データ》(統計の対象外の作品, 上記作品についても, 115 例以降の用例は統計の対象としていない)

- ・ 会田雄次(1916 生)『日本人の意識構造』(1972)／吉野裕子(1916 生)『日本人の死生観』(1982)／野元菊雄(1922 生)『敬語を使いこなす』(1987)／都筑卓司(1928 生)『時間の不思議』(1991)／加藤秀俊(1930 生)『パチンコと日本人』(1984)／鷹羽狩行(1930 生)『俳句のたのしさ』(1976)／山田雄一(1930 生)『稟議と根回し』(1985)／山折哲雄(1931 生)『神と仏』(1983)／黒井千次(1932 生)『働くということ』(1982)／品川嘉也(1932 生)『全能型勉強法の進め』(1987)／中村希明(1932 生)『酒飲みの心理学』(1990)／中村希明(1932 生)『犯罪の心理学』(1990)／吉岡郁夫(1932 生)『人体の不思議』(1986)／飛鳥井雅道(1934 生)『近代の潮流』(1976)／中原秀臣・佐川峻(1945 生・1944 生)『進化論が変わる』(1991)／井上忠司(生年不詳)『まなざしの人間関係』(1982)／平野仁啓(生年不詳)『日本の神々』(1985)／吉田寿三郎(生年不詳)『高齢化社会』(1981)

新聞テキスト

『CD—毎日新聞 2000 データ集』

参考文献

- 天野みどり 2001「無生物主語のニ受身文—意味的關係の想定が必要な文」『国語学』52 卷2号：1-15.
- 井上 和子 1972a「変形文法と日本語その4」『英語教育』20 卷11号：70-74.
- 井上 和子 1972b「変形文法と日本語その5」『英語教育』20 卷12号：70-75.
- 大江三郎 1975『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂.
- 岡田正美 1900『日本文法文章法大要』吉川半七（復刻：北原保雄・古田東朔(編)『日本文法研究書大成』第8回 勉誠社 2001)
- 岡部嘉幸 (近刊)「いわゆる『非情の受身』の諸類型」尾上圭介(編) (近刊)
- 奥田靖雄 1960「を格のかたちをとる名詞と動詞とのくみあわせ」言語学研究会(編)『日本語文法・連語論 (資料編)』(1983 発行) むぎ書房.
- 奥田靖雄 1962「に格の名詞と動詞のくみあわせ」言語学研究会にて報告 (言語学研究会編(1983):281-323 に所収)
- 奥田靖雄 1968-72「を格の名詞と動詞のくみあわせ」『教育国語』12, 13, 15, 20, 21, 23, 25, 26, 28号 (再録：言語学研究会編 1983, 本稿のページ数はこの 1983 を採用)
- 奥田靖雄 1976「言語の単位としての連語」『教育国語』45：2-13 (再録：奥田 1996)
- 奥田靖雄 1979「意味と機能」『教育国語』58 (再録：奥田 1996, 本稿のページ数はこの 1996 を採用)
- 奥田靖雄 1980-1981「言語の体系性」『教育国語』63, 64, 65, 66号 (再録：奥田 1996, 本稿のページ数はこの 1996 を採用)
- 奥田靖雄 1983『日本語文法・連語論 (資料編)』言語学研究会(編) むぎ書房.
- 奥田靖雄 1986「現実・可能・必然(上)」言語学研究会(編)『ことばの科学』むぎ書房：181-212.
- 奥田靖雄 1996『ことばの研究・序説』むぎ書房.
- 奥津敬一郎 1983「何故受身か?—<視点>からのケース・スタディー」『国語学』132：65-80.
- 奥津敬一郎 1985「日本語と英語の受身文—『坊ちゃん』の分析—」『日本語学』4 卷7号 明治書院：105-115.
- 奥津敬一郎 1992「日本語の受身文と視点」『日本語学』11 卷9号 明治書院：4-11.
- 尾上圭介 1998a「文法を考える 5 出来文(1)」『日本語学』17 卷7号 明治書院：76-83.
- 尾上圭介 1998b「文法を考える 6 出来文(2)」『日本語学』17 卷10号 明治書院：90-97.
- 尾上圭介 1999「文法を考える 7 出来文(3)」『日本語学』18 卷1号 明治書院：86-93.
- 河上誓作他訳 2001『Adele E. Goldberg 著 構文文法論—英語構文への認知的アプローチ』研究社出版
- 川村 大 1993「ラル形式の機能と用法」『国語研究』(松村明先生喜寿記念会編) 明治書院：714-730.
- 川村 大 2003「受身文の学説史から—被影響の有無をめぐる議論について」『月刊言語』Vol.32-No.4：42-49.
- 川村 大 2004「受身・自発・可能・尊敬—動詞ラルル形の世界—」尾上圭介(編)『朝倉日本語講座 文法Ⅱ』朝倉書店：105-127.
- 川村 大 (近刊)「受身文をめぐる学説史—受身の「意味」を問う観点から—」尾上圭介(編)『ラルル文の研究』くろしお出版.
- 木下正俊 1972『萬葉集語法の研究』塙書房.
- 金 英南 2005「日本語のラレテイルについて」東京外国語大学修士論文.

- 金水 敏 1991「受動文の歴史についての一考察」『国語学』164集：1-14.
- 金水 敏 1992a「場面と視点—受身文を中心に」『日本語学』11巻9号：12-19.
- 金水 敏 1992b「欧文翻訳と受動文—江戸時代を中心に—」文化言語学編集委員会(編)『文化言語学—その提言と建設—』三省堂：547-562.
- 金水 敏 1993「受動文の固有・非固有性について」近代語研究 第九集 武蔵野書院：473-508
- 金水 敏 2002「日本語の受動文および関連する現象」日本言語学会夏期講座 日本語文法上級 講義資料.
- 工藤 浩 1985「日本語の文の時間表現」『言語生活』403:48-56.
- 工藤 浩 1989「現代日本語の文の叙法性 序章」『東京外国語大学論集』39:14-33.
- 工藤真由美 1990「現代日本語の受動文」『ことばの科学4』むぎ書房：47-102.
- 工藤真由美 1991「アスペクトとヴォイス」鈴木重幸他 科学研究費報告書『現代日本語のテンス・アスペクト・ヴォイスについての総合的研究』：5-39.
- 工藤真由美 1995『アスペクト・テンス体系とテクスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房.
- 久野 暲 1978『談話の文法』大修館書店.
- 久野 暲 1983『新日本文法研究』大修館書店.
- 久野 暲 1986「受身文の意味—黒田説の再批判」『日本語学』5巻2号 明治書院：70-87.
- 黒田 成幸 1985「受身についての久野説を改訂する—一つの反批判—」『日本語学』4巻10号 明治書院：69-77.
- 国立国語研究所 1951『現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』秀英出版.
- 小杉 商一 1979「非情の受身について」『田辺博士古希記念助詞助動詞論叢』桜楓社：473-488.
- 近藤 泰弘 2000『日本語記述文法の理論』ひつじ書房.
- 志波 彩子 1999『スペイン語における再帰動詞の自動詞化について—日本語の有対動詞の意味特徴をヒントに—』東京外国語大学卒業論文.
- 志波 彩子 2003「日西受身表現の意味機能(1)—主語と動作主の現れ方をめぐって—」スペイン語学研究 18：61-85.
- 志波 彩子 2004「現代日本語の受身文の意味・機能—受影性と自然性—」東京外国語大学大学院修士論文.
- 志波 彩子 2005「2つの受身—被動者主役化と脱他動化—」『日本語文法』5-2:196-212.
- 志波 彩子 2006「会話文テキストにおける受身文の行為者の現れ方について—構造的タイプとの関係で—」『東京外国語大学 日本報告教育年報』10：1-24.
- 志波 彩子 2009「認識動詞の非情主語受身文—「見られる」「思われる」「言われる」「呼ばれる」を中心に—」日本課程・留学生課共編『東京外国語大学 日本報告教育年報』13：1-24.
- 志波 彩子 2009「現代日本語の受身文の体系—意味・構造的なタイプの記述から—」東京外国語大学大学院地域文化研究科博士論文
(<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/56741>)
- 志波 彩子 2010「非情行為者受身文の類型に関する一考察」(研究ノート) 峰岸真琴, 稗田 乃, 早津恵美子, 川口裕司(編)『コーパスに基づく言語学教育研究報告』5, 東京外国語大学：193-224.
- 柴谷 方良 1978『日本語の分析』大修館書店.
- 柴谷 方良 1997a「迷惑受身の意味論」川端善明・仁田義雄(編)『日本語文法 体系と方法』ひつじ書房：1-22.
- 柴谷 方良 1997b「言語の機能と構造と類型」『言語研究』112号：1-32.
- 柴谷 方良 2000「ヴォイス」『日本語の文法 I 文の骨格』岩波書店：119-186.
- 柴谷 方良 1993「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要第33巻 第1分冊』.
- 柴谷 方良 1980「非情の受身の一考察」『成蹊国文』第十四号：46-52.

- 須賀一好・早津恵美子(編) 1995『動詞の自他』ひつじ書房.
- 杉本 武 1999「雨に降られる」再考』『文藝言語研究. 言語篇』: 49-62..
- 鈴木重幸 1972『日本語文法・形態論』むぎ書房.
- 鈴木康之 2004「奥田靖雄の連語論」『国文学解釈と鑑賞』69巻1号: 152-161.
- 須田義治 2005「連語論と動詞の意味的な分類」『国文学解釈と鑑賞』70巻7号: 121-129.
- 砂川有里子 1984「〈に受身文〉と〈によって受身文〉」『日本語学』3巻7号: 76-87.
- 高瀬匡雄 2004「奥田靖雄の言語理論 文献の紹介を中心に」『国文学解釈と鑑賞』69巻1号: 142-151.
- 高橋太郎 1975「文中にあらわれる所属関係の種々相」『国語学』103集: 1-17.
- 高橋太郎 1985「現代日本語のヴォイスについて」『日本語学』4巻4号: 4-23.
- 高見健一 1995『機能構文論による日英語比較——受身文, 後置文の分析』くろしお出版.
- 高見健一・久野 暉 2000「日本語の被害受身文と非能格性 上・中・下」『月間言語』Vol.29, No.8-10: 80-91, 80-94, 70-88.
- 茶谷恭代 2003「現代日本語の副詞の研究—「よほど」の意味と用法について—」東京外国語大学大学院修士論文.
- 茶谷恭代 2005「副詞「よほど」の意味と用法」東京外国語大学『言語・地域文化研究』第11号: 103-124.
- 張 麟声 1997「受動文における動作主明示・不明示・の構文的規則について」『日本語学』16巻2号: 70-78.
- 辻 幸夫編 2002『認知言語学キーワード事典』研究社.
- 坪井栄治郎 2002a「受影性と受身」『シリーズ認知言語学 2 認知言語学 I: 事象構造』西村義樹(編) 東京大学出版会: 63-86.
- 坪井栄治郎 2002b「力動性 (force dynamics)」(p.251) 辻 幸夫(編)2002.
- 坪井栄治郎 2003a「受影性と他動性」文法学研究会 2002 年度連続公開講義 第8回講義資料 (1月11日)
- 坪井栄治郎 2003b「受影性と他動性」『月刊言語』Vol.32-No.4: 50-55.
- 寺村秀夫 1982『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版.
- 仁田義雄 1982「再帰動詞, 再帰用法—Lexico-Syntax の姿勢から—」『日本語教育』47号: 79-90.
- 仁田義雄 1991「ヴォイス的表現と自己制御性」仁田義雄(編)『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版.
- 野田尚史 1997「日本語とスペイン語のボイス」『日本語とスペイン語(2)—日本語と外国語の対照研究 V』 国立国語研究所: 83-113.
- 野村剛史 1982「自動・他動・受身動詞について」『日本語・日本文化』11 大阪外国語大学留学生別科・日本語学科 (再録: 須賀・早津(編)1995, 137-150)
- 野村剛史 1994「上代語のリ・タリについて」『国語国文』第63巻1号: 28-50.
- 野村剛史 2003「存在の形態——シテイルについて——」『国語国文』第72巻9号: 1-20.
- 早津恵美子 1987a「他動詞と自動詞の対応について」東京外国語大学大学院外国語学研究科修士論文.
- 早津恵美子 1987b「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特長」『言語学研究』6号 京都大学言語学研究会: 79-109.
- 早津恵美子 1990「有対他動詞の受身表現について——無対他動詞の受身表現との比較を中心に——」『日本語学』9巻5号: 67-83.
- 早津恵美子 2000「現代日本語のヴォイスをめぐる」『日本語学』19巻5号: 16-27.
- 早津恵美子 2004「動詞分類と動詞文のタイプ」『国文学解釈と鑑賞』69巻1号: 84-98.
- 早津恵美子 2008「人名詞と動詞とのくみあわせ (試論) —連語のタイプとその体系—」『語学研究所論集』第13号 東京外国語大学: 43-76.

- 早津恵美子 2009「語彙と文法の関わりーカテゴリーカルな意味ー」『政大日本研究』6号:1-70.
- 許 明 子 2004『日本語と韓国語の受身文の対照研究』ひつじ書房.
- 堀 口 和 吉 1982「日本語の受身表現」『日本語・日本文化』11号 大阪外国語大学研究留学生別科:65-89.
- 堀 口 和 吉 1990「競合の受身」山辺道 34:31-40.
- 益 岡 隆 志 1982「日本語受動文の意味分析」『言語研究』82:48-64 (再録:「受動表現の意味分析」益岡 1987)
- 益 岡 隆 志 1987『命題の文法ー日本語文法序説ー』くろしお出版.
- 益 岡 隆 志 1991a「受動表現と主観性」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版:105-121.
- 益 岡 隆 志 1991b『モダリティの文法』くろしお出版.
- 益 岡 隆 志 2000「第5章 叙述の類型から見た受動文」『日本語文法の諸相』くろしお出版:55-69.
- 松下大三郎 1928『改撰標準日本文法』紀元社 (訂正版:中文館書店 1930, 同復刻:徳田政信編『改撰標準日本文法』勉誠社 1974, 同訂正再版:1978)
- 松下大三郎 1930『標準日本口語法』中文館書店 (復刻:白帝社 1961, 増補校訂版:徳田政信編『増補校訂標準日本口語法』勉誠社 1977, 同修訂版:1989)
- 三 浦 法 子 1973「平安末期の受身表現についての一考察」『岡大外国語国文論稿』1:1291-43
- 三 矢 重 松 1908『高等日本文法』明治書院.
- 宮 島 達 夫 1972『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版.
- 宮 島 達 夫 2005「連語論の位置づけ」『国文学解釈と鑑賞』70巻7号:6-33.
- 村 上 三 寿 1986「うけみ構造の文」言語学研究会編『ことばの科学1』むぎ書房:7-87.
- 村 上 三 寿 1997「うけみ構造の文の意味的なタイプ」『ことばの科学8』むぎ書房:103-149.
- ヤコブセン, ウェスリー M. 1989「他動性とプロトタイプ論」『日本語の新展開』くろしお出版 (再録:須賀・早津(編)1995, 166-178)
- 山 田 孝 雄 1908『日本文法論』實文館.
- Biber, D., S. Johansson, G. Leech, S. Conrad, and E. Finegan. 1999 *The Longman grammar of spoken and written English*. London: Longman.
- Croft, William. 1991 *Syntactic Categories and Grammatical Relations: The Cognitive Organization of Information*. Chicago, Chicago University Press.
- Goldberg, A. E. 1995. *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago, University of Chicago Press. (河上誓作他訳 2001『構文文法論ー英語構文への認知的アプローチ』研究社出版)
- Halliday, M. A. K. 1970 Language Structure and Language Function. In J. Lyons (ed.) *New Horizons in Linguistics*, 140-165. Great Britain, Penguin Books.
- Hopper Paul J. and Thompson Sandra A. 1980 Transitivity in grammar and discourse. In *Language* 56:251-299.
- Jacobsen, Wesley M. 1991 *The Transitive Structure of Events in Japanese* (Studies in Japanese Linguistics 1). Tokyo, Kurosio.
- Keenan, Edward. L. 1985 Passive in the world's languages. In T. Shopen (ed.) *Language typology and syntactic description, Vol.1: Clause structure*, 243-281. Cambridge, Cambridge University Press.
- Kemmer, Suzanne 1993 *The Middle Voice*. Amsterdam, Amsterdam and Philadelphia, John Benjamins. Typological Studies in Language 23.
- Kuno, Susumu. 1990 Passivization and Thematization. In Kamada, Osamu & Wesley M. Jacobsen (eds.), *On Japanese and How to Teach It: Honor to Seiichi Makino*, 43-66. Tokyo: The Japan Times.

- Kuno, S. & E. Kaburaki. 1977 Empathy and Syntax. In *Linguistic Inquiry* 8, 627-672.
- Kuroda Shige-Yuki 1979 On Japanese Passives. In Bedell, G. et al (eds.) *Explorations in Linguistics: Papers in Honor of Kazuko Inoue*, 305-347. Tokyo, Kenkyusha. (Reprinted: *Japanese Syntax and Semantics: collected papers*, Kluwer Academic Publishers. 1992)
- Levin, Beth 1993 *English Verb Classes and Alternations: A Preliminary Investigation*. Chicago, The University of Chicago Press.
- Mathesius, V. 1928 On linguistic characterology with illustrations from Modern English. Republished in: J. Vachek (ed.) (1964) *A Prague School Reader in Linguistics*, 59-67. Bloomington: Indiana University Press.
- Perlmutter, D. 1971 *Deep and Surface Structure Constraints in Syntax*. New York: Holt, Rinehart and Winston
- Shibatani, M. 1985 Passive and related constructions: A prototype analysis. In *Language* 61-4, 821-848.
- Svartvik, J. 1966 *On voice in the English verb*. The Hague: Mouton.
- Tesnière, Lucien 1965 *Éléments de syntaxe structurale; préface de Jean Fourquet*, 2e ed., rev. et corr. Paris : Klincksieck.
- Tsuboi, Eijiro 2000 Cognitive Models in Transitive Construal in Japanese Adversative Passive. In Foolen, A. & van der Leek, F. (eds.) *Constructions in Cognitive Linguistics*, 283-300. Amsterdam and Philadelphia, John Benjamins.

東京外国語大学大学院総合国際学研究院

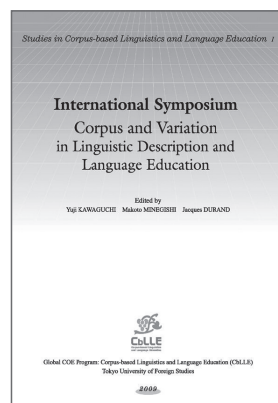
グローバルCOE「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」出版物 研究論文集

コーパスに基づく言語学教育研究論集 I

International Symposium: Corpus and Variation in Linguistic Description and Language Education

Edited by Yuji KAWAGUCHI, Makoto MINEGISHI and
Jacques DURAND

2009年 3 月 発行

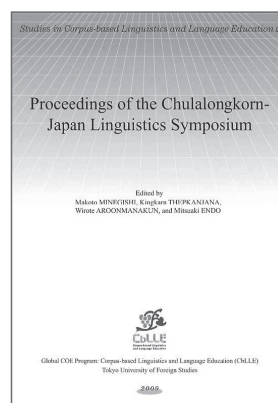


コーパスに基づく言語学教育研究論集 II

Proceedings of the Chulalongkorn- Japan Linguistics Symposium

Edited by Makoto MINEGISHI, Kingkarn
THEPKANJANA, Wirote AROONMANAKUN and
Mitsuaki ENDO

2009年 3 月 発行

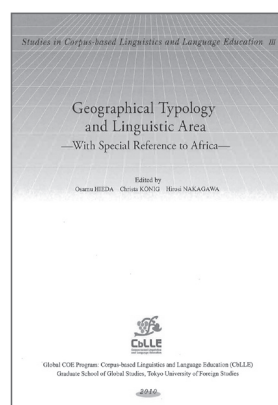


コーパスに基づく言語学教育研究論集 III

Geographical Typology and Linguistic Area —With Special Reference to Africa—

Edited by
Osamu HIEDA,
Christa KÖNIG and Hiroshi NAKAGAWA

2010年 10 月 発行



コーパスに基づく言語学教育研究論集 IV

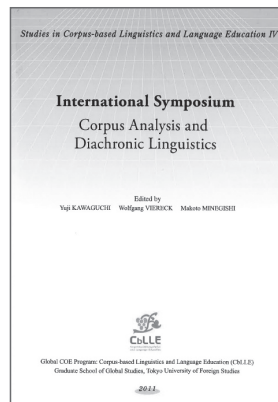
International Symposium Corpus Analysis and Diachronic Linguistics

Edited by

Yuji KAWAGUCHI, Wolfgang VIERECK,

And Makoto MINEGISHI

2011年 7 月 発行



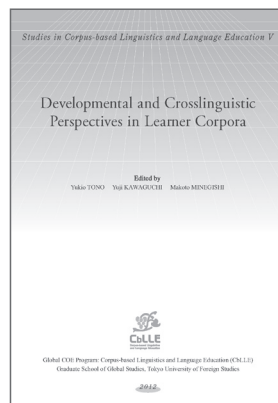
コーパスに基づく言語学教育研究論集 V

Developmental and Crosslinguistic Perspectives in Learner Corpora

Edited by

Yukio TONO, Yuji KAWAGUCHI, Makoto MINEGISHI

2012年 1 月 発行



研究報告集

コーパスに基づく言語学教育研究報告 1

コーパスを用いた言語研究の可能性

富盛 伸夫, 峰岸 真琴, 川口 裕司 (編)

2009年 3 月 発行



言語記述から言語分析の応用へ

稗田 乃, 峰岸 真琴, 川口 裕司 (編)

2009年 3 月 発行



フィールド調査, 言語コーパス, 言語情報学

峰岸 真琴, 川口 裕司 (編)

2009年 5 月 発行



コーパスを用いた言語研究の可能性Ⅱ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)

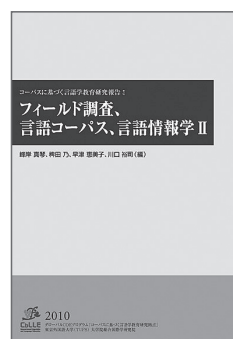
2010年 3 月 発行



フィールド調査, 言語コーパス, 言語情報学Ⅱ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)

2010年 6 月 発行



コーパスを用いた言語研究の可能性Ⅲ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)
2011年 3 月 発行



フィールド調査, 言語コーパス, 言語情報学Ⅲ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)
2011年 6 月 発行



コーパスを用いた言語研究の可能性Ⅳ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)
2012年 3 月 発行



フィールド調査, 言語コーパス, 言語情報学Ⅳ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)
2012年 3 月 発行



論文執筆支援集

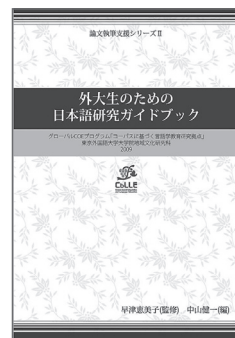
論文執筆支援シリーズ II

外大生のための日本語研究ガイドブック

早津 恵美子（監修）

中山 健一（編）

2009年3月 発行



論文執筆支援シリーズ III

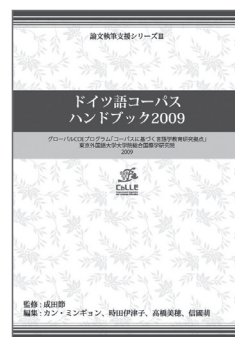
ドイツ語コーパスハンドブック 2009

成田 節（監修）

カン・ミンギョン, 時田 伊津子,

高橋 美穂, 信國 萌（編）

2009年5月 発行



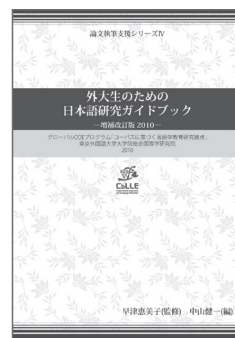
論文執筆支援シリーズ IV

外大生のための日本語研究ガイドブック —増補改訂版 2010—

早津 恵美子（監修）

中山 健一（編）

2009年3月 発行



論文執筆支援シリーズ V

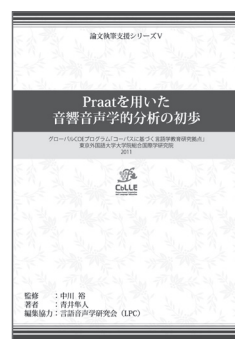
Praat を用いた音響音声学的分析の初歩

中川 裕（監修）

青井 隼人（著者）

言語音声学研究会（LPC）（編集協力）

2011年2月 発行



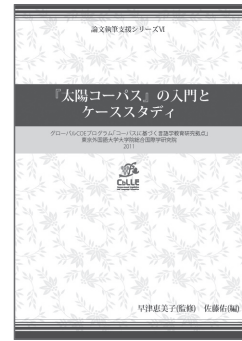
論文執筆支援シリーズ VI

『太陽コーパス』の入門とケーススタディ

早津 恵美子（監修）

佐藤 佑 （編）

2011年 3 月 発行



論文執筆支援シリーズ VII

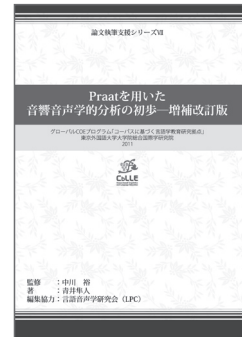
Praat を用いた音響音声学的分析の初歩 —増補改訂版

中川 裕 （監修）

青井 隼人（著）

言語音声学研究会（LPC）（編集協力）

2011年 9 月 発行



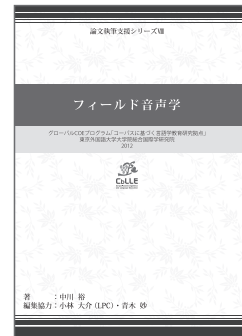
論文執筆支援シリーズ VIII

フィールド音声学

中川 裕 （著）

小林 大介（LPC）, 青木 妙（編集協力）

2012年 3 月 発行



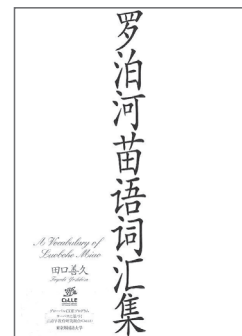
研究資料集

コーパスに基づく言語学教育研究資料 1

罗泊河苗语词汇集 A Vocabulary of Luobohe Miao

著者 田口 善久

2008年 3 月 発行



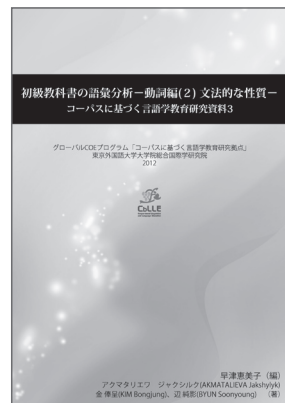
初級教科書の語彙分析 — 動詞編(1) 語彙的な性質 —

早津 恵美子 (監修)
アクマタリエワ ジャクシルク, 金 棒呈, 辺 純影 (編著)
2010年 2 月 発行



初級教科書の語彙分析 — 動詞編(2) 文法的な性質 —

早津 恵美子 (編)
アクマタリエワ ジャクシルク (AKMATALIEVA Jakshylyk),
金 棒呈(KIM Bongjung), 辺 純影(BYUN Soonyoung) (著)
2012年 1 月 発行



大学生のための語彙論入門

早津 恵美子, 佐藤 佑, 茶谷 恭代, 中山 健一,
福原 聡美 (著)
2012年 1 月 発行



コーパスに基づく日本語受動文の実態

早津 恵美子（監修）

志波 彩子（著）

2012年3月 発行



コーパスに基づく日本語使役文・他動詞文の実態

早津 恵美子，高 京美（著）

2012年3月 発行





コーパスに基づく言語学教育研究資料 5 2012 年 3 月 14 日発行

コーパスに基づく日本語受動文の実態

発 行：東京外国語大学 大学院総合国際学研究院
グローバルCOEプログラム
「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

監 修：早津恵美子
著 者：志 波 彩 子
印 刷：日本ルート印刷出版株式会社
